

文化庁委託事業
ウィズコロナにおけるオンライン
日本語教育実証事業
(別添) 各日本語教育機関の実施結果

令和5年5月
株式会社近畿日本ツーリスト

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

001-1：学校法人アリス国際学園 アリス日本語学校横浜校

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レベ ル										事前テスト 事前の点数 (生徒合 計)				事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)				テスト満点	事前テスト 正答率 (生徒 正答率)	事後テスト 正答率 (生徒 正答率)	成長幅 (単 位: ポイン ト)
		A1 A2 B1 B2 C					モ デ ル					事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)		事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)									
		1	2	3	4	5	1	2	1	2	1	2	1	2									
001-1 (前半三ヵ月)	アリス日本語学校横浜校_モデル2 (A1,A2) _7/29-12/27	○	○					○							128	7	179	7	40	45.7%	63.9%	18	
001-1 (後半三ヵ月)	アリス日本語学校横浜校_モデル2 (A1,A2) _7/29-12/27	○	○					○							138	6	111	3	40	57.5%	92.5%	35	

■ 基本情報

実証取組モデル	実証取組モデル2 (6か月)
区分	オンラインのみ+オンデマンド型
1.授業のレベル	A1 A2
2.授業のコース	進学
3-1.授業の実施期間 (開始)	2022/7/29
3-2.授業の実施期間 (終了)	2022/12/9
4.授業の学習時間	240
5.学生の授業への参加率	50
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	420時間養成講座修了
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	日本語教育検定試験合格、420時間養成講座修了
7.実施した言語活動	話す (やりとり) 話す (発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	Apple製のマイク付イヤホン
10.使用した映像 (カメラ) 機	PC (DELL) 付属のカメラ
11.使用したファイル形式 (パワーポイント、PDF等)	パワーポイント
12.撮影をした場所	普段の教室

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	モデル実証事業2の通り
話す（発表）	モデル実証事業2の通り
聞く	モデル実証事業2の通り
読む	モデル実証事業2の通り
書く	モデル実証事業2の通り
日本事情・日本理解	モデル実証事業2の通り

●生活コース

話す（やりとり）	モデル実証事業2の通り
話す（発表）	モデル実証事業2の通り
聞く	モデル実証事業2の通り
読む	モデル実証事業2の通り
書く	モデル実証事業2の通り
日本事情・日本理解	モデル実証事業2の通り

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ） オンデマンド型
読む	オンライン（双方向のみ） オンデマンド型
書く	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	モデル実証事業2の通り
話す（発表）	モデル実証事業2の通り
聞く	モデル実証事業2の通り
読む	モデル実証事業2の通り
書く	モデル実証事業2の通り
日本事情・日本理解	モデル実証事業2の通り

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	モデル実証事業2の通り
		レベル	A1
話す（発表）	使用した教材①	内容	モデル実証事業2の通り
		名称	モデル実証事業2の通り
		レベル	A1
聞く	使用した教材①	内容	モデル実証事業2の通り
		名称	モデル実証事業2の通り
		レベル	A1
読む	使用した教材①	内容	モデル実証事業2の通り
		名称	モデル実証事業2の通り
		レベル	A1
書く	使用した教材①	内容	モデル実証事業2の通り
		名称	モデル実証事業2の通り
		レベル	A1
日本事情・日本理解	使用した教材①	内容	モデル実証事業2の通り
		名称	モデル実証事業2の通り
		レベル	A1
		内容	モデル実証事業2の通り

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価に使用した評価ツール

話す（やりとり）	learningBOX指定のテスト
話す（発表）	なし
聞く	learningBOX指定のテスト
読む	learningBOX指定のテスト
書く	なし
日本事情・日本理解	なし

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標

話す（やりとり）	モデル実証事業2の通り
話す（発表）	モデル実証事業2の通り
聞く	モデル実証事業2の通り
読む	モデル実証事業2の通り
書く	モデル実証事業2の通り
日本事情・日本理解	モデル実証事業2の通り

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	モデル実証事業2の通り
話す（発表）	モデル実証事業2の通り
聞く	モデル実証事業2の通り
読む	モデル実証事業2の通り
書く	モデル実証事業2の通り
日本事情・日本理解	モデル実証事業2の通り

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	オンライン授業だけでは、上達するのに不十分だと感じた。
話す（発表）	テストではなく授業内での発表については、まとまりのある定型文を読み上げるにすぎず、応用力のある発表には至らなかった。
聞く	耳が慣れて聞き取ることはできるようになったと感じた。
読む	ひらがな・カタカナの識字や短文レベルでは大丈夫だが、まとまりのある文章の読解力といった点では、練習もしていないし、オンラインでの難しさはある。
書く	漢字などの単語レベルではきれいに書くことができるようになったが、短文やまとまりのある文章を書くレベルには至らなかった。
日本事情・日本理解	動く絵本ライブラリーの反応が良かった。いどりの文化紹介のページを簡単に紹介する程度はできたが、深めることはできなかった。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	教員配置
話す（発表）	適切なカリキュラムの設定
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	その他
書く	講師のオンライン教育ノウハウの不足
日本事情・日本理解	教員配置

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	A1レベルでは、通訳を入れながらでないと練習が進まない場面が多々あったので、学習者にとっても通訳（媒介語）の存在は大きかった
話す（発表）	カリキュラムについて、難易度の順番で工夫が必要と思われる。 特に始めの段階は、より簡単な話せる内容を並べたほうがスムーズに進められると思う
聞く	対面でやるよりは音が聞きづらそうな時はたまにあったが、概ね問題はなし。
読む	オンデマンド教材を見ても、まとまった文を読む機会がほとんどないため課題だと思われる。
書く	ワークシートを直接渡せない環境で、どのように課題を配布したり提出させたりするかは課題。
日本事情・日本理解	初級レベルでは、母国語による媒介語の活用をもっとするべきで、日本人の直接法では限界があり、発展もできない。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	A1レベルで通訳を配置した
話す（発表）	A1レベルで通訳を配置した
聞く	特になし
読む	特になし
書く	特になし
日本事情・日本理解	A1レベルで通訳を配置した

A2

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	モデル実証事業2の通り
話す（発表）	モデル実証事業2の通り
聞く	モデル実証事業2の通り
読む	モデル実証事業2の通り
書く	モデル実証事業2の通り
日本事情・日本理解	モデル実証事業2の通り

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ） オンデマンド型
読む	オンライン（双方向のみ） オンデマンド型
書く	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	モデル実証事業2の通り
話す（発表）	モデル実証事業2の通り
聞く	モデル実証事業2の通り
読む	モデル実証事業2の通り
書く	モデル実証事業2の通り
日本事情・日本理解	モデル実証事業2の通り

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	モデル実証事業2の通り
		レベル	A2
		内容	モデル実証事業2の通り
話す（発表）	使用した教材①	名称	モデル実証事業2の通り
		レベル	A2
		内容	モデル実証事業2の通り
聞く	使用した教材①	名称	モデル実証事業2の通り
		レベル	A2
		内容	モデル実証事業2の通り
読む	使用した教材①	名称	モデル実証事業2の通り
		レベル	A2
		内容	モデル実証事業2の通り
書く	使用した教材①	名称	モデル実証事業2の通り
		レベル	A2
		内容	モデル実証事業2の通り
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	モデル実証事業2の通り
		レベル	A2
		内容	モデル実証事業2の通り

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価に使用した評価ツール

話す（やりとり）	learningBOX指定のテスト
話す（発表）	なし
聞く	learningBOX指定のテスト
読む	learningBOX指定のテスト
書く	なし
日本事情・日本理解	なし

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標

話す（やりとり）	モデル実証事業2の通り
話す（発表）	モデル実証事業2の通り
聞く	モデル実証事業2の通り
読む	モデル実証事業2の通り
書く	モデル実証事業2の通り
日本事情・日本理解	モデル実証事業2の通り

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	モデル実証事業2の通り
話す（発表）	モデル実証事業2の通り
聞く	モデル実証事業2の通り
読む	モデル実証事業2の通り
書く	モデル実証事業2の通り
日本事情・日本理解	モデル実証事業2の通り

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	オンライン授業だけでは、上達するのに不十分だと感じた。
話す（発表）	テストではなく授業内での発表については、まとまりのある定型文を読み上げるにすぎず、応用力のある発表には至らなかった。
聞く	耳が慣れて聞き取ることはできるようになったと感じた。
読む	オンデマンド教材を見ても、まとまった文を読む機会がほとんどないため課題だと思う。
書く	漢字などの単語レベルではきれいに書くことができるようになったが、短文やまとまりのある文章を書くレベルには至らなかった。
日本事情・日本理解	時間関係もあり、あまり進められなかった

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	教員配置
話す（発表）	その他
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	その他
書く	講師のオンライン教育ノウハウの不足
日本事情・日本理解	教員配置

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	A2といえども、今回の実証をした限りでは、通訳（媒介語）の存在が必要だと思われた。
話す（発表）	A1の定着が不十分なままA2をしたため厳しかった。進めることを優先したが、ある程度学生のレベルに応じた進度の調整が必要だった。
聞く	対面でやるよりは音が聞きづらそうな時はたまにあったが、概ね問題はなし。
読む	オンデマンド教材を見ても、まとまった文を読む機会がほとんどないため課題だと思う。
書く	ワークシートを直接渡せない環境で、どのように課題を配布したり提出させたりするかは課題。
日本事情・日本理解	初級レベルでは、母国語による媒介語の活用をもっとするべきで、日本人の直接法では限界があり、発展もできない。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	特になし
話す（発表）	特になし
聞く	特になし
読む	特になし
書く	特になし
日本事情・日本理解	特になし

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

002-1：京都民際日本語学校

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レ ベ ル	モ デ ル										事前テスト		事後テスト		事前テスト 事後テスト 成長幅 (単 正答率 (生 正答率 (生 位: ポイン 徒合計) 徒合計) ト)									
													事前の点数 (生徒合 計)	回答者数	事後の点数 (生徒合 計)	回答者数	テスト満点	正答率 (生 徒合計)	正答率 (生 徒合計)	成長幅 (単 位: ポイン ト)						
			A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2												
002-1 (前半三ヵ月)	京都民際日本語学校_モデル1 (A2) _7/20-12/14		○								○								807	8	988	8	199	50.7%	62.1%	11
002-1 (後半三ヵ月)	京都民際日本語学校_モデル1 (A2) _7/20-12/14		○								○								1,040	8	862	6	200	65.0%	71.8%	7

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル1 (6か月)
区分	オンラインのみ
1.授業のレベル	A2
2.授業のコース	進学 一般
3-1.授業の実施期間 (開始)	2022/7/20
3-2.授業の実施期間 (終了)	2022/12/14
4.授業の学習時間	100
5.学生の授業への参加率	70
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語、韓国語、英語
6-1.担当された先生①スキル	日本語教師養成講座420時間修了/中高英語教員免許
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語、中国語
6-2.担当された先生②スキル	日本語教育能力試験保有
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	女性
6-3.担当された先生③使用言語	日本語
6-3.担当された先生③スキル	日本語学科主専攻卒/日本語教育能力試験保有
6-4.担当された先生④居住国	日本
6-4.担当された先生④性別	女性
6-4.担当された先生④使用言語	日本語、英語
6-4.担当された先生④スキル	日本語教育能力試験保有
6-5.担当された先生⑤居住国	日本
6-5.担当された先生⑤性別	女性
6-5.担当された先生⑤使用言語	日本語、英語、中国語、ベトナム語
6-5.担当された先生⑤スキル	日本語教育能力試験保有
6-6.担当された先生⑥居住国	日本
6-6.担当された先生⑥性別	男性
6-6.担当された先生⑥使用言語	日本語、英語、ベンガル語
6-6.担当された先生⑥スキル	日本語教師養成講座420時間修了
7.実施した言語活動	話す(やりとり) 話す(発表) 聞く読む書く 日本事情・日本理解その他
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材(スピーカー、マイク)	各担当教員のPCに付属していたマイクとスピーカー
10.使用した映像(カメラ)機	各担当教員のPCに付属していたマイクとスピーカー
11.使用したファイル形式(パワーポイント、PDF等)	実証実験事務局より提供された教材(動画・PPT)
12.撮影をした場所	普段の教室 その他(講師自宅等)

各日本語教育機関の実施結果

A2

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	日常における自分の経験や出来事を踏まえ、学習者同士が自分の言葉でやりとりができる。
話す（発表）	自分の国の事や経験を他の学習者に説明ができる
聞く	A2レベルの語彙を含めた「教員の指示」「動画」を聞き、内容を理解することができる
読む	A2レベルの語彙を含めたテキストを読み、内容を理解することができる。
書く	A2レベルの語彙を、書き、相手に伝えることができる
日本事情・日本理解	動画を見て、日本の文化や習慣を理解できる
その他	A2レベルでの単語をきちんと使う事ができる。

●生活コース

話す（やりとり）	日常における自分の経験や出来事を踏まえ、学習者同士が自分の言葉でやりとりができる。
話す（発表）	自分の国の事や経験を他の学習者に説明ができる
聞く	A2レベルの語彙を含めた「教員の指示」「動画」を聞き、内容を理解することができる
読む	A2レベルの語彙を含めたテキストを読み、内容を理解することができる。
書く	A2レベルの語彙を、書き、相手に伝えることができる
日本事情・日本理解	動画を見て、日本の文化や習慣を理解できる
その他	A2レベルでの単語をきちんと使う事ができる。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）
読む	オンライン（双方向のみ）
書く	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）
その他	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	楽しみながら日本語のスキルを身につけてもらおうということで、普段からオンライン授業を行っている教員を配置した。また配置した3名の教員には「反転授業」「candoでの評価基準」等を役職付きの専任講師として現在の教務部に還元して貰うための配置でもあった。 教授法としては「練習を多く」「自分の意見をしっかりアピールする」という事に重きを置き、学習者の自主性を重視した。
話す（発表）	上記と同じ
聞く	上記と同じ
読む	上記と同じ
書く	上記と同じ
日本事情・日本理解	上記と同じ
その他	上記と同じ

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	実証取組モデル1教材
		レベル	A2
		内容	パワーポイント、動画
話す（発表）	使用した教材①	名称	実証取組モデル1教材
		レベル	A2
		内容	パワーポイント、動画
聞く	使用した教材①	名称	実証取組モデル1教材
		レベル	A2
		内容	パワーポイント、動画
読む	使用した教材①	名称	実証取組モデル1教材
		レベル	A2
		内容	パワーポイント、動画
書く	使用した教材①	名称	実証取組モデル1教材
		レベル	A2
		内容	パワーポイント、動画
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	実証取組モデル1教材
		レベル	A2
		内容	パワーポイント、動画

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	JFcando スタンダード / 校内での基準
話す（発表）	JFcando スタンダード / 校内での基準
聞く	JFcando スタンダード / 校内での基準
読む	JFcando スタンダード / 校内での基準
書く	JFcando スタンダード / 校内での基準
日本事情・日本理解	JFcando スタンダード / 校内での基準
その他	JFcando スタンダード / 校内での基準

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	評価に関してはABCD段階での評価を取っておりますが、日々の授業でのやり取りを踏まえ、最終的には用意いただいたテストとの総合的な判断といたしました。
話す（発表）	上記と同じ
聞く	上記と同じ
読む	上記と同じ
書く	上記と同じ
日本事情・日本理解	上記と同じ
その他	上記と同じ

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	こちら「各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標」と同じで、日々の授業でのやり取りを踏まえ、最終的には用意いただいたテストとの総合的な判断といたしました。
話す（発表）	上記と同じ
聞く	上記と同じ
読む	上記と同じ
書く	上記と同じ
日本事情・日本理解	上記と同じ
その他	上記と同じ

各日本語教育機関の実施結果

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	話すことに関しては、日々の授業で確認できるので特に問題はありませんでした。
話す（発表）	テストにおいても特に問題はありませんでした。話せる学生がそろっていましたので、様々な国の学生が話し合う事によりいい刺激になっていました。
聞く	発表に関しても上記と同じでした。
読む	発表に関しても上記と同じでした。
書く	発表に関しても上記と同じでした。
日本事情・日本理解	日本事情に関しては、長期・短期問わず日本に来たい、あるいは日本で既に学習している学生たちでしたので、内容的にも非常に楽しんでおりました。
その他	テストに関しては最初から比べると全体的にかなり得点が上がりました。継続することの重要性が目に見えて出たと思います。一方で「learningBOXの使い方がよくわからない」という学生の意見が多かったです。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	ネットワーク環境の整備
書く	機器等のコスト
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備
その他	ネットワーク環境の整備

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	課題とすれば、やはり学習者側のネットワークやデバイスの問題があるかと思います。
話す（発表）	そしてクラス単位で行うのであれば、6～8人が妥当かと思います。
聞く	特になし
読む	特になし
書く	書くことに関してはデバイスの問題、通信環境の問題もあるかと思います。
日本事情・日本理解	できないわけではありませんが、こだわりすぎるとそちらにばかり意識が行ってしまうので、 全体のバランスを考えながら取り組むしかないのかなと思います。
その他	モデル1は反転授業をイメージして作られた教材であったと思いますが、実際なかなか前もって動画を確認してくる学生はおらず（ネットの問題もある）、その辺りの主幹付けを今後どのように行っていくのが課題だと思いました。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	授業の随時報告や報告会等
話す（発表）	授業の随時報告や報告会等
聞く	授業の随時報告や報告会等
読む	授業の随時報告や報告会等
書く	授業の随時報告や報告会等
日本事情・日本理解	授業の随時報告や報告会等
その他	授業の随時報告や報告会等

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

002-2：京都民際日本語学校

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レ ベ ル		モ デ ル				モ デ ル 外				事前テスト		事後テスト		事前テスト		事後テスト		成長幅（単 位：ポイン ト）
												事前の点数 （生徒合 計）		事後の点数 （生徒合 計）		テスト満点		正答率（生徒 合計）		
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	計	回答者数	計	回答者数	計	正答率	
002-2	京都民際日本語学校_モデル外 (A1)_9/1-12/22	○											233	6	218	6	100	38.8%	36.3%	-3

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	モデル外(4か月)
区分	オンラインのみ
1.授業のレベル	A1
2.授業のコース	進学 一般
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/9/1
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/12/22
4.授業の学習時間	120
5.学生の授業への参加率	95
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語、英語、韓国語
6-1.担当された先生①スキル	日本語教師養成講座420時間修了・中高教員免許（英語）
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語、英語
6-2.担当された先生②スキル	日本語教育能力検定試験合格
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	女性
6-3.担当された先生③使用言語	日本語、英語、中国語、ベトナム語
6-3.担当された先生③スキル	日本語教育能力検定試験合格
6-4.担当された先生④居住国	日本
6-4.担当された先生④性別	男性
6-4.担当された先生④使用言語	日本語、英語、ベンガル語
6-4.担当された先生④スキル	日本語教師養成講座420時間修了
7.実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	PC付属の物（メーカー不明）
10.使用した映像（カメラ）機	PC付属の物（メーカー不明）
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	いろいろ 日本語の教材をPPTにおいて使用
12.撮影をした場所	普通の教室 その他（講師自宅等）

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	・来日後、「0からスタートのクラス（当校で一番下のクラス）」ではなく、「みんなの日本語18課スタートのクラス」に入学できる総合的な日本語能力を身につけられる。 ・日本での生活に必要な最低限のコミュニケーション力を身につけることを目指し、日本の生活場面で「できる」ことを増やせる。 ・自分のことや家族のこと、国の紹介ができる。 ・自分や家族の紹介ができる。毎日の生活の説明ができる。
話す（発表）	・来日後、「0からスタートのクラス（当校で一番下のクラス）」ではなく、「みんなの日本語18課スタートのクラス」に入学できる総合的な日本語能力を身につけられる。 ・日本での生活に必要な最低限のコミュニケーション力を身につけることを目指し、日本の生活場面で「できる」ことを増やせる。 ・自分のことや家族のこと、国の紹介ができる。
聞く	・来日後、「0からスタートのクラス（当校で一番下のクラス）」ではなく、「みんなの日本語18課スタートのクラス」に入学できる総合的な日本語能力を身につけられる。 ・日本での生活に必要な最低限のコミュニケーション力を身につけることを目指し、日本の生活場面で「できる」ことを増やせる。 ・自分のことや家族のこと、国の紹介ができる。
読む	五十音が言える。日本語の音の長さや高さに慣れる。 A1レベルの読解ができる
書く	ひらがな、カタカナの50音の読み書きができる。 A1レベルの語彙が書ける
日本事情・日本理解	教材にある日本事業、日本でのマナー、文化が理解できる

●就職コース

話す（やりとり）	・生活に必要なことばや表現を身につけることができる。 ・日本での生活に必要な最低限のコミュニケーション力を身につけることを目指し、日本の生活場面で「できる」ことを増やせる。 ・日本での最低限のルールを身につけることができる。 ・自分や家族の紹介ができる。毎日の生活の説明ができる。
話す（発表）	・生活に必要なことばや表現を身につけることができる。 ・日本での生活に必要な最低限のコミュニケーション力を身につけることを目指し、日本の生活場面で「できる」ことを増やせる。 ・日本での最低限のルールを身につけることができる。 ・自分や家族の紹介ができる。毎日の生活の説明ができる。
聞く	・生活に必要なことばや表現を身につけることができる。 ・日本での生活に必要な最低限のコミュニケーション力を身につけることを目指し、日本の生活場面で「できる」ことを増やせる。 ・日本での最低限のルールを身につけることができる。
読む	五十音が言える。日本語の音の長さや高さに慣れる。 A1レベルの読解ができる
書く	ひらがな、カタカナの50音の読み書きができる。 A1レベルの語彙が書ける
日本事情・日本理解	教材にある日本事業、日本でのマナー、文化が理解できる

●生活コース

話す（やりとり）	・生活に必要なことばや表現を身につけることができる。 ・日本での生活に必要な最低限のコミュニケーション力を身につけることを目指し、日本の生活場面で「できる」ことを増やせる。 ・日本での最低限のルールを身につけることができる。 ・自分や家族の紹介ができる。毎日の生活の説明ができる。
話す（発表）	・生活に必要なことばや表現を身につけることができる。 ・日本での生活に必要な最低限のコミュニケーション力を身につけることを目指し、日本の生活場面で「できる」ことを増やせる。 ・日本での最低限のルールを身につけることができる。 ・自分や家族の紹介ができる。毎日の生活の説明ができる。
聞く	・生活に必要なことばや表現を身につけることができる。 ・日本での生活に必要な最低限のコミュニケーション力を身につけることを目指し、日本の生活場面で「できる」ことを増やせる。 ・日本での最低限のルールを身につけることができる。
読む	五十音が言える。日本語の音の長さや高さに慣れる。 A1レベルの読解ができる
書く	ひらがな、カタカナの50音の読み書きができる。 A1レベルの語彙が書ける
日本事情・日本理解	教材にある日本事業、日本でのマナー、文化が理解できる

各日本語教育機関の実施結果

A1

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）
読む	オンライン（双方向のみ）
書く	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	◎教授方法：初めの約10日間「間接法（英語）と直接法」、それ以降は「直接法」 自分や家族の紹介ができる。毎日の生活の説明ができる。
話す（発表）	目標：五十音が言える。日本語の音の長さや高さに慣れる。主に拍とアクセントの強化。 ① 語彙レベルで提示 ② ミムメモ ③ 文レベルで提示 ④ 1人1人③発表
聞く	目標：五十音が言える。日本語の音の長さや高さに慣れる。主に拍とアクセントの強化。 ① 語彙レベルで提示 ② ミムメモ ③ 文レベルで提示 ④ 1人1人③発表
読む	ひらがな、カタカナの50音の読み書きができる。 ⇒1日30分 分けて実施。 ① 前日の復習（読み、書き、ディクテーション） ② 単音導入 音と文字を結びつける⇒書き ③ 読み練習 語彙レベル ④ 書き練習 語彙レベル ⑤ 語彙導入
書く	ひらがな、カタカナの50音の読み書きができる。 ⇒1日30分 分けて実施。 ① 前日の復習（読み、書き、ディクテーション） ② 単音導入 音と文字を結びつける⇒書き ③ 読み練習 語彙レベル ④ 書き練習 語彙レベル ⑤ 語彙導入
日本事情・日本理解	教材にある日本事業、日本でのマナー、文化が理解できる

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	いどころ 入門
		レベル	A1
		内容	ダウンロード教材
話す（発表）	使用した教材①	名称	いどころ 入門
		レベル	A1
		内容	ダウンロード教材
聞く	使用した教材①	名称	いどころ 入門
		レベル	A1
		内容	ダウンロード教材
読む	使用した教材①	名称	いどころ 入門
		レベル	A1
		内容	ダウンロード教材
書く	使用した教材①	名称	いどころ 入門
		レベル	A1
		内容	ダウンロード教材
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	いどころ 入門
		レベル	A1
		内容	ダウンロード教材

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	JF教育スタンダード表 弊校評価基準
話す（発表）	JF教育スタンダード表 メイン…google formで作成した到達度を図るためのテスト/作文発表 弊校評価基準
聞く	JF教育スタンダード表 弊校評価基準
読む	JF教育スタンダード表 文字…ひらがな、カタカナともに自作小テスト実施 メイン…google formで作成した到達度を図るためのテスト/作文発表
書く	JF教育スタンダード表 文字…ひらがな、カタカナともに自作小テスト実施 メイン…google formで作成した到達度を図るためのテスト/作文発表
日本事情・日本理解	JF教育スタンダード表 弊校評価基準

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	can-doで示した目標が達成できているか google formで作成した到達度を図るためのテストでどれだけ伸びがみられるか 作文を書く際に習った語彙や文型を正確に使用できているか
話す（発表）	can-doで示した目標が達成できているか google formで作成した到達度を図るためのテストでどれだけ伸びがみられるか 作文を書く際に習った語彙や文型を正確に使用できているか
聞く	can-doで示した目標が達成できているか google formで作成した到達度を図るためのテストでどれだけ伸びがみられるか 作文を書く際に習った語彙や文型を正確に使用できているか
読む	google formで作成した到達度を図るためのテストでどれだけ伸びがみられるか 作文を書く際に習った語彙や文型を正確に使用できているか
書く	ルビの付いていないひらがな、カタカナが読めるか日頃の授業内で確認
日本事情・日本理解	内容を理解しているかどうか

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	can-doで示した目標が達成できているか 弊校のABCDでの評価、日々の授業内でのやりとり
話す（発表）	can-doで示した目標が達成できているか 弊校のABCDでの評価、日々の授業内でのやりとり
聞く	can-doで示した目標が達成できているか 弊校のABCDでの評価、日々の授業内でのやりとり
読む	can-doで示した目標が達成できているか 弊校のABCDでの評価、日々の授業内でのやりとり
書く	can-doで示した目標が達成できているか 弊校のABCDでの評価、日々の授業内でのやりとり
日本事情・日本理解	内容を理解しているかどうか

各日本語教育機関の実施結果

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	読み書き指導はオンラインでも可能だが、字形指導は机間巡視してその場で指導できたと感じた learningBOXの評判が悪かった
話す（発表）	読み書き指導はオンラインでも可能だが、字形指導は机間巡視してその場で指導できたと感じた learningBOXの評判が悪かった
聞く	読み書き指導はオンラインでも可能だが、字形指導は机間巡視してその場で指導できたと感じた learningBOXの評判が悪かった
読む	読み書き指導はオンラインでも可能だが、字形指導は机間巡視してその場で指導できたと感じた learningBOXの評判が悪かった
書く	読み書き指導はオンラインでも可能だが、字形指導は机間巡視してその場で指導できたと感じた learningBOXの評判が悪かった
日本事情・日本理解	内容を理解しているかどうかという目的なので、特にありません。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	ネットワーク環境の整備
書く	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	ネットとデバイスの問題くらいで話すことに関しては問題なかった
話す（発表）	ネットとデバイスの問題くらいで話すことに関しては問題なかった
聞く	ネットとデバイスの問題くらいで話すことに関しては問題なかった
読む	ネットとデバイスの問題くらいで話すことに関しては問題なかった
書く	「オンライン授業だからできない」「オンライン授業だから対応ができない」ということはなく、対面授業とほぼ同様の授業を提供できることを実感できた。ただ、正しく書けているかどうかをその場で指導することが難しいと感じたこともあった。
日本事情・日本理解	特にありません

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	講師：日々の講師間の意見交換や情報共有 学習者：フィードバック・動詞活用復習シート作成、提供などのサポート ・授業後に質問する時間を設ける/メールでの質疑応答 ・クラス内で定着度や理解度のばらつきがみられた際、ブレイクアウトルームで取り出し授業を行うことで遅れている学生のフォローを実現できた
話す（発表）	講師：日々の講師間の意見交換や情報共有 学習者：・作文などの添削、フィードバック ・動詞活用復習シート作成、提供などのサポート ・授業後に質問する時間を設ける/メールでの質疑応答 ・クラス内で定着度や理解度のばらつきがみられた際、ブレイクアウトルームで取り出し授業を行うことで遅れている学生のフォローを実現できた
聞く	講師：日々の講師間の意見交換や情報共有 学習者：・作文などの添削、フィードバック ・動詞活用復習シート作成、提供などのサポート ・授業後に質問する時間を設ける/メールでの質疑応答 ・クラス内で定着度や理解度のばらつきがみられた際、ブレイクアウトルームで取り出し授業を行うことで遅れている学生のフォローを実現できた
読む	講師：日々の講師間の意見交換や情報共有 学習者：・作文などの添削、フィードバック ・動詞活用復習シート作成、提供などのサポート ・授業後に質問する時間を設ける/メールでの質疑応答 ・クラス内で定着度や理解度のばらつきがみられた際、ブレイクアウトルームで取り出し授業を行うことで遅れている学生のフォローを実現できた
書く	講師：日々の講師間の意見交換や情報共有 学習者：・作文などの添削、フィードバック ・動詞活用復習シート作成、提供などのサポート ・授業後に質問する時間を設ける/メールでの質疑応答 ・クラス内で定着度や理解度のばらつきがみられた際、ブレイクアウトルームで取り出し授業を行うことで遅れている学生のフォローを実現できた
日本事情・日本理解	こちらは特にありません

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

003-1：青山国際教育学院

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レベル										事前テスト				事後テスト				事前テスト 事後テスト 成長幅 (単 正答率 (生 正答率 (生 位: ポイン 徒合計) 徒合計) ト)			
		A1 A2 B1 B2 C					1 2 3 4 5 1 2					事前テスト 事前の点数 (生徒合 計)		事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)		テスト満点		事後一事前					
003-1 (前半三ヵ月)	青山国際教育学院_モデル3 (A1,A2) _7/11-12/22	○	○						○				307	6	504	6	100	51.2%	84.0%	33			
003-1 (後半三ヵ月)	青山国際教育学院_モデル3 (A1,A2) _7/11-12/22	○	○						○				408	6	476	6	100	68.0%	79.3%	11			

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル3 (6か月)
区分	オンラインのみ+オンデマンド型
1.授業のレベル	A1 A2
2.授業のコース	進学 就職 一般
3-1.授業の実施期間 (開始)	2022/7/11
3-2.授業の実施期間 (終了)	2022/12/22
4.授業の学習時間	326
5.学生の授業への参加率	88
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	特になし
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	特になし
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	男性
6-3.担当された先生③使用言語	日本語
6-3.担当された先生③スキル	日本語教育能力検定
7.実施した言語活動	話す(やりとり) 話す(発表) 聞く読む書く 日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材(スピーカー、マイク)	ELECOM (マイク付きヘッドホン)
10.使用した映像(カメラ)機	ノートPC (DELL) 付属のカメラ、Macbook Pro 付属のカメラ
11.使用したファイル形式(パワーポイント、PDF等)	パワーポイント/Keynote/PDF
12.撮影をした場所	普段の教室 その他(講師自宅等)

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース／就職コース／生活コース ※全て同様

話す（やりとり）	人物や場所について、単純な字句を並べて、述べることができる。 自分に向けられた、注意深く、ゆっくり表現された質問や説明が理解できる。短い簡単な指示を理解できる。 人が元気がどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる。
話す（発表）	非常に短い、準備して練習した言葉を読み上げることができる。 自分自身や想像上の人々について、どこに住んでいるか、何をする人なのかについて、簡単な句や文を書くことができる。
聞く	意味がとれるように間を長くおきながら、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる。
読む	ひらがな・カタカナ・漢字100文字程度を読むことができる。 非常に短い簡単なテキストを、身近な名前、単語や基本的な表現と一つずつ取りあげて必要であれば読み直したりしながら、一文一節ずつ理解することができる。
書く	ひらがな・カタカナ・漢字50文字程度を読むことができる。 簡単な表現や文を単独に書くことができる。
日本事情・日本理解	日本のいくつかの都市の名前とその場所の特色について理解している。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）
読む	オンライン（双方向のみ） オンデマンド型
書く	オンライン（双方向のみ） オンデマンド型
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	みんなの日本語を用いたオンライン授業を行う。オンライン授業の経験があり、ICTツールに精通した教師を配置。媒介言語を用いない直接法。開始時と3ヶ月経過時、3ヶ月経過時と6ヶ月修了時で同じレベルチェックテストを行い、理解度、達成度をはかる。ひらがなとカタカナ、数字、あいさつ等については動画のオンデマンド教材を作成し、learningBOXを介して各自自習できる形で提供する。また、learningBOX上にみんなの日本語の各課について語彙・文法のクイズと小テストを作成。
話す（発表）	同上
聞く	同上
読む	同上
書く	同上
日本事情・日本理解	同上

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	みんなの日本語 初級I
		レベル	A1
		内容	本冊
話す（発表）	使用した教材①	名称	みんなの日本語 初級I
		レベル	A1
		内容	本冊
聞く	使用した教材①	名称	みんなの日本語 初級I
		レベル	A1
		内容	本冊
読む	使用した教材①	名称	みんなの日本語 初級I
		レベル	A1
		内容	本冊
	使用した教材②	名称	みんなの日本語 初級I 標準問題集
		レベル	A1
		内容	本冊
	使用した教材③	名称	みんなの日本語 初級I 漢字練習帳
		レベル	A1
		内容	本冊
書く	使用した教材①	名称	みんなの日本語 初級I
		レベル	A1
		内容	本冊
	使用した教材②	名称	みんなの日本語 初級I 標準問題集
		レベル	A1
		内容	本冊
	使用した教材③	名称	みんなの日本語 初級I 漢字練習帳
		レベル	A1
		内容	本冊
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	みんなの日本語 初級I
		レベル	A1
		内容	本冊

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	レベルチェックテスト、教師による質問に答える会話力のチェックテスト、みんなの日本語の文型を作って会話を作る練習
話す（発表）	スピーチ発表
聞く	みんなの日本語各課の課末問題の聴解、小テストや語彙クイズの聴解問題
読む	レベルチェックテスト、learningBOXの小テスト・クイズ、みんなの日本語各課末問題の読解、
書く	レベルチェックテスト、learningBOXの小テスト・クイズ、作文の添削、漢字練習帳の添削
日本事情・日本理解	みんなの日本語各課

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	言いたいことが伝わるかどうか、発音はよいか、語彙力、文法の運用力、ロールプレイの場合、課題を達成できるか。
話す（発表）	言いたいことが伝わるかどうか、発音はよいか、順序立てて説明できるか、語彙力、文法の運用力
聞く	みんなの日本語各課末問題の聴解
読む	みんなの日本語各課末問題の読解、読んだ後に内容について簡単な質問に答えられるか。
書く	作文：言いたいことが伝わるか、誤字脱字がないか。 漢字：learningBOXやZoomでチェック
日本事情・日本理解	日本に来た時に行きたい場所、日本でしたいことなどについて自分で調べ、話すことができる。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	CEFR Can-do、JF Can-doなどによる
話す（発表）	同上
聞く	同上
読む	同上
書く	同上
日本事情・日本理解	同上

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	すべての学生について、開始時と3ヶ月経過時のレベルチェックテストで有意（注）に上達が見られた。 （注：事業を実施した教育機関における分析結果・報告に基づく記載であり、事業受託者による統計処理で統計上有意であることを確認したことを意味しない）
話す（発表）	同上
聞く	同上
読む	同上
書く	同上
日本事情・日本理解	同上

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	ネットワーク環境の整備
書く	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	適切なカリキュラムの設定

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	国ごとにインターネット環境、IT設備の充実度が異なることがいしばんのネックでした。当校の場合、ミャンマーのインターネット環境があまりよくなく、頻繁に回線落ちることがよく見られました。そんな中でも学生たちは懸命にオンライン授業に参加してくれたいと思います。中には毎回特別回線のプリペイドカードを購入して、オンライン授業に参加してくれていた学生もいました。 教員の配置については事前に校内でよく検討してから人員を決定したため、問題はありませんでした。 また、オンライン教育ノウハウやITリテラシーについては、当校の教師はすでにオンライン授業の経験が豊富にあり、learningBOXについても全員が問題なく使っていました。 learningBOXのLMSシステムやスリーエーネットワークの電子テキストについては、もともと日本国内のみでの使用を想定して作られていると思われ、海外の学生が使用する時には若干不便さがあるように感じられました。具体的にはUIが日本語と英語表示にしか対応していないこと、UIで使われる単語の複雑さなどです。
話す（発表）	対応策としては、初回授業のときに海外現地の代理店の人やに当校の外国人スタッフと一緒にZoomに入室してもらい、通訳やサポートをしてもらいながらオリエンテーションを行ったことで、その後の授業が大変スムーズになったと思います。
聞く	また、カリキュラムについては、授業を開始して早い段階で、当初目標だった50課すべての授業を行うのではなく、学生の理解度・修達度を考慮して柔軟にスピードを変更することを決めました。 オンライン授業の特性上、学生たちには現地での日々の生活があり、様々な用事などによって欠席することが多いことが課題でした。改善案として、授業のスピードをゆっくりにすることで、1日や2日休んでも授業に置いて行かれないように、ついていけるようにしました。 それでも様々な理由により、途中で参加しなくなってしまう学生はいました。ただ、初期から参加してくれていた6名は、100日間もの授業を最後まで完走し、実際にその努力に見合うだけの語学力の向上も見られたと感じます。
読む	当校でかつて行っていたオンライン授業は、学生が受け身になりやすく、ともすればカメラやマイクをオフにして形だけの出席をしてしまうことが課題でした。 ただ、今回の実証事業においては学生たち6名の意識が非常に高く、常にカメラをオンにして自分の姿を見せており、非常に積極的に参加していたと感じます。授業の内容も、学生たちのアウトプット（発言や作文など）をいかに多く引き出すか、それに迅速にフィードバックするかに重点を置いて考えていました。
書く	当校でかつて行っていたオンライン授業では、人数が多く、個別のアウトプットについては確認できないことが多いという問題がありました。今回は人数が6人と少なかったこともあり、一人一人のアウトプットについて丁寧にチェックし、個別にフィードバックを返すことができ、学習者の向上、モチベーションの維持に大きな効果が得られたと思います。
日本事情・日本理解	日本事情・日本理解については、教師が説明するだけだと学生が受け身になりやすいという課題がありました。日本に来たらどこへ旅行に行きたいか、何をしたいかなど、学生の立場に合わせてアウトプットを引き出すことで、モチベーションを高める工夫をしました。 また、「日本事情を伝える」という目的からは離れてしまっていますが、学生たちが世界各地に散らばっているという状況を生かし、「それぞれの国の生活や文化、日常のことを日本語で説明してもらおう」という形の方がよかったと感じます。学生たちのモチベーションが高く、発表の内容も非常にバラエティーに富んでおり、教師から見ても、普段学校で対面授業でやっているときには見られないような、興味深い発表を多く見ることができたと感じています。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	講師向け：learningBOXやスリーエーネットワークの電子テキストの使い方について、事前に使い方を確認する研修を行いました。また、実証事業の内容や目的、授業の内容について他の教師や職員に共有するための研修会も行いました。Zoomについてはすでに以前から学校のオンライン授業で使用していたため、すでに使い方をマスターしている状態でした。
話す（発表）	学習者：授業開始初日に、代理店のスタッフや校内の外国人スタッフも一緒にZoomと一緒に入室してもらい、学生たちに通訳やサポートをしてもらいながら、Zoom、learningBOX、スリーエーネットワークの電子テキストの使い方のオリエンテーションを行いました。 その他、学生の欠席が続いたときや、レベルチェックテストやアンケートが回答されない場合などにも、代理店や外国人スタッフを通じて学生に連絡してもらい、サポートをしてもらっていました。
聞く	同上
読む	同上
書く	同上
日本事情・日本理解	同上

各日本語教育機関の実施結果

A2

■目標設定

●進学コース／就職コース／生活コース ※全て同様

話す（やりとり）	もし、発話がはっきりとゆっくりとした発音ならば、最も直接的な優先事項の領域（例：ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、その地域の地理、仕事・雇用）に関連した句や表現が理解できる。
話す（発表）	人物や生活・職場環境、日課、好き嫌いなどについて、単純な記述やプレゼンテーションができる。その際簡単な字句や文を並べる。「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞でつなげた簡単な表現や文を書くことができる。
聞く	もし、発話がはっきりとゆっくりとした発音ならば、最も直接的な優先事項の領域（例：ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、その地域の地理、仕事・雇用）に関連した句や表現が理解できる。
読む	非常によく用いられる、日常的、もしくは仕事関連の言葉で書かれた、具体的で身近な事柄なら、短い簡単なテキストが理解できる。よく使われる語で書かれた、国際的共通語彙もかなり多い、短い簡単なテキストが理解できる。
書く	人物や生活・職場環境、日課、好き嫌いなどについて、単純な記述やプレゼンテーションができる。その際簡単な字句や文を並べる。「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞でつなげた簡単な表現や文を書くことができる。
日本事情・日本理解	日本の地理や文化を部分的に理解し、日本の都市で旅行に行きたいところ、日本で体験したいことについて話すことができる。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）
読む	オンライン（双方向のみ）
書く	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	3ヶ月経過時と6ヶ月修了時で同じレベルチェックテストを行い、理解度、達成度をはかる。learningBOX上にみんなの日本語の各課について語彙・文法のクイズと小テストを作成。
話す（発表）	同上
聞く	同上
読む	同上
書く	同上
日本事情・日本理解	同上

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	みんなの日本語 初級II
		レベル	A2
		内容	本冊
話す（発表）	使用した教材①	名称	みんなの日本語 初級II
		レベル	A2
		内容	本冊
聞く	使用した教材①	名称	みんなの日本語 初級II
		レベル	A2
		内容	本冊
読む	使用した教材①	名称	みんなの日本語 初級II
		レベル	A2
		内容	本冊
	使用した教材②	名称	みんなの日本語 初級II 標準問題集
		レベル	A2
		内容	本冊
	使用した教材③	名称	みんなの日本語 初級II 漢字練習帳
		レベル	A2
		内容	本冊
書く	使用した教材①	名称	みんなの日本語 初級II
		レベル	A2
		内容	本冊
	使用した教材②	名称	みんなの日本語 初級II 標準問題集
		レベル	A2
		内容	本冊
	使用した教材③	名称	みんなの日本語 初級II 漢字練習帳
		レベル	A2
		内容	本冊
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	みんなの日本語 初級II
		レベル	A2
		内容	本冊

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	レベルチェックテスト、教師による質問に答える会話力のチェックテスト、みんなの日本語の文型を作って会話を作る練習
話す（発表）	スピーチ発表
聞く	みんなの日本語各課の課末問題の聴解、小テストや語彙クイズの聴解問題
読む	レベルチェックテスト、learningBOXの小テスト・クイズ、みんなの日本語各課末問題の読解、
書く	レベルチェックテスト、learningBOXの小テスト・クイズ、作文の添削、漢字練習帳の添削
日本事情・日本理解	みんなの日本語各課

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	言いたいことが伝わるかどうか、発音はよいか、ロールプレイの場合、課題を達成できるか。
話す（発表）	言いたいことが伝わるかどうか、発音はよいか、順序立てて説明できるか、
聞く	みんなの日本語各課末問題の聴解
読む	みんなの日本語各課末問題の読解、読んだ後に内容について簡単な質問に答えられるか。
書く	作文：言いたいことが伝わるか、誤字脱字がないか。 漢字：形が正しいか
日本事情・日本理解	日本に来た時に行きたい場所、日本でしたいことなどについて自分で調べ、話すことができる。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	CEFR Can-do、JF Can-doなどによる
話す（発表）	同上
聞く	同上
読む	同上
書く	同上
日本事情・日本理解	同上

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	ほとんどの学生で3ヶ月経過時と6ヶ月修了時のテスト結果で点数の上昇が見られた。実証事業の授業だけでなく、学生たちは現地日本語学校の授業を並行して受けていたり、日々数時間の自宅学習をしていたりしていた。 学生によっては日本語だけで授業が行われる「直接法」の授業、と母国語で説明を受けることができる「間接法」の授業を平行して受けていた。その相乗効果によるものも大きいと思われる。
話す（発表）	効果検証テストの中に「発表」の能力をみる問題はなかったが、授業内でスピーチ発表を複数回行った。 テーマは「自分が夏休みや秋休みにしたこと」や、「自分の国の有名な人について紹介する」など。 写真などを用いて発表してもらった。 発表内容は作文として提出してもらい、添削して返却も行った。 回を重ねるごとに使える文型や語彙が増え、説明の内容も厚みを持つていくようが見て取れた。
聞く	効果検証テストの中に直接「聞く」能力をみる問題はなかったが、授業中に行った聴解問題や、学生との面接において、聞き取る能力が高まっていると感じられる。
読む	ほとんどの学生で3ヶ月経過時と6ヶ月修了時のテスト結果で点数の上昇が見られた。実証事業の授業だけでなく、学生たちは現地日本語学校の授業を並行して受けていたり、日々数時間の自宅学習をしていたりしていた。 学生によっては日本語だけで授業が行われる「直接法」の授業、と母国語で説明を受けることができる「間接法」の授業を平行して受けていた。その相乗効果によるものも大きいと思われる。
書く	ほとんどの学生で3ヶ月経過時と6ヶ月修了時のテスト結果で点数の上昇が見られた。実証事業の授業だけでなく、学生たちは現地日本語学校の授業を並行して受けていたり、日々数時間の自宅学習をしていたりしていた。 学生によっては日本語だけで授業が行われる「直接法」の授業、と母国語で説明を受けることができる「間接法」の授業を平行して受けていた。その相乗効果によるものも大きいと思われる。 また、発表や作文の授業においても、使える語彙・文型の種類の増加が見られ、回を重ねるにしたがって複文の使用などが見られるようになっていった。
日本事情・日本理解	効果検証テストの中で日本の文化的慣習や考え方を問う問題があった。 ほとんどの学生で3ヶ月経過時と6ヶ月修了時のテスト結果で点数の上昇が見られた。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	ネットワーク環境の整備
書く	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	国ごとにインターネット環境、IT設備の充実度が異なることがいしばんのネックでした。当校の場合、ミャンマーのインターネット環境があまりよくなく、頻繁に回線落ちることがよく見られました。そんな中でも学生たちは懸命にオンライン授業に参加してくれたいと思います。中には毎回特別回線のプリペイドカードを購入して、オンライン授業に参加してくれていた学生もいました。 教員の配置については事前に校内でよく検討してから人員を決定したため、問題はありませんでした。 また、オンライン教育ノウハウやITリテラシーについては、当校の教師はすでにオンライン授業の経験が豊富にあり、learningBOXについても全員が問題なく使っていました。 learningBOXのLMSシステムやスリーエーネットワークの電子テキストについては、もともと日本国内のみでの使用を想定して作られていると思われ、海外の学生が使用する時には若干不便さがあるように感じられました。具体的にはUIが日本語と英語表示にしか対応していないこと、UIで使われる単語の複雑さなどです。
話す（発表）	対応策としては、初回授業のときに海外現地の代理店の人やに当校の外国人スタッフと一緒にZoomに入室してもらい、通訳やサポートをしてもらいながらオリエンテーションを行ったことで、その後の授業が大変スムーズになったと思います。
聞く	また、カリキュラムについては、授業を開始して早い段階で、当初目標だった50課すべての授業を行うのではなく、学生の理解度・修達度を考慮して柔軟にスピードを変更することを決めました。 オンライン授業の特性上、学生たちには現地での日々の生活があり、様々な用事などによって欠席することが多いことが課題でした。改善案として、授業のスピードをゆっくりにすることで、1日や2日休んでも授業に置いて行かれないく、ついていけるようにしました。 それでも様々な理由により、途中で参加しなくなってしまう学生はいました。ただ、初期から参加してくれていた6名は、100日間もの授業を最後まで完走し、実際にその努力に見合うだけの語学力の向上も見られたと感じます。
読む	当校でかつて行っていたオンライン授業は、学生が受け身になりやすく、とすればカメラやマイクをオフにして形だけの出席をしてしまうことが課題でした。 ただ、今回の実証事業においては学生たち6名の意識が非常に高く、常にカメラをオンにして自分の姿を見せており、非常に積極的に参加していたと感じます。授業の内容も、学生たちのアウトプット（発話や作文など）をいかに多く引き出すか、それに迅速にフィードバックするかに重点を置いて考えていました。
書く	当校でかつて行っていたオンライン授業では、人数が多く、個別のアウトプットについては確認できないことが多いという問題がありました。今回は人数が6人と少なかったこともあり、一人一人のアウトプットについて丁寧にチェックし、個別にフィードバックを返すことができ、学習者の向上、モチベーションの維持に大きな効果が得られたと思います。
日本事情・日本理解	日本事情・日本理解については、教師が説明するだけだと学生が受け身になりやすいという課題がありました。日本に来たらどこへ旅行に行きたいか、何をしたいかなど、学生の立場に合わせてアウトプットを引き出すことで、モチベーションを高める工夫をしました。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	講師向け：learningBOXやスリーエーネットワークの電子テキストの使い方について、使い方を確認する研修会を行いました。また、実証事業の内容や目的、授業の内容について他の教師や職員に共有するための研修会も行いました。Zoomについてはすでに以前から学校のオンライン授業で使用していたため、すでに使い方をマスターしている状態でした。
話す（発表）	学習者：授業開始初日に、代理店のスタッフや校内の外国人スタッフも一緒にZoomと一緒に入室してもらい、学生たちに通訳やサポートをしてもらいながら、Zoom、learningBOX、スリーエーネットワークの電子テキストの使い方のオリエンテーションを行いました。 その他、学生の欠席が続いたときや、レベルチェックテストやアンケートが回答されない場合などにも、代理店や外国人スタッフを通じて学生に連絡してもらい、サポートをしてもらっていました。
聞く	同上
読む	同上
書く	同上
日本事情・日本理解	同上

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

004-1：東京育英日本語学院

授業ID	日本語教育機関・モデル名											事前テスト										事後テスト										事前テスト										事後テスト										成長幅(単									
		レ					モ					モ					事前テスト					事後テスト					事前テスト					事後テスト					成長幅(単																								
		ベル					デル					デル					事前の点数					事後の点数					テスト満点					正答率(生					正答率(生					正答率(生																			
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	計	回答者数	計	回答者数	計	回答者数	計	回答者数	計	回答者数	計	回答者数	計	回答者数	計	回答者数	計	回答者数	計	回答者数	計	回答者数	事後-事前																									
004-1	東京育英日本語学院_モデル1 (B1)_7/19-10/18			○				○							478	6	166	2	200	39.8%	41.5%	2																																							

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル1 (3か月)
区分	オンラインのみ
1.授業のレベル	B1
2.授業のコース	一般
3-1.授業の実施期間 (開始)	2022/7/19
3-2.授業の実施期間 (終了)	2022/10/18
4.授業の学習時間	50
5.学生の授業への参加率	20
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	特になし
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	男性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	特になし
7.実施した言語活動	話す (やりとり) 話す (発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	PC (Dynabook) 付属のスピーカー、マイク
10.使用した映像 (カメラ) 機	PC (Dynabook) 付属のカメラ
11.使用したファイル形式 (パワーポイント、PDF等)	パワーポイント、PDF、Wordの教材を使用
12.撮影をした場所	普段の教室

各日本語教育機関の実施結果

B1

■目標設定

●生活コース

話す（やりとり）	言語知識を増やし、身近な話題に関する内容の理解・発言ができる。
話す（発表）	身近な話題について、出来事や希望などを説明し、根拠を示しながら自分の意見を具体的に述べられる。
聞く	仕事、学校、娯楽でふだん出合うような身近な話題について、明瞭で共通語による話し方なら要点を理解することができる。
読む	非常によく使われる日常言語や、起こったこと、感情、希望が表現されている私信を理解できる。
書く	N3レベルの文法を用いて、身近な話題について根拠を示しながら自分の意見を具体的に述べられる。
日本事情・日本理解	日本の伝統的な文化やポップカルチャーに触れ、日本を理解し、日本の町や文化に親しむ。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）
読む	オンライン（双方向のみ）
書く	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	指定の教材である動画の会話シートで、動画内の文法や表現を用いた会話練習を、場面別会話PPTで実際の生活場面で必要な知識を学んだうえでやり取りをする練習を行いました。
話す（発表）	指定の教材である動画の作文シートを使って、動画の題材についての自分の具体的な意見をまとめた上で、発表する活動を行いました。
聞く	指定の教材である動画の視聴を通して、日本語を聞く学習を行いました。
読む	指定の教材である動画の会話シート、作文シートでの学習を通して、読む練習が行われました。
書く	指定の教材である動画の作文シートで、動画の題材について学習した文法や表現を使いながら自分の意見を具体的にまとめる練習を行いました。
日本事情・日本理解	指定の教材（日本文化のPPT）を用いて日本の伝統的な文化、大衆文化を学習し、興味を深めてもらえるよう指導しました。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	場面別会話PPT
		レベル	B1
		内容	買い物、ゴミ捨てなど実際の生活場面で必要な知識の紹介と会話の練習
	使用した教材②	名称	動画 会話シート
		レベル	B1
		内容	動画の中で使われる文法に関連した会話練習
話す（発表）	使用した教材①	名称	動画 作文シート
		レベル	B1
		内容	作文シートの内容をもとに、発表する練習
	使用した教材②	名称	
		レベル	
		内容	
聞く	使用した教材①	名称	動画
		レベル	B1
		内容	動画内の日本語を聞く学習
読む	使用した教材①	名称	動画 文法シート
		レベル	B1
		内容	シート内の日本語を読む学習
	使用した教材②	名称	場面別会話PPT
		レベル	B1
		内容	PPT内の日本語を読む練習
書く	使用した教材①	名称	動画 作文シート
		レベル	B1
		内容	動画の題材や動画の中で使われる文法を使用した作文の練習
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	日本文化PPT
		レベル	B1
		内容	日本の伝統的な文化、ポップカルチャーの紹介
	使用した教材②	名称	動画
		レベル	B1
		内容	日本文化や生活に触れる

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	指定のレベルチェックテスト
話す（発表）	指定のレベルチェックテスト、授業内での発表
聞く	指定のレベルチェックテスト
読む	指定のレベルチェックテスト
書く	指定のレベルチェックテスト
日本事情・日本理解	指定のレベルチェックテスト

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標

話す（やりとり）	テストに設定されていた採点基準
話す（発表）	テストに設定されていた採点基準。 発表については①内容の適切さ、②文法、表現の適切さ、③文レベルで話しているか、④アクセント、イントネーションの適切さ、⑤発音の適切さ、の5項目を、ほとんど満たしていない（1点）、ある程度満たしている（2点）、おおむね満たしている（3点）、十分に満たしている（4点）の20点満点で、授業担当講師が評価した。
聞く	テストに設定されていた採点基準
読む	テストに設定されていた採点基準
書く	テストに設定されていた採点基準
日本事情・日本理解	テストに設定されていた採点基準

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	カリキュラムとテストが指定されていたので、それに従いました。
話す（発表）	カリキュラムとテストが指定されていたので、それに従いました。授業内での発表の評価基準については、授業開始前に教務会議で決定しました。
聞く	カリキュラムとテストが指定されていたので、それに従いました。
読む	カリキュラムとテストが指定されていたので、それに従いました。
書く	カリキュラムとテストが指定されていたので、それに従いました。
日本事情・日本理解	カリキュラムとテストが指定されていたので、それに従いました。

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	授業への参加率が高い学習者は、初回と比べてかなり滑らかに日本語でのやりとりができるようになりました。テストの結果にもそれが多少反映されていたと思います。
話す（発表）	授業の参加人数が少なかったこともあり、のびのびと積極的に発表ができていました。回を重ねるほどに上達する様子が見られました。
聞く	動画を使った授業が多かったり、発話の機会が多いカリキュラムの構成だったため、一定の成果があったのではないかと思います。
読む	語彙や文法をきちんと学習している参加者でしたが、長い文章を読む練習は授業でほとんど行われなかったため、文章が長い問題では多少苦戦したのではないかと思います。
書く	授業開始前と比べて、一定の成果があったと思います。特に、参加者が日本語で書くのに要する時間が短縮されたので、事前テストと比べて余裕のある回答になっていたと思います。
日本事情・日本理解	もともと来日経験があったり、日本文化への造詣が深い参加者が多かったのですが、より具体的に様々な角度からの日本の文化に触れることができた点で満足感が高かったと感じられました。ただし、テストの結果にはそれがあまり反映されていなかったように感じます。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	その他
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	その他
読む	その他
書く	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	その他

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	授業参加人数が少なかったこと、参加者の日本語の習熟度が高かったこともあり、やり取りはとてもスムーズにできました。
話す（発表）	参加者のネットワーク環境や学習環境が整っていないことがあり（例：車内からの参加停電、パソコンの故障）、スムーズに進まないことがありました。
聞く	対面の場合は、学生の反応を直に見ながら一時停止して説明を入れたり、後でもう一度聞かせたりすることができですが、オンラインだと多少の時差があるなど反応が読み切れない部分に難しさを感じました。
読む	まとまった文章を読む練習をする機会はなかったため、特に問題点はありませんでした。例文などを読む作業は、スムーズに進みました。
書く	参加者のネットワーク環境や学習環境が整っていないことがあり、書かせたり書いたものをチェックするのに時間がかかることがありました。参加者の環境が整っていないと記入用の教材の共有や参加者が書き込むと言った活動に支障が出ることがあると感じました。
日本事情・日本理解	ビデオによって、ある程度臨場感を感じさせながら学習することができたと思いますが食べたったり触ったりさせることができない点で、講師の方が物足りなさや限界を感じるがありました。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	●対講師：事前にZoomのブレイクアウトルーム、画面共有のやり方等をレクチャーし、練習する機会を設けました。また、初めの数週間は授業中教務主任が近くで待機し、学生への指示やパソコンの操作などの手助けを行いました。 ●对学习者：何か問題や質問がある場合は、事務職員の通訳・翻訳の協力を得ながら学習者の不安・疑問の解消に努めました。
話す（発表）	同上
聞く	同上
読む	同上
書く	同上
日本事情・日本理解	同上

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

004-2：東京育英日本語学院

授業ID	日本語教育機関・モデル名											事前テスト 事後テスト 成長幅 (単 正答率(生 正答率(生 位:ポイン テスト満点 徒合計) 徒合計) ト)										
		レ ベ ル						モ デ ル						モ デ ル 外	事前テスト 事前の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)		テスト満点	徒合計	徒合計	成長幅 (単 位:ポイン ト)	
			A1	A2	B1	B2	C		1	2	3	4	5			1	2					回答者数
004-2	東京育英日本語学校_モデル2 (A1)_7/20-10/5	○						○							177	14	61	2	40	31.6%	76.3%	45

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル2（3か月）
区分	オンラインのみ+オンデマンド型
1.授業のレベル	A1
2.授業のコース	進学
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/7/20
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/10/5
4.授業の学習時間	60
5.学生の授業への参加率	25
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	特になし
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	男性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	特になし
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	女性
6-3.担当された先生③使用言語	日本語
6-3.担当された先生③スキル	特になし
7.実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	PC（Dynabook）付属のスピーカー、マイク
10.使用した映像（カメラ）機	PC（Dynabook）付属のカメラ
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	パワーポイント、PDF、Wordの教材を使用
12.撮影をした場所	普段の教室

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	相手がゆっくり話し、繰り返したり言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け舟を出してくれるなら、簡単なやり取りをすることができる。
話す（発表）	どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。
聞く	はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分や家族、身近で具体的なものに関する話やごく基本的な表現を聞き取れる。
読む	掲示やポスター、カタログの中をよく知っている名前、単語、単純で易しい文を理解できる。
書く	ひらがな、カタカナ及びN5レベルの簡単な漢字を書くことができる。自分の名前や国籍、ごく簡単な自己紹介を書くことができる。
日本事情・日本理解	日本の生活や学校などでの基本的な習慣について理解できる。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ） オンデマンド型
読む	オンライン（双方向のみ） オンデマンド型
書く	オンライン（双方向のみ） オンデマンド型
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ） オンデマンド型

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	主に「いろどり」と「eTRY!START」を用いて、学生がオンデマンド教材で予習した語彙、表現を使って話す（やりとりをする）練習を行いました。
話す（発表）	「eTRY!START」を用いて、学習した文型や表現を使って簡単な発話をする練習を行いました。
聞く	「いろどり」の音声や教師の読み上げたものをリピート、オーバーラッピングさせたり、「動く絵本ライブラリー」を視聴し、内容について教師が質問したりしました。
読む	「eTRY!START」や「動く絵本ライブラリー」で学習した内容に関連した易しい文を教師が用意し、それを読んで学習する活動などを行いました。また、「いろどり入門」で簡単な掲示やポスターを読む練習を行いました。
書く	「eTRY!START」や「eTRY!N5」を用いて、ひらがな、カタカナ、漢字の書き方や簡単な文の書き方を指導しました。
日本事情・日本理解	「いろどり」や「eTRY!START」を通して、日本の生活や学校での習慣を学習しました。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	いろうどり入門
		レベル	A1
		内容	自分や家族、身近で具体的なものや場面に関する語や表現の学習
	使用した教材②	名称	eTRY!START
		レベル	A1
		内容	文型や場面に応じた表現の学習
話す（発表）	使用した教材①	名称	「eTRY!START」
		レベル	A1
		内容	学習した基本的な文型を用いて、ひとりずつ発表する活動を行った。
聞く	使用した教材①	名称	いろうどり入門
		レベル	A1
		内容	自分や家族、身近で具体的なものや場面に関する語や表現の学習
	使用した教材②	名称	動く絵本ライブラリー
		レベル	A1
		内容	簡単なストーリーの動画を日本語で視聴し内容を確認する
	使用した教材③	名称	eTRY!START
		レベル	A1
		内容	文型や場面に応じた表現の学習
読む	使用した教材①	名称	eTRY!START
		レベル	A1
		内容	文型や場面に応じた表現の学習
	使用した教材②	名称	動く絵本ライブラリー
		レベル	A1
		内容	簡単なストーリーの動画を日本語で視聴し内容を確認する
	使用した教材③	名称	いろうどり入門
		レベル	A1
		内容	自分や家族、身近で具体的なものや場面に関する語や表現の学習
書く	使用した教材①	名称	「eTRY!START」
		レベル	A1
		内容	文型や場面に応じた表現の学習
	使用した教材②	名称	「eTRY!N5」
		レベル	A1
		内容	N5レベルの漢字の読み方、書き方の学習
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	「いろうどり」
		レベル	A1
		内容	日本の学校や生活における習慣を知る
	使用した教材②	名称	「eTRY!START」
		レベル	A1
		内容	日本の学校や生活における習慣を知る

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	会話やりとりテスト
話す（発表）	スピーチテスト
聞く	会話やりとりテスト
読む	文法理解テスト、週間テスト（文字・語彙）
書く	書くテスト
日本事情・日本理解	特になし

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	テストに設定されていた採点基準
話す（発表）	テストに設定されていた採点基準
聞く	テストに設定されていた採点基準
読む	テストに設定されていた採点基準
書く	テストに設定されていた採点基準
日本事情・日本理解	特になし

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	カリキュラムとテストが指定されていたので、それに従いました。
話す（発表）	カリキュラムとテストが指定されていたので、それに従いました。
聞く	カリキュラムとテストが指定されていたので、それに従いました。
読む	カリキュラムとテストが指定されていたので、それに従いました。
書く	カリキュラムとテストが指定されていたので、それに従いました。
日本事情・日本理解	特になし

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	質問の意味を理解できても、適切な日本語で答えるのに時間がかかる学生が多かった印象です。内容は通じて、正確な文法で話せないという学生が多かったです。
話す（発表）	授業での話す活動はやり取りが中心だったため、発表形式に抵抗を感じる学習者が一定数いた印象でした。ただし、授業開始前と比べれば多少の成果は見られました。
聞く	修了後のテストでは、ゆっくり、はっきりとした話し方であれば聞き取れる学生が増えたため、一定の学習成果が感じられました。
読む	オンデマンド教材で自習をきちんと行っていた学習者は、特に成果がよく表れていた印象です。
書く	ひらがな、カタカナから学び始めた学習者は、テストの内容に高いハードルを感じたようで、意欲的に書こうとする姿勢があまり見られませんでした。
日本事情・日本理解	テストの内容・結果からは日本事情・日本理解の学習成果を評価することは難しかったです。ただし、全体の授業を通して日本事情や日本文化への理解は以前より深まったと思います。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	その他
話す（発表）	その他
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	その他
書く	機器等のコスト
日本事情・日本理解	その他

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	学習者が入門レベルだったため、例えばブレイクアウトルームを使ってペアワークをやらせようとすると、指示が伝わりにくく実施するまでに非常に手間がかかりました。また、学習者同士の面識が全くなかったこともあり、オンライン上でクラスとしての一体感を出し積極的に発話させる雰囲気にするのに苦労しました。
話す（発表）	今回の授業では発表の時間をほとんど取らなかったため、特にありません。
聞く	学生のデバイス、ネットワーク環境の問題が原因でしたが、どうしても教師や教材動画の音声聞き取れないという申し出があり、授業が中断してしまうことがありました。
読む	それぞれの学生が問題を読み解いたりする速度が教師からわかりにくく、進行のスピードやフォローの仕方の判断がしにくいことがありました。また、日本語を初めて学ぶ学習者が中心であったため、指示が伝わりにくく問題をやるまでに時間がかかってしまうことがありました。
書く	学生の人数が多い場合、学生が書いた内容物を教師が確認する際の負担が大きかったです。チャットやメールで送ってもらったものを添削する場合、ペンタブレット等の機器がないと、教師が添削をして学生にフィードバックするまでに非常に手間がかかりました。
日本事情・日本理解	動画やイラストが教材として豊富にあったため、オンライン上でも日本事情が伝わりやすかったと思います。ただ、実践・体験と面においては、オンラインだけでは不足する部分があります。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	●対講師：事前にZoomのブレイクアウトルーム、画面共有のやり方、アスクオンラインの教材の使い方等をレクチャーし、練習する機会を設けました。特にアスクオンラインの教材の使い方については教務主任がアスク出版担当者から直接レクチャーを受け、それを授業担当講師と共有する研修を実施しました。また、初めの数週間は授業中教務主任が近くで待機し、学生への指示やパソコンの操作などの手助けを行いました。 ●对学习者：基本的には直接法で授業を行いました。指示を明確にし円滑に授業を進めるために、英語で説明することがありました。また、何か問題や質問がある場合は、事務職員の通訳・翻訳の協力を得ながら学習者の不安・疑問の解消に努めました。
話す（発表）	同上
聞く	同上
読む	同上
書く	●対講師：学習者がZoomのチャットやメールで送ってきた送付物の管理や添削を、他の講師と協力して行いました。
日本事情・日本理解	特になし

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

006-1：双葉外語学校

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レベ ル			モ デ ル					モ デ ル 外		事前テスト 事後テスト 成長幅（単 正答率（生 正答率（生 位：ポイン テスト満点 徒合計） 徒合計） ト）											
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	事前テスト	事後テスト		テスト満点		事前テスト		事後テスト		成長幅（単 位：ポイント）
														事前の点数 （生徒合 計）	回答者数	事後の点数 （生徒合 計）	回答者数	テスト満点	徒合計	徒合計	徒合計		
												事後—事前											
006-1	双葉外語学校_モデル外②D (A1・A2)_7/28-9/20	○	○										○	158	7	156	6	40	56.4%	65.0%	9		
006-1	双葉外語学校_モデル外②A (A1・A2)_7/28-9/20	○	○										○	137	5	147	5	35	78.3%	84.0%	6		
006-1	双葉外語学校_モデル外②B (A1・A2)_7/28-9/20	○	○										○	210	7	234	7	40	75.0%	83.6%	9		
006-1	双葉外語学校_モデル外②C (A1・A2)_7/28-9/20	○	○										○	115	5	110	5	40	57.5%	55.0%	-2		
006-1	双葉外語学校_モデル外 (A1・ A2)_10/27-12/2	○	○										○	151	7	180	7	35	61.6%	73.5%	12		
006-1	双葉外語学校_モデル外 (A1,A2)_10/27-12/2	○	○										○	345	11	359	11	35	89.6%	93.2%	4		

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	モデル外②（ABCD） A
区分	オンライン+オンデマンド型+ハイブリッド型
1.授業のレベル	A1 A2
2.授業のコース	一般
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/7/27
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/9/15
4.授業の学習時間	40
5.学生の授業への参加率	63
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	日本語教育能力検定
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	日本語教育能力検定
7.実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク	BUFALLO
10.使用した映像（カメラ）機	PC付属のカメラ
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	パワーポイントの教材を使用
12.撮影をした場所	普通の教室 その他（講師自宅等）

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●生活コース

話す（やりとり）	自分について、自分が何をしているかなど、述べることができる。簡単な質疑応答はできる。
話す（発表）	ごく身近な話題で原稿をもとにしながら、自分のことを発表することができる。
聞く	本人に向けてゆっくり、丁寧に話される内容を理解できる。短い簡単な指示を理解できる。
読む	簡単な情報文の内容や、簡潔な記述文の概要を把握することができる。
書く	ひらがな・カタカナを正確に書くことが出来る。自分について学習した文型や語彙を使用して、短い文で書くことが出来る。
日本事情・日本理解	現代日本に生活するうえでの基本的な日本事情の知識を身に付ける。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	ハイブリット型
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	ハイブリット型
読む	ハイブリット型
書く	ハイブリット型
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	学習者はeTRY!STARTの教材を使用し、事前の学習を行う反転授業の方式。オンライン双方向の授業で学習した内容について日本語母語話者の教師とのやり取りで応答練習を行い、実際に日本語を使用できることを実感してもらう。
話す（発表）	授業内で学習した文型や語彙を使用し、身近な話題について原稿を作成したうえで、その内容を個人で発表する。
聞く	学習者はeTRY!STARTの教材を使用し、事前の学習を行う中で聞きとりの活動を行う。また、オンライン双方向の授業内で日本語母語話者である教師からの指示や、質問などを聞くことで聞き取りの活動を行う。
読む	学習者はeTRY!STARTの教材を使用し、事前の学習を行う中で文字の読み取りの活動を行う。
書く	授業内で学習した文型や語彙を使用し、身近な話題について口頭発表の原稿を作成する。
日本事情・日本理解	eTRY!START内の会話やオンライン授業の中で現代日本の生活の一端に触れることで日本について理解をする。

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	eTRY!START
		レベル	A1
		内容	オンデマンド教材
話す（発表）	使用した教材①	名称	eTRY!START
		レベル	A1
		内容	オンデマンド教材
聞く	使用した教材①	名称	eTRY!START
		レベル	A1
		内容	オンデマンド教材
読む	使用した教材①	名称	eTRY!START
		レベル	A1
		内容	オンデマンド教材
書く	使用した教材①	名称	eTRY!START
		レベル	A1
		内容	オンデマンド教材
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	eTRY!START
		レベル	A1
		内容	オンデマンド教材

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	コース終了時のオンラインテスト、学内で作成した会話能力を図るルーブリックを使用
話す（発表）	評価の対象としたものは行っていない
聞く	評価の対象としたものは行っていない
読む	コース終了時のオンラインテスト
書く	コース終了時のオンラインテスト、学内で作成した作文能力を図るルーブリックを使用
日本事情・日本理解	評価の対象としたものは行っていない

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	コース終了時のオンラインテストを80%以上達成、ルーブリック4段階中3段階以上
話す（発表）	評価の対象としたものは行っていないため回答できない
聞く	評価の対象としたものは行っていないため回答できない
読む	コース終了時のオンラインテストを80%以上達成
書く	コース終了時のオンラインテストを80%以上達成、ルーブリック4段階中3段階以上
日本事情・日本理解	評価の対象としたものは行っていないため回答できない

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	CEFR A1レベルのcan-doを学内ルーブリックに照らし合わせて設定
話す（発表）	評価の対象としたものは行っていないため回答できない
聞く	評価の対象としたものは行っていないため回答できない
読む	CEFR A1レベルのcan-doから設定
書く	CEFR A1レベルのcan-doを学内ルーブリックに照らし合わせて設定
日本事情・日本理解	評価の対象としたものは行っていないため回答できない

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	今まで日本語母語話者と会話をする機会がなかったためか、初めはやりとりも難しかったが、徐々に学習した内容の範囲であれば、やり取りもスムーズにできるようになった
話す（発表）	モデル文を参考にし、非常に短い内容ではあるが、あらかじめ文章を用意すれば1人で発表することができるようになった。
聞く	日本語母語話者である教師の指示や質問を聞くことに慣れ、ある程度やさしいことばでスピードを落として言われれば内容を理解することができるようになった。
読む	文字を読むことに慣れ、ある程度の速さで文字を理解することはできるようになった。学習した項目であれば内容を理解できるようになった。
書く	授業内、テストでは文字を認識することはできることが判定でき、また提出物により評価はできるが、提出までにある程度の猶予を設けたため、実際に学習者が辞書やインターネットなどの何の助けもなく調べずに記述したものか、何かを参考に完成させたものか分からないのが課題である。
日本事情・日本理解	今回、テスト項目としては設けなかったが、テストの解答結果から設問に日本事情の知識の有無によって解答が変わる可能性があるものが含まれているのではないかと感じられた。日本国内の学習者との差を感じたと同時に留意しなければならない点であると認識した。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	適切なカリキュラムの設定
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	講師のオンライン教育ノウハウの不足
書く	講師のオンライン教育ノウハウの不足
日本事情・日本理解	適切なカリキュラムの設定

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	ほとんど学習経験のない学生に対して、日本語で直接での指導はオンラインでは指示が届かないことが多く、別途学習者の母語でのサポートが必要な場合があった。
話す（発表）	発表の前の原稿チェックで、原稿の提出をする際にITスキルの不足からうまく提出できない学習者がいた。また発表方法の理解不足から原稿準備が必要なことが分からないなどというトラブルがあった。
聞く	教師との1対1のやりとりで学生の応答までに時間差があるが、オンライン上の問題なのか、学習者の日本語理解の問題なのか判断がつきにくいことある。
読む	授業内で取り扱える教材の不足。また、どのようにそれを提供するかという問題がある。（ITの環境と著作権）
書く	学習者の成果物をどのように提出するのかというIT技術とスキルの問題。
日本事情・日本理解	学習項目としてどのように設定するのかという教授内容についての課題。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	学習者：コース開始時のオリエンテーション、コース途中の個人サポート 教師：コース開始前の事前研修、コース途中での個別サポート（改善内容の検討）
話す（発表）	学習者：コース開始時のオリエンテーション、コース途中の個人サポート 教師：コース開始前の事前研修、コース途中での個別サポート（改善内容の検討）
聞く	学習者：コース開始時のオリエンテーション、コース途中の個人サポート 教師：コース開始前の事前研修、コース途中での個別サポート（改善内容の検討）
読む	学習者：コース開始時のオリエンテーション 教師：コース開始前の事前研修、コース途中での個別サポート（改善内容の検討）
書く	学習者：コース開始時のオリエンテーション 教師：コース開始前の事前研修、コース途中での個別サポート（改善内容の検討）
日本事情・日本理解	教師：コース開始前の事前研修

各日本語教育機関の実施結果

A2

■目標設定

●生活コース

話す（やりとり）	基本的な構文を使うことができ、いくつかの単語や覚えた言い回しを使って、コミュニケーションできる。
話す（発表）	身近な話題について、リハーサルをして、短い基本的な話ができる。
聞く	簡単な日常会話で、自分に対してはっきりとゆっくりと、直接言われたことを理解できる。もし、話し手の方が面倒がらねば、分かるようにしてもらえる。
読む	短い簡単な文で書かれた文章を読んで、内容を大まかに理解することができる。
書く	ひらがな・カタカナ・学習した範囲の漢字を正確に書くことが出来る。学習した文型や語彙を使用して、短い文である程度まとまった内容を書くことが出来る。
日本事情・日本理解	現代日本に生活するうえでの基本的な日本事情の知識を身に付ける。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	ハイブリット型
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	ハイブリット型
読む	ハイブリット型
書く	ハイブリット型
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	学習者はeTRY!N5の教材を使用し、事前の学習を行う反転授業の方式。オンライン双方向の授業で学習した内容について日本語母語話者の教師とのやり取りで応答練習を行い、実際に日本語を使用できることを実感してもらう。
話す（発表）	授業内で学習した文型や語彙を使用し、身近な話題について原稿を作成したうえで、その内容を個人で発表する。
聞く	学習者はeTRY!N5の教材を使用し、事前の学習を行う中で聞きとりの活動を行う。また、オンライン双方向の授業内で日本語母語話者である教師からの指示や、質問などを聞くことで聞き取りの活動を行う。
読む	学習者はeTRY!N5の教材を使用し、事前の学習を行う中で文字の読み取りの活動を行う。
書く	授業内で学習した文型や語彙を使用し、身近な話題について口頭発表の原稿を作成する。
日本事情・日本理解	eTRY!N5内の会話やオンライン授業の中で現代日本の生活の一端に触れることで日本について理解をする。

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	eTRY!N5
		レベル	A2
		内容	オンデマンド教材
話す（発表）	使用した教材①	名称	eTRY!N5
		レベル	A2
		内容	オンデマンド教材
聞く	使用した教材①	名称	eTRY!N5
		レベル	A2
		内容	オンデマンド教材
読む	使用した教材①	名称	eTRY!N5
		レベル	A2
		内容	オンデマンド教材
書く	使用した教材①	名称	eTRY!N5
		レベル	A2
		内容	オンデマンド教材
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	eTRY!N5
		レベル	A2
		内容	オンデマンド教材

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	コース終了時のオンラインテスト、学内で作成した会話能力を測るルーブリックを使用
話す（発表）	評価の対象としたものは行っていない
聞く	評価の対象としたものは行っていない
読む	コース終了時のオンラインテスト
書く	コース終了時のオンラインテスト、学内で作成した作文能力を図るルーブリックを使用
日本事情・日本理解	評価の対象としたものは行っていない

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	コース終了時のオンラインテストを80%以上達成、ルーブリック4段階中3段階以上
話す（発表）	評価の対象としたものは行っていないため回答できない
聞く	評価の対象としたものは行っていないため回答できない
読む	コース終了時のオンラインテストを80%以上達成
書く	コース終了時のオンラインテストを80%以上達成、ルーブリック4段階中3段階以上
日本事情・日本理解	評価の対象としたものは行っていないため回答できない

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	CEFR A2レベルのcan-doを学内ルーブリックに照らし合わせて設定
話す（発表）	評価の対象としたものは行っていないため回答できない
聞く	評価の対象としたものは行っていないため回答できない
読む	CEFR A2レベルのcan-doから設定
書く	CEFR A2レベルのcan-doを学内ルーブリックに照らし合わせて設定
日本事情・日本理解	評価の対象としたものは行っていないため回答できない

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	学習者の母語で日本語の学習をしている学生がほとんどであったが、コース終了までには日本語母語話者の教師とのやりとりにだいぶ慣れ、応答スピードも速くなった。
話す（発表）	簡単な内容であれば、学習した内容で発表をすることができるようになった。
聞く	日本語母語話者である教師の指示や質問を聞くことに慣れ、短い内容であれば言われた内容を理解できるようになった。
読む	教科書に書いてある程度の短い会話であれば内容を理解することができるようになった。長文の読解などについては今回の検証内容に入っていないので確認することができなかった。
書く	自分について学習した文型や語彙を使用して、短い文で書くことが出来る。
日本事情・日本理解	現代日本に生活するうえでの基本的な日本事情の知識を身に付ける。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	適切なカリキュラムの設定
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	講師のオンライン教育ノウハウの不足
書く	講師のオンライン教育ノウハウの不足
日本事情・日本理解	適切なカリキュラムの設定

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	オンラインの特性上、教師1人と学生複数人の同時の応答が難しい。そのため、教師→学習者との方向で1対1でのやり取りを行わざるを得ない。教室の授業と比べて、この方法に非常に時間がかかってしまい、練習の効率としては非効率的と言わざるを得ない
話す（発表）	個人の発表を行っている際、他の学生の反応が分かりにくい。また、オンラインではビジュアル的な資料の使用も可能ではあるが、学習者のITスキルによっては難しいこともある。
聞く	教師との1対1のやりとりで学生の応答までに時間差があるが、オンライン上の問題なのか、学習者の日本語理解の問題なのか判断がつきにくいことがある。
読む	授業内で取り扱いできる教材の不足。また、どのようにそれを提供するかという問題がある。（ITの環境と著作権）
書く	授業内、テストでは文字を認識することはできることが判定でき、また提出物により評価はできるが、提出までにある程度の猶予を設けたため、実際に学習者が辞書やインターネットなどの何の助けもなく調べずに記述したものか、何かを参考に完成させたものか分からないのが課題である。
日本事情・日本理解	今回、テスト項目としては設けなかったが、テストの解答結果から設問に日本事情の知識の有無によって解答が変わる可能性があるものが含まれているのではないかと感じられた。日本国内の学習者との差を感じたと同時に留意しなければならない点であると認識した。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	学習者：コース開始時のオリエンテーション、コース途中の個人サポート 教師：コース開始前の事前研修、コース途中での個別サポート（改善内容の検討）
話す（発表）	学習者：コース開始時のオリエンテーション、コース途中の個人サポート 教師：コース開始前の事前研修、コース途中での個別サポート（改善内容の検討）
聞く	学習者：コース開始時のオリエンテーション、コース途中の個人サポート 教師：コース開始前の事前研修、コース途中での個別サポート（改善内容の検討）
読む	学習者：コース開始時のオリエンテーション、コース途中の個人サポート 教師：コース開始前の事前研修、コース途中での個別サポート（改善内容の検討）
書く	学習者：コース開始時のオリエンテーション、 教師：コース開始前の事前研修、コース途中での個別サポート（改善内容の検討）
日本事情・日本理解	教師：コース開始前の事前研修

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

006-2：双葉外語学校

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レベ ル										事前テスト		事後テスト		事前テスト		事後テスト		成長幅(単 位:ポイン ト)	
		モデル					モデル外					事前の点数 (生徒合 計)	事後の点数 (生徒合 計)	テスト満点	正答率(生 徒合計)	テスト満点	正答率(生 徒合計)				
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2								
006-2	双葉外語学校_モデル外 (B1・B2)_10/27-12/10			○	○								○	139	4	108	3	40	86.9%	90.0%	3

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	モデル外② (EFG) E
区分	オンライン+オンデマンド型+ハイブリッド型
1.授業のレベル	A1 A2
2.授業のコース	一般
3-1.授業の実施期間 (開始)	2022/10/27
3-2.授業の実施期間 (終了)	2022/12/2
4.授業の学習時間	20
5.学生の授業への参加率	60
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	日本語教育能力試験
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	日本語教育能力試験
7.実施した言語活動	話す (やりとり) 話す (発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	BUFFALO
10.使用した映像 (カメラ) 機	PC付属のカメラ
11.使用したファイル形式 (パワーポイント、PDF等)	パワーポイントの教材
12.撮影をした場所	普段の教室 その他 (講師自宅等)

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●生活コース

話す（やりとり）	自分について、自分が何をしているかなど、述べるができる。簡単な質疑応答はできる。
話す（発表）	ごく身近な話題で原稿をもとにしながら、自分のことを発表することができる。
聞く	本人に向けてゆっくり、丁寧に話される内容を理解できる。短い簡単な指示を理解できる。
読む	簡単な情報文の内容や、簡潔な記述文の概要を把握することができる。
書く	ひらがな・カタカナを正確に書くことが出来る。自分について学習した文型や語彙を使用して、短い文で書くことが出来る。
日本事情・日本理解	現代日本に生活するうえでの基本的な日本事情の知識を身に付ける。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	ハイブリット型
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	ハイブリット型
読む	ハイブリット型
書く	ハイブリット型
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	学習者はオリジナルの動画を視聴し、事前の学習を行う反転授業の方式。オンライン双方向の授業で学習した内容について日本語母語話者の教師とのやり取りで応答練習を行い、実際に日本語を使用できることを実感してもらう。
話す（発表）	授業内で学習した文型や語彙を使用し、身近な話題について原稿を作成したうえで、その内容を個人で発表する。
聞く	学習者はオリジナルの動画を視聴し、事前の学習を行う中で聞きとりの活動を行う。また、オンライン双方向の授業内で日本語母語話者である教師からの指示や、質問などを聞くことで聞き取りの活動を行う。
読む	学習者はオリジナルの動画を視聴し、事前の学習を行う中で文字の読み取りの活動を行う。
書く	学習者はオリジナルの動画を視聴し、事前の学習を行う中で文字の学習を行う。また、オンライン双方向の授業内で教師からの指示で書き取りや、発表原稿の作成を行う。
日本事情・日本理解	オンライン授業の中で現代日本の生活の一端に触れることで日本について理解をする。

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	オリジナル動画
		レベル	A1
		内容	オリジナル動画
話す（発表）	使用した教材①	名称	オリジナル教材
		レベル	A1
		内容	オリジナル教材
聞く	使用した教材①	名称	オリジナル教材
		レベル	A1
		内容	オリジナル教材
読む	使用した教材①	名称	オリジナル動画
		レベル	A1
		内容	オリジナル動画
書く	使用した教材①	名称	オリジナル動画
		レベル	A1
		内容	オリジナル動画
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	オリジナル教材
		レベル	A1
		内容	オリジナル教材

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	コース終了時のオンラインテスト、学内で作成した会話能力を測るループリックを使用
話す（発表）	評価の対象としたものは行っていない
聞く	評価の対象としたものは行っていない
読む	コース終了時のオンラインテスト
書く	コース終了時のオンラインテスト、学内で作成した作文能力を図るループリックを使用
日本事情・日本理解	評価の対象としたものは行っていない

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	コース終了時のオンラインテストを80%以上達成、ループリック4段階中3段階以上
話す（発表）	評価の対象としたものは行っていないため回答できない
聞く	評価の対象としたものは行っていないため回答できない
読む	コース終了時のオンラインテストを80%以上達成
書く	コース終了時のオンラインテストを80%以上達成、ループリック4段階中3段階以上
日本事情・日本理解	評価の対象としたものは行っていないため回答できない

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	CEFR A1レベルのcan-doを学内ループリックに照らし合わせて設定
話す（発表）	評価の対象としたものは行っていないため回答できない
聞く	評価の対象としたものは行っていないため回答できない
読む	CEFR A1レベルのcan-doから設定
書く	CEFR A1レベルのcan-doを学内ループリックに照らし合わせて設定
日本事情・日本理解	評価の対象としたものは行っていないため回答できない

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	授業の練習の成果で、初めはやりとりも難しかったが、徐々に学習した内容の範囲であれば、やり取りもスムーズにできるようになった。
話す（発表）	モデル文を参考にし、非常に短い内容ではあるが、あらかじめ文章を用意すれば1人で発表することができるようになった。
聞く	日本語母語話者である教師の指示や質問を聞くことに慣れ、ある程度やさしいことばでスピードを落として言われれば内容を理解することができるようになった。
読む	学習した文字を判別し、正しく読み上げることができるようになった。
書く	学習した文字を正しく書くことができるようになった。
日本事情・日本理解	日本の生活するうえで必要な身近なことがらを理解できるようになった。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	適切なカリキュラムの設定
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	講師のオンライン教育ノウハウの不足
書く	講師のオンライン教育ノウハウの不足
日本事情・日本理解	適切なカリキュラムの設定

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	ゼロレベルの学生の口頭練習では教師対学生になってしまい、学生同士でのブレイクアウトセッションなども実施は難しい。
話す（発表）	原稿を読み上げての発表を試みたが、今、何の活動しているのか教師の指示が分からずに発表できない学習者がいた。ゼロに近い初級の学生にはオンラインでの発表は難しいことがある。
聞く	教師の指示を聞いたり、会話の教材を聞くなど活動は可能であるが、理解したかどうかの確認を取るための方法をオンライン上でどのようにするかが課題。
読む	オンデマンド教材に母語の翻訳がないため、ゼロ初級の学生には文型説明などの理解は難しかった。
書く	文字の練習をする際に、学習者の作業状況を見ることができないこと、結果としてしか受け取れないことが課題。
日本事情・日本理解	授業内では日本事情を取り扱ったが、系統だってカリキュラムに組み込むことは課題である。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	学習者：コース開始時のオリエンテーション、コース途中の個人サポート 教師：コース開始前の事前研修、コース途中での個別サポート（改善内容の検討）
話す（発表）	学習者：コース開始時のオリエンテーション、コース途中の個人サポート 教師：コース開始前の事前研修、コース途中での個別サポート（改善内容の検討）
聞く	学習者：コース開始時のオリエンテーション、コース途中の個人サポート 教師：コース開始前の事前研修、コース途中での個別サポート（改善内容の検討）
読む	学習者：コース開始時のオリエンテーション、コース途中の個人サポート 教師：コース開始前の事前研修
書く	学習者：コース開始時のオリエンテーション、コース途中の個人サポート 教師：コース開始前の事前研修
日本事情・日本理解	教師：コース開始前の事前研修

各日本語教育機関の実施結果

A2

■目標設定

●生活コース

話す（やりとり）	基本的な構文を使うことができ、いくつかの単語や覚えた言い回しを使って、コミュニケーションできる。
話す（発表）	身近な話題について、リハーサルをして、短い基本的な話ができる。
聞く	簡単な日常会話で、自分に対してはっきりとゆっくりと、直接言われたことを理解できる。もし、話し手の方が面倒がらねば、分かるようにしてもらえる。
読む	短い簡単な文で書かれた文章を読んで、内容を大まかに理解することができる。
書く	ひらがな・カタカナ・学習した漢字を正確に書くことができる。自分について学習した文型や語彙を使用して、短い文で書くことができる。
日本事情・日本理解	現代日本に生活するうえでの基本的な日本事情の知識を身に付ける。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	ハイブリット型
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	ハイブリット型
読む	ハイブリット型
書く	ハイブリット型
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	学習者はオリジナルの動画を使用し、事前の学習を行う反転授業の方式。オンライン双方向の授業で学習した内容について日本語母語話者の教師とのやり取りで応答練習を行い、実際に日本語を使用できることを実感してもらう。
話す（発表）	授業内で学習した文型や語彙を使用し、身近な話題について原稿を作成したうえで、その内容を個人で発表する。
聞く	学習者はオリジナルの動画を視聴し、事前の学習を行う中で聞きとりの活動を行う。また、オンライン双方向の授業内で日本語母語話者である教師からの指示や、質問などを聞くことで聞き取りの活動を行う。
読む	学習者はオリジナルの動画を使用し、事前の学習を行う中で文字の読み取りの活動を行う。
書く	学習者はオリジナルの動画を視聴し、事前の学習を行う中で文字の学習を行う。また、オンライン双方向の授業内で教師からの指示で書き取りや、発表原稿の作成を行う。
日本事情・日本理解	オンライン授業の中で現代日本の生活の一端に触れることで日本について理解をする。

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	オリジナル動画
		レベル	A2
		内容	オリジナル動画
話す（発表）	使用した教材①	名称	オリジナル教材
		レベル	A2
		内容	オリジナル教材
聞く	使用した教材①	名称	オリジナル教材
		レベル	A2
		内容	オリジナル教材
読む	使用した教材①	名称	オリジナル動画
		レベル	A2
		内容	オリジナル動画
書く	使用した教材①	名称	オリジナル動画
		レベル	A2
		内容	オリジナル動画
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	オリジナル教材
		レベル	A2
		内容	オリジナル教材

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	コース終了時のオンラインテスト、学内で作成した会話能力を測るルーブリックを使用
話す（発表）	評価の対象としたものは行っていない
聞く	評価の対象としたものは行っていない
読む	コース終了時のオンラインテスト
書く	コース終了時のオンラインテスト、学内で作成した作文能力を測るルーブリックを使用
日本事情・日本理解	評価の対象としたものは行っていない

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	コース終了時のオンラインテストを80%以上達成、ルーブリック4段階中3段階以上
話す（発表）	評価の対象としたものは行っていないため回答できない
聞く	評価の対象としたものは行っていないため回答できない
読む	コース終了時のオンラインテストを80%以上達成
書く	コース終了時のオンラインテストを80%以上達成、ルーブリック4段階中3段階以上
日本事情・日本理解	評価の対象としたものは行っていないため回答できない

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	CEFR A2レベルのcan-doを学内ルーブリックに照らし合わせて設定
話す（発表）	評価の対象としたものは行っていないため回答できない
聞く	評価の対象としたものは行っていないため回答できない
読む	CEFR A2レベルのcan-doから設定
書く	CEFR A2レベルのcan-doを学内ルーブリックに照らし合わせて設定
日本事情・日本理解	評価の対象としたものは行っていないため回答できない

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	母国で学習をしている学生ではあったが、当初は発話するにはスムーズさに欠けたが、授業が進むにつれて応答スピードも速くなった。
話す（発表）	簡単な内容であれば、学習した内容で発表をすることができるようになった。
聞く	日本語母語話者である教師の指示や質問を聞くことに慣れ、短い内容であれば言われた内容を理解できるようになった。
読む	長文の文章を読み、理解する活動をオンラインでどう実現するのか、双方向で意味がある活動を行うことが課題。
書く	課題の作文などを作成する機会を設け書く作業を行ったが、その割合は対面授業に比べ多いとは言えない。実際に文字・文章を作成する能力を判別するには評価の対象とするものが少なく難しい。
日本事情・日本理解	現代日本に生活するうえでの基本的な日本事情の知識を身に付け、理解できるようになった。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	適切なカリキュラムの設定
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	講師のオンライン教育ノウハウの不足
書く	講師のオンライン教育ノウハウの不足
日本事情・日本理解	適切なカリキュラムの設定

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	オンラインの特性上、教師1人と学生複数人の同時の応答が難しい。ブレイクアウトセッションもそれぞれの学習者が実際にどのようなやりとりをしているのか見えにくい。ため、実施しにくい。結果、教師对学习者のやりとりばかりになってしまう。
話す（発表）	個人の発表を行っている際、他の学生の反応が分かりにくい。また、オンラインではビジュアル的な資料の使用も可能ではあるが、学習者のITスキルによっては難しいこともある。
聞く	教師との1対1のやりとりで学生の応答までに時間差があるが、オンライン上の問題なのか、学習者の日本語理解の問題なのか判断がつきにくいことある。
読む	授業内で取り扱いできる教材の不足。また、どのようにそれを提供するかという問題がある。（ITの環境と著作権）
書く	学習者の成果物をどのように提出するのかというIT技術とスキルの問題。
日本事情・日本理解	学習項目としてどのように設定するのかという教授内容についての課題。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	学習者：コース開始時のオリエンテーション、コース途中の個人サポート 教師：コース開始前の事前研修、コース途中での個別サポート（改善内容の検討）
話す（発表）	学習者：コース開始時のオリエンテーション、コース途中の個人サポート 教師：コース開始前の事前研修、コース途中での個別サポート（改善内容の検討）
聞く	学習者：コース開始時のオリエンテーション、コース途中の個人サポート 教師：コース開始前の事前研修、コース途中での個別サポート（改善内容の検討）
読む	学習者：コース開始時のオリエンテーション、コース途中の個人サポート 教師：コース開始前の事前研修
書く	学習者：コース開始時のオリエンテーション、コース途中の個人サポート 教師：コース開始前の事前研修
日本事情・日本理解	教師：コース開始前の事前研修

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

006-3：双葉外語学校

授業ID	日本語教育機関・モデル名											事前テスト				事後テスト				テスト満点				事前テスト 事後テスト 成長幅 (単 正答率 (生 正答率 (生 位: ポイント)	
		レ ベ ル			モ デ ル					モ デ ル 外		事前テスト 事前の点数 (生徒合 計)		事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)											
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	回答者数	回答者数	回答者数	回答者数	100	73.7%	84.7%	11				
006-3	双葉外語学校_モデル外 (B1・B2) _11/1-12/10			○	○								○	221	3	254	3	100	73.7%	84.7%	11				

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	モデル外④（就職コース）
区分	オンライン+オンデマンド型+ハイブリッド型
1.授業のレベル	B1 B2
2.授業のコース	就職
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/11/1
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/11/29
4.授業の学習時間	10
5.学生の授業への参加率	94
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	養成講座終了、キャリアコンサルタント
7.実施した言語活動	話す（やりとり）聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	BUFFALO
10.使用した映像（カメラ）機	PC付属のカメラ
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	パワーポイント
12.撮影をした場所	普段の教室

各日本語教育機関の実施結果

B1

■目標設定

●就職コース

話す（やりとり）	友人や同僚と、人間関係や仕事などについて話することができる。 仕事の面接試験で、志望動機などに関する質問にある程度詳しく答えたり、自己PRをしたりすることができる。
聞く	職場において上司や同僚から仕事の作業の指示を受け、正しく理解することができる。
読む	過去の報告書や議事録などに目を通して、自分の現在の業務と関連のある事柄をすぐに探し出すことができる。
書く	自分自身の長所や短所など、簡単な自己PR文を就職のための提出書類に書くことができる。
日本事情・日本理解	日本で働くために日本の就職活動について理解する。日本の職場での文化やコミュニケーション上の特徴を理解することができる。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
聞く	ハイブリット型
読む	ハイブリット型
書く	ハイブリット型
日本事情・日本理解	ハイブリット型

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	学習者はオリジナルの動画を視聴し、事前の学習を行う反転授業の方式。オンライン双方向の授業で学習した内容について日本語母語話者の教師とのやり取りでディスカッションを行う。
聞く	学習者はオリジナルの動画を視聴し、事前の学習を行う中で聞きとりの活動を行う。また、オンライン双方向の授業内で日本語母語話者である教師からの指示や、質問などを聞くことで聞くの活動を行う。
読む	学習者はオリジナルの教材を使用し、課題学習を行う中で読む活動を行う。
書く	学習者はオンライン授業で学習した内容についての課題提出をする中で書く活動を行う。
日本事情・日本理解	学習者はオリジナルの動画を視聴やオンライン授業から日本の就職活動や会社文化についての理解を深める。

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	オリジナル動画
		レベル	B1 B2
		内容	オリジナルの動画
聞く	使用した教材①	名称	オリジナル動画
		レベル	B1 B2
		内容	オリジナルの動画
読む	使用した教材①	名称	オリジナル動画・教材
		レベル	B1 B2
		内容	オリジナルの動画と教材
書く	使用した教材①	名称	オリジナル動画・教材
		レベル	B1 B2
		内容	オリジナルの動画と教材
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	オリジナル動画・教材
		レベル	B1 B2
		内容	オリジナルの動画と教材

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	学内で作成した会話能力を測るルーブリックを使用
聞く	学内で作成した会話能力を測るルーブリックを使用
読む	コース終了時のオンラインテスト
書く	学内で作成した作文能力を測るルーブリックを使用
日本事情・日本理解	コース終了時のオンラインテスト

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標

話す（やりとり）	ルーブリック4段階中3段階以上
聞く	ルーブリック4段階中3段階以上
読む	コース終了時のオンラインテストを80%以上達成
書く	ルーブリック4段階中3段階以上
日本事情・日本理解	コース終了時のオンラインテストを80%以上達成

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	CEFR B1レベルのcan-doを学内ルーブリックに照らし合わせて設定
聞く	CEFR B1レベルのcan-doを学内ルーブリックに照らし合わせて設定
読む	CEFR B1レベルのcan-doを学内ルーブリックに照らし合わせて設定
書く	CEFR B1レベルのcan-doを学内ルーブリックに照らし合わせて設定
日本事情・日本理解	授業内容の理解度を考慮して設定

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	少人数ということもあり、活発に発言をする活動を行うことができた。会社文化や就職活動について話し合うことで学習者相互のやり取りも行うことができた。
聞く	オンデマンド教材の事前学習を行うことでかなりの量の聞く活動を行うことができた。オンライン授業でも講師の説明、学習者のやり取りから聞く活動は多く行うことができた。
読む	事前学習や授業後の課題などでの資料を読む活動を行った。資料を読んだ内容踏まえてオンライン授業でディスカッションなどをするため積極的な参加が求められたが、今回の学生については非常にモチベーションが高く、成功した。
書く	就職活動時のエントリーシート等の内容をやり取りしたが、やり取りにタイムラグが発生してしまい、即時の対応ができないことで内容のフィードバックにどのくらい効果があったか分からず、改善の余地がある。
日本事情・日本理解	日本で将来就職を希望する学生ではあるが、リアルな日本についての知識がなく、母国での情報収集も難しい。そのため、直接日本・日本人から発信である講座に高い興味を持ってくれた。日本特有の就職活動や、会社文化の知識と理解を深められた。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	その他
書く	その他
日本事情・日本理解	その他

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	今回は少人数ということで教師対学習者、学習者同士のやりとりを活発に行うことができた。人数が多かった場合、この濃密なやりとりは難しかったと思う。オンライン授業では受講人数の適切な人数を考えるべきだと思われた。
聞く	オンデマンド教材を事前学習することでかなりの聞く活動ができた。オリジナル教材にしたことで話される日本語のレベルも学習者に合わせることができた。内容を理解したかどうかはオンライン授業でのやり取りで確認したが、受講人数が増えた場合は内容理解の小テスト等を用意するなどしたほうが良いと思われる。
読む	課題としての資料を読むことで読む活動を行い、その内容をもとに授業を展開していった。配布資料を授業外に読むということになってしまうが、オンライン授業中に読解を行うことは画面上に表示される量や、読みにくいこともあり限界がある。
書く	課題提出という形で書く活動を行ったが、提出までのタイムラグと実際にどの程度自分だけで作成した文章なのか、何も参考にしていないのか等が分からないので、真に能力の評価をしているのかと点が難しい。
日本事情・日本理解	動画を作成することで日本での就職や就業についての事例を紹介することができた。紙の資料だけでは理解しにくいことも動画とすることで理解しやすかったようだ。しかしながら、動画作成に非常に労力がかかるため、頻繁に作成することは難しい。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	学習者：コース開始時のオリエンテーション、コース途中の個人サポート 教師：コース開始前の事前研修
聞く	学習者：コース開始時のオリエンテーション、コース途中の個人サポート 教師：コース開始前の事前研修
読む	学習者：コース開始時のオリエンテーション、コース途中の個人サポート 教師：コース開始前の事前研修
書く	学習者：コース開始時のオリエンテーション、コース途中の個人サポート 教師：コース開始前の事前研修
日本事情・日本理解	学習者：コース開始時のオリエンテーション 教師：コース開始前の事前研修

各日本語教育機関の実施結果

B2

■目標設定

●就職コース

話す（やりとり）	友人や同僚と、人間関係や仕事などについて話することができる。 仕事の面接試験で、志望動機などに関する質問にある程度詳しく答えたり、自己PRをしたりすることができる。
聞く	職場において上司や同僚から仕事の作業の指示を受け、正しく理解することができる。
読む	過去の報告書や議事録などに目を通して、自分の現在の業務と関連のある事柄をすぐに探し出すことができる。
書く	自分自身の長所や短所など、簡単な自己PR文を就職のための提出書類に書くことができる。
日本事情・日本理解	日本で働くために日本の就職活動について理解する。日本の職場での文化やコミュニケーション上の特徴を理解することができる。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
聞く	ハイブリット型
読む	ハイブリット型
書く	ハイブリット型
日本事情・日本理解	ハイブリット型

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	学習者はオリジナルの動画を視聴し、事前の学習を行う反転授業の方式。オンライン双方向の授業で学習した内容について日本語母語話者の教師とのやり取りでディスカッションを行う。
聞く	学習者はオリジナルの動画を視聴し、事前の学習を行う中で聞きとりの活動を行う。また、オンライン双方向の授業内で日本語母語話者である教師からの指示や、質問などを聞くことで聞く活動を行う。
読む	オンライン授業で学習した内容についての課題提出をする中で書く活動を行う。
書く	学習者はオリジナルの教材を使用し、課題学習を行う中で読む活動を行う。
日本事情・日本理解	学習者はオリジナルの動画を視聴やオンライン授業から日本の就職活動や会社文化についての理解を深める。

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	オリジナル動画
		レベル	B1 B2
		内容	オリジナルの動画
聞く	使用した教材①	名称	オリジナル動画
		レベル	B1 B2
		内容	オリジナルの動画
読む	使用した教材①	名称	オリジナル動画・教材
		レベル	B1 B2
		内容	オリジナルの動画と教材
書く	使用した教材①	名称	オリジナル動画・教材
		レベル	B1 B2
		内容	オリジナルの動画と教材
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	オリジナル動画・教材
		レベル	B1 B2
		内容	オリジナルの動画と教材

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	学内で作成した会話能力を測るルーブリックを使用
聞く	学内で作成した会話能力を測るルーブリックを使用
読む	コース終了時のオンラインテスト
書く	学内で作成した作文能力を測るルーブリックを使用
日本事情・日本理解	コース終了時のオンラインテスト

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標

話す（やりとり）	ルーブリック4段階中3段階以上
聞く	ルーブリック4段階中3段階以上
読む	コース終了時のオンラインテストを80%以上達成
書く	ルーブリック4段階中3段階以上
日本事情・日本理解	コース終了時のオンラインテストを80%以上達成

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	CEFR B2レベルのcan-doを学内ルーブリックに照らし合わせて設定
聞く	CEFR B2レベルのcan-doを学内ルーブリックに照らし合わせて設定
読む	CEFR B2レベルのcan-doを学内ルーブリックに照らし合わせて設定
書く	CEFR B2レベルのcan-doを学内ルーブリックに照らし合わせて設定
日本事情・日本理解	授業内容の理解度を考慮して設定

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	少人数ということもあり、活発に発言をする活動を行うことができた。会社文化や就職活動について話し合うことで学習者相互のやり取りも行うことができた。
聞く	オンデマンド教材の事前学習を行うことでかなりの量の聞く活動を行うことができた。オンライン授業でも講師の説明、学習者のやり取りから聞く活動は多く行うことができた。
読む	事前学習や授業後の課題などでの資料を読む活動を行った。資料を読んだ内容踏まえてオンライン授業でディスカッションなどをするため積極的な参加が求められたが、今回の学生については非常にモチベーションが高く、成功した。
書く	就職活動時のエントリーシート等の内容をやり取りしたが、やり取りにタイムラグが発生してしまい、即時の対応ができないことで内容のフィードバックにどのくらい効果があったか分からず、改善の余地がある。
日本事情・日本理解	日本で将来就職を希望する学生ではあるが、リアルな日本についての知識がなく、母国での情報収集も難しい。そのため、直接日本・日本人から発信である講座に高い興味を持ってくれた。日本特有の就職活動や、会社文化の知識と理解を深められた。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	その他
書く	その他
日本事情・日本理解	その他

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	今回は少人数ということで教師対学習者、学習者同士のやりとりを活発に行うことができた。人数が多かった場合、この濃密なやりとりは難しかったと思う。オンライン授業では受講人数の適切な人数を考えるべきだと思われた。
聞く	オンデマンド教材を事前学習することでかなりの聞く活動ができた。オリジナル教材にしたことで話される日本語のレベルも学習者に合わせることができた。内容を理解したかどうかはオンライン授業でのやり取りで確認したが、受講人数が増えた場合は内容理解の小テスト等を用意するなどしたほうが良いと思われる。
読む	課題としての資料を読むことで読む活動を行い、その内容をもとに授業を展開していった。配布資料を授業外に読むということになってしまうが、オンライン授業中に読解を行うことは画面上に表示される量や、読みにくいこともあり限界がある。
書く	課題提出という形で書く活動を行ったが、提出までのタイムラグと実際にどの程度自分だけで作成した文章なのか、何も参考にしていないのか等が分からないので、真に能力の評価をしているのかと点が難しい。
日本事情・日本理解	動画を作成することで日本での就職や就業についての事例を紹介することができた。紙の資料だけでは理解しにくいことも動画とすることで理解しやすかったようだ。しかしながら、動画作成に非常に労力がかかるため、頻繁に作成することは難しい。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	学習者：コース開始時のオリエンテーション、コース途中の個人サポート 教師：コース開始前の事前研修
聞く	学習者：コース開始時のオリエンテーション、コース途中の個人サポート 教師：コース開始前の事前研修
読む	学習者：コース開始時のオリエンテーション、コース途中の個人サポート 教師：コース開始前の事前研修
書く	学習者：コース開始時のオリエンテーション、コース途中の個人サポート 教師：コース開始前の事前研修
日本事情・日本理解	学習者：コース開始時のオリエンテーション 教師：コース開始前の事前研修

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

007-1：アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レ ベ ル										モ デ ル		モ デ ル 外		事前テスト		事後テスト		事前テスト 事後テスト 成長幅 (単 正答率 (生 正答率 (生 位: ポイン テスト満点 徒合計) 徒合計) ト)			
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	事前の点数 (生徒合 計)	回答者数	事後の点数 (生徒合 計)	回答者数	事前	事後	事前	事後		
007-1	アカデミーオブランゲージ アーツ_モデル2 (A1) _7/18- 9/22	○						○						204	11	290	11	40	46.4%	65.9%	20		

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル2 (3か月)
区分	オンラインのみ+オンデマンド型
1.授業のレベル	A1
2.授業のコース	進学 就職 一般
3-1.授業の実施期間 (開始)	2022/7/18
3-2.授業の実施期間 (終了)	2022/9/22
4.授業の学習時間	60
5.学生の授業への参加率	80
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	教務主任
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	常勤教員①日本語教授歴 7 年以上または当校8級～15級
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	女性
6-3.担当された先生③使用言語	日本語
6-3.担当された先生③スキル	常勤教員①日本語教授歴 7 年以上または当校8級～15級
6-4.担当された先生④居住国	日本
6-4.担当された先生④性別	女性
6-4.担当された先生④使用言語	日本語
6-4.担当された先生④スキル	非常勤教員
6-5.担当された先生⑤居住国	日本
6-5.担当された先生⑤性別	女性
6-5.担当された先生⑤使用言語	日本語
6-5.担当された先生⑤スキル	非常勤教員
6-6.担当された先生⑥居住国	日本
6-6.担当された先生⑥性別	女性
6-6.担当された先生⑥使用言語	日本語
6-6.担当された先生⑥スキル	非常勤教員
6-7.担当された先生⑦居住国	日本
6-7.担当された先生⑦性別	女性
6-7.担当された先生⑦使用言語	日本語
6-7.担当された先生⑦スキル	非常勤教員
6-8.担当された先生⑧居住国	日本
6-8.担当された先生⑧性別	男性
6-8.担当された先生⑧使用言語	日本語
6-8.担当された先生⑧スキル	非常勤教員
7.実施した言語活動	話す (やりとり) 話す (発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	PC付属のスピーカー、マイク
10.使用した映像 (カメラ) 機	PC付属のカメラ
11.使用したファイル形式 (パワーポイント、PDF等)	モデル2の教材PDF、各講師により、パワーポイント、ワード等も使用
12.撮影をした場所	普段の教室 その他 (講師自宅等)

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	日本でしたいことを質問されて簡単に答えることができる。ごく簡単なコミュニケーションができる。
話す（発表）	自分の将来の希望を簡単に話すことができる。
聞く	日常場面で遭遇するごく簡単な情報を聞き取ることができる。
読む	駅や町でよく見かける表示の意味が理解できる。
書く	ひらがな、かたかな、ごく簡単な漢字が読める
日本事情・日本理解	日本語または外国語で日本事情を知り、ごく簡単な意見をいうことができる。

●就職コース

話す（やりとり）	日本でしたいことを質問されて簡単に答えることができる。ごく簡単なコミュニケーションができる。
話す（発表）	自分の将来の希望を簡単に話すことができる。
聞く	日常場面で遭遇するごく簡単な情報を聞き取ることができる。
読む	駅や町でよく見かける表示の意味が理解できる。
書く	ひらがな、かたかな、ごく簡単な漢字が読める
日本事情・日本理解	日本語または外国語で日本事情を知り、ごく簡単な意見をいうことができる。

●生活コース

話す（やりとり）	日本でしたいことを質問されて簡単に答えることができる。ごく簡単なコミュニケーションができる。
話す（発表）	自分の将来の希望を簡単に話すことができる。
聞く	日常場面で遭遇するごく簡単な情報を聞き取ることができる。
読む	駅や町でよく見かける表示の意味が理解できる。
書く	ひらがな、かたかな、ごく簡単な漢字が読める
日本事情・日本理解	日本語または外国語で日本事情を知り、ごく簡単な意見をいうことができる。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
聞く	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
読む	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
書く	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	教師から受講生へのQ&A、受講生同士のQ&A を多く行い、日本語によるコミュニケーション能力を伸ばすことに注力。Zoomのブレイクアウトルールも活用して、グループ活動も実施。
話す（発表）	自己紹介、自分の国、自分の趣味などについて、適宜スピーチの機会を作り発表させる
聞く	eTRY、「動く絵本ライブラリー」「いろどり」の教材を聴解教材として利用。
読む	eTRY、「いろどり」の教材を活用し、情報を読み取る活動。
書く	ひらがな、かたかな、漢字を導入する際、Zoomの画面共有で教師が読み上げ、受講生にリピートしてもらい、その後各自に書かせる。
日本事情・日本理解	いろどり 「日本の生活TIPS」を自習として読んでおくように指示。授業中に取り上げ意見を求める。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	eTRY!日本語 Start
		レベル	A1
		内容	オンライン教材
	使用した教材②	名称	eTRY!日本語 N5
		レベル	A1 A2
		内容	オンライン教材
話す（発表）	使用した教材①	名称	eTRY!日本語 Start
		レベル	A1
		内容	オンライン教材
	使用した教材②	名称	eTRY!日本語 N5
		レベル	A1 A2
		内容	オンライン教材
聞く	使用した教材①	名称	いろいろ生活の日本語
		レベル	A1
		内容	教材
	使用した教材②	名称	eTRY!日本語 Start
		レベル	A1
		内容	オンライン教材
読む	使用した教材①	名称	動く絵本ライブラリー
		レベル	A1 A2
		内容	昔話、インソップ等の映像教材
	使用した教材②	名称	eTRY!日本語 Start
		レベル	A1
		内容	オンライン教材
書く	使用した教材①	名称	eTRY!日本語 N5
		レベル	A1 A2
		内容	オンライン教材
	使用した教材②	名称	eTRY!日本語 Start
		レベル	A1
		内容	ひらがな、カタカナ、漢字、会話文、ほか
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	eTRY!日本語 N5
		レベル	A1 A2
		内容	ひらがな、カタカナ、漢字、会話文、ほか
	使用した教材②	名称	いろいろ生活の日本語
		レベル	A1
		内容	ひらがな、カタカナ、漢字、会話文、ほか
話す（やりとり）	使用した教材①	名称	eTRY!日本語 Start
		レベル	A1
		内容	ひらがな、カタカナ、漢字
	使用した教材②	名称	eTRY!日本語 N5
		レベル	A1 A2
		内容	漢字
話す（発表）	使用した教材①	名称	いろいろ生活の日本語
		レベル	A1
		内容	日本の生活TIPS

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	授業終了後、learningBOXにより 会話やり取りテストとZoomにより、スピーチテストを実施
話す（発表）	Zoomによる対面授業内において評価
聞く	Zoomにより、スピーチテストを実施
読む	Zoomによる対面授業内において評価
書く	作文テスト（受講者がエクセルに入力してメール等で提出）
日本事情・日本理解	Zoomによる対面授業内において評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標

話す（やりとり）	正答率で評価
話す（発表）	教員による主観的評価
聞く	正答率で評価
読む	教員による主観的評価
書く	教員による主観的評価
日本事情・日本理解	教員による主観的評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	正答率で評価
話す（発表）	教員による主観的評価
聞く	正答率で評価
読む	教員による主観的評価
書く	教員による主観的評価
日本事情・日本理解	教員による主観的評価

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	熱心に受講した学生は、目標以上の成果を上げた。
話す（発表）	積極的に自分の言いたいことを伝えようという姿勢が見られた。
聞く	コースが進むにつれて、聞き取る力が伸びていった。
読む	受講生間でレベル差が見られた。
書く	発話レベルに比べて、細かい間違いも見られた。
日本事情・日本理解	日本に対する興味が強く好意的なコメントが多かった。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	適切なカリキュラムの設定
話す（発表）	適切なカリキュラムの設定
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	ネットワーク環境の整備
書く	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	オンライン教育でも、対面とほぼ同じように実施できる。
話す（発表）	オンライン教育でも、対面とほぼ同じように実施できる。
聞く	動く絵本ライブラリーは、受講生の興味を引き、効果的だった。
読む	A1レベルの受講者向けにちょうどいい読解教材があればよい。
書く	書く技能を向上させるには、個別の添削などが必要で、今回のオンライン教育ではそこまでできなかった。
日本事情・日本理解	A1レベルの学習者に対しては、母国語の情報が必要。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	講師に対しては、学内において勉強会の実施、授業開始後も会議を行った。学習者に対しては、メールまたはZoomによる対面において適宜コンサルティングを実施した。
話す（発表）	講師に対しては、学内において勉強会の実施、授業開始後も会議を行った。学習者に対しては、メールまたはZoomによる対面において適宜コンサルティングを実施した。
聞く	講師に対しては、学内において勉強会の実施、授業開始後も会議を行った。学習者に対しては、メールまたはZoomによる対面において適宜コンサルティングを実施した。
読む	講師に対しては、学内において勉強会の実施、授業開始後も会議を行った。学習者に対しては、メールまたはZoomによる対面において適宜コンサルティングを実施した。
書く	講師に対しては、学内において勉強会の実施、授業開始後も会議を行った。学習者に対しては、メールまたはZoomによる対面において適宜コンサルティングを実施した。
日本事情・日本理解	講師に対しては、学内において勉強会の実施、授業開始後も会議を行った。学習者に対しては、メールまたはZoomによる対面において適宜コンサルティングを実施した。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

007-2：アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レベ ル										事前テスト 事前の点数 (生徒合 計)				事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)				事前テスト テスト満点 (生徒合 計)				事後テスト テスト満点 (生徒合 計)				成長幅 (単 位: ポイン ト)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
		A1					A2					B1					B2					C					1					2					3					4					5					1					2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル2 (3か月)
区分	オンラインのみ + オンデマンド型
1. 授業のレベル	A1
2. 授業のコース	進学 就職 一般
3-1. 授業の実施期間 (開始)	2022/10/10
3-2. 授業の実施期間 (終了)	2022/12/15
4. 授業の学習時間	60
5. 学生の授業への参加率	55
6-1. 担当された先生①居住国	日本
6-1. 担当された先生①性別	女性
6-1. 担当された先生①使用言語	日本語
6-1. 担当された先生①スキル	常勤教員①日本語教授歴 7 年以上または当校8級～15級
6-2. 担当された先生②居住国	日本
6-2. 担当された先生②性別	女性
6-2. 担当された先生②使用言語	日本語
6-2. 担当された先生②スキル	常勤教員①日本語教授歴 7 年以上または当校8級～15級
6-3. 担当された先生③居住国	日本
6-3. 担当された先生③性別	女性
6-3. 担当された先生③使用言語	日本語
6-3. 担当された先生③スキル	常勤教員②日本語教授歴5年以上または当校2級～7級
6-4. 担当された先生④居住国	日本
6-4. 担当された先生④性別	女性
6-4. 担当された先生④使用言語	日本語
6-4. 担当された先生④スキル	非常勤教員
6-5. 担当された先生⑤居住国	日本
6-5. 担当された先生⑤性別	女性
6-5. 担当された先生⑤使用言語	日本語
6-5. 担当された先生⑤スキル	非常勤教員
6-6. 担当された先生⑥居住国	日本
6-6. 担当された先生⑥性別	女性
6-6. 担当された先生⑥使用言語	日本語
6-6. 担当された先生⑥スキル	非常勤教員
7. 実施した言語活動	話す (やりとり) 話す (発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解
8. 使用したオンライン会議ツール	Zoom
9. 使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	PC付属のスピーカー、マイク
10. 使用した映像 (カメラ) 機	PC付属のカメラ
11. 使用したファイル形式 (パワーポイント、PDF等)	モデル2の教材PDF、各講師が授業の際に、パワーポイント、ワード等も使用
12. 撮影をした場所	普段の教室 その他 (講師自宅等)

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	日本でしたいことを質問されて簡単に答えることができる。ごく簡単なコミュニケーションができる。
話す（発表）	自分の将来の希望を簡単に話すことができる。
聞く	日常場面で遭遇するごく簡単な情報を聞き取ることができる。
読む	駅や町でよく見かける表示の意味が理解できる。
書く	ひらがな、かたかな、ごく簡単な漢字が読める
日本事情・日本理解	日本語または自国語で日本事情を知り、ごく簡単な意見をいうことができる。

●就職コース

話す（やりとり）	日本でしたいことを質問されて簡単に答えることができる。ごく簡単なコミュニケーションができる。
話す（発表）	自分の将来の希望を簡単に話すことができる。
聞く	日常場面で遭遇するごく簡単な情報を聞き取ることができる。
読む	駅や町でよく見かける表示の意味が理解できる。
書く	ひらがな、かたかな、ごく簡単な漢字が読める
日本事情・日本理解	日本語または自国語で日本事情を知り、ごく簡単な意見をいうことができる。

●生活コース

話す（やりとり）	日本でしたいことを質問されて簡単に答えることができる。ごく簡単なコミュニケーションができる。
話す（発表）	自分の将来の希望を簡単に話すことができる。
聞く	日常場面で遭遇するごく簡単な情報を聞き取ることができる。
読む	駅や町でよく見かける表示の意味が理解できる。
書く	ひらがな、かたかな、ごく簡単な漢字が読める
日本事情・日本理解	日本語または自国語で日本事情を知り、ごく簡単な意見をいうことができる。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
聞く	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
読む	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
書く	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	日本語コミュニケーション能力を伸ばすことに力を入れ、教師から受講生へのQ&A、受講生同士のQ&Aとを活動の中心にした。
話す（発表）	自己紹介、自分の国、趣味、大学についてなど、適宜スピーチの機会を作り発表させた
聞く	eTRY、「動く絵本ライブラリー」「いろどり」の教材を聴解教材として利用
読む	eTRY、「いろどり」の教材を活用し、情報を読み取る活動
書く	ひらがな、かたかな、漢字を導入する際、Zoomの画面共有で教師が読み上げ、受講生にリピートしてもらい、その後各自に書かせる。
日本事情・日本理解	いろどり 「日本の生活TIPS」を自習として読んでおくように指示。授業中に取り上げ意見を求める。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	eTRY!日本語 Start
		レベル	A1
		内容	オンライン教材
	使用した教材②	名称	eTRY!日本語 N5
		レベル	A1 A2
		内容	オンライン教材
話す（発表）	使用した教材③	名称	いそどり生活の日本語 入門
		レベル	A1
		内容	教材
	使用した教材①	名称	eTRY!日本語 Start
		レベル	A1
		内容	オンライン教材
聞く	使用した教材②	名称	eTRY!日本語 N5
		レベル	A1 A2
		内容	オンライン教材
	使用した教材③	名称	いそどり生活の日本語 入門
		レベル	A1
		内容	教材
読む	使用した教材①	名称	動く絵本ライブラリー
		レベル	A1 A2
		内容	昔話、インソップ等の映像教材
	使用した教材②	名称	eTRY!日本語 Start
		レベル	A1
		内容	オンライン教材
書く	使用した教材③	名称	eTRY!日本語 N5
		レベル	A1 A2
		内容	オンライン教材
	使用した教材①	名称	eTRY!日本語 Start
		レベル	A1
		内容	ひらがな、かたかな、漢字、会話文、ほか
日本事情・日本理解	使用した教材②	名称	eTRY!日本語 N5
		レベル	A1 A2
		内容	ひらがな、かたかな、漢字、会話文、ほか
	使用した教材③	名称	いそどり生活の日本語 入門
		レベル	A1
		内容	ひらがな、かたかな、漢字、会話文、ほか
書く	使用した教材①	名称	eTRY!日本語 Start
		レベル	A1
		内容	ひらがな、カタカナ、漢字
	使用した教材②	名称	eTRY!日本語 N5
		レベル	A1 A2
		内容	漢字
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	いそどり生活の日本語入門
		レベル	A1
		内容	日本の生活TIPS

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	Zoomにより、スピーチテストを実施、ラーニングボックス内の会話やり取りテストを実施
話す（発表）	Zoomによる対面授業内において評価
聞く	Zoomにより、スピーチテストを実施
読む	Zoomによる対面授業内において評価
書く	作文テスト（受講者がエクセルに入力してメール等で提出）
日本事情・日本理解	Zoomによる対面授業内において評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標

話す（やりとり）	正答率で評価
話す（発表）	教員による主観的評価
聞く	正答率で評価
読む	教員による主観的評価
書く	教員による主観的評価
日本事情・日本理解	教員による主観的評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	正答率で評価
話す（発表）	教員による主観的評価
聞く	正答率で評価
読む	教員による主観的評価
書く	教員による主観的評価
日本事情・日本理解	教員による主観的評価

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	受講生が少なかったため、一人の発話時間が多く取れ、ロールプレイも多く実施できた それぞれ出張と、自然災害の影響で、参加できない日があったが、そのわりに学習成果 が上がった。
話す（発表）	自分の身の回りのことをたくさん話すことができた。
聞く	聞く力も順調に伸びた。
読む	オンデマンド教材を利用し、学習していたようである。
書く	身の回りのことについて、書くことができていた。
日本事情・日本理解	興味のある分野を深めることができた。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	適切なカリキュラムの設定
話す（発表）	適切なカリキュラムの設定
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	ネットワーク環境の整備
書く	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	オンライン教育でも、対面とほぼ同じように実施できる
話す（発表）	オンライン教育でも、対面とほぼ同じように実施できる
聞く	映像教材の動く絵本ライブラリーは、学習者が興味をもって、効果的に使えた
読む	A1レベルの受講者向けに、ちょうどよい教材があるとよい。
書く	書く技能の向上には、個別の添削など細かい指導が必要だと思う。今回は発話を優先し たので、そこまで対応できなかった。
日本事情・日本理解	A1レベルの学習者には、母国語による情報が必要

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	講師に対しては、学内において勉強会の実施、授業開始後も、会議・勉強会を通じてスキルアップにつなげた。学習者に対しては、メールまたは対面において適宜コンサルティングを実施した。
話す（発表）	講師に対しては、学内において勉強会の実施、授業開始後も、会議・勉強会を通じてスキルアップにつなげた。学習者に対しては、メールまたは対面において適宜コンサルティングを実施した。
聞く	講師に対しては、学内において勉強会の実施、授業開始後も、会議・勉強会を通じてスキルアップにつなげた。学習者に対しては、メールまたは対面において適宜コンサルティングを実施した。
読む	講師に対しては、学内において勉強会の実施、授業開始後も、会議・勉強会を通じてスキルアップにつなげた。学習者に対しては、メールまたは対面において適宜コンサルティングを実施した。
書く	講師に対しては、学内において勉強会の実施、授業開始後も、会議・勉強会を通じてスキルアップにつなげた。学習者に対しては、メールまたは対面において適宜コンサルティングを実施した。
日本事情・日本理解	講師に対しては、学内において勉強会の実施、授業開始後も、会議・勉強会を通じてスキルアップにつなげた。学習者に対しては、メールまたは対面において適宜コンサルティングを実施した。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

007-3：アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レ ベ ル		モ デ ル					モ デ ル 外			事前テスト		事後テスト		事前テスト		事後テスト		成長幅（単			
												事前の点数 （生徒合 計）		事後の点数 （生徒合 計）		テスト満点		正答率（生 徒合計）		正答率（生 徒合計）		位：ポイン ト）	
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	回答者数	回答者数	回答者数	回答者数	40	61.5%	72.1%	11		
007-3（前半三ヵ月）	アカデミーオブランゲージ アーツ_モデル2（A1,A2） 7/18-12/15	○	○					○					320	13	375	13	40	61.5%	72.1%	11			
007-3（後半三ヵ月）	アカデミーオブランゲージ アーツ_モデル2（A1,A2） 7/18-12/15	○	○					○					53	2	53	2	40	66.3%	66.3%	0			

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル2（6か月）
区分	オンラインのみ+オンデマンド型
1.授業のレベル	A1 A2
2.授業のコース	進学 就職 一般
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/7/18
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/12/15
4.授業の学習時間	120
5.学生の授業への参加率	78
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	教務主任
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	常勤教員①日本語教授歴7年以上または当校8級～15級
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	女性
6-3.担当された先生③使用言語	日本語
6-3.担当された先生③スキル	常勤教員①日本語教授歴7年以上または当校8級～15級
6-4.担当された先生④居住国	日本
6-4.担当された先生④性別	女性
6-4.担当された先生④使用言語	日本語
6-4.担当された先生④スキル	常勤教員①日本語教授歴7年以上または当校8級～15級
6-5.担当された先生⑤居住国	日本
6-5.担当された先生⑤性別	男性
6-5.担当された先生⑤使用言語	日本語
6-5.担当された先生⑤スキル	常勤教員①日本語教授歴7年以上または当校8級～15級
6-6.担当された先生⑥居住国	日本
6-6.担当された先生⑥性別	男性
6-6.担当された先生⑥使用言語	日本語
6-6.担当された先生⑥スキル	常勤教員②日本語教授歴5年以上または当校2級～7級
6-7.担当された先生⑦居住国	日本
6-7.担当された先生⑦性別	女性
6-7.担当された先生⑦使用言語	日本語
6-7.担当された先生⑦スキル	常勤教員②日本語教授歴5年以上または当校2級～7級
6-8.担当された先生⑧居住国	日本
6-8.担当された先生⑧性別	女性
6-8.担当された先生⑧使用言語	日本語
6-8.担当された先生⑧スキル	非常勤教員
6-9.担当された先生⑨居住国	日本
6-9.担当された先生⑨性別	女性
6-9.担当された先生⑨使用言語	日本語
6-9.担当された先生⑨スキル	非常勤教員
6-10.担当された先生⑩居住国	日本
6-10.担当された先生⑩性別	女性
6-10.担当された先生⑩使用言語	日本語
6-10.担当された先生⑩スキル	非常勤教員
7.実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	PC付属のスピーカー、マイク
10.使用した映像（カメラ）機	PC付属のカメラ
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	モデル2教材のPDF、講師により作成されたパワーポイント、ワード教材も使用
12.撮影をした場所	普段の教室 その他（講師自宅等）

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	日本でしたいことを質問されて簡単に答えることができる。ごく簡単なコミュニケーションができる
話す（発表）	ごく簡単に、自分のこと、自分の将来の希望について、発表できる
聞く	ごく基本的な日常の情報を聞き取ることができる
読む	駅や町でよく見かける表示の意味が理解できる。
書く	ひらがな、カタカナ、ごく簡単な漢字を書くことができる
日本事情・日本理解	日本語または外国語で日本事情を知り、ごく簡単な意見を言うことができる

●就職コース

話す（やりとり）	日本でしたいことを質問されて簡単に答えることができる。ごく簡単なコミュニケーションができる
話す（発表）	ごく簡単に、自分のこと、自分の将来の希望について、発表できる
聞く	ごく基本的な日常の情報を聞き取ることができる
読む	駅や町でよく見かける表示の意味が理解できる。
書く	ひらがな、カタカナ、ごく簡単な漢字を書くことができる
日本事情・日本理解	日本語または外国語で日本事情を知り、ごく簡単な意見を言うことができる

●生活コース

話す（やりとり）	日本でしたいことを質問されて簡単に答えることができる。ごく簡単なコミュニケーションができる
話す（発表）	ごく簡単に、自分のこと、自分の将来の希望について、発表できる
聞く	ごく基本的な日常の情報を聞き取ることができる
読む	駅や町でよく見かける表示の意味が理解できる。
書く	ひらがな、カタカナ、ごく簡単な漢字を書くことができる
日本事情・日本理解	日本語または外国語で日本事情を知り、ごく簡単な意見を言うことができる

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
聞く	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
読む	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
書く	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	教師から受講生へのQ&A、受講生同士のQ&A を多く行い、日本語によるコミュニケーション能力を伸ばすことに注力。Zoomのブレイクアウトルールも活用して、グループ活動も実施。
話す（発表）	自己紹介、自分の国、自分の趣味などについて、適宜スピーチの機会を作り発表させる
聞く	eTRY、「動く絵本ライブラリー」「いろどり」の教材を聴解教材として利用
読む	eTRY、「いろどり」の教材を活用し、情報を読み取る活動
書く	ひらがな、かたかな、漢字を導入する際、Zoomの画面共有で教師が読み上げ、受講生にリピートしてもらい、その後各自に書かせる
日本事情・日本理解	いろどり 「日本の生活TIPS」を自習として読んでおくように指示。授業中に取り上げ意見を求める

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	eTRY!日本語 Start
		レベル	A1
		内容	オンライン教材
	使用した教材②	名称	eTRY!日本語 N5
		レベル	A1 A2
		内容	オンライン教材
話す（発表）	使用した教材③	名称	いそどり生活の日本語 入門
		レベル	A1
		内容	教材
	使用した教材①	名称	eTRY!日本語 Start
		レベル	A1
		内容	オンライン教材
聞く	使用した教材②	名称	eTRY!日本語 N5
		レベル	A1 A2
		内容	オンライン教材
	使用した教材③	名称	いそどり生活の日本語 入門
		レベル	A1
		内容	教材
読む	使用した教材①	名称	動く絵本ライブラリー
		レベル	A1 A2
		内容	昔話、インソップ等の映像教材
	使用した教材②	名称	eTRY!日本語 Start
		レベル	A1
		内容	オンライン教材
書く	使用した教材③	名称	eTRY!日本語 N5
		レベル	A1 A2
		内容	オンライン教材
	使用した教材①	名称	eTRY!日本語 Start
		レベル	A1
		内容	ひらがな、かたかな、漢字、会話文、ほか
日本事情・日本理解	使用した教材②	名称	eTRY!日本語 N5
		レベル	A1 A2
		内容	ひらがな、かたかな、漢字、会話文、ほか
	使用した教材③	名称	いそどり生活の日本語 入門
		レベル	A1
		内容	ひらがな、かたかな、漢字、会話文、ほか
書く	使用した教材①	名称	eTRY!日本語 Start
		レベル	A1
		内容	ひらがな、カタカナ、漢字
	使用した教材②	名称	eTRY!日本語 N5
		レベル	A1 A2
		内容	漢字
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	いそどり生活の日本語入門
		レベル	A1
		内容	日本の生活TIPS

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	授業終了後、Zoomにより、スピーチテストを実施。授業終了後ラーニングボックス内の会話やり取りテストを実施
話す（発表）	Zoomによる対面授業内において評価
聞く	授業終了後、Zoomにより、スピーチテストを実施
読む	Zoomによる対面授業内において評価
書く	作文テスト（受講者がエクセルに入力してメール等で提出）
日本事情・日本理解	Zoomによる対面授業内において評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	正答率で評価
話す（発表）	教員による主観的評価
聞く	正答率で評価
読む	教員による主観的評価
書く	教員による主観的評価
日本事情・日本理解	教員による主観的評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	正答率で評価
話す（発表）	教員による主観的評価
聞く	正答率で評価
読む	教員による主観的評価
書く	教員による主観的評価
日本事情・日本理解	教員による主観的評価

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	出席率がよく、お互いの話をよく聞き、情報交換ができていた
話す（発表）	自分の知っている言葉で、話す努力が見られた
聞く	聞き取り能力は、どんどん上がっていった
読む	ひらがな、カタカナはスムーズに読めるようになった。
書く	文章を書く指導は、あまりできなかったので、細かい助詞の間違ひは見られた。
日本事情・日本理解	日本に対する強い関心があり、積極的な意見が言えた。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	適切なカリキュラムの設定
話す（発表）	適切なカリキュラムの設定
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	ネットワーク環境の整備
書く	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	オンライン教育でも対面とほぼ同じように実施できる。活発なクラス活動には、2～14名程度までが望ましい。
話す（発表）	オンライン教育でも対面とほぼ同じように実施できる
聞く	映像教材の動く絵本ライブラリーは、学習者が興味をもって、効果的に使えた
読む	学習者の興味を惹くA1レベルの教材があるといい
書く	書く技能の向上には、個別の添削など細かい指導が必要だと思う。今回は発話を優先したので、そこまで対応できなかった
日本事情・日本理解	A1レベルの学習者には、母国語による情報が必要

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	講師に対しては、学内において勉強会の実施、授業開始後も、会議・勉強会を通じてスキルアップにつなげた。学習者に対しては、メールまたは対面において適宜コンサルティングを実施した。
話す（発表）	講師に対しては、学内において勉強会の実施、授業開始後も、会議・勉強会を通じてスキルアップにつなげた。学習者に対しては、メールまたは対面において適宜コンサルティングを実施した。
聞く	講師に対しては、学内において勉強会の実施、授業開始後も、会議・勉強会を通じてスキルアップにつなげた。学習者に対しては、メールまたは対面において適宜コンサルティングを実施した。
読む	講師に対しては、学内において勉強会の実施、授業開始後も、会議・勉強会を通じてスキルアップにつなげた。学習者に対しては、メールまたは対面において適宜コンサルティングを実施した。
書く	講師に対しては、学内において勉強会の実施、授業開始後も、会議・勉強会を通じてスキルアップにつなげた。学習者に対しては、メールまたは対面において適宜コンサルティングを実施した。
日本事情・日本理解	講師に対しては、学内において勉強会の実施、授業開始後も、会議・勉強会を通じてスキルアップにつなげた。学習者に対しては、メールまたは対面において適宜コンサルティングを実施した。

各日本語教育機関の実施結果

A2

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	ごく基本的な個人的なこと、身近なことについて情報交換できる
話す（発表）	ごく基本的な個人的なこと、身近なことについて、発表できる
聞く	ごく基本的な日常の情報を聞いて理解することができる
読む	ごく基本的な日常の情報を読んで理解することができる
書く	ひらがな、カタカナ、簡単な漢字を書くことができる
日本事情・日本理解	日本語または自国語で日本事情を知り、簡単な意見を言うことができる

●就職コース

話す（やりとり）	ごく基本的な個人的なこと、身近なことについて情報交換できる
話す（発表）	ごく基本的な個人的なこと、身近なことについて、発表できる
聞く	ごく基本的な日常の情報を聞いて理解することができる
読む	ごく基本的な日常の情報を読んで理解することができる
書く	ひらがな、カタカナ、簡単な漢字を書くことができる
日本事情・日本理解	日本語または自国語で日本事情を知り、簡単な意見を言うことができる

●生活コース

話す（やりとり）	ごく基本的な個人的なこと、身近なことについて情報交換できる
話す（発表）	ごく基本的な個人的なこと、身近なことについて、発表できる
聞く	ごく基本的な日常の情報を聞いて理解することができる
読む	ごく基本的な日常の情報を読んで理解することができる
書く	ひらがな、カタカナ、簡単な漢字を書くことができる
日本事情・日本理解	日本語または自国語で日本事情を知り、簡単な意見を言うことができる

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
聞く	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
読む	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
書く	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	教師から受講生へのQ&A、受講生同士のQ&A を多く行い、日本語によるコミュニケーション能力を伸ばすことに注力。Zoomのブレイクアウトルールも活用して、グループ活動も実施。
話す（発表）	自己紹介、自分の国、自分の趣味などについて、適宜スピーチの機会を作り発表させる
聞く	eTRY、「動く絵本ライブラリー」「いろどり」の教材を聴解教材として利用
読む	eTRY、「いろどり」の教材を活用し、情報を読み取る活動。
書く	ひらがな、かたかな、漢字を導入する際、Zoomの画面共有で教師が読み上げ、受講生にリピートしてもらい、その後各自に書かせる。
日本事情・日本理解	いろどり 「日本の生活TIPS」を自習として読んでおくように指示。授業中に取り上げ意見を求める

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	eTRY! Start
		レベル	A1
		内容	オンライン教材
	使用した教材②	名称	eTRY! N5
		レベル	A1 A2
		内容	オンライン教材
話す（発表）	使用した教材③	名称	いろいろ 生活の日本語 入門
		レベル	A1
		内容	教材
	使用した教材①	名称	eTRY! Start
		レベル	A1
		内容	オンライン教材
聞く	使用した教材②	名称	eTRY! N5
		レベル	A1 A2
		内容	オンライン教材
	使用した教材③	名称	いろいろ 生活の日本語 入門
		レベル	A1
		内容	教材
読む	使用した教材①	名称	動く絵本ライブラリー
		レベル	A1 A2
		内容	映像教材 日本の笑い話、童話など
	使用した教材②	名称	eTRY! Start
		レベル	A1
		内容	オンライン教材
書く	使用した教材③	名称	eTRY! N5
		レベル	A1 A2
		内容	オンライン教材
	使用した教材①	名称	eTRY! Start
		レベル	A1
		内容	ひらがな カタカナ 漢字
日本事情・日本理解	使用した教材②	名称	eTRY! N5
		レベル	A1 A2
		内容	ひらがな カタカナ 漢字
	使用した教材①	名称	いろいろ生活の日本語入門
		レベル	A1
		内容	日本の生活TIPS

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	授業終了時、Zoomにより、スピーチテストを実施、ラーニングボックス内の会話やり取りテストを実施
話す（発表）	Zoomによる対面授業内において評価
聞く	授業終了時、Zoomにより、スピーチテストを実施
読む	Zoomによる対面授業内において評価
書く	作文テスト（受講者がエクセルに入力してメール等で提出）
日本事情・日本理解	Zoomによる対面授業内において評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	正答率で評価
話す（発表）	教員による主観的評価
聞く	正答率で評価
読む	教員による主観的評価
書く	教員による主観的評価
日本事情・日本理解	教員による主観的評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	正答率で評価
話す（発表）	教員による主観的評価
聞く	正答率で評価
読む	教員による主観的評価
書く	教員による主観的評価
日本事情・日本理解	教員による主観的評価

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	受講期間が長くなるにつれて受講生同士が良好な関係を築き、お互い尊重しあい、情報交換が活発に行われた
話す（発表）	授業が進むにつれて自分の伝えたいことをわかりやすく伝えようという工夫がみられるようになった。
聞く	受講が進むにつれて、日本語の聞き取りがどんどん良くなった
読む	読むスピードが速くなっていった。
書く	発話では上手に話せる内容でも、作文の中では細かい間違いが見られた。
日本事情・日本理解	興味を持って自分の意見を簡単に話すことができた。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	適切なカリキュラムの設定
話す（発表）	適切なカリキュラムの設定
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	ネットワーク環境の整備
書く	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	オンライン教育でも、対面とほぼ同じように実施できる
話す（発表）	オンライン教育でも、対面とほぼ同じように実施できる
聞く	映像教材の動く絵本ライブラリーは、学習者が興味をもって、効果的に使えた
読む	A2レベルに適した教材があるといい
書く	書く技能の向上には、個別の添削など細かい指導が必要だと思う。今回は発話を優先したので、そこまで対応できなかった。
日本事情・日本理解	A2レベルの学習者には、母国語による情報が必要

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	講師に対しては、学内において勉強会の実施、授業開始後も、会議・勉強会を通じてスキルアップにつなげた。学習者に対しては、メールまたは対面において適宜コンサルティングを実施した。
話す（発表）	講師に対しては、学内において勉強会の実施、授業開始後も、会議・勉強会を通じてスキルアップにつなげた。学習者に対しては、メールまたは対面において適宜コンサルティングを実施した。
聞く	講師に対しては、学内において勉強会の実施、授業開始後も、会議・勉強会を通じてスキルアップにつなげた。学習者に対しては、メールまたは対面において適宜コンサルティングを実施した。
読む	講師に対しては、学内において勉強会の実施、授業開始後も、会議・勉強会を通じてスキルアップにつなげた。学習者に対しては、メールまたは対面において適宜コンサルティングを実施した。
書く	講師に対しては、学内において勉強会の実施、授業開始後も、会議・勉強会を通じてスキルアップにつなげた。学習者に対しては、メールまたは対面において適宜コンサルティングを実施した。
日本事情・日本理解	講師に対しては、学内において勉強会の実施、授業開始後も、会議・勉強会を通じてスキルアップにつなげた。学習者に対しては、メールまたは対面において適宜コンサルティングを実施した。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

009-1：ユニタス日本語学校東京校

授業ID	日本語教育機関・モデル名													事前テスト				事後テスト				事前テスト				事後テスト				成長幅（単 位：ポイン ト）
		レ ベ ル				モ デ ル				モ デ ル 外				事前テスト 事前の点数 （生徒合 計）		事後テスト 事後の点数 （生徒合 計）		テスト満点		正答率（生 徒合計）		正答率（生 徒合計）								
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	計	回答者数	計	回答者数													
009-1	ユニタス日本語学校_モデル1 (A1)_7/20-9/26	○					○							4,324	25	5,007	25	230	75.2%	87.1%	12									

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル1 (3か月)
区分	オンラインのみ
1.授業のレベル	A1
2.授業のコース	進学 一般
3-1.授業の実施期間 (開始)	2022/7/20
3-2.授業の実施期間 (終了)	2022/9/26
4.授業の学習時間	50
5.学生の授業への参加率	80
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	日本語教員養成課程 (大学副専攻)
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	日本語教師養成講座420時間修了
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	女性
6-3.担当された先生③使用言語	日本語
6-3.担当された先生③スキル	日本語教員養成課程 (大学院専攻)
7.実施した言語活動	話す (やりとり) 話す (発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	PC (HP ProBook 450 G3) 内蔵マイク
10.使用した映像 (カメラ) 機	PC (HP ProBook 450 G3) 付属カメラ
11.使用したファイル形式 (パワーポイント、PDF等)	準備していただいたパワーポイント教材
12.撮影をした場所	普段の教室 外部の会議室

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	自分と他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人情報について、質問をしたり、答えたりできるようにする。
話す（発表）	将来、ゼミでの発表も視野に入れつつ、自分と、自分の身の回りのことについて、学んだ言葉を使って発表することができる。
聞く	アカデミックな日本語を学習する前段階として、生活に必要な言葉について、聞くことができる。
読む	アカデミックな日本語を学習する前段階として、ひらがな・カタカナ・初級Ⅰレベルの簡単な漢字を読むことができる。
書く	アカデミックな日本語を学習する前段階として、ひらがな・カタカナ・初級Ⅰレベルの簡単な漢字を書くことができる。
日本事情・日本理解	オリジナル動画を見て、日本の街や文化に親しみを感ぜてもらおう。

●生活コース

話す（やりとり）	自分と他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人情報について、質問をしたり、答えたりできるようにする。
話す（発表）	日常生活で使う日本語の基礎として、自分と、自分の身の回りのことについて、学んだ言葉を使って発表することができる。
聞く	生活に必要な言葉について、聞くことができる。
読む	ひらがな・カタカナ・初級Ⅰレベルの簡単な漢字を読むことができる。
書く	ひらがな・カタカナ・初級Ⅰレベルの簡単な漢字を書くことができる。
日本事情・日本理解	オリジナル動画を見て、日本の街や文化に親しみを感ぜてもらおう。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）
読む	オンライン（双方向のみ）
書く	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	自己紹介・家族クラスメイト紹介・ここそこあそこ・います・毎日どのくらい勉強しますか/寝ますか/運動しますか・行きます/なんで～へ行きます・い形容詞/な形容詞・て形
話す（発表）	私のうちと部屋 私の一日 国の料理を紹介
聞く	自己紹介・家族クラスメイト紹介・ここそこあそこ・います・毎日どのくらい勉強しますか/寝ますか/運動しますか・行きます/なんで～へ行きます・い形容詞/な形容詞・て形 これに関連した音声教材
読む	自己紹介・家族クラスメイト紹介・ここそこあそこ・います・毎日どのくらい勉強しますか/寝ますか/運動しますか・行きます/なんで～へ行きます・い形容詞/な形容詞・て形 これに関連した読み物教材
書く	自己紹介・家族クラスメイト紹介・ここそこあそこ・います・毎日どのくらい勉強しますか/寝ますか/運動しますか・行きます/なんで～へ行きます・い形容詞/な形容詞・て形 これに関連した作文

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	実証取組モデル1のA1レベルで準備していただいた教材
		レベル	A1
		内容	上記のとおり
話す（発表）	使用した教材①	名称	実証取組モデル1のA1レベルで準備していただいた教材
		レベル	A1
		内容	上記のとおり
聞く	使用した教材①	名称	実証取組モデル1のA1レベルで準備していただいた教材
		レベル	A1
		内容	上記のとおり
読む	使用した教材①	名称	実証取組モデル1のA1レベルで準備していただいた教材
		レベル	A1
		内容	上記のとおり
書く	使用した教材①	名称	実証取組モデル1のA1レベルで準備していただいた教材
		レベル	A1
		内容	上記のとおり
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	実証取組モデル1のA1レベルで準備していただいた教材
		レベル	A1
		内容	上記のとおり

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	授業中に先生とのやり取りのなかで、評価しました。
話す（発表）	発表したものを担当講師が個別に評価
聞く	授業中に先生とのやり取りのなかで、評価しました。
読む	準備していただいた修了テスト
書く	準備していただいた修了テスト
日本事情・日本理解	テストなどで特に評価はしていない

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標

話す（やりとり）	明瞭な発音・スムーズに話せているか
話す（発表）	きはきと相手が理解できるような日本語で発表しているか
聞く	教師や友達同士の会話で相手が話すことをきちんと聞き取れているか
読む	ひらがな・カタカナ・漢字を読み間違えることなく、きちんと読めているか
書く	正しく表記できているか
日本事情・日本理解	動画教材を見て、内容をきちんと理解できているか

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	担当講師の打ち合わせで設定
話す（発表）	担当講師の打ち合わせで設定
聞く	担当講師の打ち合わせで設定
読む	担当講師の打ち合わせで設定
書く	担当講師の打ち合わせで設定
日本事情・日本理解	担当講師の打ち合わせで設定

各日本語教育機関の実施結果

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	双方向で授業をしていたので、やりとりが一番伸びたと思う。
話す（発表）	みんな楽しく自分のことを発表していたので、こうした場は必要だと思った。
聞く	あまり良くなかった。A1レベルにしては難しい言葉や固有名詞が多かったので、学生が聞き取りに苦戦していた感じだった。
読む	オンライン授業のため、効果はあまり感じられなかった。
書く	オンライン授業のため、効果はあまり感じられなかった。
日本事情・日本理解	文章や説明だけでは理解しづらい面もあると思うが、動画教材を使用することで理解が深まった。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	ネットワーク環境の整備
書く	適切なカリキュラムの設定
日本事情・日本理解	適切なカリキュラムの設定

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	人数が多いと、やりとりをする際に、時間がかかるので、きめ細やかな指導はかなり難しい
話す（発表）	対面とそこまで違いを感じることはなかった。
聞く	やりとりの中で聞くことは良くできているが、一方的に音声を聞くだけの授業では、学生の集中力等の問題で難しいと感じた。
読む	短い文は比較的よく読めていた。長い文章を読むのは、やり方に工夫が必要かもしれない。
書く	オンライン教育では書くことが、教育効果を一番感じづらい部分だと思う。こちら側の教え方の工夫等、検討の余地が多分にある。
日本事情・日本理解	今回はいただいた動画で実施したので、助かったが、これを自前で用意するとなると、かなりの労力になるのではと思った。しかし、学生もこうした授業があることで、学習のモチベーションが下がらないようにも思えるので、今後独自にオンライン授業を展開する際は、なんとか自作してやってみたいと思う。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	本事業の前に、学校で独自にオンライン授業を積み重ねてきており、経験とノウハウがあるので、特段今回担当した講師にむけて研修等は実施しなかった。
話す（発表）	本事業の前に、学校で独自にオンライン授業を積み重ねてきており、経験とノウハウがあるので、特段今回担当した講師にむけて研修等は実施しなかった。
聞く	本事業の前に、学校で独自にオンライン授業を積み重ねてきており、経験とノウハウがあるので、特段今回担当した講師にむけて研修等は実施しなかった。
読む	本事業の前に、学校で独自にオンライン授業を積み重ねてきており、経験とノウハウがあるので、特段今回担当した講師にむけて研修等は実施しなかった。
書く	本事業の前に、学校で独自にオンライン授業を積み重ねてきており、経験とノウハウがあるので、特段今回担当した講師にむけて研修等は実施しなかった。
日本事情・日本理解	この部分はまったく新しい教材を使用したもので、授業前に担当講師で打ち合わせをしてどのように授業を進めていくか意見を出し合った。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

010-1：上尾国際教育センター（AIEC）

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レ ベ ル		モ デ ル					モ デ ル 外		事前テスト		事後テスト		事前テスト		事後テスト		成長幅（単 位：ポイン ト）	
												事前の点数 （生徒合 計）		事後の点数 （生徒合 計）		テスト満点 正答率（生 徒合計）		テスト満点 正答率（生 徒合計）		
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	計	回答者数	計	回答者数	計		回答者数
010-1	上尾国際教育センター_モデル 1（A1）_7/27-10/4	○					○						594	4	724	4	230	64.6%	78.7%	14

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル1 (3か月)
区分	オンラインのみ
1.授業のレベル	A1
2.授業のコース	進学
3-1.授業の実施期間 (開始)	2022/7/25
3-2.授業の実施期間 (終了)	2022/10/4
4.授業の学習時間	50
5.学生の授業への参加率	98
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	職務経験20年 (法務省告示基準第一条十三のハ)
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	職務経験5.5年 (法務省告示基準第一条十三の二)
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	女性
6-3.担当された先生③使用言語	日本語
6-3.担当された先生③スキル	職務経験12年 (法務省告示基準第一条十三のハ)
7.実施した言語活動	話す (やりとり) 話す (発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	PC (LIFEBLOCK WA3/F3) 内臓マイク・スピーカー
10.使用した映像 (カメラ) 機	PC (LIFEBLOCK WA3/F3) 内臓カメラ
11.使用したファイル形式 (パワーポイント、PDF等)	PPT, MP4, PDF, DOC
12.撮影をした場所	普段の教室

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	自分と他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人情報について、質問をしたり、答えたりできるようにする。
話す（発表）	非常に短い、準備して練習した言葉を読み上げることができる。どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などについて、簡単な語句や文を使って表現できる。
聞く	教室や日常生活の中でもよく出会う場面で、ゆっくり話される短い会話であれば、必要情報を聞き取ることができる。
読む	ひらがなやカタカナ、日常生活で用いられる基本的な漢字で書かれた定型的な語句や文章を読んで理解することができる。
書く	簡単な表現や文を単独に書くことができる。
日本事情・日本理解	日本の町や文化に親しみを覚えてもらう。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）
読む	オンライン（双方向のみ）
書く	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	動画に沿った文法シートで学んだ文章をもとに、会話を広げていき会話練習を行った。
話す（発表）	作文練習を通して、自分の経験や言いたいことを表現できるようにした。
聞く	動画の概要が理解でき、イントネーションやアクセントへの意識づけを促した。ナチュラルスピードでカタカナ語を含めたディクテーションを行うことで「聞く」能力を向上させた。
読む	動画に沿った語彙・文法を学習させ定着を図った。
書く	動画に関連した作文のテーマに必要な追加の語彙を教え、作文を構成する要素について動画の内容を復習した。この作文練習を通して、自分の経験や言いたいことを表現できるようにすることができた。
日本事情・日本理解	動画のテーマに関連する、日本の食べ物、地理や習慣などの情報を提供し、日本の知識と理解を促した。

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	会話シート
		レベル	A1
		内容	文法シートに関連した会話の練習
話す（発表）	使用した教材①	名称	作文シート
		レベル	A1
		内容	動画に関連したテーマの作文
聞く	使用した教材①	名称	動画教材
		レベル	A1
		内容	日本文化に興味を持たせることを主眼に置いた動画教材
読む	使用した教材①	名称	語彙シート・文法シート
		レベル	A1
		内容	動画に関連する語彙や文法
書く	使用した教材①	名称	作文シート
		レベル	A1
		内容	動画に関連したテーマの作文練習
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	動画教材＋関連する教材
		レベル	A1
		内容	日本文化に興味を持たせることを主眼に置いた動画教材

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	実証取組詳細の資料を基に実施した事業開始前のヒアリングにおいて「評価ツールを自校で準備する必要はない」との指導を受けている。自校において客観的な評価ツールを制作していないため主観での評価を行った。
話す（発表）	課されている「発表」の内容により主観的に評価した。
聞く	提供されたA1レベルチェックテスト。
読む	提供されたA1レベルチェックテスト、動詞グループ分けテスト、主観評価。
書く	提供されたA1レベルチェックテスト、主観評価。
日本事情・日本理解	主観評価。

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	前述の目標に対する主観評価。
話す（発表）	課されている「発表」の主観評価。
聞く	A1レベルチェックテスト結果。
読む	A1レベルチェックテスト結果・動詞グループ分けテスト結果。
書く	A1レベルチェックテスト結果・主観評価。
日本事情・日本理解	前述の目標に対する主観評価。

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	前述の目標に対して概ね到達しているか。
話す（発表）	課されている「発表」が目標に概ね到達しているか。
聞く	A1レベルチェックテストの結果が目標に到達しているか。
読む	同上。
書く	同上。
日本事情・日本理解	前述の目標に対して概ね到達しているか。

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	学習者に興味と関心を持たせることのできる動画内容であり、学習者に考えさせ発話させる機会を多く持たせることができた。学習者全員が活発に発言するようになり、全ての学習者が目標に到達できたと考える。全授業を通して「イントネーション」と「アクセント」を直すことの意識づけも行っていたため、発音にも大きな改善が見られた。
話す（発表）	動画に関連した作文練習を通して、積極的に自分の経験や言いたいことを表現できるようになった。
聞く	授業におけるディクテーションは、単語から始めてカタカナ語も使った短文まで実施した。ナチュラルスピードでも全員が聞き取れるようになっているため、学習者個々に向上し、設定した目標に到達していると考ええる。
読む	修了後テストの文字語彙の平均得点率は86%、文法は83%となっている。各学習者において語彙、助詞、動詞の活用など正しく定着されている。参加した学習者全てが目標に到達している。
書く	作文シートを活用し適宜実施したが、書くことに慣れていないため非常に時間を要し、限られた時間内では他の技能に比べ効果的な学習を提供することが困難であったと感じる。修了後テストのディクテーションも書くことに関する課題があり、点数が低くなっていると考ええる。
日本事情・日本理解	動画の話題に関連させて日本事情を理解させ、楽しく有意義な授業が遂行できた。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	その他
話す（発表）	その他
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	適切なカリキュラムの設定
書く	機器等のコスト
日本事情・日本理解	適切なカリキュラムの設定

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	オンライン学習者は他の学習者と助け合って日本語能力を伸ばすという高め合う環境にないため、これを活発化させるクラスコントロールが必要。 また、今回の学習者数は4名であり期待した成果が得られたが、より多い学習者が受講する環境において、どのように個々に話す機会を与えるかは課題となる。
話す（発表）	特になし。
聞く	通信環境を安定化させることが必須。
読む	オンライン授業の質は、予め準備する教材と学習者への教材の見せ方にも依存する。提供されたパワーポイントでは足りないため、新たに多くのスライドを追加する必要がある。
書く	インタラクティブホワイトボードなどがあれば、より楽しく書く授業に取り組むことができ、活性化が図られたと思う。
日本事情・日本理解	特になし。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	学習者同士での会話練習やコミュニケーション活動を取り入れ会話能力の向上に努めた。
話す（発表）	学習者の関心のある話題を調査し、学習動画と関連づけて発表させた。
聞く	語彙の導入時にはカタカナの発音が悪い状況であったが、ディクテーションを継続して取り入れて発音の改善にも努めた。
読む	新たなスライドを追加し、予め全ての教材をパワーポイントに貼り付け、答えもアニメーション機能を使って準備した。
書く	特になし。
日本事情・日本理解	日本事情を理解させる際には、教員は学習者の国の文化や習慣にも触れ、学習者が積極的に参加できる状況を作った。また、授業後の学生コンサルにおいても、日本の生活事情など学習者からの疑問・質問に対応するサポートを実施した。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

010-2：上尾国際教育センター（AIEC）

授業ID	日本語教育機関・モデル名											事前テスト 事後テスト 成長幅（単位：ポイント）														
		レベル					モデル					モデル外					事前テスト 事前の点数（生徒合計）		事後テスト 事後の点数（生徒合計）		テスト満点		正答率（生徒合計）		正答率（生徒合計）	
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	計	回答者数	計	回答者数	計	回答者数	計	回答者数	計	回答者数	計	回答者数	事後
010-2	上尾国際教育センター_モデル4 (A1)_10/11-12/23	○									○			329	8	459	8	8	100	41.1%	57.4%			16		

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル4（3か月）
区分	ハイフレックス型
1.授業のレベル	A1
2.授業のコース	進学
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/10/11
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/12/23
4.授業の学習時間	150
5.学生の授業への参加率	92
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	職務経験20年（法務省告示基準第一条十三のハ）
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	職務経験12年（法務省告示基準第一条十三のハ）
7.実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	プロジェクター（授業用 PJ-WX4153）内臓スピーカー、プロジェク ター（オンライン学生表示用 NP-UM351WJL）内臓スピーカー、カメラ 内蔵マイク（FF931）
10.使用した映像（カメラ）機	SPEDAL FF931
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	PDF, PPT, DOC, XLS
12.撮影をした場所	普通の教室

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	人や場所について、単純な字句を並べて、述べるができる。簡単な方法でやり取りができるが、ゆっくりとした繰り返し、言い換え、修正に全般的に頼って、コミュニケーションができる。簡単な質疑応答ができ、すぐに回答が必要な事柄やごく身近な話題については、話も始められ、応答もできる。
話す（発表）	非常に短い、準備して練習した言葉を読み上げることができる。どこに住んでいるか、知っている人たち等について、簡単な語句や文を使って表現できる。
聞く	意味がとれるように間を長くおきながら、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる。教室や身の回りなど日常生活の中でもよく出会う場面で、ゆっくり話される短い会話であれば、必要情報を聞き取ることができる。
読む	ひらがなやカタカナ、日常生活で用いられる基本的な漢字で書かれた定型的な語句や文章を読んで理解することができる。
書く	簡単な表現や文を単独に書くことができる。
日本事情・日本理解	現代日本を理解できる。生活における買い物や交通、地理においては国土と都市、日本社会における食物や住居などが理解できる。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	ハイレックス型
話す（発表）	ハイレックス型
聞く	ハイレックス型
読む	ハイレックス型
書く	ハイレックス型
日本事情・日本理解	ハイレックス型

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	総合教科書（みんなの日本語初級1）の学習項目に沿い、導入した文型の口頭練習、場面におけるパターン会話の練習を実施した。さらに、オンライン学習者と対面学習者でペアを作り、関連語彙を導入して会話を膨らませたロープレイによるコミュニケーション活動も取り入れた。教員は、イントネーションやアクセントにも重きを置いた指導を実施した。
話す（発表）	作文を利用し、発表形式で実施した。
聞く	総合教科書（みんなの日本語初級1）の学習項目に沿ったディクテーションを行った。課末問題を利用して、概要が理解でき、さらに細部まで日本語が聞き取れるよう指導を行った。
読む	総合教科書（みんなの日本語初級1）の学習項目に沿い、導入した文型例文の口頭練習と同時に、課末問題を利用して、意味を理解し読む練習を実施した。（新出語彙の意味を調べることは宿題とし、授業においては語彙の意味確認と発音の指導を実施）
書く	総合教科書（みんなの日本語初級1）の学習項目に沿ってディクテーションを実施。作文に関しては、モデル作文を提示し、学習者がこれに沿って文を組み立てることができるような方法を用いた作文授業をスポットで入れた。
日本事情・日本理解	総合教科書（みんなの日本語初級1）の学習項目に沿った会話例から、日本事情につながる話題を抽出し、その理解を促した。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級1 第2版 本冊
		レベル	A1
		内容	総合教科書（初級前半）
話す（発表）	使用した教材①	名称	作文教材（オリジナル）
		レベル	A1
		内容	提示されたモデル作文に沿って、学習者が作文を構成できるような教材。
聞く	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級1 第2版 本冊
		レベル	A1
		内容	総合教科書（初級前半）
読む	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級1 第2版 本冊
		レベル	A1
		内容	総合教科書（初級前半）
書く	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級1 第2版 本冊
		レベル	A1
		内容	総合教科書（初級前半）
	使用した教材②	名称	みんなの日本語初級1 第2版 漢字
		レベル	A1
		内容	漢字学習教材
	使用した教材③	名称	みんなの日本語初級1 第2版 書いて覚える文型練習帳
		レベル	A1
		内容	語彙や文法項目学習教材
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級1 第2版 本冊
		レベル	A1
		内容	総合教科書（初級前半）

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	初級1 会話試験（A1相当）
話す（発表）	初級1 会話試験（A1相当）
聞く	N5模試（A1相当）
読む	初級1 試験（N5/A1相当）、N5 模試（A1相当）
書く	初級1 試験（N5/A1相当）
日本事情・日本理解	日本事情の評価はしていない。

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標

話す（やりとり）	初級1 会話試験合格
話す（発表）	初級1 会話試験合格
聞く	N5模試合格
読む	初級1 試験合格、N5模試合格
書く	初級1 試験合格
日本事情・日本理解	日本事情の評価はしていない。

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	前述のコース目標に対して、概ね到達しているか否かを試験により判断する。
話す（発表）	同上。
聞く	同上。
読む	同上。
書く	同上。
日本事情・日本理解	日本事情の評価はしていない。

各日本語教育機関の実施結果

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	0 初級クラスにおいては各学習者の個人的学習経験や生活経験により、個々の日本語能力に差がある。0 初級から初級1（N5/A1相当の修得が目標）という最も基礎的な日本語レベルの学習課程においては、学習終了後にN5/A1相当に到達しているか否かにより各学習者の成果を計ることとした。総合教科書を使用し、総合的に日本語能力を評価しているため、各技能に分けて学習成果を計ることは難しい側面もあるが、本事業の要求でもあることから敢えて技能に分けた評価を実施した。また、全体的な成果評価のために、オンライン学習者と対面学習者の標準偏差を算出し差異を検討した。（他の技能に関しても同様の評価を実施） 「話す」技能に関しては、オンライン学習者の習得が難しくなると考えていた。しかしA1相当に到達（合格）したオンライン学習者は87.5%（標準偏差17.8）、対面学習者は100%（標準偏差4.7）であり、大きな差が生じていない。クラス構成はオンライン学習者8名、対面学習者4名の計12名になっており、ハイフレックス授業においては、この人数が学習成果に影響を与える要因の一つと考える。
話す（発表）	発表に関する評価はしていないが、単文と簡単な複文による作文授業に関連した発表活動を行っており、この技能の養成に十分役立っている。
聞く	「聞く」技能に関してA1相当に到達（合格）したオンライン学習者は50%、対面学習者も50%であった。また、対面学習者11.5の標準偏差に対して、オンライン学習者は13.3と同等の分布となっている。オンライン学習者の標準偏差13.3は全技能の中で最も小さな値であり、オンライン授業下においては「聞く」ことに注力しているため「聞く」能力は自ずと養われている。
読む	「読む」技能に関してA1相当に到達（合格）したオンライン学習者は75%（標準偏差22.7）、対面学習者は100%（標準偏差18.1）であった。オンライン学習者の標準偏差22.7は、全技能において最も大きな値であり、オンライン学習者間での習熟差が出る結果となった。 また、初級1試験の合格率は、オンライン学習者が50%（標準偏差17.8）、対面学習者は75%（標準偏差9.2）であった。 オンライン学習者は各課の学習項目が復習できる動画も見ていたが、定着は不十分であり、カリキュラムや授業手法の改善が必要と考える。
書く	作文試験は実施していないが、初級1試験において「書く」技能も含まれているため、上記の結果が参考となる。
日本事情・日本理解	時間的制約があり、日本事情としての授業は実施しなかったが、総合教科書の会話において、日本文化や地理、習慣などに関連する話題を抽出し、日本に関する知識と理解を促した。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	適切なカリキュラムの設定
話す（発表）	その他
聞く	その他
読む	適切なカリキュラムの設定
書く	適切なカリキュラムの設定
日本事情・日本理解	その他

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	「話す」技能に関して、A1相当に到達（合格）したオンライン学習者は87.5%（標準偏差17.8）、対面学習者は100%（標準偏差4.7）であり、オンライン学習者の「話す」技能は予想に反して良好な結果を得ている。クラスにおけるオンライン受講者の割合が2/3であることから、コミュニケーション活動に注力したことで、話す能力が向上したと考えられる。 しかし、既定課程の学習時間は限られているため、他の技能の学習時間を削減したことになり、バランスを考慮したカリキュラムを検討する必要がある。
話す（発表）	発表にも適応できる作文授業は非常に効果的であるため、今後も継続したいと思う。
聞く	オンライン教育上の「聞く」技能は、他の技能に比べ標準偏差が適切であり、良好な指導が遂行できたと考える。 しかし、各学習者のWi-Fi通信速度が安定せず通信が途絶えたことも多々あり、受講者側での安定した通信環境の確保が必要であると感じた。
読む	今回実施した初級1のカリキュラムは、既定の対面授業のカリキュラムをハイフレックス授業に適用したものであった。 しかし「読む」技能は、他の技能に比べ良好な学習成果が得られなかった。N5模試の文字語彙・文法・読解は、1名を除いて合格点には達しているが、得点率は60%であった。通常は80%以上の得点率であることから、理解習得が不十分でありコミュニケーション活動に注力した影響が出ていると感じる。
書く	初級1の習熟度を測る試験は、「文字語彙」「文法」の知識を含めて「読む」「書く」を総合的に評価する試験であるが、期待する点数に到達したオンライン学習者は半数であった。上記同様の影響があったと思う。 毎日のディクテーションにより聞いて書く練習を重ね、スポットの授業による作文練習の取り組みから、書くこと自体への関心は高まった。
日本事情・日本理解	日本事情のための授業は、時間的制約から設けていない。しかし会話の話題内容に応じて、日本の地理や生活、習慣などに関して予め準備した写真等で解説し、学習者への理解に努めた。初級全体のカリキュラムを通して、どの部分で日本事情・日本理解を組み込み系統的に構築していくのかは、引き続き柔軟に対応したいと思う。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	全ての技能に通じることはあるが、オンライン学習者は他の受講者と助け合って日本語能力を伸ばすという高め合う環境にないため、会話練習やコミュニケーション活動においては教員がオンライン学習者を優先するよう努めた。 またオフライン下においても発話機会を与えるために、復習動画においてインタラクティブ風な練習を取り入れた。
話す（発表）	作文の授業を、「話す（発表）」に適応させた。
聞く	出席管理及び学生管理のため事務職員1名が授業に参加した。管理上問題がある場合はチャットやメールでオンライン学習者と個別にコミュニケーションを取っていた。管理業務だけではなく、例えば学習者が聞き取れない場合にもチャットで個別にコミュニケーションを取り、学習者へのサポートを実施した。
読む	同上。
書く	毎日のディクテーションにより練習を重ね、書くことへの関心を高めた。
日本事情・日本理解	授業後の学生コンサルにおいて、日本の生活事情など学習者からの質問に対応した。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

011-1：浦和国際教育センター

授業ID	日本語教育機関・モデル名											事前テスト 事後テスト 成長幅(単位:ポイント)											
		レベル					モデル					事前テスト		事後テスト		テスト満点		正答率(生徒合計)		事後テスト		成長幅(単位:ポイント)	
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	事前の点数 (生徒合計)	回答者数	事後の点数 (生徒合計)	回答者数	事前の満点	事後の満点	事前の正答率	事後の正答率	事前の成長幅	事後の成長幅
011-1	浦和国際教育センター_モデル1 (A1) _7/25-9/22	○					○						675	5	890	5	230	58.7%	77.4%			19	

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル1 (3か月)
区分	オンラインのみ
1.授業のレベル	A1
2.授業のコース	進学
3-1.授業の実施期間 (開始)	2022/7/25
3-2.授業の実施期間 (終了)	2022/9/22
4.授業の学習時間	50
5.学生の授業への参加率	80
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	職務経験 5 年 (法務省告示基準第一条十三の二)
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	職務経験 2 年 (法務省告示基準第一条十三のイ)
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	男性
6-3.担当された先生③使用言語	日本語
6-3.担当された先生③スキル	職務経験 3 年 (法務省告示基準第一条十三の二)
7.実施した言語活動	話す (やりとり) 話す (発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	PC (LIFEBOOK WA3/F3) 内臓マイク・スピーカー
10.使用した映像 (カメラ) 機	PC (LIFEBOOK WA3/F3) 内臓カメラ
11.使用したファイル形式 (パワーポイント、PDF等)	PPT, MP4, PDF, DOC
12.撮影をした場所	普段の教室

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	自分と他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人情報について、質問をしたり、答えたりできるようにする。
話す（発表）	非常に短い、準備して練習した言葉を読み上げることができる。どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などについて、簡単な語句や文を使って表現できる。
聞く	教室や日常生活の中でもよく出会う場面で、ゆっくり話される短い会話であれば、必要情報を聞き取ることができる。
読む	ひらがなやカタカナ、日常生活で用いられる基本的な漢字で書かれた定型的な語句や文章を読んで理解することができる。
書く	簡単な表現や文を単独に書くことができる。
日本事情・日本理解	日本の町や文化に親しみを感じてもらう。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）
読む	オンライン（双方向のみ）
書く	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	動画に沿った文法シートで学んだ文章をもとに、会話を広げていき、会話練習を行う。
話す（発表）	作文練習を通して、自分の経験や言いたいことを表現できるようにする。
聞く	動画の概要が理解でき、イントネーションやアクセントへの意識づけを促す。ナチュラルスピードでカタカナ語を含めたディクテーションを行うことで「聞く」能力を向上させる。
読む	動画に沿った語彙・文法を学習させ、定着を図る。
書く	動画に関連した作文のテーマに必要な追加の語彙を教え、作文を構成する要素について、動画の内容を復習する。この作文練習を通して、自分の経験や言いたいことを表現できるようにすることも目的とする。
日本事情・日本理解	動画のテーマに関連する、日本の食べ物、地理や習慣などの情報を提供し、日本の知識と理解を促す。

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	会話シート
		レベル	A1
		内容	文法シートに関連した会話の練習
話す（発表）	使用した教材①	名称	作文シート
		レベル	A1
		内容	動画に関連したテーマの作文
聞く	使用した教材①	名称	動画教材
		レベル	A1
		内容	日本文化に興味を持たせることを主眼に置いた動画教材
読む	使用した教材①	名称	語彙シート・文法シート
		レベル	A1
		内容	動画に関連する語彙や文法
書く	使用した教材①	名称	作文シート
		レベル	A1
		内容	動画に関連したテーマの作文練習
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	動画教材＋関連する教材
		レベル	A1
		内容	日本文化に興味を持たせることを主眼に置いた動画教材

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	実証取組詳細の資料を基に実施した事業開始前のヒアリングにおいて「評価ツールを自校で準備する必要はない」との指導を受けている。自校において客観的な評価ツールを制作していないため主観での評価を行った。
話す（発表）	課されている「発表」の内容により評価する。
聞く	提供されたA1レベルチェックテスト。
読む	提供されたA1レベルチェックテスト、動詞グループ分けテスト。
書く	主観評価。
日本事情・日本理解	主観評価。

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	前述の目標に対する主観評価。
話す（発表）	課されている「発表」の主観評価。
聞く	A1レベルチェックテスト結果。
読む	A1レベルチェックテスト結果・動詞グループ分けテスト結果。
書く	前述の目標に対する主観評価。
日本事情・日本理解	前述の目標に対する主観評価。

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	前述の目標に対して概ね到達しているか否かを主観的に判断する。
話す（発表）	課されている「発表」内容が目標に概ね到達しているか否かにより判断する。
聞く	A1レベルチェックテストの結果が、目標に到達しているかにより判断する。
読む	同上。
書く	前述の目標に対して概ね到達しているか否かを主観的に判断する。
日本事情・日本理解	前述の目標に対して概ね到達しているか否かを主観的に判断する。

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	学習者に興味と関心を持たせることのできる動画内容であり、学習者に考えさせ発話させる機会を多く持たせることができた。最初は無言あるいは単語だけの応答であった学習者も、少しずつ文で答えられるようになり、全ての学習者が目標に到達できたと考える。全授業を通して「イントネーション」と「アクセント」を正すことの意識づけも行っていたため、発音に大きな改善が見られた。
話す（発表）	動画に関連した作文練習を通して、自分の経験や言いたいことを表現できるようになった。
聞く	授業におけるディクテーションは、単語から始めてカタカナ語も使った短文まで実施した。ナチュラルスピードでも全員が聞き取れるようになっているため、設定した目標に到達していると考えられる。 しかし、修了後テストにおけるディクテーションは、1名の学習者は満点であったが、他の学生の得点率は65%、35%、0%、0%で、文字語彙・文法に比べ低い数字となっている。
読む	修了後テストの文字語彙の平均得点率は87%、文法は83%となっている。語彙が増え、正しい助詞や動詞の活用に関する向上が見られた。ます形を多用して文を言っていた学生が、て形を使って活用を間違えずに文を言えるようになっており、参加した5名の学習全てが目標に到達している。
書く	作文シートを活用し適宜実施したが、書くことに慣れていないため非常に時間を要し、限られた時間内では他の技能に比べ効果的な学習を提供することが困難であったと感じる。
日本事情・日本理解	動画の話題に関連させて日本事情を理解させられるため有意義な授業が実施できた。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	その他
話す（発表）	その他
聞く	その他
読む	適切なカリキュラムの設定
書く	適切なカリキュラムの設定
日本事情・日本理解	その他

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	オンライン学習者は他の学習者と助け合って日本語能力を伸ばすという高め合う環境がない。
話す（発表）	特になし。
聞く	修了後テストにおけるディクテーションは、1名の学習者は満点であったが、他の学生の得点率は65%、35%、0%、0%で、文字語彙・文法に比べ低い数字となっているが、これは文字変換におけるタイピングに問題があった。タイピングではなく、紙に書いてメールで送ってもらった方が良かったとも思うが、学習者個々に実施するオンラインテストではそのコントロールが難しい。
読む	提供されたパワーポイントに加え、新たにスライドを追加する必要があった。
書く	時間的制限から宿題として課す。
日本事情・日本理解	特になし。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	学習者同士での会話練習やコミュニカティブ活動を取り入れ会話能力の向上に努めた。
話す（発表）	特になし。
聞く	語彙の導入時にはカタカナの発音が悪い状況であったが、ディクテーションを継続して取り入れて発音の改善に努めた。
読む	新たなスライドを追加し、予め全ての教材をパワーポイントに貼り付け、答えもアニメーション機能を使って準備した。さらに語彙が入っていない学生のために全ての語彙に訳を付け、よりスムーズな授業の遂行を学習者に提供した。
書く	特になし。
日本事情・日本理解	日本事情を理解させる際には、教員は学習者の国の文化や習慣にも触れ、学習者が積極的に参加できる状況を作った。また、授業後の学生コンサルにおいても、日本の生活事情など学習者からの疑問・質問に対応するサポートを実施した。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

011-2：浦和国際教育センター

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レ ベ ル		モ デ ル					モ デ ル 外					事前テスト		事後テスト		テスト満点	事前テスト 正答率 (生 徒合計)	事後テスト 正答率 (生 徒合計)	成長幅 (単 位: ポイン ト)
														事前の点数 (生徒合 計)	回答者数	事後の点数 (生徒合 計)	回答者数				
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2								
011-2	浦和国際教育センター_モデル 4 (A1) _10/11-12/23	○									○			259	7	264	7	100	37.0%	37.7%	1

■ 基本情報

項目	内容
授業ID	011-2
機関名	浦和国際教育センター
ステータス	登録済
ご報告者名	秋本秀樹
実証取組モデル	実証取組モデル4 (3か月)
区分	ハイフレックス型
1. 授業のレベル	A1
2. 授業のコース	進学
3-1. 授業の実施期間 (開始)	2022/10/11
3-2. 授業の実施期間 (終了)	2022/12/23
4. 授業の学習時間	150
5. 学生の授業への参加率	84
6-1. 担当された先生①氏名	池田実央
6-1. 担当された先生①居住国	日本
6-1. 担当された先生①性別	女性
6-1. 担当された先生①使用言語	日本語
6-1. 担当された先生①スキル	職務経験 5 年 (法務省告示基準第一条十三の二)
6-2. 担当された先生②氏名	齋藤菜々花
6-2. 担当された先生②居住国	日本
6-2. 担当された先生②性別	女性
6-2. 担当された先生②使用言語	日本語
6-2. 担当された先生②スキル	職務経験 2 年 (法務省告示基準第一条十三のイ)
6-3. 担当された先生③氏名	立石健介
6-3. 担当された先生③居住国	日本
6-3. 担当された先生③性別	男性
6-3. 担当された先生③使用言語	日本語
6-3. 担当された先生③スキル	職務経験 3 年 (法務省告示基準第一条十三の二)
7. 実施した言語活動	話す (やりとり) 話す (発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解
8. 使用したオンライン会議ツール	Zoom
9. 使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	プロジェクター (授業用 CP-TW3005) 内蔵スピーカー, プロジェクター (オンライン学生表示用 EB-585W) 内蔵スピーカー, カメラ内蔵マイク (FF931)
10. 使用した映像 (カメラ) 機	SPEDAL FF931
11. 使用したファイル形式 (パワーポイント、PDF等)	PDF, PPT, DOC, XLS
12. 撮影をした場所	普通の教室

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	人や場所について、単純な字句を並べて、述べるができる。簡単な方法でやり取りができるが、ゆっくりとした繰り返し、言い換え、修正に全般的に頼って、コミュニケーションができる。簡単な質疑応答ができ、すぐに回答が必要な事柄やごく身近な話題については、話も始められ、応答もできる。
話す（発表）	非常に短い、準備して練習した言葉を読み上げることができる。どこに住んでいるか、知っている人たち等について、簡単な語句や文を使って表現できる。
聞く	意味がとれるように間を長くおきながら、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえば、発話を理解できる。教室や身の回りなど日常生活の中でもよく出会う場面で、ゆっくり話される短い会話であれば、必要情報を聞き取ることができる。
読む	ひらがなやカタカナ、日常生活で用いられる基本的な漢字で書かれた定型的な語句や文章を読んで理解することができる。
書く	簡単な表現や文を単独に書くことができる。
日本事情・日本理解	現代日本を理解できる。生活における買い物や交通、地理においては国土と都市、日本社会における食物や住居などが理解できる。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	ハイフレックス型
話す（発表）	ハイフレックス型
聞く	ハイフレックス型
読む	ハイフレックス型
書く	ハイフレックス型
日本事情・日本理解	ハイフレックス型

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	授業の最初に、口慣らしの目的も兼ねて「楽しく話そう（オリジナル）」を使用し、ごく身近な話題に関する短い会話練習を毎回実施した。
話す（発表）	総合教科書（みんなの日本語初級1）の学習項目に沿い、導入した文型の口頭練習、場面におけるパターン会話の練習を実施した。さらに、オンライン学習者と対面学習者でペアを作り、関連語彙を導入して会話を膨らませたロープレイによるコミュニケーション活動も取り入れた。教員は、イントネーションやアクセントにも重きを置いた指導を実施した。
聞く	作文教材（オリジナル）を使用した授業（2日に1回）の翌日に、作文を暗記あるいは見ながら発表する練習を順次実施した。
読む	総合教科書（みんなの日本語初級1）の学習項目に沿って聴解タスクを使用し、概要が理解でき、さらに細部まで日本語が聞き取れるよう指導を行った。
書く	総合教科書（みんなの日本語初級1）の学習項目に沿い、導入した文型例文の口頭練習と同時に、意味を理解し読む練習を実施した。（新出語彙の意味を調べることは宿題とし、授業においては語彙の意味確認と発音の指導を実施）
日本事情・日本理解	また、読むことに慣れ、読む力を養うためにトピック25を宿題とし、授業においては内容を理解して読めたかの確認を行った。
	総合教科書（みんなの日本語初級1）の学習項目に沿い、聴解タスクを使ったディクテーションを実施。また、作文教材（オリジナル）を使用し、25回（2日に1回）の作文授業を実施し、内容に関する添削は翌日の授業で行った。
	宿題としたトピック25で取りあげられている話題や、楽しい会話の話題に関して、日本事情という側面からの知識として、学習者に解説し理解を促す活動を行った。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級1 第2版 本冊
		レベル	A1
		内容	総合教科書（初級前半）
	使用した教材②	名称	楽しく話そう（オリジナル）
		レベル	A1
		内容	身近な話題に基づく短い会話の教材
話す（発表）	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級1 第2版 本冊
		レベル	A1
		内容	総合教科書（初級前半）
	使用した教材②	名称	楽しく話そう（オリジナル）
		レベル	A1
		内容	身近な話題に基づく短い会話の教材
聞く	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級1 第2版 本冊
		レベル	A1
		内容	総合教科書（初級前半）
	使用した教材②	名称	聴解タスク2 5（音声）
		レベル	A1
		内容	聴解教材（初級前半）
読む	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級1 第2版 本冊
		レベル	A1
		内容	総合教科書（初級前半）
	使用した教材②	名称	トピック2 5
		レベル	A1
		内容	内容に日本事情も含まれる読む教材（初級前半）
書く	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級1 第2版 本冊
		レベル	A1
		内容	総合教科書（初級前半）
	使用した教材②	名称	漢字練習帳
		レベル	A1
		内容	漢字学習用（初級前半）
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	トピック2 5
		レベル	A1
		内容	内容に日本事情も含まれる読む教材（初級前半）
	使用した教材②	名称	写真等
		レベル	A1
		内容	日本事情に関連する写真等

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	初級1 会話試験（A1相当）
話す（発表）	初級1 会話試験（A1相当）
聞く	N5模試（A1相当）
読む	初級1 試験（N5/A1相当），N5 模試（A1相当），音読試験
書く	初級1 試験（A1相当），作文試験
日本事情・日本理解	日本事情の評価はしていない。

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	初級1 会話試験合格
話す（発表）	初級1 会話試験合格
聞く	N5模試合格
読む	初級1 試験合格, N5模試合格, 音読試験合格
書く	初級1 試験合格, 作文試験合格
日本事情・日本理解	日本事情の評価はしていない。

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	前述のコース目標に対して、概ね到達しているか否かを試験で判断する。
話す（発表）	同上
聞く	同上
読む	同上
書く	同上
日本事情・日本理解	日本事情の評価はしていない。

各日本語教育機関の実施結果

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	0 初級クラスにおいては各学習者の個人的学習経験や生活経験により、個々の日本語能力に差がある。0 初級から初級1（N5/A1相当の修得が目標）という最も基礎的な日本語レベルの学習課程においては、各学習者の成果を計る基準として学習前後の差の比較にはあまり意味がなく、学習終了後にN5/A1相当に到達しているか否かにより各学習者の成果を計ることとした。総合教科書を使用し、総合的に日本語能力を評価しているため、各技能に分けて学習成果を計ることは難しい側面もあるが、本事業の要求でもあることから敢えて技能に分けた評価を実施した。また、全体的な成果評価のために、オンライン学習者と対面学習者の標準偏差を算出し差異を検討した。（他の技能に関しても同様の評価を実施） 「話す」技能に関して、A1 相当に到達（合格）したオンライン学習者は42.9%、対面学習者は89.5%であった。「話す」技能は、対面との差が大きい技能の一つとなった。対面学習者の標準偏差15.1に対して、オンライン学習者は32.9と非常に大きな値となっており、「話す」という技能の指導方法に課題を残した。
話す（発表）	発表に関する評価はしていないが、単文と簡単な複文による作文授業に関連した発表はこの技能の養成に十分役立っていると考え。
聞く	「聞く」技能に関してA1相当に到達（合格）したオンライン学習者は57.1%、対面学習者は100%であった。また、対面学習者9.0の標準偏差に対して、オンライン学習者は17.0となっている。オンライン学習者で目標に到達した割合は対面に比べ低い数字となっているが、オンライン学習者の標準偏差17.0は全技能の中で最も小さな値であったオンライン授業下における学習者は「聞く」ことに注力しているため、「聞く」能力は自ずと養われてきたこともあるが、指導による学習成果は十分あったと判断できる。
読む	「読む」技能に関してA1相当に到達（合格）したオンライン学習者は57.1%、対面学習者は100%であった。「読む」「聞く」を総合的に評価するN5模試の合格率もこれと同じとなる。 標準偏差は対面学習者10.8に対して、オンライン学習者は38.5となっており、「話す」技能と同じく大きな差がある結果となってしまった。 進学コース中級以降では読解力の差が日本語能力の差に直結するため、初級段階の短い文章から読むことに慣れる必要がある。中級以降では読解授業の時間を設けているが、初級では時間的な制約から、読むことに関しては宿題での対応も多くなり各学習者の取り組み方に依存してしまう。オンライン学習者には、各課の学習項目が復習できる動画も見てもらっていたが、その定着は不十分であった。カリキュラムや授業手法の改善が必要と考える。
書く	「書く」技能に関してA1相当に到達（合格）したオンライン学習者は100%、対面学習者は73.7%であった。標準偏差は対面学習者14.4に対して、オンライン学習者は13.3となっている。2 日ごとに実施していた作文はオンライン・対面共に効果があったと考える。一方、初級1の習熟度を測る試験は、「文字語彙」「文法」の知識を含めて「読む」「書く」を総合的に評価する試験であるが、この試験の合格率と標準偏差は、オンライン学習者が28.6%で30.3、対面学習者が73.7%で22.9となっており、オンライン学習者の合格率が最も低い試験であり点数のばらつきも大きい。
日本事情・日本理解	時間的制約があり、日本事情としての授業は実施しなかったが、楽しい会話（オリジナル教材）や読む授業（トピック25）において、日本の文化や日本の地理、習慣などに焦点を当て日本に関する知識と理解を促した。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	その他
話す（発表）	その他
聞く	適切なカリキュラムの設定
読む	その他
書く	適切なカリキュラムの設定
日本事情・日本理解	適切なカリキュラムの設定

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	「話す」技能に関して、A1 相当に到達（合格）したオンライン学習者は42.9%（標準偏差32.9）、対面学習者は89.5%（標準偏差15.1）であり、予測はしていたが「話す」技能は、対面との差が大きい技能の一つとなった。 この課題を解決するために、学習者同士のコミュニケーション活動をより多く実施したいが、進学コースの初級学習期間は6か月間であり、初級1は最長3か月間しか費やすことができず時間的な余裕がない。 オンライン学習者のための復習動画もインタラクティブ風に制作し、学習者の発話も促す内容としたが、「話す」という技能への効果としては不十分であった。オンライン学習者は、オフライン授業下でAI会話教材を使うなどし「話す」技能を補うことが、この課題を解決する方法の一つと考える。
話す（発表）	発表にも対応できる作文授業は非常に効果的であるため、今後も継続したいと思う。
聞く	オンライン教育上の「聞く」技能は、他の技能に比べ習得しやすかったと考える。 しかし、各学習者のWi-Fi通信速度が安定せず通信が途絶えたこと、また、受講環境が自宅であることから早朝の家畜の鳴き声や交通騒音もあり、コミュニケーションの遮断も度々あった。受講者側での安定した通信環境の確保は必須条件だが、国際VPN等の検討も必要であると感じた。
読む	今回実施した初級1のカリキュラムは、既定の対面授業のカリキュラムをハイフレックス授業に適用したものであったが、PPTでの補助教材もアニメーション化し板書の時間を短縮し、オンライン学習者のために工夫を加えた。 しかし「読む」技能は、「話す」技能と同様に良好な学習成果が得られなかった。無論授業を通して「読む」技能も養ってはいるが、初級においては時間的制約により宿題での対応が多くなっている。 「読む」「話す」は対面学習者の成果には遠い状況であったが、作文を除くすべての技能の標準偏差も対面学習者に比べオンライン学習者の値が大きい結果となっている。学習者の目標到達率を上げ標準偏差を適切な値に近づけられれば、指導が効果的に遂行でき学習成果が上がったことになる。150時間/3か月という規定学習時間を維持し、より自主的にオンライン学習者が学習に取り組むために、オフラインにおける学習指導も含めた反転授業の要素を取り入れることも効果的と考え、今後の課題としたい。
書く	オンライン学習者の作文試験は全員が合格した。一方、初級1の習熟度を測る試験は、「文字語彙」「文法」の知識を含めて「読む」「書く」を総合的に評価する試験であるが、オンライン学習者の合格率が最も低い試験であった。 授業時、試験時ともオンライン受講者は顔を出すことを条件に出席計算を行っていたがオンライン学習者7名、対面学習者19名という状況において、個々のオンライン受講者の手元までの確認はできず、単文と簡単な複文でテーマに沿った文章を作る作文試験では翻訳機で安易に不正ができるため、その監視も課題となる。
日本事情・日本理解	日本事情のための授業時間は、時間的制約から取ってはいない。しかし会話や読解の話題内容に応じて、日本の地理や生活、習慣などに関して予め準備した写真等で解説し、学習者への理解に努めた。初級全体のカリキュラムを通して、どの部分で日本事情・日本理解を組み込み系統的に構築していくのかは、引き続き柔軟に対応したいと思う。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	全ての技能に通じることではあるが、オンライン学習者は他の受講者と助け合って日本語能力を伸ばすという高め合う環境にないため、会話練習やコミュニケーション活動においては教員がオンライン学習者を優先するよう努めた。 毎日の授業開始時には「楽しい会話（オリジナル）」の時間で口慣らしを実施し、「音読」を毎日継続することで積極的な発話につなげる取り組みを行った。 またオフライン下においても発話機会を与えるために、復習動画においてインタラクティブ風な練習を取り入れた。
話す（発表）	作文授業を、常時「話す（発表）」へと適応させた。
聞く	出席管理及び学生管理のため事務職員1名が常時授業に参加し、管理上問題がある場合はチャットやメールでオンライン学習者と個別にコミュニケーションを取っていた。管理業務だけではなく、例えば学習者が聞き取れない場合にもチャットでコミュニケーションを取り、学習者へのサポートを実施した。
読む	「聞く」同様に、事務職員からのサポートを実施した。 また、オンライン学習者、対面学習者問わず、何らかの理由により「読む」宿題が提出できない学生には、授業後の補講により宿題に取り組む機会を与えた。
書く	作文授業を毎日実施した。
日本事情・日本理解	授業後の学生コンサルにおいて学習以外にも、日本の生活事情など学習者からの質問に対応した。 作文授業は学習項目に沿った文法を使用して書くことが前提であるが、日本事情を踏まえたテーマを与えることで、日本事情・日本理解への関連付けを行った。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

012-1：与野学院日本語学校

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レ ベ ル		モ デ ル					モ デ ル 外		事前テスト		事後テスト		事前テスト		事後テスト		成長幅(単 位:ポイン ト)		
		事前テスト					事後テスト					テスト満点		正答率(生 徒合計)		正答率(生 徒合計)					
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	計	回答者数	計	回答者数	計	回答者数		
012-1	与野学院日本語学校_モデル4 (A1)_7/20-10/17	○									○			375	6	377	5	100	62.5%	75.4%	13

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル4 (3か月)
区分	ハイフレックス型
1.授業のレベル	A1
2.授業のコース	進学 就職 一般
3-1.授業の実施期間 (開始)	2022/7/20
3-2.授業の実施期間 (終了)	2022/10/14
4.授業の学習時間	175
5.学生の授業への参加率	80
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	特になし
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	特になし
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	女性
6-3.担当された先生③使用言語	日本語
6-3.担当された先生③スキル	特になし
6-4.担当された先生④居住国	日本
6-4.担当された先生④性別	女性
6-4.担当された先生④使用言語	日本語
6-4.担当された先生④スキル	特になし
7.実施した言語活動	話す(やりとり) 話す(発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材(スピーカー、マイク)	マイク:サンワサプライ
10.使用した映像(カメラ)機	スピーカー:教室のTV(東芝)をスピーカーとして利用
11.使用したファイル形式(パワーポイント、PDF等)	ロジクールC930e
12.撮影をした場所	Googleスライド、pdf、pptx
	普段の教室

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け船を出してくれるなら、簡単なやり取りをすることができる。直接必要なことやごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。
話す（発表）	どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。
聞く	はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
読む	例えば、掲示やポスター、カタログの中のよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
書く	新年の挨拶など短い簡単な葉書を書くことができる。 例えばホテルの宿帳に名前、国籍や住所といった個人のデータを書き込むことができる。
日本事情・日本理解	日本で生活するのに最低限必要なルールが理解できる。

●就職コース

話す（やりとり）	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け船を出してくれるなら、簡単なやり取りをすることができる。直接必要なことやごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。
話す（発表）	どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。
聞く	はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
読む	例えば、掲示やポスター、カタログの中のよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
書く	新年の挨拶など短い簡単な葉書を書くことができる。 例えばホテルの宿帳に名前、国籍や住所といった個人のデータを書き込むことができる。
日本事情・日本理解	日本で生活するのに最低限必要なルールが理解できる。

●生活コース

話す（やりとり）	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け船を出してくれるなら、簡単なやり取りをすることができる。直接必要なことやごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。
話す（発表）	どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。
聞く	はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
読む	例えば、掲示やポスター、カタログの中のよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
書く	新年の挨拶など短い簡単な葉書を書くことができる。 例えばホテルの宿帳に名前、国籍や住所といった個人のデータを書き込むことができる。
日本事情・日本理解	日本で生活するのに最低限必要なルールが理解できる。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	ハイレックス型
話す（発表）	ハイレックス型
聞く	ハイレックス型
読む	ハイレックス型
書く	ハイレックス型
日本事情・日本理解	ハイレックス型

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	口頭練習により習った文型を利用して自分のことが言えるようになるための授業内容
話す（発表）	短い分を並べて自分の身近なことについて発表するための授業内容
聞く	テキストを使用した聞き取りに慣れる授業内容
読む	テキストの短い文章を読んで質問に答え、読解に慣れる授業内容
書く	正しく表記でき、習った文法と言葉を使って書けるための授業内容
日本事情・日本理解	日本の生活習慣やルールを理解するための内容

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ本冊
		レベル	A1
		内容	テキスト、絵教材を使用した練習
話す（発表）	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ本冊
		レベル	A1
		内容	テキストを使用
聞く	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ聴解タスク25
		レベル	A1
		内容	テキスト、CD(聴解アプリ)を使用
	使用した教材②	名称	みんなの日本語初級Ⅰ本冊
		レベル	A1
		内容	テキスト、CDを使用
読む	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ本冊
		レベル	A1
		内容	テキストの問題を使用
書く	使用した教材①	名称	オリジナルテキスト
		レベル	A1
		内容	ひらがな、カタカナの表記
	使用した教材②	名称	みんなの日本語初級Ⅰ本冊
		レベル	A1
		内容	テキストを使用
	使用した教材③	名称	みんなの日本語初級Ⅰ漢字英語版/ベトナム語版
		レベル	A1
		内容	テキストを使用し、漢字の練習
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	オリジナル教材
		レベル	A1
		内容	オリジナルテキストを使用し日本の生活に適應するためのルール等を学ぶ

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	通常授業で評価
話す（発表）	発表試験
聞く	試験
読む	試験
書く	試験
日本事情・日本理解	評価なし

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	通常授業内の発表とスピーチテスト
話す（発表）	試験成績60%以上
聞く	試験成績60%以上
読む	試験成績60%以上
書く	試験成績60%以上
日本事情・日本理解	特になし

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	学習評価及び進級修了認定規程により設定
話す（発表）	学習評価及び進級修了認定規程により設定
聞く	学習評価及び進級修了認定規程により設定
読む	学習評価及び進級修了認定規程により設定
書く	学習評価及び進級修了認定規程により設定
日本事情・日本理解	特になし

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	特になし
話す（発表）	特になし
聞く	オンライン学生については、ネットワーク環境もあり、成果を正しく測るのが難しかった。
読む	特になし
書く	表記の過程が見られない
日本事情・日本理解	特になし

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	ネットワーク環境の整備
書く	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	適切なカリキュラムの設定

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	教師とオンライン学生のやり取りはいいが、学生同士のやり取りはお互いに慣れないとズレやストレスが生じる。
話す（発表）	特になし
聞く	ネットワーク環境に左右されずに聞く練習ができるよう改善できることが望ましい。
読む	特になし
書く	書いた物の内容はチェック出来るが、表記の過程がチェックできないので、その方法の検討が必要
日本事情・日本理解	日本にいる学習者と母国からのオンライン学習者では、ニーズも、知るべき内容も異なるので、分けた教育が必要だと思われる。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	オンライン授業、電子教材についての講師研修を行い、スムーズに使えるよう練習をした。
話す（発表）	オンライン授業、電子教材についての講師研修を行い、スムーズに使えるよう練習をした。
聞く	オンライン授業、電子教材についての講師研修を行い、スムーズに使えるよう練習をした。
読む	オンライン授業、電子教材についての講師研修を行い、スムーズに使えるよう練習をした。
書く	オンライン授業、電子教材についての講師研修を行い、スムーズに使えるよう練習をした。
日本事情・日本理解	オンライン授業、電子教材についての講師研修を行い、スムーズに使えるよう練習をした。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

012-2：与野学院日本語学校

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レベ ル										事前テスト		事後テスト		テスト満点		事前テスト 正答率（生 徒合計）	事後テスト 正答率（生 徒合計）	成長幅（単 位：ポイン ト）	
		モデ ル					モデ ル 外					事前の点数 （生徒合 計）	事後の点数 （生徒合 計）	回答者数	回答者数	回答者数	回答者数	回答者数	回答者数		
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2								
012-2	与野学院日本語学校_モデル外 (B1)_10/1-12/31			○								○		1,977	14	2,447	14	225	62.8%	77.7%	15

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	モデル外① (3か月)
区分	オンデマンド型
1.授業のレベル	B1
2.授業のコース	進学 就職 一般
3-1.授業の実施期間 (開始)	2022/10/1
3-2.授業の実施期間 (終了)	2022/12/23
4.授業の学習時間	58
5.学生の授業への参加率	65
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	特になし
7.実施した言語活動	話す (やりとり) 読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	なし
9.使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	教材作成用に、PC付属のスピーカー、マイク、Lavalier Microphone(ipadにつなげるマイク)を使用
10.使用した映像 (カメラ) 機	教材作成(動画録画)時に、ipad付属のカメラ
11.使用したファイル形式 (パワーポイント、PDF等)	パワーポイント、PDF、MP4
12.撮影をした場所	普段の教室

各日本語教育機関の実施結果

B1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	当該言語圏の旅行中に最も起こりやすい大抵の状況に対処することができる。 例えば、家族や趣味、仕事、旅行、最近の出来事など、日常生活に直接関係のあることや個人的な関心事について、準備なしで会話に入ることができる。
聞く	仕事、学校、娯楽でふだん出合うような身近な話題について、明瞭で共通語による話し方の会話なら要点を理解することができる。 話し方が比較的ゆっくり、はっきりとしているなら、時事問題や、個人的若しくは仕事上の話題についても、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。
読む	非常によく使われる日常言語や、自分の仕事関連の言葉で書かれたテキストなら理解できる。 起こったこと、感情、希望が表現されている私信を理解できる。
書く	身近で個人的に関心のある話題について、つながりのあるテキストを書くことができる私信で経験や印象を書くことができる。
日本事情・日本理解	クイズ形式で楽しみながら日本について基本知識を得るとともに、理解を深める。

●就職コース

話す（やりとり）	当該言語圏の旅行中に最も起こりやすい大抵の状況に対処することができる。 例えば、家族や趣味、仕事、旅行、最近の出来事など、日常生活に直接関係のあることや個人的な関心事について、準備なしで会話に入ることができる。
聞く	仕事、学校、娯楽でふだん出合うような身近な話題について、明瞭で共通語による話し方の会話なら要点を理解することができる。 話し方が比較的ゆっくり、はっきりとしているなら、時事問題や、個人的若しくは仕事上の話題についても、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。
読む	非常によく使われる日常言語や、自分の仕事関連の言葉で書かれたテキストなら理解できる。 起こったこと、感情、希望が表現されている私信を理解できる。
書く	身近で個人的に関心のある話題について、つながりのあるテキストを書くことができる私信で経験や印象を書くことができる。
日本事情・日本理解	クイズ形式で楽しみながら日本について基本知識を得るとともに、理解を深める。

●生活コース

話す（やりとり）	当該言語圏の旅行中に最も起こりやすい大抵の状況に対処することができる。 例えば、家族や趣味、仕事、旅行、最近の出来事など、日常生活に直接関係のあることや個人的な関心事について、準備なしで会話に入ることができる。
聞く	仕事、学校、娯楽でふだん出合うような身近な話題について、明瞭で共通語による話し方の会話なら要点を理解することができる。 話し方が比較的ゆっくり、はっきりとしているなら、時事問題や、個人的若しくは仕事上の話題についても、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。
読む	非常によく使われる日常言語や、自分の仕事関連の言葉で書かれたテキストなら理解できる。 起こったこと、感情、希望が表現されている私信を理解できる。
書く	身近で個人的に関心のある話題について、つながりのあるテキストを書くことができる私信で経験や印象を書くことができる。
日本事情・日本理解	クイズ形式で楽しみながら日本について基本知識を得るとともに、理解を深める。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンデマンド型
聞く	オンデマンド型
読む	オンデマンド型
書く	オンデマンド型
日本事情・日本理解	オンデマンド型

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	動画を使用した会話練習
読む	動画とクイズを使用し、学習項目を使った文を正しく読み理解する内容
書く	動画とクイズを使用し漢字の習得と練習
日本事情・日本理解	動画とクイズを使用し、日本について理解する内容

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	オンデマンドオリジナル教材
		レベル	B1
		内容	理解と練習
聞く	使用した教材①	名称	オンデマンドオリジナル教材
		レベル	B1
		内容	-
	使用した教材②	名称	
		レベル	
		内容	
読む	使用した教材①	名称	オンデマンドオリジナル教材
		レベル	B1
		内容	文の理解
書く	使用した教材①	名称	オンデマンドオリジナル教材
		レベル	B1
		内容	漢字の理解と表記練習
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	オンデマンドオリジナル教材
		レベル	B1
		内容	クイズ形式による確認

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	learningBOX
聞く	learningBOX
読む	learningBOX
書く	learningBOX
日本事情・日本理解	learningBOX

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	特になし
読む	確認テスト
書く	確認テスト
日本事情・日本理解	確認テスト

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	特になし
読む	学習評価及び進級修了認定規程により設定
書く	学習評価及び進級修了認定規程により設定
日本事情・日本理解	学習評価及び進級修了認定規程により設定

各日本語教育機関の実施結果

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	特になし
読む	オンデマンド教材を見ただけの学習者ときちんと学び身に付けようという姿勢の学習者で学習成果が違ってきていたようだ。
書く	オンデマンド教材を見ただけの学習者ときちんと学び身に付けようという姿勢の学習者で学習成果が違ってきていたようだ。
日本事情・日本理解	特になし

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	適切なカリキュラムの設定
読む	その他
書く	その他
日本事情・日本理解	その他

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	オンデマンドでは、学習者の会話力が分からないまま学習を続けてしまうので、その点の改善が必要
読む	選択問題中心になってしまうので、表記を確認できるよう改善が必要
書く	特になし
日本事情・日本理解	特になし

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	特になし
読む	特になし
書く	特になし
日本事情・日本理解	特になし

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

013-1：福井ランゲージアカデミー

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レ ベ ル		モ デ ル					モ デ ル 外		事前テスト		事後テスト		事前テスト		事後テスト		成長幅(単		
											事前の点数		事後の点数		テスト満点		正答率(生		正答率(生		
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	計	回答者数	計	回答者数	生徒合計	生徒合計	位:ポイン	ト)
013-1	福井ランゲージアカデミー_モデル外 (A1) _7/21-9/9	○											5,672	63	5,465	53	135	66.7%	76.4%	10	

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	モデル外② (3か月)
区分	ハイブリッド型
1.授業のレベル	A1
2.授業のコース	進学 就職 一般
3-1.授業の実施期間 (開始)	2022/7/21
3-2.授業の実施期間 (終了)	2022/9/9
4.授業の学習時間	50
5.学生の授業への参加率	53
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	別途リスト提出
6-1.担当された先生①スキル	別途リスト提出
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	女性
6-4.担当された先生④居住国	日本
6-4.担当された先生④性別	女性
6-5.担当された先生⑤居住国	日本
6-5.担当された先生⑤性別	女性
6-6.担当された先生⑥居住国	日本
6-6.担当された先生⑥性別	女性
6-7.担当された先生⑦居住国	日本
6-7.担当された先生⑦性別	男性
6-8.担当された先生⑧居住国	日本
6-8.担当された先生⑧性別	女性
6-9.担当された先生⑨居住国	日本
6-9.担当された先生⑨性別	女性
6-10.担当された先生⑩居住国	日本
6-10.担当された先生⑩性別	女性
7.実施した言語活動	話す (やりとり) 話す (発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	AVerMedia
10.使用した映像 (カメラ) 機	Sony
11.使用したファイル形式 (パワーポイント、PDF等)	Web会議用カメラ360° AIカメラ (Owl)
12.撮影をした場所	モデル1 提供のパワーポイントのほか、授業担当教師が作成したオリジナルパワーポイントを使用
	普段の教室

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け舟を出してくれるなら、簡単なやりとりをすることができる。ごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。
話す（発表）	自分についての情報、どこに住んでいるかや、知っている人たちについて簡単な語句や文を使って表現できる。
聞く	はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐまわりの具体的なものに関する聞きなれた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
読む	身近な場面での文字による情報の理解、例えば、メニュー、掲示、カタログの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
書く	自己紹介など短い簡単な言葉を書くことができる。例えば、市役所などの書類で、名前国籍や住所といった個人のデータを書きこむことができる。
日本事情・日本理解	コミュニケーション上必要な一般的で日常的によくつかわれる丁寧なあいさつ等を理解できる。 日本の街や文化的な動画を見て、親しみを持つ。

●就職コース

話す（やりとり）	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け舟を出してくれるなら、簡単なやりとりをすることができる。ごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。
話す（発表）	自分についての情報、どこに住んでいるかや、知っている人たちについて簡単な語句や文を使って表現できる。
聞く	はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐまわりの具体的なものに関する聞きなれた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
読む	身近な場面での文字による情報の理解、例えば、メニュー、掲示、カタログの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
書く	自己紹介など短い簡単な言葉を書くことができる。例えば、市役所などの書類で、名前国籍や住所といった個人のデータを書きこむことができる。
日本事情・日本理解	コミュニケーション上必要な一般的で日常的によくつかわれる丁寧なあいさつ等を理解できる。 日本の街や文化的な動画を見て、親しみを持つ。

●生活コース

話す（やりとり）	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け舟を出してくれるなら、簡単なやりとりをすることができる。ごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。
話す（発表）	自分についての情報、どこに住んでいるかや、知っている人たちについて簡単な語句や文を使って表現できる。
聞く	はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐまわりの具体的なものに関する聞きなれた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
読む	身近な場面での文字による情報の理解、例えば、メニュー、掲示、カタログの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
書く	自己紹介など短い簡単な言葉を書くことができる。例えば、市役所などの書類で、名前国籍や住所といった個人のデータを書きこむことができる。
日本事情・日本理解	コミュニケーション上必要な一般的で日常的によくつかわれる丁寧なあいさつ等を理解できる。 日本の街や文化的な動画を見て、親しみを持つ。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	ハイブリット型
話す（発表）	ハイブリット型
聞く	ハイブリット型
読む	ハイブリット型
書く	ハイブリット型
日本事情・日本理解	ハイブリット型

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	教育実証の内容：さまざまなタイプのオンライン教材を使用し、各活動（話す：やりとり、話す：発表、聞く、読む、書く）を行うことを通して、身近な事柄に関する日本語使用ができるようになることを目指した。 配置した教員・配置の狙い：専任及び非常勤の講師全員が本実証事業の授業を担当し、教員全員のオンライン日本語教育に関する教育力の向上を目指した。 教授方法：通常使用している以外の教材に触れ、教師のバリエーションを増やすことをめざした。 また、この実証事業を通して、教員全体が情報を共有し、協働する意義を理解し、日々の教育活動へよい影響をもたらすことをめざした。
話す（発表）	同上
聞く	同上
読む	同上
書く	同上
日本事情・日本理解	同上

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	モデル1 配布スライド
		レベル	A1
		内容	日常の基本的で簡単なやりとり 例：スケジュール、感想など
	使用した教材②	名称	モデル1配布動画
		レベル	A1
		内容	日本の街、文化に関する動画を見て、見たものを簡単な言葉表現を使い描写したり、感想を述べてりする
	使用した教材③	名称	自主作成教材(PPTスライド)
		レベル	A1
		内容	会話場面の提示、表現練習、語彙練習等
話す（発表）	使用した教材①	名称	モデル1 配布スライド
		レベル	A1
		内容	発表トピックの提示
	使用した教材②	名称	自主作成教材(PPTスライド)
		レベル	A1
		内容	発表のための材料の提示、表現の提示
聞く	使用した教材①	名称	モデル1 配布動画
		レベル	A1
		内容	知っている表現、画像化情報を手掛かりに理解できる情報を聞き取る
	使用した教材②	名称	教師、学習者同士のやりとり、発表の聞き取り
		レベル	A1
		内容	動画の内容をやさしい日本語で言い換えたもの、動画に関するやりとりを理解する
	使用した教材③	名称	自主作成教材(PPTスライド)
		レベル	A1
		内容	動画理解のための、導入、補足資料
読む	使用した教材①	名称	モデル1 配布動画
		レベル	A1
		内容	動画中に提示される文字情報の読み取り
	使用した教材②	名称	自主作成教材(PPTスライド)
		レベル	-
		内容	動画理解のための、導入、補足資料
書く	使用した教材①	名称	モデル1 配布スライド
		レベル	A1
		内容	作文トピックの利用
	使用した教材②	名称	自主作成教材(PPTスライド)
		レベル	A1
		内容	作文、発表原稿作成のための材料の提示、表現の提示
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	モデル1 配布スライド
		レベル	A1
		内容	やりとりの文化的背景の理解
	使用した教材②	名称	モデル1 配布動画
		レベル	A1
		内容	動画中に現れる町の様子、文化的景観の理解
	使用した教材③	名称	いどころい 日本の生活TIPS
		レベル	A1
		内容	動画に関連する内容を母語で理解できる補助として

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	当校作成のA1/A2用やりとり評価ルーブリック
話す（発表）	当校作成のA1/A2用発表り評価ルーブリック
聞く	各タスクの達成度 モデル1 learningBOX内のテスト
読む	各タスクの達成度 モデル1 learningBOX内のテスト
書く	当校作成のA1/A2用作文評価ルーブリック モデル1 learningBOX内のテスト
日本事情・日本理解	特に評価を行わなかった

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	理解力 コミュニケーションストラテジー 正確さ（語彙、文法、表現） 構造 分量 内容
話す（発表）	正確さ（語彙、文法、表現） 構造 分量 内容
聞く	タスクの達成度
読む	タスクの達成度
書く	正確さ（語彙、文法、表現） 構造 分量 内容
日本事情・日本理解	特になし

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	ACTFUL 文化庁（2021）「日本語教育の参照枠 報告」参照
話す（発表）	ACTFUL 文化庁（2021）「日本語教育の参照枠 報告」参照
聞く	特になし
読む	特になし
書く	ACTFUL 文化庁（2021）「日本語教育の参照枠 報告」参照
日本事情・日本理解	特になし

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	各回の会話の達成度は着実に上がった。理解力、正確さ（語彙、文法、表現）、構造、分量、内容の項目で力をつけていた。
話す（発表）	こちらも正確さ（語彙、文法、表現）、構造、分量、内容の項目で力をつけていた。特に話す分量は確実に増え、話す意欲の向上が見られた。
聞く	テストに関しては事前と事後では点数的には伸びている学習者もいたが、learningBOXの試験結果は授業内でのやりとりの様子とは異なった結果も見られ、結果の信頼性が疑われる場合もあった。
読む	テストに関しては事前と事後では点数的には伸びている学習者もいたが、learningBOXの試験結果は授業内でのやりとりの様子とは異なった結果も見られ、結果の信頼性が疑われる場合もあった。
書く	テストに関しては事前と事後では点数的には伸びている学習者もいたが、learningBOXの試験結果は授業内でのやりとりの様子とは異なった結果も見られ、結果の信頼性が疑われる場合もあった。 授業内で行う書くタスクでは、正確さ（語彙、文法、表現）、構造、分量、内容の項目で力をつけていた。特に書く分量は確実に増えた。
日本事情・日本理解	興味を持ち、取り組んでいた。特に評価は行わなかったが、日本への理解の深まりを感じた。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	適切なカリキュラムの設定
話す（発表）	適切なカリキュラムの設定
聞く	適切なカリキュラムの設定
読む	適切なカリキュラムの設定
書く	適切なカリキュラムの設定
日本事情・日本理解	適切なカリキュラムの設定

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	今回利用したモデル1では、動画の内容とあまり関係のないやりとりの活動があったがやりとりと動画をより有機的にリンクできるとオンラインに適したコンテンツが考えられるのではないかと考えた。オンラインでは、対面よりもツールに適したコンテンツを準備することで、より有効な学習活動ができるのではないかと考えた。言い換えると、オンラインはツールに適した内容を準備できるかどうかで学習の成否が大きく左右されるのではないかと考えた。
話す（発表）	発表活動自体は、オンラインで十分に有効なやりとりが可能だが、発表を作るまでのサポートのツールが必要である。今回使用したlearningBOXとZoomではその機能が十分ではないように感じている。アウトプットしたものをよりよくするためのステップに使用するツールが必要であると感じた。また、授業の進め方も、対面より計画的でなければ、実施が難しい。臨機応変な対応が可能な対面とは異なる部分が多く、準備はかなり十分な時間をかける必要がある。
聞く	予想とは異なるコンテンツであった場合の対処する時間が圧倒的に不足していた。特に聞く能力を伸ばすためのコンテンツの準備は時間がかかるため、A1レベルの聞き取り能力を伸ばす適切な内容と方法の準備が十分にできなかった。
読む	今回利用したモデル1のカリキュラムでは、A1レベルに向けた読みのコンテンツが少なく、時間的にも余裕がなかった。限られた時間でレベルに合った読みの力を養成するためにはレベルに合ったコンテンツをどのツールを使って、どのように準備するかが重要であると思った。
書く	今回使用したlearningBOXでは、書いたもの（手書きとタイプ）を提出し、添削し返却するようなツールが見つからず、Zoomのみを利用して行ったため、フィードバックに限界があった。書くというアウトプットを共有できたり、やりとりできたりするツールが必要だった。Padletなどを使用することも考えたが、海外からアクセスする学習者のICTリテラシーの問題とネット環境の不備で使用することができなかった。学習者と彼らの環境にとって使いやすいツールをどう選ぶかが重要であると感じた。
日本事情・日本理解	モデル1提供のコンテンツを利用したが、関東周辺の情報が中心で、当校に留学を目指す学習者や当校のある地域に在住する学習者向けには別の補足情報がかなり必要だった観光地だけでなく、日本に初めて来た学習者が日常的に接する文化情報を増やし、話すこと書くことにつながる内容を増やしていくと効果的なのではないかと感じた。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	講師向けサポート： 1. 受託から授業の実施までの時間が短かったため、事前の準備（カリキュラム理解、教材使用法理解、シラバス理解、オンラインツール使用方法トレーニング）が十分ではなかったため、各教師がオンラインで理解共有（SNSチャット機能、ファイル共有機能を活用）できるようにした。 2. 1の実現の一環として、相互授業見学（オンライン・対面）を自由に行えるようにし情報の有機的な共有機会を作った。 3. 授業終了後に全員の教師が参加する振り返りの機会（オンライン・対面・オンデマンド）をつくり、各教師が得た知見を共有した。 4. ツールの使用に関しては、使い方マニュアルの提供（書面と動画）とともに随時問い合わせができるコンサルタントを設置した。 学習者へのサポート：以下、話す（発表）項目に記載
話す（発表）	講師向けサポート：同上 学習者へのサポート： 1. オンラインの学習者に対しては母語のわかるスタッフが対応し、ツールの使い方、学習への参加の仕方を随時サポートした 2. オンラインの学習者には在住国の送り出し機関と協働し、学習者の学習の場の提供、ネット環境の提供を依頼。ツール使用のサポートも当校スタッフと協働で行った。 3. ウクライナ避難民にたいしては対面でのサポート、ネット環境の提供、文法説明（ロシア語・英語）の提供等を行った。
聞く	同上
読む	同上
書く	同上
日本事情・日本理解	同上

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

013-2：福井ランゲージアカデミー

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レ ベ ル		モ デ ル					モ デ ル 外		事前テスト	事後テスト		事前テスト テスト満点	事後テスト テスト満点	事前テスト 正答率 (生徒合計)	事後テスト 正答率 (生徒合計)	成長幅(単 位:ポイン ト)				
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2						事前の点数 (生徒合 計)	回答者数	事後の点数 (生徒合 計)	回答者数
013-2	福井ランゲージアカデミー_モデル外 (A1) _7/21-9/9	○											○	776	31	745	26	40	62.6%	71.6%	9	

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	モデル外② (3か月)
区分	ハイブリッド型+オンデマンド型
1.授業のレベル	A1
2.授業のコース	進学 就職 一般
3-1.授業の実施期間 (開始)	2022/7/21
3-2.授業の実施期間 (終了)	2022/9/9
4.授業の学習時間	60
5.学生の授業への参加率	52
6-1.担当された先生①居住国	別途リスト提出
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	別途リスト提出
6-1.担当された先生①スキル	別途リスト提出
7.実施した言語活動	話す (やりとり) 話す (発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	AVerMedia
10.使用した映像 (カメラ) 機	Sony
11.使用したファイル形式 (パワーポイント、PDF等)	Web会議用360° AIカメラ (Owl) モデル2 配布PDF及び授業担当教師作成オリジナルパワーポイントを使用
12.撮影をした場所	普段の教室

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け舟を出してくれるなら、簡単なやりとりをすることができる。ごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。
話す（発表）	自分についての情報、どこに住んでいるかや、知っている人たちについて簡単な語句や文を使って表現できる。
聞く	はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐまわりの具体的なものに関する聞きなれた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
読む	身近な場面での文字による情報の理解、例えば、メニュー、掲示、カタログの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
書く	自己紹介など短い簡単な言葉を書くことができる。例えば、市役所などの書類で、名前、国籍や住所といった個人のデータを書きこむことができる。
日本事情・日本理解	コミュニケーション上必要な一般的で日常的によくつかわれる丁寧なあいさつ等を理解できる。また、日本で生活していく際に接する身近な日本の習慣・文化に触れ、来日後のカルチャーギャップによるストレスを減らすことができる。

●就職コース

話す（やりとり）	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け舟を出してくれるなら、簡単なやりとりをすることができる。ごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。
話す（発表）	自分についての情報、どこに住んでいるかや、知っている人たちについて簡単な語句や文を使って表現できる。
聞く	はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐまわりの具体的なものに関する聞きなれた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
読む	身近な場面での文字による情報の理解、例えば、メニュー、掲示、カタログの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
書く	自己紹介など短い簡単な言葉を書くことができる。例えば、市役所などの書類で、名前、国籍や住所といった個人のデータを書きこむことができる。
日本事情・日本理解	コミュニケーション上必要な一般的で日常的によくつかわれる丁寧なあいさつ等を理解できる。また、日本で生活していく際に接する身近な日本の習慣・文化に触れ、来日後のカルチャーギャップによるストレスを減らすことができる。

●生活コース

話す（やりとり）	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け舟を出してくれるなら、簡単なやりとりをすることができる。ごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。
話す（発表）	自分についての情報、どこに住んでいるかや、知っている人たちについて簡単な語句や文を使って表現できる。
聞く	はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐまわりの具体的なものに関する聞きなれた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
読む	身近な場面での文字による情報の理解、例えば、メニュー、掲示、カタログの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
書く	自己紹介など短い簡単な言葉を書くことができる。例えば、市役所などの書類で、名前、国籍や住所といった個人のデータを書きこむことができる。
日本事情・日本理解	コミュニケーション上必要な一般的で日常的によくつかわれる丁寧なあいさつ等を理解できる。また、日本で生活していく際に接する身近な日本の習慣・文化に触れ、来日後のカルチャーギャップによるストレスを減らすことができる。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	ハイフレックス型
話す（発表）	ハイフレックス型
聞く	ハイフレックス型
読む	オンデマンド型
書く	ハイフレックス型
日本事情・日本理解	ハイフレックス型

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	教育実証の内容：さまざまなタイプのオンライン教材を使用し、各活動（話す：やりとり、話す：発表、聞く、読む、書く）を行うことを通して、身近な事柄に関する日本語使用ができるようになることを目指した。 配置した教員・配置の狙い：専任及び非常勤の講師全員が本実証事業の授業を担当し、教員全員のオンライン日本語教育に関する教育力の向上を目指した。 教授方法：通常使用している以外の教材に触れ、教師のバリエーションを増やすことをめざした。 また、この実証事業を通して、教員全体が情報を共有し、協働する意義を理解し、日々の教育活動へよい影響をもたらすことをめざした。
話す（発表）	同上
聞く	同上
読む	同上
書く	同上
日本事情・日本理解	身近な会話の中に含まれる文化的な意味を会話をする中で伝えることを目指した。 また、日本の生活TIPSなどを通して理解を促進させることを目指した。

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	「eTRY!START/N5」及びモデル2 提供PDFファイル
		レベル	A1
		内容	会話場面、会話練習、ロールプレイの提供、使用文法項目の学習 使用語彙の学習
	使用した教材②	名称	「いろどり」及びモデル2 提供PDFファイル
		レベル	A1
		内容	会話場面、会話練習、ロールプレイの提供、使用文法項目の学習 使用語彙の学習
	使用した教材③	名称	うごく絵本ライブラリ
		レベル	A1
		内容	ストーリーの理解確認、自分に引き寄せた話題に関するやりとり
話す（発表）	使用した教材①	名称	「いろどり」
		レベル	A1
		内容	自分や身近なことに関する簡単な発表
	使用した教材②	名称	
		レベル	
		内容	
聞く	使用した教材①	名称	「eTRY!START/N5」
		レベル	A1
		内容	会話の理解、語彙の聞き取り
	使用した教材②	名称	「いろどり」
		レベル	A1
		内容	会話の理解、語彙の聞き取り、聴解タスク
	使用した教材③	名称	うごく絵本ライブラリ
		レベル	A1
		内容	画像を助けとしたストーリーの聞き取り
読む	使用した教材①	名称	「いろどり」
		レベル	A1
		内容	読むタスク
	使用した教材②	名称	「eTRY!START/N5」
		レベル	A1
		内容	文字の読み取り、語彙の読み取り
書く	使用した教材①	名称	「eTRY!START/N5」
		レベル	A1
		内容	文字を書く
	使用した教材②	名称	「いろどり」
		レベル	A1
		内容	書くタスク
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	「eTRY!START/N5」
		レベル	A1
		内容	コミュニケーションの方法
	使用した教材②	名称	「いろどり」日本の生活TIPS
		レベル	A1
		内容	日本の生活に関する記事を母語で読む

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	モデル2 提供「会話やりとりテスト」
話す（発表）	モデル2 提供「スピーチテスト」
聞く	各タスクの達成度 モデル2 learningBOX内のテスト
読む	各タスクの達成度 モデル2 learningBOX内のテスト
書く	当校作成のA1/A2用やりとり評価ルーブリック
日本事情・日本理解	特に使用しなかった

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標

話す（やりとり）	タスクの達成度 正確さ
話す（発表）	タスクの達成度 正確さ
聞く	タスクの達成度 正確さ
読む	タスクの達成度 正確さ
書く	正確さ（語彙、文法、表現） 構造 分量 内容
日本事情・日本理解	評価しなかった

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	モデル2 指定基準
話す（発表）	モデル2 指定基準
聞く	モデル2 指定基準
読む	モデル2 指定基準
書く	ACTFUL 文化庁（2021）「日本語教育の参照枠 報告」参照
日本事情・日本理解	評価しなかった

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	テストに関しては事前と事後では点数的には伸びている学習者もいたが、learningBOXの試験結果は授業内でのやりとりの様子とは異なった結果も見られ、結果の信頼性が疑われる場合もあった。 ZoomでのQAのやりとりテストでは事前事後では、参加率の高かった学習者は大きな進歩がみられた。
話す（発表）	話すテスト(発表) 自分について話してもらったが、確実に力をつけていることが分かった。正確さ、分量、テキストの構造に関し、明らかに違いがみられた。
聞く	テストに関しては事前と事後では点数的には伸びている学習者もいたが、learningBOXの試験結果は授業内でのやりとりの様子とは異なった結果も見られ、やはり結果の信頼性が疑われる場合もあった。
読む	テストに関しては事前と事後では点数的には伸びている学習者もいたが、learningBOXの試験結果は授業内でのやりとりの様子とは異なった結果も見られ、やはり結果の信頼性が疑われる場合もあった。
書く	書くテストも確実に力をつけていることが分かった。正確さ、分量、テキストの構造に関し、明らかに違いがみられた。
日本事情・日本理解	『いろいろ』の教材は興味を喚起する内容も多く、学習者の多くが日本に対する興味を喚起されたり、親しみを感じたりできたようだった。ただし、当校が立地する地域には合わない内容もあり、目的と学習者にあった教材が必要だと感じた。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	適切なカリキュラムの設定
聞く	適切なカリキュラムの設定
読む	適切なカリキュラムの設定
書く	適切なカリキュラムの設定
日本事情・日本理解	適切なカリキュラムの設定

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	音声を紹介した全体でのやり取り練習や活動はおおむね問題なくできたが、ペアやグループで行う練習は今回のハイブリットの場合、ブレイクアウトルーム（BOR）を利用する必要がある。しかし、海外からアクセスする学習者がネット環境により、BORに参加する際に負荷が大きくネットから落ちてしまう場合があり、BORの利用ができなかった。それにより、すべての練習が全体で行われ、発言の機会は限られた時間になってしまった。ネット環境に左右される活動は課題が残る。
話す（発表）	発表活動自体は、オンラインで十分に有効なやりとりが可能だが、発表を作るまでのサポートのツールが必要である。今回使用したlearningBOXとZoomではその機能が十分ではないように感じている。アウトプットしたものをよりよくするためのステップに使用するツールが必要であると感じた。また、授業の進め方も、対面より計画的でなければ、実施が難しい。臨機応変な対応が可能な対面とは異なる部分が多く、準備はかなり十分な時間をかける必要がある。
聞く	この授業で利用したモデル2のカリキュラムでは音声を通したインプットの機会が充実しており、聞く力は大きく伸びた。ただし、タスクの形式に慣れていない学習者も多くオンデマンドでは学習が進まない場合が多く、同期でつないでいる時間に教師のサポートがなければ学習が進まないこともあった。ツールによってできる活動できない活動があり、ツールの特性をよく理解し、それに合わせた活動内容、カリキュラムを組む必要性を実感した。
読む	この授業で利用したモデル2のカリキュラムでは読む力を伸ばすコンテンツが多く準備されていたが、聞く活動同様タスクの形式に慣れていない学習者も多く、オンデマンドでは学習が進まない場合が多く、同期でつないでいる時間に教師のサポートがなければ学習が進まないこともあった。ツールによってできる活動できない活動があり、ツールの特性をよく理解し、それに合わせた活動内容、カリキュラムを組む必要性を実感した。
書く	この授業で利用したモデル2のカリキュラムは文字に関するオンデマンド教材が充実していた。文字の学習はオンデマンド教材が適していることがわかった。同期の時間に行うこととしては意味の確認を確認するタスクが有効であった。また、音声を通した活動が多く学習者の疲れや気持ちの変化に合わせ、手書きを試みる活動を入れたところ、気分が変わり、学習の流れもよくなり学習効果も上がったように感じた。同期の時間の活動のバリエーションを増やすことも学習効果を上げる重要なポイントであると感じた。
日本事情・日本理解	目標とツールに即した適切な教材が必要だと感じた。デジタルであること、オンデマンドも可能であることから、より良い教材の開発が今後必要だと感じている。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	講師向けサポート： 1. 受託から授業の実施までの時間が短かったため、事前の準備（カリキュラム理解、教材使用法理解、シラバス理解、オンラインツール使用方法トレーニング）が十分ではなかったため、各教師がオンラインで理解共有（SNSチャット機能、ファイル共有機能を活用）できるようにした。 2. 1の実現の一環として、相互授業見学（オンライン・対面）を自由に行えるようにし情報の有機的な共有機会を作った。 3. 授業終了後に全員の教師が参加する振り返りの機会（オンライン・対面・オンデマンド）をつくり、各教師が得た知見を共有した。 4. ツールの使用に関しては、使い方マニュアルの提供（書面と動画）とともに随時問い合わせができるコンサルタントを設置した。 学習者へのサポート：以下、話す（発表）項目に記載
話す（発表）	講師向けサポート：同上 学習者へのサポート： 1. オンラインの学習者に対しては母語のわかるスタッフが対応し、ツールの使い方、学習への参加の仕方を随時サポートした 2. オンラインの学習者には在任国での送り出し機関と協働し、学習者の学習の場の提供、ネット環境の提供を依頼。ツール使用のサポートも当校スタッフと協働で行った。 3. ウクライナ避難民にたいしては対面でのサポート、ネット環境の提供、文法説明（ロシア語・英語）の提供等を行った。
聞く	同上
読む	同上
書く	同上
日本事情・日本理解	同上

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >
013-3：福井ランゲージアカデミー

授業ID	日本語教育機関・モデル名											事前テスト 事前の点数 (生徒合 計)	事後テスト		事前テスト テスト満点	事後テスト テスト満点	成長幅(単 位:ポイント)				
		レ ベ ル						モ デ ル	モ デ ル 外	事後の点数 (生徒合 計)	回答者数										
			A1	A2	B1	B2	C						1	2				3	4	5	1
013-3	福井ランゲージアカデミー_モデル外 (A1)_9/16-12/2	○											○	1,300	10	892	8	230	56.5%	48.5%	-8

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	モデル外② (3か月)
区分	ハイブリッド型
1.授業のレベル	A1
2.授業のコース	進学 就職 一般
3-1.授業の実施期間 (開始)	2022/9/16
3-2.授業の実施期間 (終了)	2022/12/2
4.授業の学習時間	50
5.学生の授業への参加率	64
6-1.担当された先生①居住国	別途リスト提出
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	別途リスト提出
6-1.担当された先生①スキル	別途リスト提出
7.実施した言語活動	話す (やりとり) 話す (発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	AVerMedia
10.使用した映像 (カメラ) 機	Sony
11.使用したファイル形式 (パワーポイント、PDF等)	Web会議用カメラ360° AIカメラ (Owl) モデル1 提供のパワーポイントのほか、授業担当教師が作成したオリジ ナルパワーポイントを使用
12.撮影をした場所	普段の教室

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け舟を出してくれるなら、簡単なやりとりをすることができる。ごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。
話す（発表）	自分についての情報、どこに住んでいるかや、知っている人たちについて簡単な語句や文を使って表現できる。
聞く	はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐまわりの具体的なものに関する聞きなれた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
読む	身近な場面での文字による情報の理解、例えば、メニュー、掲示、カタログの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
書く	自己紹介など短い簡単な言葉を書くことができる。例えば、市役所などの書類で、名前、国籍や住所といった個人のデータを書きこむことができる。
日本事情・日本理解	コミュニケーション上必要な一般的で日常的によくつかわれる丁寧なあいさつ等を理解できる。 日本の街や文化的な動画を見て、親しみを持つ。

●就職コース

話す（やりとり）	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け舟を出してくれるなら、簡単なやりとりをすることができる。ごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。
話す（発表）	自分についての情報、どこに住んでいるかや、知っている人たちについて簡単な語句や文を使って表現できる。
聞く	はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐまわりの具体的なものに関する聞きなれた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
読む	身近な場面での文字による情報の理解、例えば、メニュー、掲示、カタログの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
書く	自己紹介など短い簡単な言葉を書くことができる。例えば、市役所などの書類で、名前、国籍や住所といった個人のデータを書きこむことができる。
日本事情・日本理解	コミュニケーション上必要な一般的で日常的によくつかわれる丁寧なあいさつ等を理解できる。 日本の街や文化的な動画を見て、親しみを持つ。

●生活コース

話す（やりとり）	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け舟を出してくれるなら、簡単なやりとりをすることができる。ごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。
話す（発表）	自分についての情報、どこに住んでいるかや、知っている人たちについて簡単な語句や文を使って表現できる。
聞く	はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐまわりの具体的なものに関する聞きなれた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
読む	身近な場面での文字による情報の理解、例えば、メニュー、掲示、カタログの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
書く	自己紹介など短い簡単な言葉を書くことができる。例えば、市役所などの書類で、名前、国籍や住所といった個人のデータを書きこむことができる。
日本事情・日本理解	コミュニケーション上必要な一般的で日常的によくつかわれる丁寧なあいさつ等を理解できる。 日本の街や文化的な動画を見て、親しみを持つ。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	ハイブリット型
話す（発表）	ハイブリット型
聞く	ハイブリット型オンデマンド型
読む	ハイブリット型
書く	ハイブリット型
日本事情・日本理解	ハイブリット型

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	教育実証の内容：さまざまなタイプのオンライン教材を使用し、各活動（話す：やりとり、話す：発表、聞く、読む、書く）を行うことを通して、身近な事柄に関する日本語使用ができるようになることを目指した。 配置した教員・配置の狙い：専任及び非常勤の講師全員が本実証事業の授業を担当し、教員全員のオンライン日本語教育に関する教育力の向上を目指した。 教授方法：通常使用している以外の教材に触れ、教師のバリエーションを増やすことをめざした。 また、この実証事業を通して、教員全体が情報を共有し、協働する意義を理解し、日々の教育活動へよい影響をもたらすことをめざした。
話す（発表）	同上
聞く	同上
読む	同上
書く	同上
日本事情・日本理解	同上

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	モデル1 配布スライド
		レベル	A1
		内容	日常の基本的で簡単なやりとり 例：スケジュール、感想など
	使用した教材②	名称	モデル1配布動画
		レベル	A1
		内容	日本の街、文化に関する動画を見て、見たものを簡単な言葉表現を使い描写したり、感想を述べてりする
	使用した教材③	名称	自主作成教材(PPTスライド)
		レベル	A1
		内容	会話場面の提示、表現練習、語彙練習等
話す（発表）	使用した教材①	名称	モデル1 配布スライド
		レベル	A1
		内容	発表トピックの提示
	使用した教材②	名称	自主作成教材(PPTスライド)
		レベル	A1
		内容	発表のための材料の提示、表現の提示
聞く	使用した教材①	名称	モデル1 配布動画
		レベル	A1
		内容	知っている表現、画像化情報を手掛かりに理解できる情報を聞き取る
	使用した教材②	名称	教師、学習者同士のやりとり、発表の聞き取り
		レベル	A1
		内容	動画の内容をやさしい日本語で言い換えたもの、動画に関するやりとりを理解する
	使用した教材③	名称	自主作成教材(PPTスライド)
		レベル	A1
		内容	動画理解のための、導入、補足資料
読む	使用した教材①	名称	モデル1 配布動画
		レベル	A1
		内容	動画中に提示される文字情報の読み取り
	使用した教材②	名称	自主作成教材(PPTスライド)
		レベル	A1
		内容	動画理解のための、導入、補足資料
書く	使用した教材①	名称	モデル1 配布スライド
		レベル	A1
		内容	作文トピックの利用
	使用した教材②	名称	自主作成教材(PPTスライド)
		レベル	A1
		内容	作文、発表原稿作成のための材料の提示、表現の提示
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	モデル1 配布スライド
		レベル	A1
		内容	やりとりの文化的背景の理解
	使用した教材②	名称	モデル1 配布動画
		レベル	A1
		内容	動画中に現れる町の様子、文化的景観の理解
	使用した教材③	名称	いどころい 日本の生活TIPS
		レベル	A1
		内容	動画に関連する内容を母語で理解できる補助として

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	当校作成のA1/A2用作文評価ルーブリック
話す（発表）	当校作成のA1/A2用作文評価ルーブリック
聞く	各タスクの達成度 モデル1 learningBOX内のテスト
読む	各タスクの達成度 モデル1 learningBOX内のテスト
書く	当校作成のA1/A2用作文評価ルーブリック モデル1 learningBOX内のテスト
日本事情・日本理解	特に評価を行わなかった

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標

話す（やりとり）	理解力 コミュニケーションストラテジー 正確さ（語彙、文法、表現） 構造 分量 内容
話す（発表）	正確さ（語彙、文法、表現） 構造 分量 内容
聞く	タスクの達成度
読む	タスクの達成度
書く	正確さ（語彙、文法、表現） 構造 分量 内容
日本事情・日本理解	特になし

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	ACTFUL 文化庁（2021）「日本語教育の参照枠 報告」参照
話す（発表）	ACTFUL 文化庁（2021）「日本語教育の参照枠 報告」参照
聞く	特になし
読む	特になし
書く	ACTFUL 文化庁（2021）「日本語教育の参照枠 報告」参照
日本事情・日本理解	特になし

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	各回の会話の達成度は着実に上がった。理解力、正確さ（語彙、文法、表現）、構造、分量、内容の項目で力をつけていた。
話す（発表）	こちらも正確さ（語彙、文法、表現）、構造、分量、内容の項目で力をつけていた。特に話す分量は確実に増え、話す意欲の向上が見られた。
聞く	テストに関しては事前と事後では点数的には伸びている学習者もいたが、learningBOXの試験結果は授業内でのやりとりの様子とは異なった結果も見られ、結果の信頼性が疑われる場合もあった。
読む	テストに関しては事前と事後では点数的には伸びている学習者もいたが、learningBOXの試験結果は授業内でのやりとりの様子とは異なった結果も見られ、結果の信頼性が疑われる場合もあった。
書く	テストに関しては事前と事後では点数的には伸びている学習者もいたが、learningBOXの試験結果は授業内でのやりとりの様子とは異なった結果も見られ、結果の信頼性が疑われる場合もあった。 授業内で行う書くタスクでは、正確さ（語彙、文法、表現）、構造、分量、内容の項目で力をつけていた。特に書く分量は確実に増えた。
日本事情・日本理解	興味を持ち、取り組んでいた。特に評価は行わなかったが、日本への理解の深まりを感じた。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	適切なカリキュラムの設定
話す（発表）	適切なカリキュラムの設定
聞く	適切なカリキュラムの設定
読む	適切なカリキュラムの設定
書く	適切なカリキュラムの設定
日本事情・日本理解	適切なカリキュラムの設定

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	同じコンテンツを使った2回目であるこの授業では各教師が前回の反省をもとに自主作成した教材を充実させたことで、会話の授業はかなりうまくいったが、やはりやりとりに適した動画コンテンツがあればより効果的ではないかと感じた教師が多かった。
話す（発表）	2回目の授業では、準備も各教師の工夫でよりスムーズに進められるようになったが、やはり、アウトプットしたものをよりよくするためのステップに使用するツールが必要であると感じた。
聞く	前期モデル終了後、振り返りを行い、各教師で授業を方法を共有したことで、動画コンテンツの使用方法を改善でき、1回目よりは聞く活動としての内容を盛り込めたが、やはり、A1レベルに適した内容は少なかったと感じた教師が多かった。
読む	読む活動も聞く活動同様、前期モデル終了後、振り返りを行い、各教師で授業を方法を共有したことで、動画コンテンツの使用方法を改善でき、1回目より充実した活動が行えたが、やはり、A1レベルに適した内容は少なかったと感じる教師は多かった。
書く	書く活動もほかの活動同様、前期モデル終了後、振り返りを行い、各教師で授業を方法を共有したことで、手書きを活用し、書く活動を進める方法をみなで行ったが、やはり効率から考えるとツールと活動内容があっておらず、効果が大きく改善はできなかった学習者にあったツールを準備する重要性を実感した。
日本事情・日本理解	当校の立地する地域情報を授業に取り込むことで、より理解しやすく、親しみやすい情報の提供を試みたが、時間的な制約もあり、課題は残った。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	講師向けサポート： 1. 前期授業に引き続き、相互授業見学(オンライン・対面)を自由に行えるようにし、情報の有機的な共有機会を作った。 2. 前期使用した各教師作成の自主教材を共有し、活用可能にした。 3. 授業終了後に全員の教師が参加する振り返りの機会(オンライン・対面・オンデマンド)をつくり、各教師が得た知見を共有し、今後のオンライン授業への課題と展望を共有した。 4. ツールの使用に関しては、使い方マニュアルの提供（書面と動画）とともに随時問い合わせができるコンサルタントを引き続き設置した。 学習者へのサポート：以下、話す(発表)項目に記載
話す（発表）	講師向けサポート：同上 学習者へのサポート： 1. オンラインの学習者に対しては母語のわかるスタッフが対応し、ツールの使い方、学習への参加の仕方を随時サポートした 2. オンラインの学習者には在住国での送り出し機関と協働し、学習者の学習の場の提供、ネット環境の提供を依頼。ツール使用のサポートも当校スタッフと協働で行った。 3. 対面参加の学習者には対面での説明、オンラインでのツールの解説等の母語での提供
聞く	同上
読む	同上
書く	同上
日本事情・日本理解	同上

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >
013-4：福井ランゲージアカデミー

授業ID	日本語教育機関・モデル名													事前テスト 事後テスト 成長幅 (単位: ポイント)							
		レベル				モデル				モデル外				事前テスト 事前の点数 (生徒合計)		事後テスト 事後の点数 (生徒合計)		テスト満点 達成率 (生徒合計)		事後テスト 達成率 (生徒合計)	
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	計	回答者数	計	回答者数	計	回答者数	計	回答者数
013-4	福井ランゲージアカデミー_モデル2 (A1) _9/16-12/2	○						○						194	9	202	7	40	53.9%	72.1%	18

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	モデル外② (3か月)
区分	ハイブリッド型+オンデマンド型
1.授業のレベル	A1
2.授業のコース	進学 就職 一般
3-1.授業の実施期間 (開始)	2022/9/16
3-2.授業の実施期間 (終了)	2022/12/2
4.授業の学習時間	60
5.学生の授業への参加率	64
6-1.担当された先生①居住国	別途リスト提出
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	別途リスト提出
6-1.担当された先生①スキル	別途リスト提出
7.実施した言語活動	話す (やりとり) 話す (発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	AVerMedia
10.使用した映像 (カメラ) 機	Sony
11.使用したファイル形式 (パワーポイント、PDF等)	Web会議用カメラ360° AIカメラ (Owl) モデル2 配布PDF及び授業担当教師作成オリジナルパワーポイントを使用
12.撮影をした場所	普段の教室

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け舟を出してくれるなら、簡単なやりとりをすることができる。ごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。
話す（発表）	自分についての情報、どこに住んでいるかや、知っている人たちについて簡単な語句や文を使って表現できる。
聞く	はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐまわりの具体的なものに関する聞きなれた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
読む	身近な場面での文字による情報の理解、例えば、メニュー、掲示、カタログの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
書く	自己紹介など短い簡単な言葉を書くことができる。例えば、市役所などの書類で、名前、国籍や住所といった個人のデータを書きこむことができる。
日本事情・日本理解	コミュニケーション上必要な一般的で日常的によくつかわれる丁寧なあいさつ等を理解できる。また、日本で生活していく際に接する身近な日本の習慣・文化に触れ、来日後のカルチャーギャップによるストレスを減らすことができる。

●就職コース

話す（やりとり）	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け舟を出してくれるなら、簡単なやりとりをすることができる。ごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。
話す（発表）	自分についての情報、どこに住んでいるかや、知っている人たちについて簡単な語句や文を使って表現できる。
聞く	はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐまわりの具体的なものに関する聞きなれた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
読む	身近な場面での文字による情報の理解、例えば、メニュー、掲示、カタログの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
書く	自己紹介など短い簡単な言葉を書くことができる。例えば、市役所などの書類で、名前、国籍や住所といった個人のデータを書きこむことができる。
日本事情・日本理解	コミュニケーション上必要な一般的で日常的によくつかわれる丁寧なあいさつ等を理解できる。また、日本で生活していく際に接する身近な日本の習慣・文化に触れ、来日後のカルチャーギャップによるストレスを減らすことができる。

●生活コース

話す（やりとり）	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け舟を出してくれるなら、簡単なやりとりをすることができる。ごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。
話す（発表）	自分についての情報、どこに住んでいるかや、知っている人たちについて簡単な語句や文を使って表現できる。
聞く	はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐまわりの具体的なものに関する聞きなれた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
読む	身近な場面での文字による情報の理解、例えば、メニュー、掲示、カタログの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
書く	自己紹介など短い簡単な言葉を書くことができる。例えば、市役所などの書類で、名前、国籍や住所といった個人のデータを書きこむことができる。
日本事情・日本理解	コミュニケーション上必要な一般的で日常的によくつかわれる丁寧なあいさつ等を理解できる。また、日本で生活していく際に接する身近な日本の習慣・文化に触れ、来日後のカルチャーギャップによるストレスを減らすことができる。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	ハイブリット型ハイフレックス型
話す（発表）	ハイフレックス型
聞く	ハイフレックス型
読む	オンデマンド型
書く	ハイフレックス型
日本事情・日本理解	ハイフレックス型

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	教育実証の内容：さまざまなタイプのオンライン教材を使用し、各活動（話す：やりとり、話す：発表、聞く、読む、書く）を行うことを通して、身近な事柄に関する日本語使用ができるようになることを目指した。 配置した教員・配置の狙い：専任及び非常勤の講師全員が本実証事業の授業を担当し、教員全員のオンライン日本語教育に関する教育力の向上を目指した。 教授方法：通常使用している以外の教材に触れ、教師のバリエーションを増やすことをめざした。 また、この実証事業を通して、教員全体が情報を共有し、協働する意義を理解し、日々の教育活動へよい影響をもたらすことをめざした。
話す（発表）	同上
聞く	同上
読む	同上
書く	同上
日本事情・日本理解	身近な会話の中に含まれる文化的な意味を会話をする中で伝えることを目指した。 また、日本の生活TIPSなどを通して理解を促進させることを目指した。

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	「eTRY!START/N5」及びモデル2提供PDFファイル
		レベル	A1
		内容	会話場面、会話練習、ロールプレイの提供、使用文法項目の学習 使用語彙の学習
	使用した教材②	名称	「いろどり」及びモデル2提供PDFファイル
		レベル	A1
		内容	会話場面、会話練習、ロールプレイの提供、使用文法項目の学習 使用語彙の学習
	使用した教材③	名称	うごく絵本ライブラリ
		レベル	A1
		内容	ストーリーの理解確認、自分に引き寄せた話題に関するやりとり
話す（発表）	使用した教材①	名称	「いろどり」
		レベル	A1
		内容	自分や身近なことに関する簡単な発表
聞く	使用した教材①	名称	「eTRY!START/N5」
		レベル	A1
		内容	会話の理解、語彙の聞き取り
	使用した教材②	名称	「いろどり」
		レベル	A1
		内容	会話の理解、語彙の聞き取り、聴解タスク
	使用した教材③	名称	うごく絵本ライブラリ
		レベル	A1
		内容	画像を助けとしたストーリーの聞き取り
読む	使用した教材①	名称	「いろどり」
		レベル	A1
		内容	読むタスク
	使用した教材②	名称	「eTRY!START/N5」
		レベル	A1
		内容	文字の読み取り、語彙の読み取り
書く	使用した教材①	名称	「eTRY!START/N5」
		レベル	A1
		内容	文字を書く
	使用した教材②	名称	「いろどり」
		レベル	A1
		内容	書くタスク
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	「いろどり」日本の生活TIPS
		レベル	A1
		内容	日本の生活に関する記事を母語で読む
	使用した教材②	名称	「eTRY!START/N5」
		レベル	-
		内容	コミュニケーションの方法

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	モデル2 提供「会話やりとりテスト」
話す（発表）	モデル2 提供「スピーチテスト」
聞く	各タスクの達成度 モデル2 learningBOX内のテスト
読む	各タスクの達成度 モデル2 learningBOX内のテスト
書く	当校作成のA1/A2用やりとり評価ルーブリック
日本事情・日本理解	特に評価を行わなかった

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標

話す（やりとり）	タスクの達成度 正確さ
話す（発表）	タスクの達成度 正確さ
聞く	タスクの達成度 正確さ
読む	タスクの達成度 正確さ
書く	正確さ（語彙、文法、表現） 構造 分量 内容
日本事情・日本理解	評価しなかった

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	モデル2 指定基準
話す（発表）	モデル2 指定基準
聞く	モデル2 指定基準
読む	モデル2 指定基準
書く	ACTFUL 文化庁（2021）「日本語教育の参照枠 報告」参照
日本事情・日本理解	評価しなかった

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	テストに関しては事前と事後では点数的には伸びている学習者もいたが、learningBOXの試験結果は授業内でのやりとりの様子とは異なった結果も見られ、結果の信頼性が疑われる場合もあった。 ZoomでのQAのやりとりテストでは事前事後では、参加率の高かった学習者は大きな進歩がみられた。
話す（発表）	話すテスト(発表) 自分について話してもらったが、確実に力をつけていることが分かった。正確さ、分量、テキストの構造に関し、明らかに違いがみられた。
聞く	テストに関しては事前と事後では点数的には伸びている学習者もいたが、learningBOXの試験結果は授業内でのやりとりの様子とは異なった結果も見られ、やはり結果の信頼性が疑われる場合もあった。
読む	テストに関しては事前と事後では点数的には伸びている学習者もいたが、learningBOXの試験結果は授業内でのやりとりの様子とは異なった結果も見られ、やはり結果の信頼性が疑われる場合もあった。
書く	書くテストも確実に力をつけていることが分かった。正確さ、分量、テキストの構造に関し、明らかに違いがみられた。
日本事情・日本理解	『いろどり』の教材は興味を喚起する内容も多く、学習者の多くが日本に対する興味を喚起されたり、親しみを感じたりできたようだった。ただし、当校が立地する地域には合わない内容もあり、目的と学習者にあった教材が必要だと感じた。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	適切なカリキュラムの設定
聞く	適切なカリキュラムの設定
読む	適切なカリキュラムの設定
書く	適切なカリキュラムの設定
日本事情・日本理解	適切なカリキュラムの設定

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	音声を通じた全体でのやり取り練習や活動はおおむね問題なくできたが、ペアやグループで行う練習は今回のハイブリットの場合、ブレイクアウトルーム（BOR）を利用する必要がある。しかし、海外からアクセスする学習者がネット環境により、BORに参加する際に負荷が大きくネットから落ちてしまう場合があり、BORの利用ができなかった。それにより、すべての練習が全体で行われ、発言の機会は限られた時間になってしまった。ネット環境に左右される活動は課題が残る。
話す（発表）	発表活動自体は、オンラインで十分に有効なやりとりが可能だが、発表を作るまでのサポートのツールが必要である。今回使用したlearningBOXとZoomではその機能が十分ではないように感じている。アウトプットしたものをよりよくするためのステップに使用するツールが必要であると感じた。また、授業の進め方も、対面より計画的でなければ、実施が難しい。臨機応変な対応が可能な対面とは異なる部分が多く、準備はかなり十分な時間をかける必要がある。
聞く	この授業で利用したモデル2のカリキュラムでは音声を通じたインプットの機会が充実しており、聞く力は大きく伸びた。ただし、タスクの形式に慣れていない学習者も多くオンデマンドでは学習が進まない場合が多く、同期でつないでいる時間に教師のサポートがなければ学習が進まないこともあった。ツールによってできる活動できない活動があり、ツールの特性をよく理解し、それに合わせた活動内容、カリキュラムを組む必要性を実感した。
読む	この授業で利用したモデル2のカリキュラムでは読む力を伸ばすコンテンツが多く準備されていたが、聞く活動同様タスクの形式に慣れていない学習者も多く、オンデマンドでは学習が進まない場合が多く、同期でつないでいる時間に教師のサポートがなければ学習が進まないこともあった。ツールによってできる活動できない活動があり、ツールの特性をよく理解し、それに合わせた活動内容、カリキュラムを組む必要性を実感した。
書く	この授業で利用したモデル2のカリキュラムは文字に関するオンデマンド教材が充実していた。文字の学習はオンデマンド教材が適していることがわかった。同期の時間に行うこととしては意味の理解を確認するタスクが有効であった。また、音声を通じた活動が多く学習者の疲れや気持ちの変化に合わせ、手書きをしてみる活動を入れたところ、気分が変わり、学習の流れもよくなり、学習効果も上がったように感じた。同期の時間の活動のバリエーションを増やすことも学習効果を上げる重要なポイントであると感じた。
日本事情・日本理解	目標とツールに即した適切な教材が必要だと感じた。デジタルであること、オンデマンドも可能であることから、より良い教材の開発が今後必要だと感じている。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	講師向けサポート： 1. 前期授業に引き続き、相互授業見学(オンライン・対面)を自由に行えるようにし、情報の有機的な共有機会を作った。 2. 前期使用した各教師作成の自主教材を共有し、活用可能にした。 3. 授業終了後に全員の教師が参加する振り返りの機会(オンライン・対面・オンデマンド)をつくり、各教師が得た知見を共有し、今後のオンライン授業への課題と展望を共有した。 4. ツールの使用に関しては、使い方マニュアルの提供（書面と動画）とともに随時問い合わせができるコンサルタントを引き続き設置した。 学習者へのサポート：以下、話す(発表)項目に記載
話す（発表）	講師向けサポート：同上 学習者へのサポート： 1. オンラインの学習者に対しては母語のわかるスタッフが対応し、ツールの使い方、学習への参加の仕方を随時サポートした 2. オンラインの学習者には在住国での送り出し機関と協働し、学習者の学習の場の提供、ネット環境の提供を依頼。ツール使用のサポートも当校スタッフと協働で行った。 3. 対面参加の学習者には対面での説明、オンラインでのツールの解説等の母語での提供
聞く	同上
読む	同上
書く	同上
日本事情・日本理解	同上

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

014-2：早稲田文化館日本語科

授業ID	日本語教育機関・モデル名	事前テスト 事後テスト 成長幅（単 正答率（生 正答率（生 位：ポイン テスト満点 徒合計） 徒合計） ト）										事後—事前
		レベル	モデル	モデル外	事前テスト 事前の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後—事前 回答者数	事後—事前 回答者数	事後—事前 回答者数	事後—事前 回答者数	事後—事前 回答者数	
014-2（前半三ヵ月）	早稲田文化館_モデル1 (A2)_7/25-12/9	A1 A2 B1 B2 C	1 2 3 4 5 1 2		731	10	826	9	199	36.7%	46.1%	9
014-2（後半三ヵ月）	早稲田文化館_モデル1 (A2)_7/25-12/9	A1 A2 B1 B2 C	1 2 3 4 5 1 2		518	4	646	4	200	64.8%	80.8%	16

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル1（6か月）
区分	オンラインのみ
1.授業のレベル	A1
2.授業のコース	進学 一般
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/7/25
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/12/9
4.授業の学習時間	100
5.学生の授業への参加率	83
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語、韓国語
6-1.担当された先生①スキル	特になし
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	特になし
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	女性
6-3.担当された先生③使用言語	日本語、英語
6-3.担当された先生③スキル	特になし
6-4.担当された先生④居住国	日本
6-4.担当された先生④性別	女性
6-4.担当された先生④使用言語	日本語
6-4.担当された先生④スキル	特になし
6-5.担当された先生⑤居住国	日本
6-5.担当された先生⑤性別	女性
6-5.担当された先生⑤使用言語	日本語
6-5.担当された先生⑤スキル	特になし
6-6.担当された先生⑥居住国	日本
6-6.担当された先生⑥性別	女性
6-6.担当された先生⑥使用言語	日本語
6-6.担当された先生⑥スキル	特になし
6-7.担当された先生⑦居住国	日本
6-7.担当された先生⑦性別	女性
6-7.担当された先生⑦使用言語	日本語
6-7.担当された先生⑦スキル	特になし
6-8.担当された先生⑧居住国	日本
6-8.担当された先生⑧性別	女性
6-8.担当された先生⑧使用言語	日本語、中国語
6-8.担当された先生⑧スキル	特になし
7.実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	PC付属のスピーカー、マイク
10.使用した映像（カメラ）機	PC付属のカメラ
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	オリジナル動画 動画から取り出したA1レベルの語彙・文法のパワーポイント教材 オリジナルで作成した場面別会話の練習ができるパワーポイント教材 動詞の活用練習のためのオリジナルパワーポイント教材
12.撮影をした場所	普通の教室 その他（講師自宅等）

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	自分の言葉で自己紹介ができ、相手からの簡単な質問にも答える事ができる。
話す（発表）	日本で勉強したいことや将来の希望を自分の言葉で話すことができる。
聞く	非常にゆっくり、はっきり発音してもらえれば、短い簡単な説明や指示の概要を聞くことができる。
読む	ひらがな、カタカナを覚えて、簡単な文が理解できる。
日本事情・日本理解	日本での挨拶など簡単な事が出来るようになる。また、日本について親しみを感ずてもらう。

●生活コース

話す（やりとり）	買物や生活に必要な簡単な日本語が話せる。
話す（発表）	母国や町の紹介が自分の事で話せる。
聞く	非常にゆっくり、はっきり発音してもらえれば、短い簡単な説明や指示の概要を聞くことができる。
読む	ひらがな、カタカナを覚えて、簡単な文が理解できる。
日本事情・日本理解	日本での挨拶など簡単な事が出来るようになる。また、日本について親しみを感ずてもらう。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）
読む	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	動画を見ながらレベルに合った日本語を勉強して、簡単なやりとりが出来る。 教材には翻訳が付いているが、教授法は直接法。
話す（発表）	動画を見て、関連したテーマや勉強した項目を使用して、自分の言葉で発表する。
聞く	語彙や文法の翻訳を頼りながら、動画の概要を理解する。
読む	ひらがな・カタカナで、非常に短い簡単なテキストが読める。
日本事情・日本理解	動画を通じて日本の食べ物、文化に親しみを感ずてもらう。 また、場面別会話で日本の生活マナー、習慣を理解する。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	動画 会話シート
		レベル	A1
		内容	動画の中で使われる会話の練習
	使用した教材②	名称	場面別会話
		レベル	A1
		内容	買い物、ゴミ捨てなど実際の生活場面で必要な知識の紹介と会話の練習
話す（発表）	使用した教材①	名称	動画 作文シート
		レベル	A1
		内容	動画のテーマや使われる文法を使用して、簡単な文を作ったものを読み上げる。
	使用した教材②	名称	教科書（PPT）
		レベル	A1
		内容	基本的な文法や、簡単な語彙を使って、表現する。
	使用した教材③	名称	場面別会話
		レベル	A1
		内容	場面別会話の教材を元に自分の言葉で話す。
聞く	使用した教材①	名称	動画
		レベル	A1
		内容	語彙、文法の翻訳を頼りながら、概要や動画の一部を聞き取る。
	使用した教材②	名称	場面別会話
		レベル	A1
		内容	教材と同じ文章をゆっくり読み上げた物を、聞き取ることが出来る。
読む	使用した教材①	名称	教科書
		レベル	A1
		内容	例文や会話文を、ひらがな・カタカナで読む。
	使用した教材②	名称	動画 会話シート
		レベル	A1
		内容	例文や会話文を、ひらがな・カタカナで読む。
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	動画
		レベル	A1
		内容	語彙・文法の翻訳を頼りながらも、日本の町や文化の概要が理解出来る。
	使用した教材②	名称	場面別会話
		レベル	A1
		内容	買い物、ゴミ捨てなど実際の生活場面で必要な知識を、おおまかに理解する。

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	課程修了後、学習者一人ずつ担当教員がカウンセリングを行い、CEFRの評価基準を参考とし、結果を伝えた。
話す（発表）	CEFRの評価基準を参考とし、授業で発表した内容を総括して結果を伝えた。
聞く	ラーニングボックス 修了テスト
読む	ラーニングボックス 修了テスト
日本事情・日本理解	評価対象には入れていない。

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	CEFR A1 自分や他人を紹介することが出来、どこに住んでいるか、誰と知り合いかななどの個人的情報について、質問したり、答えたり出来る。
話す（発表）	CEFR A1 自分や他人を紹介することが出来、どこに住んでいるか、誰と知り合いかななどの個人的情報について、単純な言葉を並べて、述べる事ができる。
聞く	CEFR A1 非常にゆっくり、はっきり発音してもらえれば、短い簡単な情報、表現は聞くことが出来る。
読む	CEFR A1 視覚的な補助があり、必要であれば読み直したりしながら、簡単な掲示の中のことばや表現を読むことが出来る。
日本事情・日本理解	特別な指標はないが、翻訳を頼りながら、日本の文化や習慣、町について、大枠を理解出来る。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	CEFR A1のやり取りを参考にして設定した。
話す（発表）	CEFR A1の表現を参考にして設定した。
聞く	CEFR A1の理解するを参考にして設定した。
読む	CEFR A1の理解するを参考にして設定した。
日本事情・日本理解	特別な指標はない。

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	最初は、コーラスするのも難しかったが、回数を重ねるにつれ語彙も増えて、クラス活動が成立するようになっていった。 オンライン授業の限られた時間の中でも、日本語を実際に聞いて話す効果が得られたと思う。
話す（発表）	自分のことを発表出来るようになったのは、前半の中盤からだった。教材の翻訳があったからか、話すときも気になるような間違いは少なかったように思われる。
聞く	機材の調子に左右された部分が大きいと思うが、かなりゆっくりした日本語は、聞き取れるようになったと思う。 授業では、単語、例文をコーラスすることを多く取り入れていた成果だと思う。
読む	ひらがな・カタカナは、新しい語彙が出るたびに、コーラスさせて、発音も出来るだけ正確にと心掛けて読ませていた。 後半は、読むことはほとんど時間がかからずに出来るようになった。
日本事情・日本理解	動画と場面別会話の画像やイラストから、日本留学や生活の不安がかなり解消できたと思う。さまざまな場面設定、体験を疑似体験したように感じられたのが良かったと思う。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	対面で授業を行う場合との違いは、その場の空気を察することが難しいということだ。実際の会話は、言葉だけではなく相手の状況を見ながら成立するが、オンラインでは相手の状況によっては、音声だけ、マイクの不調があった場合は、チャットになることもあり、実際の会話とは、ずれたものになってしまうこともあった。 これを改善するには、指導側、学習側双方のネットワーク環境の整備が欠かせないだろう。学習側のネットワーク環境をどこまで整備させることが出来るか、一定の基準が必要になるかと思う。
話す（発表）	習ったことばや、文法を使って、1回の授業のテーマに沿ったことを一言ずつ話すことは出来ても、積み重ねて総合的な内容を話すことは、かなりハードルが高かったと思われる。 ある程度は、教材を学習者にも送ったり配布したりすれば、復習が出来て、理解から表現に繋げることが出来ると思う。
聞く	クラスの人数が適当であれば、オンラインでも参加する学生がきちんと教師や、ほかの学生の話の聞くことが出来ていた。 ただし、ネットワークの環境により、声が途切れたり、はっきり聞き取れなかった場合に、対面に比べると何度か言わせたり、こちらとも言わなければならない。 出席の確認の際に、ネットワークの状況の確認もしてから授業に入っていた。
読む	オンライン上で共有する教材を読むのに、画面を凝視しなければならないのが、長時間は難しい。 可能であれば、使用教材を学生にも配布、あるいは購入させて、終始画面を見なくてもテキストの共有が出来ると望ましい。
日本事情・日本理解	多様な動画、会話教材を利用することによって、対面より多くの状況に接したり、理解が進んだと思う。 材料などが揃えば、動画で見た会話で学んだことを、自国でも試してみるようなことが出来ると、楽しく身になると思う。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	講師：実証事業の授業を始める前に使用教材の紹介、授業計画を示した。 実施中は授業進行会議を行い、授業内容、進捗状況、使用教材例の紹介、学習者の出席状況、学習者の反応、学習者のネット環境等を常に共有しながら進めた。 学習者：学習者の母国語が使える事務局スタッフが常に学習者と連絡を取り合いながら授業についていけない学習者には授業のPPTを送る、母国語で動画の内容を説明するなどサポートを続けた。
話す（発表）	講師：実証事業の授業を始める前に使用教材の紹介、授業計画を示した。 実施中は授業進行会議を行い、授業内容、進捗状況、使用教材例の紹介、学習者の出席状況、学習者の反応、学習者のネット環境等を常に共有しながら進めた。 学習者：学習者の母国語が使える事務局スタッフが常に学習者と連絡を取り合いながら授業についていけない学習者には授業のPPTを送る、母国語で動画の内容を説明するなどサポートを続けた。
聞く	講師：実証事業の授業を始める前に使用教材の紹介、授業計画を示した。 実施中は授業進行会議を行い、授業内容、進捗状況、使用教材例の紹介、学習者の出席状況、学習者の反応、学習者のネット環境等を常に共有しながら進めた。 学習者：学習者の母国語が使える事務局スタッフが常に学習者と連絡を取り合いながら授業についていけない学習者には授業のPPTを送る、母国語で動画の内容を説明するなどサポートを続けた。
読む	講師：実証事業の授業を始める前に使用教材の紹介、授業計画を示した。 実施中は授業進行会議を行い、授業内容、進捗状況、使用教材例の紹介、学習者の出席状況、学習者の反応、学習者のネット環境等を常に共有しながら進めた。 学習者：学習者の母国語が使える事務局スタッフが常に学習者と連絡を取り合いながら授業についていけない学習者には授業のPPTを送る、母国語で動画の内容を説明するなどサポートを続けた。
日本事情・日本理解	講師：実証事業の授業を始める前に使用教材の紹介、授業計画を示した。 実施中は授業進行会議を行い、授業内容、進捗状況、使用教材例の紹介、学習者の出席状況、学習者の反応、学習者のネット環境等を常に共有しながら進めた。 学習者：学習者の母国語が使える事務局スタッフが常に学習者と連絡を取り合いながら授業についていけない学習者には授業のPPTを送る、母国語で動画の内容を説明するなどサポートを続けた。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

014-3：早稲田文化館日本語科

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レベル	モデル										事前テスト 事前の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事後テスト
------	--------------	-----	-----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	-------

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル1 (6か月)
区分	オンラインのみ
1.授業のレベル	A2
2.授業のコース	進学 一般
3-1.授業の実施期間 (開始)	2022/7/25
3-2.授業の実施期間 (終了)	2022/12/9
4.授業の学習時間	100
5.学生の授業への参加率	75
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	特になし
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	男性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	特になし
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	男性
6-3.担当された先生③使用言語	日本語
6-3.担当された先生③スキル	特になし
6-4.担当された先生④居住国	日本
6-4.担当された先生④性別	女性
6-4.担当された先生④使用言語	日本語
6-4.担当された先生④スキル	特になし
6-5.担当された先生⑤居住国	日本
6-5.担当された先生⑤性別	女性
6-5.担当された先生⑤使用言語	日本語
6-5.担当された先生⑤スキル	特になし
6-6.担当された先生⑥居住国	日本
6-6.担当された先生⑥性別	女性
6-6.担当された先生⑥使用言語	日本語
6-6.担当された先生⑥スキル	特になし
7.実施した言語活動	話す (やりとり) 話す (発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	PC付属のスピーカー、マイク
10.使用した映像 (カメラ) 機	PC付属のカメラ
11.使用したファイル形式 (パワーポイント、PDF等)	オリジナル動画 (MP4) 動画から取り出したA2レベルの語彙・文法のパワーポイント教材 オリジナルで作成した会話の練習ができるパワーポイント教材 文法の練習のためのオリジナルパワーポイント教材 各動画のための文法テスト、オリジナルパワーポイント教材 各動画のための作文例、オリジナルパワーポイント教材
12.撮影をした場所	普段の教室 その他 (講師自宅等)

各日本語教育機関の実施結果

A2

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	学習経験や学習活動などの経験を述べることができる
話す（発表）	はっきりとゆっくりとした発音ならば、発話が理解できる。
聞く	日常的な事柄で短くて簡単なテキストが理解できる。
読む	日本事情、日本文化について質問し、答えることができる。
書く	簡単な接続詞を使った表現や文が書ける。
日本事情・日本理解	日本事情、日本文化について質問し、答えることができる。

●生活コース

話す（やりとり）	自分の周りの環境を述べるができる。そして好き嫌いを述べるができる。
話す（発表）	自分や相手の国、家族、人物、食べ物などについて簡単に述べるができる。
聞く	日本や日本文化に関する動画を見ながら、簡単な内容が理解できる。そして、難しい文脈も予想しながら聞く。
読む	短いテキストを読んで理解できる。
書く	動画のテーマに沿った内容に関連付けて過去の活動や経験の記述が書ける。
日本事情・日本理解	日本や日本文化や習慣について短いテキストを読んで、映像を見て理解できる。理解したことや経験などを述べるができる。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）
読む	オンライン（双方向のみ）
書く	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	動画教材を見ながらレベルにあった日本語を勉強し、テーマに沿って簡単なやり取りができる。教師は1つの動画を教員1人が担当し、動画教材・語彙の学習、文法の学習、作文・発表という形で3回に分けて直接法で授業を行う。教材の語彙・文法に訳をつける。
話す（発表）	動画に関するテーマで簡単に発表することができる。
聞く	動画を予測しながら見て聞く。予測しやすい、見て分かりやすい簡単な内容が理解できる。
読む	短いテキストを読んで理解できる。
書く	動画のテーマについて簡単な作文が書ける。
日本事情・日本理解	日本や日本文化や習慣について短いテキストを読んで、映像を見て理解できる。理解したことや経験などを述べるができる。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	動画教材、会話シート；PPT教材
		レベル	A2
		内容	動画の中で使われる会話の練習
話す（発表）	使用した教材①	名称	オリジナル動画動画教材
		レベル	A2
		内容	動画に近いテーマで身近なものについて、発表する。
	使用した教材②	名称	動画の作文シート、PPT教材
		レベル	A2
		内容	動画に近いテーマで身近なものについて、発表する。
聞く	使用した教材①	名称	オリジナル動画
		レベル	A2
		内容	語彙、文法の翻訳を頼りながら予測して聞く。
	使用した教材②	名称	オリジナル動画の新出語彙の音声
		レベル	A2
		内容	新出語彙の音声の発音を聞く
読む	使用した教材①	名称	オリジナルPPT教材
		レベル	A2
		内容	PPT教材の語彙、文法、会話、作文のテキストを読む。
	使用した教材②	名称	オリジナル作文シート
		レベル	A2
		内容	自ら書いた作文を読む
書く	使用した教材①	名称	PPT教材
		レベル	A2
		内容	PPT教材の作文を読み、同じテーマで作文が書ける。
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	オリジナル動画
		レベル	A2
		内容	動画の日本事情を日本文化を見て聞いて理解する。
	使用した教材②	名称	オリジナル作文シート
		レベル	A2
		内容	作文から日本のことが理解できる。

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	課程終了後に学習者に一人ずつ担当教員がカウンセリングを行い、CEFRの評価基準を参考とし、結果を伝えた。
話す（発表）	CEFRの評価基準を参考とし、授業で発表したことを評価した。
聞く	ラーニングボックス 終了テスト
読む	ラーニングボックス 終了テスト
書く	CEFRの評価基準を参考とし、授業で書いた作文を評価した。
日本事情・日本理解	評価対象には入っていない。

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	CEFR A2 動画内容に沿って要点を短く述べるができる。教員との簡単なやりとりができる。
話す（発表）	CEFR A2 動画内容に沿って自分が書いた作文の発表ができる。
聞く	CEFR A2 動画を見て予測しながら聞くことができる。
読む	CEFR A2 作文シートや文法の例文などが読める。
書く	CEFR A2 作文シートを読み、同じテーマで作文が書ける。
日本事情・日本理解	特別な指標はないが、翻訳を頼りながら、日本の文化や習慣、町について、大枠を理解出来る。

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	CEFR A2 やり取りを参考にして設定した。
話す（発表）	CEFR A2 発表を参考にして設定した。
聞く	CEFR A2 理解するを参考にして設定した。
読む	CEFR A2 理解するを参考にして設定した。
書く	CEFR A2 「産出・表現する」を参考にして設定した。
日本事情・日本理解	特別な指標はない。

各日本語教育機関の実施結果

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	学習者の話す（やりとり）の検証テストを設けていなかったが、各授業の動画のテーマで十分な意見交換ができた。
話す（発表）	各動画に関連のあるテーマで学習者が作文を書いて発表ができた。学習者は色々なテーマで発表できたことに対して成長の実感があったかのように思う。
聞く	教材の内容がどんなに難しくても、食べ物や習慣などのような身近なものがあれば、映像教材を頼って聞くことができた。
読む	自ら書いた作文の音読、そしてその記憶のための繰り返し読むことが印象的だった。
書く	各動画のテーマで作文が書けた。
日本事情・日本理解	日本文化に触れたことで少しでも日本のことが理解が深まった。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	適切なカリキュラムの設定
書く	機器等のコスト
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	学習者のインターネット環境により、十分にやりとりができなかったりした。 カメラが映らなくて、学生の表情を見ることができないため、理解できたかどうか分からないこともあった。
話す（発表）	動画に沿って書いた作文の発表があった。発表の準備として1時間設けていたが、学んだ文法などが使わない学習者もいたので、せっかく勉強した文法を使えばいいと思った学習者のネット環境により、聞こえないときもあった。
聞く	環境がよくなってからその再度学習者に聞かせたりしたので、時間がかかった。
読む	読み物はPPT教材と、自分が書いた作文だった。学習者に手元に教科書があれば、やりやすいと思った。
書く	紙に書いた文書の添削が難しかったこと、作文を書いたあと、オンライン上での添削方法が課題だと思う。Zoomのチャットで画像の形で送ってもらい、印刷し、添削をし、画像の形で返すと言う形では手間がかかった。送ってもらった文章を画面共有したまま添削すると、学習者は自分のところで直したかどうか確認ができなかった。
日本事情・日本理解	動画は全レベル用なので、もちろん上のレベルの文法や語彙などが理解できなかったりして、予測しても理解できない点もあったと思う。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	・講師：実証事業の授業を始める前に使用教材の紹介、授業計画を示した。 実施中は授業進行会議を行い、授業内容、進捗状況、使用教材例の紹介、学習者の出席状況、学習者の反応、学習者のネット環境等を常に共有しながら進めた。 学習者：学習者の母国語が使える事務局スタッフが常に学習者と連絡を取り合いながら授業についていけない学習者には授業のPPTを送る、母国語で動画の内容を説明するなどサポートを続けた。学習者が困っている顔の表情を見て、教員が分かりやすい言い方に換えたりしていた。
話す（発表）	・講師：実証事業の授業を始める前に使用教材の紹介、授業計画を示した。 実施中は授業進行会議を行い、授業内容、進捗状況、使用教材例の紹介、学習者の出席状況、学習者の反応、学習者のネット環境等を常に共有しながら進めた。 学習者：学習者の母国語が使える事務局スタッフが常に学習者と連絡を取り合いながら授業についていけない学習者には授業のPPTを送る、母国語で動画の内容を説明するなどサポートを続けた。学習者が発表に向けて準備するとき、分からないことなどを教員が教えてあげたり、添削してあげたりした。発表前に作文例もあり、イメージしやすい環境が作れたと思う。
聞く	・講師：実証事業の授業を始める前に使用教材の紹介、授業計画を示した。 実施中は授業進行会議を行い、授業内容、進捗状況、使用教材例の紹介、学習者の出席状況、学習者の反応、学習者のネット環境等を常に共有しながら進めた。 学習者：学習者の母国語が使える事務局スタッフが常に学習者と連絡を取り合いながら授業についていけない学習者には授業のPPTを送る、母国語で動画の内容を説明するなどサポートを続けた。学習者が正しい発音が聞けるよう、語彙の音声練習を動画に入れてあったのでよかったと思う。そしてインターネット環境がよくないとき、再度再生したりしてフォローした。
読む	・講師：実証事業の授業を始める前に使用教材の紹介、授業計画を示した。 実施中は授業進行会議を行い、授業内容、進捗状況、使用教材例の紹介、学習者の出席状況、学習者の反応、学習者のネット環境等を常に共有しながら進めた。 学習者：学習者の母国語が使える事務局スタッフが常に学習者と連絡を取り合いながら授業についていけない学習者には授業のPPTを送る、母国語で動画の内容を説明するなどサポートを続けた。動画教材の語彙、文法が読みやすいようにルビをふったり、翻訳を入れたりした教材だったので、学習しやすい環境だったと思う。
書く	・講師：実証事業の授業を始める前に使用教材の紹介、授業計画を示した。 実施中は授業進行会議を行い、授業内容、進捗状況、使用教材例の紹介、学習者の出席状況、学習者の反応、学習者のネット環境等を常に共有しながら進めた。 学習者：学習者の母国語が使える事務局スタッフが常に学習者と連絡を取り合いながら授業についていけない学習者には授業のPPTを送る、母国語で動画の内容を説明するなどサポートを続けた。手間がかかったが、書いた文書の添削を行うことができた。
日本事情・日本理解	・講師：実証事業の授業を始める前に使用教材の紹介、授業計画を示した。 実施中は授業進行会議を行い、授業内容、進捗状況、使用教材例の紹介、学習者の出席状況、学習者の反応、学習者のネット環境等を常に共有しながら進めた。 学習者：学習者の母国語が使える事務局スタッフが常に学習者と連絡を取り合いながら授業についていけない学習者には授業のPPTを送る、母国語で動画の内容を説明するなどサポートを続けた。動画教材には日本事情や文化に関する動画が多くて、日本のことを深く理解するために教材が役に立ったのではないかなと思う。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

014-4：早稲田文化館日本語科

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レベル			モデル					モデル外		事前テスト		事後テスト		事前テスト		事後テスト	成長幅 (単位: ポイント)		
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	事前の点数 (生徒合計)	回答者数	事後の点数 (生徒合計)	回答者数			テスト満点	達成率 (%)
014-4 (前半三ヵ月)	早稲田文化館_モデル1 (B1)_7/25-12/9			○			○							343	3	511	3	200	57.2%	85.2%	28
014-4 (後半三ヵ月)	早稲田文化館_モデル1 (B1)_7/25-12/9			○			○							258	2	349	2	215	60.0%	81.2%	21

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル1（6か月）
区分	オンラインのみ
1.授業のレベル	B1
2.授業のコース	進学 一般
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/7/25
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/12/9
4.授業の学習時間	100
5.学生の授業への参加率	91
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語、英語
6-1.担当された先生①スキル	特になし
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	男性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語、中国語
6-2.担当された先生②スキル	特になし
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	女性
6-3.担当された先生③使用言語	日本語
6-3.担当された先生③スキル	特になし
6-4.担当された先生④居住国	日本
6-4.担当された先生④性別	女性
6-4.担当された先生④使用言語	日本語
6-4.担当された先生④スキル	特になし
6-5.担当された先生⑤居住国	日本
6-5.担当された先生⑤性別	男性
6-5.担当された先生⑤使用言語	日本語
6-5.担当された先生⑤スキル	特になし
6-6.担当された先生⑥居住国	日本
6-6.担当された先生⑥性別	女性
6-6.担当された先生⑥使用言語	日本語
6-6.担当された先生⑥スキル	特になし
6-7.担当された先生⑦居住国	日本
6-7.担当された先生⑦性別	女性
6-7.担当された先生⑦使用言語	日本語
6-7.担当された先生⑦スキル	特になし
6-8.担当された先生⑧居住国	日本
6-8.担当された先生⑧性別	女性
6-8.担当された先生⑧使用言語	日本語、韓国語
6-8.担当された先生⑧スキル	特になし
6-9.担当された先生⑨居住国	日本
6-9.担当された先生⑨性別	女性
6-9.担当された先生⑨使用言語	日本語
6-9.担当された先生⑨スキル	特になし
6-10.担当された先生⑩居住国	日本
6-10.担当された先生⑩性別	女性
6-10.担当された先生⑩使用言語	日本語
6-10.担当された先生⑩スキル	特になし

各日本語教育機関の実施結果

7.実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	PC付属のスピーカー、マイク
10.使用した映像（カメラ）機	PC付属のカメラ
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	オリジナル動画（MP4） 動画から取り出したB1レベルの語彙・文法のパワーポイント教材 オリジナルで作成したB1レベルの文法のパワーポイント教材 オリジナルで作成した場面別会話の練習ができるパワーポイント教材 オリジナルで作成した日本文化のパワーポイント教材
12.撮影をした場所	普段の教室 その他（講師自宅等）

B1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	学校で出合うような話題について基本的な表現を用いて個人的な意見を表明したり、情報を交換したりすることができるようになる。 自分の専門分野や興味のある話題について論理的に説明することができるようにする。
話す（発表）	身近な話題や自分の専門分野について、根拠を示しながら自分の意見を具体的に述べられるようにする。
聞く	簡単な社会的な話題や専門の情報について、短い説明を聞いて、要点を概ね理解することができるようになる。
読む	簡単な社会的な話題や専門分野に関する文章を読んで、重要な点を取り出すことができるようになる。
日本事情・日本理解	オリジナル動画を見て、日本の町や文化に触れ、日本の社会文化について考えを深める。

●生活コース

話す（やりとり）	基本的な表現を用いて、出来事を説明したり、自分の希望を伝えたりすることができるようになる。 日常的な話題について、自分の考えや気持ちなどを適切な表現を用いて伝えあうことができるようになる。
話す（発表）	自分の関心のあるさまざまな話題について、事実や自分の考えをまとめて、簡単な表現を用いて、まとまりのある内容を話すことができるようになる。
聞く	日常的な話題について、必要な情報を聞き取り、話の要点を捉えることができるようになる。
読む	生活に必要な情報や日常的な話題について、必要な情報を読み取り、短い文章の概要を捉えることができるようになる。
日本事情・日本理解	オリジナル動画を見て、日本の町や文化に触れ、日本について親しみを覚えてもらう。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）
読む	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	動画に関する理解やりとりや、会話シート、オリジナル教材による場面別会話を通して話す（やりとり）の内容を実施した。主に会話授業に慣れていた話を引き出すことが得意な教員を配置した。
話す（発表）	発表の基本について説明し、「おすすめのお土産・特産品」「いまはやっている○○」というテーマで内容を考えさせて発表させる練習を実施した。プレゼンテーションなどの授業経験が豊富で発表内容を引き出すことが得意な教員を配置した。
聞く	オリジナル動画の音声を使ってディクテーションや簡単な確認問題を作って聴解練習を実施した。動画を担当する教員に担当してもらった。
読む	オリジナル動画の文字や視覚情報の部分を使って簡単な確認問題を作って読む練習を実施した。動画を担当する教員に担当してもらった。
日本事情・日本理解	「神社」「相撲」「和食」「節句」などオリジナル動画の内容に関連する日本の伝統的な文化から「映え」「かわいい」などのポップカルチャーを紹介した。主に日本文化のパワーポイント教材を作成した教員に担当してもらった。

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	オリジナルで作成した場面別会話の練習ができるパワーポイント教材
		レベル	B1
		内容	買い物、ゴミ捨てなど実際の生活場面で必要な知識の紹介と会話の練習
	使用した教材②	名称	動画から取り出したB1レベルの語彙・文法のパワーポイント教材の会話シート
		レベル	B1
		内容	オリジナル動画の中で使われる会話の練習
話す（発表）	使用した教材①	名称	オリジナルのパワーポイント教材
		レベル	B1
		内容	発表の基本や注意事項、発表テーマに関する説明
	使用した教材②	名称	動画から取り出したB1レベルの語彙・文法のパワーポイント教材の作文シート
		レベル	B1
		内容	動画の題材をテーマに、動画の中で使われる文法を使用し発表の練習をする。
聞く	使用した教材①	名称	オリジナル動画
		レベル	B1
		内容	オリジナル動画の音声の一部分を聞き取る。
	使用した教材②	名称	オリジナルで作成した場面別会話の練習ができるパワーポイント教材
		レベル	B1
		内容	教材の一部分を使って聞き取る練習をする。
読む	使用した教材①	名称	オリジナル動画
		レベル	B1
		内容	オリジナル動画の文字や視覚情報部分を読む。
	使用した教材②	名称	オリジナルで作成した日本文化のパワーポイント教材
		レベル	B1
		内容	教材の中にある短い文章を読む。
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	オリジナルで作成した日本文化のパワーポイント教材
		レベル	B1
		内容	「神社」「相撲」「映え」などの日本の伝統的な文化、ポップカルチャーの紹介
	使用した教材②	名称	オリジナルで作成した場面別会話の練習ができるパワーポイント教材
		レベル	B1
		内容	買い物、ゴミ捨てなど実際の生活場面で必要な知識を、おおまかに理解する。

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	課程修了後、学習者一人ずつ担当教員がカウンセリングを行い、CEFRの評価基準を参考とし、結果を伝えた。
話す（発表）	CEFRの評価基準を参考とし、授業で発表した内容を総括して結果を伝えた。
聞く	ラーニングボックス 修了テスト
読む	ラーニングボックス 修了テスト
日本事情・日本理解	評価対象には入れていない。

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	CEFR B1 経験、出来事、夢、希望など身近な話題について説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べるができる。
話す（発表）	CEFR B1 身近な話題や自分の専門分野について、根拠を示しながら自分の意見を具体的に述べるができる。
聞く	CEFR B1 仕事、学校、娯楽で普段出合うような身近な話題について、標準な話し方であれば主要点を理解できる。
読む	CEFR B1 生活に必要な情報や日常的な話題について、必要な情報を読み取り、短い文章の概要を捉えることができる。
日本事情・日本理解	特別な指標はないが、日本の文化や習慣、町について、概ね理解することができる。

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	CEFR B1の【やりとり（相互行為）】を参考にして設定した。
話す（発表）	CEFR B1の【産出（表現する）】を参考にして設定した。
聞く	CEFR B1の【受容（理解する）】を参考にして設定した。
読む	CEFR B1の【受容（理解する）】を参考にして設定した。
日本事情・日本理解	特に指標はない。

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	最初は、自分の言いたいことをうまく表現できなかったが、回数を重ねるにつれ、いろいろなストラテジーを習得し、自信を持って表現できるようになった。 オンライン授業の限られた時間の中でも、日本語を実際に聞いて話す効果が得られたと思う。
話す（発表）	発表の仕方をマスターし、発表したい内容を考えてまとめて発表する能力を身につけたと考えられる。
聞く	最初はうまく聞き取れなかったが、練習の回数を重ねるにつれ、日本語の発音に慣れ、基本的な表現を聞き取れるようになった。
読む	最初は時間がかかったが、どこに注目して読めばよいかについてレクチャーしてから、読むことはほとんど時間がかからずできるようになった。
日本事情・日本理解	オリジナル動画や日本文化のパワーポイント教材を勉強することによって、日本の町や生活、文化に興味を持ち、早く日本に行って日本で生活したいという気持ちが芽生えた。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	適切なカリキュラムの設定
聞く	機器等のコスト
読む	適切なカリキュラムの設定
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	こちら側では話す（やりとり）に関する授業内容をたくさん取り入れたつもりだったが、学習者はもっと話す練習をしたいという要望があった。学習者のニーズに応じて、会話の授業内容を増やしたり、あらゆる状況を利用して会話する機会を作り出す工夫がもっと必要だと考える。また、通信環境や設備の問題で学習者の発音や教師の指示をうまく聞き取れなかったり、確認も難しいという問題点もある。
話す（発表）	テーマを与えて、そのテーマに沿って内容を考えてまとめて、みんなの前で発表することが学習者にとって負担が大きかった。話す（発表）の重要性と必要性を理解させ、学習者の負担を減らす工夫がもっと必要だと考える。オンライン授業の関係で、ほかの学習者が考えた内容や進捗をその場で確認したり意見交換したりすることが難しかった。 また、学習者は普段の勉強も多忙で授業外の時間を利用することが難しいため、授業内の時間で完成させているが、その分、学習者同士でコメントや質問し合う時間がなく、時間の配分が課題になる。
聞く	主にオリジナル動画の音声部分を使ってディクテーションの練習で聞く授業を実施してきたが、オリジナル動画以外の聞く教材を増やしたり、ディクテーション以外の練習パターンを変えたりする工夫が必要だと考える。また、通信環境の関係で声が切れたり、うまく聞き取れなかったりする場面もあった。
読む	主にオリジナル動画の文字や視覚情報の部分を使って読む授業を実施してきたが、練習問題はその日の担当の先生に任せていて、統一していなかった。単独で読む教材や練習問題を作成し、それを利用して授業を実施したほうがいいかもしれない。また、可能であれば、使用教材を学生にも配布、あるいは購入させて、テキストの共有ができると望ましい。
日本事情・日本理解	多様なテーマがあって学習者は概ね興味を持って取り組んでいたが、難しい言葉が多く、理解するのに時間がかかった。説明する時間を多く設けてきたが、一方的な説明を減らし、学習者に確認しながら、たくさん発話させる工夫も考える必要がある。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	・講師：実証事業の授業を始める前に使用教材の紹介、授業計画を示した。実施中は授業進行会議を行い、授業内容、進捗状況、使用教材例の紹介、学習者の出席状況、学習者の反応、学習者のネット環境等を常に共有しながら進めた。 ・学習者：学習者の母国語が使える事務局スタッフが常に学習者と連絡を取り合いながら、授業についていけない学習者には授業のPPTを送る、母国語で動画の内容を説明するなどサポートを続けた。
話す（発表）	・講師：実証事業の授業を始める前に使用教材の紹介、授業計画を示した。実施中は授業進行会議を行い、授業内容、進捗状況、使用教材例の紹介、学習者の出席状況、学習者の反応、学習者のネット環境等を常に共有しながら進めた。 ・学習者：学習者の母国語が使える事務局スタッフが常に学習者と連絡を取り合いながら、授業についていけない学習者には授業のPPTを送る、母国語で動画の内容を説明するなどサポートを続けた。
聞く	・講師：実証事業の授業を始める前に使用教材の紹介、授業計画を示した。実施中は授業進行会議を行い、授業内容、進捗状況、使用教材例の紹介、学習者の出席状況、学習者の反応、学習者のネット環境等を常に共有しながら進めた。 ・学習者：学習者の母国語が使える事務局スタッフが常に学習者と連絡を取り合いながら、授業についていけない学習者には授業のPPTを送る、母国語で動画の内容を説明するなどサポートを続けた。
読む	・講師：実証事業の授業を始める前に使用教材の紹介、授業計画を示した。実施中は授業進行会議を行い、授業内容、進捗状況、使用教材例の紹介、学習者の出席状況、学習者の反応、学習者のネット環境等を常に共有しながら進めた。 ・学習者：学習者の母国語が使える事務局スタッフが常に学習者と連絡を取り合いながら、授業についていけない学習者には授業のPPTを送る、母国語で動画の内容を説明するなどサポートを続けた。
日本事情・日本理解	・講師：実証事業の授業を始める前に使用教材の紹介、授業計画を示した。実施中は授業進行会議を行い、授業内容、進捗状況、使用教材例の紹介、学習者の出席状況、学習者の反応、学習者のネット環境等を常に共有しながら進めた。 ・学習者：学習者の母国語が使える事務局スタッフが常に学習者と連絡を取り合いながら、授業についていけない学習者には授業のPPTを送る、母国語で動画の内容を説明するなどサポートを続けた。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

014-5：早稲田文化館日本語科

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レ ベ ル		モ デ ル					モ デ ル 外		事前テスト		事後テスト		事前テスト		事後テスト	成長幅 (単 位: ポイン ト)			
											事前の点数 (生徒合 計)		事後の点数 (生徒合 計)		テスト満点 (生徒合 計)						
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	計	回答者数	計			回答者数	事後一	
014-5	早稲田文化館日本語科_モデル 外 (B2) _9/26-12/21					○								480	6	306	3	162	49.4%	63.0%	14

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル6（期間自由設定）
区分	オンライン型
1.授業のレベル	B2
2.授業のコース	進学 一般
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/9/26
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/12/21
4.授業の学習時間	70
5.学生の授業への参加率	60
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語、英語
6-1.担当された先生①スキル	特になし
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	特になし
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	女性
6-3.担当された先生③使用言語	日本語
6-3.担当された先生③スキル	特になし
6-4.担当された先生④居住国	日本
6-4.担当された先生④性別	女性
6-4.担当された先生④使用言語	日本語
6-4.担当された先生④スキル	特になし
6-5.担当された先生⑤居住国	日本
6-5.担当された先生⑤性別	女性
6-5.担当された先生⑤使用言語	日本語
6-5.担当された先生⑤スキル	特になし
6-6.担当された先生⑥居住国	日本
6-6.担当された先生⑥性別	女性
6-6.担当された先生⑥使用言語	日本語
6-6.担当された先生⑥スキル	特になし
6-7.担当された先生⑦居住国	日本
6-7.担当された先生⑦性別	女性
6-7.担当された先生⑦使用言語	日本語
6-7.担当された先生⑦スキル	特になし
6-8.担当された先生⑧居住国	日本
6-8.担当された先生⑧性別	男性
6-8.担当された先生⑧使用言語	日本語
6-8.担当された先生⑧スキル	特になし
6-9.担当された先生⑨居住国	日本
6-9.担当された先生⑨性別	女性
6-9.担当された先生⑨使用言語	日本語
6-9.担当された先生⑨スキル	特になし
6-10.担当された先生⑩居住国	日本
6-10.担当された先生⑩性別	女性
6-10.担当された先生⑩使用言語	日本語
6-10.担当された先生⑩スキル	特になし

各日本語教育機関の実施結果

7.実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	PC付属のスピーカー、マイク
10.使用した映像（カメラ）機	PC付属のカメラ
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	オリジナル動画（MP4） 動画から取り出したB2レベルの語彙・文法のパワーポイント教材 オリジナルで作成した場面別会話の練習ができるパワーポイント教材
12.撮影をした場所	普段の教室 その他（講師自宅等）

B2

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	自分の意見や考えをはっきりと説明し主張することができるようになる。
話す（発表）	データやグラフなどを説明できるような表現を学び、それを元にプレゼンテーションできるようにする。
聞く	身近な話題から多少専門的な話題まで、物事の経緯や詳しい説明などを聞き取れるようになる。
読む	ある程度長さがあり、複雑な文章でも比較的短時間で読み取ることができるようになる。
書く	日本の文化や習慣などへの理解を深め、日本の社会や日本語への関心をさらに持ってもらふ。
日本事情・日本理解	生活に必要なシーン（買い物や外食など）において必要な会話を身につける。

●生活コース

話す（やりとり）	生活に必要なシーン（買い物や外食など）において必要な会話を身につける。
話す（発表）	身近な話題から社会に関することまで、自分の意見を述べられるようになる。
聞く	オリジナル動画から、物事の経緯や詳しい説明などを聞き取れるようになる。
読む	N2レベルまでの語彙をルビなしでも読めるようになる。ある程度長さがあり、複雑な文章でも比較的短時間で読み取ることができるようになる。
書く	N2レベルまでの語彙をルビなしでも読めるようになる。ある程度長さがあり、複雑な文章でも比較的短時間で読み取ることができるようになる。
日本事情・日本理解	日本の文化や習慣などへの理解を深め、日本の社会や日本語への関心をさらに持ってもらふ。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）
読む	オンライン（双方向のみ）
書く	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	その日に学習した文型を使い、毎回簡単なトピックで自分の意見を述べる練習。その文型がどのような場面で用いるかの理解を深める目的。
話す（発表）	二回の個人発表の時間を設け、テーマに沿って1人約10分程度の発表を行う。発表に必要な準備をさせるため、当校の中上級レベルクラスでプレゼンテーションを多く担当している教員を配置。
聞く	オリジナル動画を見せ、ナレーションで聞き取れなかった箇所のフィードバックを行う。
読む	基本的にルビなしでテキストを読む。
日本事情・日本理解	動画はもちろん、イラストや写真なども多く用いて伝統的な日本文化からポップカルチャーまで幅広く紹介。様々な世代の教員を配置することにより、色々な角度から日本理解を促す狙い。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	場面別会話 1「引っ越し」（PPT）
		レベル	B2
		内容	引っ越しの挨拶から家の探し方まで、それに関連した会話を学習する。
	使用した教材②	名称	場面別会話 2「ラーメン」（PPT）
		レベル	B2
		内容	お店での注文の仕方などを学び、実際の場面を想定した会話の練習をする。
話す（発表）	使用した教材①	名称	「自国の文化や習慣を紹介しよう」（PPT）
		レベル	B2
		内容	自国の文化や習慣を紹介し、なぜそれが現代も人々に親しまれているのかなどの考察も加える。それを元に他の人たちとディスカッションまで発展させる。
	使用した教材②	名称	「コロナ禍での良い変化」（PPT）
		レベル	B2
		内容	コロナ禍において良い方向へ変わったことについて社会的なことから個人的なことまで自分の興味関心に基づいて、データなども紹介しながら発表。
	使用した教材③	名称	「発表の仕方を学ぼう」（PPT）
		レベル	B2
		内容	発表の構成、順番、姿勢など発表の仕方について学ぶ
聞く	使用した教材①	名称	オリジナル動画（MP4）
		レベル	B2
		内容	動画内のナレーターの音声を取り取る。
読む	使用した教材①	名称	オリジナル動画（MP4）
		レベル	B2
		内容	動画内の説明文を読む。
	使用した教材②	名称	N2文法
		レベル	B2
		内容	N2相当の文型の例文を読む。
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	オリジナル動画（MP4）
		レベル	B2
		内容	日本に関する動画を見ながら、その歴史や背景などを学習する。
	使用した教材②	名称	日本文化（PPT）
		レベル	B2
		内容	「相撲」「和食」「kawaiiファッション」など新旧様々な文化について学習する。

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	CEFRの評価基準を参考に成績を出し、講座終了後に一对一のカウンセリングを行った。
話す（発表）	CEFRの評価基準を参考に、授業内の発表を評価。
聞く	ラーニングボックス（修了テスト）
読む	ラーニングボックス（修了テスト）
日本事情・日本理解	特に評価はなし。

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標

話す（やりとり）	CEFR B2 自然に会話をする事ができ、日本語母語話者と普通にやりとりができる。
話す（発表）	CEFR B2 物事を詳細に説明でき、賛成・反対の意見の理由も明確に述べる事ができる。
聞く	CEFR B2 ある程度長さのある会話などを理解できる。講義など多少難しい内容でも話の内容を把握することができる。
読む	CEFR B2 ニュースや新聞の記事などが読める。
日本事情・日本理解	日本の社会生活や文化にいたるまで、その背景や広い視野で見て他の受講生と意見交換をすることができる。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	CEFR B2のやり取りを参考にして設定。
話す（発表）	CEFR B2の表現を参考にして設定。
聞く	CEFR B2の「理解する」を参考にして設定。
読む	CEFR B2の「理解する」を参考にして設定。
日本事情・日本理解	特に指標はなし。

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	普段の授業から意見を述べる練習をしていたこともあり、最初に比べて物事を順序立てて話せるようになった。
話す（発表）	積極的な姿勢で取り組んでもらうことができた。パワーポイントやPDFを共有できるというZoomの特長を生かし、受講生自身が作成した資料を他の人も見ることができ、非常にわかりやすく発表が行えた。
聞く	なじみのない語彙も文脈で予測しながら聞くことができるようになった。
読む	テキストを読む際に正しい発音を意識させた。
日本事情・日本理解	最近の流行語などを授業で紹介することに受講生が大変興味を持ってくれた。また、日本の祝日や風習などもその都度紹介し喜ばれた。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	適切なカリキュラムの設定
読む	適切なカリキュラムの設定
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	受講生の人数がオンライン授業の進め方に大きく影響すると思う。大人数になると対面以上に話すハードルが高くなると感じる。
話す（発表）	Zoomを用いるのであれば発表はとても扱いやすい。
聞く	著作権の問題で市販の教材を使うことができないため、EJUやJLPTなどの試験対策が難しい。
読む	著作権の問題で市販の教材を使うことができないため、小説や散文などを授業に取り入れる工夫が必要。
日本事情・日本理解	著作権の問題で市販の教材を使うことができないため、小説や散文などを授業に取り入れる工夫が必要。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	・講師：実証事業の授業を始める前に使用教材の紹介、授業計画を示した。 実施中は授業進行会議を行い、授業内容、進捗状況、使用教材例の紹介、学習者の出席状況、学習者の反応、学習者のネット環境等を常に共有しながら進めた。 ・学習者：たくさん話させることを教員の間の共通認識とし、毎回どの授業でも必ず一人ずつに意見を求めるなど発話を促した。
話す（発表）	・講師：実証事業の授業を始める前に使用教材の紹介、授業計画を示した。 実施中は授業進行会議を行い、授業内容、進捗状況、使用教材例の紹介、学習者の出席状況、学習者の反応、学習者のネット環境等を常に共有しながら進めた。 ・学習者：発表の準備時間が多く取れない人のため、テーマを少し前から伝え、準備の時間を長くするなど。
聞く	・講師：実証事業の授業を始める前に使用教材の紹介、授業計画を示した。 実施中は授業進行会議を行い、授業内容、進捗状況、使用教材例の紹介、学習者の出席状況、学習者の反応、学習者のネット環境等を常に共有しながら進めた。 ・学習者：動画で聞き取りにくかったところを再度聞いてもらい、難しい言葉などはチャットなどで文字を打ち確認した。
読む	・講師：実証事業の授業を始める前に使用教材の紹介、授業計画を示した。 実施中は授業進行会議を行い、授業内容、進捗状況、使用教材例の紹介、学習者の出席状況、学習者の反応、学習者のネット環境等を常に共有しながら進めた。 ・学習者：漢字にはルビをふらず、読めるところだけでもとにかく読んでもらい、分からないところはチャットで教えたりした。
日本事情・日本理解	・講師：実証事業の授業を始める前に使用教材の紹介、授業計画を示した。 実施中は授業進行会議を行い、授業内容、進捗状況、使用教材例の紹介、学習者の出席状況、学習者の反応、学習者のネット環境等を常に共有しながら進めた。 ・学習者：その日の天気や気候、祝日やイベントなどを紹介し興味を持ってもらう工夫した。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

016-1：東方国際学院

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レベ ル										モ デ ル		モ デ ル 外		事前テスト 事前の点数 (生徒合 計)		事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)		テスト満点		事前テスト 正答率 (生 徒合計)	事後テスト 正答率 (生 徒合計)	成長幅 (単 位: ポイン ト)							
		A1		A2		B1		B2		C		1		2		3		4		5		1		2							
016-1	東方国際学院_モデル外 (A1) _7/14-12/16	○																													

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	モデル外②
区分	オンラインのみ
1.授業のレベル	A1
2.授業のコース	進学 就職 一般
3-1.授業の実施期間 (開始)	2022/7/11
3-2.授業の実施期間 (終了)	2022/12/15
4.授業の学習時間	88
5.学生の授業への参加率	76
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	日本語教師養成講座420時間終了
7.実施した言語活動	話す (やりとり) 話す (発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解その他
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	PC内蔵スピーカー
10.使用した映像 (カメラ) 機	PC内蔵カメラ
11.使用したファイル形式 (パワーポイント、PDF等)	PPT PDF
12.撮影をした場所	普段の教室 その他 (講師自宅等)

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	「みんなの日本語」で学習した文法・語彙を使って学習者同士または日本人(教師)と会話することができる
話す（発表）	みんなの日本語のB練、C練、会話をリピート→個別で発声することによって正しい日本語の発音を身につける
聞く	日本人教師の指示を理解できる。課末問題のリスニング問題ができるようになる
読む	課末問題の短いストーリーが理解できるようになる
書く	音と文字が一致して書くことができるようになる
日本事情・日本理解	日本語学習を通じて日本に興味を持ち、楽しんでもらう
その他	一般的な生活で使用する会話や話題で活用できる日本語能力を身につける。N5レベルの力をつける

●就職コース

話す（やりとり）	「みんなの日本語」で学習した文法・語彙を使って学習者同士または日本人(教師)と会話することができる
話す（発表）	みんなの日本語のB練、C練、会話をリピート→個別で発声することによって正しい日本語の発音を身につける
聞く	日本人教師の指示を理解できる。課末問題のリスニング問題ができるようになる
読む	課末問題の短いストーリーが理解できるようになる
書く	音と文字が一致して書くことができるようになる
日本事情・日本理解	日本語学習を通じて日本に興味を持ち、楽しんでもらう
その他	一般的な生活で使用する会話や話題で活用できる日本語能力を身につける。N5レベルの力をつける

●生活コース

話す（やりとり）	「みんなの日本語」で学習した文法・語彙を使って学習者同士または日本人(教師)と会話することができる
話す（発表）	みんなの日本語のB練、C練、会話をリピート→個別で発声することによって正しい日本語の発音を身につける
聞く	日本人教師の指示を理解できる。課末問題のリスニング問題ができるようになる
読む	課末問題の短いストーリーが理解できるようになる
書く	音と文字が一致して書くことができるようになる
日本事情・日本理解	日本語学習を通じて日本に興味を持ち、楽しんでもらう
その他	一般的な生活で使用する会話や話題で活用できる日本語能力を身につける。N5レベルの力をつける

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）
読む	オンライン（双方向のみ）
書く	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）
その他	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	学習した文型を使い、こちらの質問またはクラスメートの質問に答える活動を取り入れた。
話す（発表）	学習した文型を使い、こちらの質問またはクラスメートの質問に答える活動を取り入れた。
聞く	課末聴解問題以外では「みんなの日本語」B練・C練をするときは、教師の声を聞き、リピートした。
読む	課末読解問題以外では、PPTに表示している短い文を読むことができる。
書く	数回だけが、宿題として復習として復習問題の答えを書いてもらいノートの写真を送ってもらい、チェックしたものを送った。
日本事情・日本理解	日本の文化をときどき紹介し、興味を持ってもらった
その他	イラストを多用したPPTを用い、場面状況が掴みやすく、楽しい学習環境をつくる。みんなの日本語初級I

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	クラス活動集 1 0 1
		レベル	A1
		内容	対話を通して学習者が互いを知る ゲーム(なぞなぞなど)
話す（発表）	使用した教材①	名称	クラス活動集 1 0 1
		レベル	A1
		内容	自分自身のことや意見を発表してもらう
聞く	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ 課末問題
		レベル	A1
		内容	各課末にある聴解問題
読む	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ 課末問題
		レベル	A1
		内容	各課末にあるショートストーリーを音読し、設問に答える
書く	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ 課末問題
		レベル	A1
		内容	各課末にある問題の設問に答える。2 回長期休みに解答をノートに書いて送ってもらった。
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	写真
		レベル	A1
		内容	写真で紹介してQ&Aを行った
その他	使用した教材①	名称	小休憩の雑談
		レベル	A1
		内容	各国の世間話など

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	Zoom
話す（発表）	Zoom
聞く	Zoom 各課末問題
読む	Zoom leaning BOX
書く	Zoom
日本事情・日本理解	Zoom
その他	Zoom leaning BOX

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	こちらからの呼びかけ、質問が理解できるか
話す（発表）	学習した文型を使用した応答活動において自分のことを話すことができるか
聞く	正しい音を聞いて文字化できるか
読む	語彙・文型を理解して大意把握できるかどうか
書く	LINEグループを使って、自分の言いたいことを書くことができるかどうか
日本事情・日本理解	テキスト以外の教材に触れ、楽しんだり、興味を持ったりできるかどうか
その他	一般的な生活で使用する会話や話題で活用できる日本語能力を身につける。N5レベルの力をつける

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	leaning BOX
話す（発表）	leaning BOX
聞く	leaning BOX
読む	leaning BOX
書く	leaning BOX
日本事情・日本理解	leaning BOX
その他	leaning BOX

各日本語教育機関の実施結果

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	オンライン上でもよい関係が構築され、既習の文型；語彙を使ってコミュニケーションがとれた。
話す（発表）	学習者のレベルの差はあったが、敢えてレベルの違う学習者さんとペアになってもらい互いに刺激を受けてもらった。
聞く	「聞く」ことにおいては耳が慣れてきたと思われるが学習文型の定着までいかず、点数が伸びなかった。
読む	課末読解文が主な活動となったが、ストーリーを読む楽しさに触れることで楽しく設問に取り組めた。
書く	「書く」ことに関しては漢字学習も含めかなり少なかったのが、今後の課題である。
日本事情・日本理解	日本文化の範囲が広いので、生徒にとってテーマによって正しく理解され、楽しんでもらえたか疑問 テキストだけでなく、カラー写真や動画を見ることによってちょっとしたブレイクタイムとなった。
その他	日頃から勉強熱心な生徒は進歩がみられた

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	適切なカリキュラムの設定
話す（発表）	適切なカリキュラムの設定
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	機器等のコスト
書く	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	その他
その他	その他

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	ブレイクアウトルームを使用して良かった。
話す（発表）	投げかけた質問が難しかったのか、学習者がもどかしく答える様子を感じた。
聞く	別冊の補助教材を取り入れればよかった。
読む	別冊の補助教材を取り入れればよかった。
書く	漢字の学習も取り入れればよかった。
日本事情・日本理解	日本文化の範囲が広いので生徒にとってテーマによって正しく理解され、楽しんでもらえたか疑問
その他	生徒の顔が常時ONではないので平等に声がけできているか気にする必要がある

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	授業は「みんなの日本語」に沿って進めたが、授業前にウォーミングアップの時間設け、雑談を行った。
話す（発表）	殆どの授業前にウォーミングアップの時間を設け、時事ニュースなどを取り入れた。
聞く	小休憩などで雑談や質問に答えた
読む	SNS(LINE)グループを通じて連絡事項や簡単なサポートを時々行った。
書く	ひらがな、カタカナの文字のアニメーションを使用して認識させた
日本事情・日本理解	日本文化(お祭り、芸能、スポーツなど)の語彙が出たときは適時、映像を取り入れた。
その他	直接法に反するが、英語圏の学習者のため、英語でのサポートもあった。またわからない学習者に対して他の学習者がサポートする場面も見られた。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

016-2：東方国際学院

授業ID	日本語教育機関・モデル名											事前テスト				事後テスト				事前テスト				事後テスト				成長幅 (単位: ポイント)			
												事前の点数 (生徒合計)		事後の点数 (生徒合計)		テスト満点		正答率 (生徒合計)		テスト満点		正答率 (生徒合計)									
		レベル										モデル				モデル外	計	回答者数	計	回答者数	計	回答者数	計	回答者数							
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2																		
016-2	東方国際学院_モデル外 (B1) 7/14-9/30			○									○		738	13	512	7	100	56.8%	73.1%									16	

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	モデル外①
区分	オンラインのみ
1.授業のレベル	B1
2.授業のコース	進学 就職 一般
3-1.授業の実施期間 (開始)	2022/7/11
3-2.授業の実施期間 (終了)	2022/9/29
4.授業の学習時間	33
5.学生の授業への参加率	89
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	日本語教育能力試験
7.実施した言語活動	話す (やりとり) 話す (発表) 聞く読む日本事情・日本理解その他
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	PC内蔵のスピーカー、マイク
10.使用した映像 (カメラ) 機	PC内蔵のカメラ
11.使用したファイル形式 (パワーポイント、PDF等)	PPT PDF Word
12.撮影をした場所	その他 (講師自宅等)

各日本語教育機関の実施結果

B1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	N3レベルの新出文法・語彙を聴き取り質問に合う答え方を身に付ける。
話す（発表）	N3レベルの新出文法・語彙を取り入れ、自分の言いたいことを表現する。
聞く	N3レベルの新出文法・語彙の意味と音を理解した上で聴解として長い会話の大意把握をし、回答を導き出す。N3レベルの習得
読む	N3レベルの新出文法・語彙の意味と読み方を理解した上で、筆者の主張を読み取る。N3レベルの習得
日本事情・日本理解	テキストに取り上げられた映画文化・医療技術・食文化・世界文化遺産（富士山）などを理解する。
その他	N3レベルの習得

●就職コース

話す（やりとり）	N3レベルの新出文法・語彙を聴き取り質問に合う答え方を身に付ける。
話す（発表）	N3レベルの新出文法・語彙を取り入れ、自分の言いたいことを表現する。
聞く	N3レベルの新出文法・語彙の意味と音を理解した上で聴解として長い会話の大意把握をし、回答を導き出す。N3レベルの習得
読む	N3レベルの新出文法・語彙の意味と読み方を理解した上で、筆者の主張を読み取る。N3レベルの習得
日本事情・日本理解	テキストに取り上げられた映画文化・医療技術・食文化・世界文化遺産（富士山）などを理解する。
その他	N3レベルの習得

●生活コース

話す（やりとり）	N3レベルの新出文法・語彙を聴き取り質問に合う答え方を身に付ける。
話す（発表）	N3レベルの新出文法・語彙を取り入れ、自分の言いたいことを表現する。
聞く	N3レベルの新出文法・語彙の意味と音を理解した上で聴解として長い会話の大意把握をし、回答を導き出す。N3レベルの習得
読む	N3レベルの新出文法・語彙の意味と読み方を理解した上で、筆者の主張を読み取る。N3レベルの習得
日本事情・日本理解	テキストに取り上げられた映画文化・医療技術・食文化・世界文化遺産（富士山）などを理解する。
その他	N3レベルの習得

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）
読む	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）
その他	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	教員側から呼びかけ・質問をし会話につなげていく。1対1から始まり、答えた内容について聞いている他の学生にも声をかけ、やりとりを進めていく。最終的に生徒と生徒の対話につなげ、不自然な表現を指摘したり自然な言い回しなどを指導した。
話す（発表）	文法導入後に一人ずつ短文を作成発表させた。
聞く	聴解の音声と共有し、大意把握をした後は質問に沿って細かい表現や語彙、縮約形などが聞き取れるまで何度も同じ箇所を聞いた。
読む	新出漢字・語彙の英語とベトナム語訳を送付し各自プリントアウトした状態で、画面では日本語の読みだけを確認してから音読した。文法も導入後にもう一度段落ごとに質問をしながら読み下した。
日本事情・日本理解	テキストのテーマに沿って、導入として画像や動画を使って説明し、学習者の知識や体験、疑問などを発言させた。
その他	Onlineの共有画面をいかして視覚的・感覚的に状況を掴みながら実際に活用出来るシーンをイメージさせるようにする。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	4技能でひろがる中級日本語カルテットⅠ
		レベル	B1
		内容	第1課～第3課（N3）（会話モデル文・ポイント項目を使ったフローチャート・会話音源）
話す（発表）	使用した教材①	名称	4技能でひろがる中級日本語カルテットⅠ
		レベル	B1
		内容	第1課～第3課（N3）（会話モデル文・ポイント項目を使ったフローチャート・会話音源）
聞く	使用した教材①	名称	4技能でひろがる中級日本語カルテットⅠ
		レベル	B1
		内容	第1課～第3課（聴解音源・設問文）
読む	使用した教材①	名称	4技能でひろがる中級日本語カルテットⅠ
		レベル	B1
		内容	第1課～第3課 読解本文・語彙表・漢字表・文法解説と例文
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	4技能でひろがる中級日本語カルテットⅠ
		レベル	B1
		内容	第1課～第3課
その他	使用した教材①	名称	PPT
		レベル	B1
		内容	PPTで作成した漢字読み練習表・文法導入スライド・語彙導入スライド・画像教材

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	Zoom
話す（発表）	Zoom
聞く	Zoom
読む	Zoom・learningBOX
日本事情・日本理解	Zoom
その他	Zoom

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標

話す（やりとり）	質問に対しての答えが的外れではないか
話す（発表）	文法の機能を理解した作文ができ接続が正しいか
聞く	語彙・文型・縮約形などを理解し正しい音を聞いて文字化できるか
読む	語彙・文型を理解し、正しい読みとイントネーションができ大意まで把握できるか
日本事情・日本理解	テキスト以外の教材に触れ、教師の説明を理解した上で発言までできるか
その他	各セクションに関連づいた文型・表現を学びながら、読む・書く・話す・聞くの4つのスキルをバランスよく伸ばし、N3レベルの力をつける。

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	各セクションに関連づいた文型・表現を学びながら、読む・書く・話す・聞くの4つのスキルをバランスよく伸ばし、N3レベルの力をつける。
話す（発表）	各セクションに関連づいた文型・表現を学びながら、読む・書く・話す・聞くの4つのスキルをバランスよく伸ばし、N3レベルの力をつける。
聞く	各セクションに関連づいた文型・表現を学びながら、読む・書く・話す・聞くの4つのスキルをバランスよく伸ばし、N3レベルの力をつける。
読む	各セクションに関連づいた文型・表現を学びながら、読む・書く・話す・聞くの4つのスキルをバランスよく伸ばし、N3レベルの力をつける。
日本事情・日本理解	各セクションに関連づいた文型・表現を学びながら、読む・書く・話す・聞くの4つのスキルをバランスよく伸ばし、N3レベルの力をつける。
その他	各セクションに関連づいた文型・表現を学びながら、読む・書く・話す・聞くの4つのスキルをバランスよく伸ばし、N3レベルの力をつける。

各日本語教育機関の実施結果

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	授業開始前のブレイクアウトから会話に慣れ、教師と学習者、学習者同士の情報も交換できることで授業でのやりとりも場面を設けなくても自然なものになった。
話す（発表）	学習者のレベルの差を考え、できる人から発言させることで理解も深まりスムーズに全体の発言を引き出した。
聞く	教室授業と違い一人ずつが音に集中できるので目標到達までの時間が早かった。聞いたものをすぐ文字化して確かめることもできるので学習者の不安も少なかった。
読む	画面上で読む箇所を確認できたり、発言者の読んでいる箇所をマーカーで示すことができるので学習者間でのズレがなく進めやすかった。レベル差もあるが各自が自分のペースで考える時間もあり有効だった。
日本事情・日本理解	画像や動画を共有することで説明も伝わりやすく、学習者もリラックスして発言できた。
その他	勉強熱心に参加している生徒は点数の向上がみられた

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	その他
話す（発表）	適切なカリキュラムの設定
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	機器等のコスト
日本事情・日本理解	適切なカリキュラムの設定
その他	機器等のコスト

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	学習者側からすると教師と1対1の感覚があるため、かならず一人ひとりの名前を呼びかけることが大切。他の学習者の発言を繰り返したり、文字化するなど常に共有を心がけることも重要。
話す（発表）	PPTで学習項目や練習方法ははっきり示し何をするか理解させることが重要。レベル差がある場合は時間がかかり過ぎないよう配慮が必要。学習者が考えている間は無音にならないよう教師が促したり例を挙げたりして他の学習者に状況を把握させることや、無理な学生には教師のリピートに切り替えるなど臨機応変な対応が大切。
聞く	教師側・学習者側双方で雑音が入らないような環境が必要。
読む	学習者の人数が多い場合はPPTで読解教材の共有が必要。著作権などのチェックは要注意。タッチペンなどが使える機器も有効。
日本事情・日本理解	動画や画像などを共有するため学習者側のネット環境が大切。
その他	大人数の授業で学習者のレベルにばらつきがあると途中から欠席する人もいるので均等なフォローが難しい

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	授業前15分くらいの雑談で来日後などの相談にのった。
話す（発表）	小休憩中の雑談で相談に乗った
聞く	小休憩中の雑談で相談に乗った
読む	前回の授業での質問をチャットで回答した
日本事情・日本理解	写真共有で理解度を深めた
その他	授業準備として漢字や語彙翻訳のPDFを送付した

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

017-1：埼玉国際学園

学校・モデル名		レ ベ ル				モ デ ル					モ デ ル 外					事前テスト 事前の点数 (生徒 合計)	事後テスト 事後の点数 (生徒 合計)	テスト満 点	事前テスト 正答率 (生徒合 計)	事後テスト 正答率 (生徒合 計)	成長幅 (単位： ポイント)
		A	A	B	B	C	1	2	3	4	5	1	2								
		1	2	1	2																
017-1（前半三ヵ月）	埼玉国際_モデル3（A1・A2） _7/12-12/23	○	○						○					1,181	36	1,655	35	100	32.8%	47.3%	14
017-1（後半三ヵ月）	埼玉国際_モデル3（A1・A2） _7/12-12/23	○	○						○					650	33	870	28	100	19.7%	31.1%	11

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル3（6か月）
区分	オンラインのみ+オンデマンド型
1.授業のレベル	A1 A2
2.授業のコース	進学 就職 一般
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/7/12
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/12/23
4.授業の学習時間	300
5.学生の授業への参加率	80
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	男性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	特になし
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	特になし
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	男性
6-3.担当された先生③使用言語	日本語
6-3.担当された先生③スキル	特になし
6-4.担当された先生④居住国	日本
6-4.担当された先生④性別	女性
6-4.担当された先生④使用言語	日本語
6-4.担当された先生④スキル	特になし
7.実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	SANWA SUPPLY
10.使用した映像（カメラ）機	P C 付属のカメラ
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	パワーポイント
12.撮影をした場所	普段の教室

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	簡単な方法でやり取りができるが、ゆっくりとした繰り返し、言い換え、修正に全般的に頼ってコミュニケーションすることになる。簡単な質疑応答はできる。すぐに回答が必要な事柄やごく身近な話題についてなら、話も始められ、応答もできる。
話す（発表）	非常に短い、準備して練習した言葉を読み上げることができる。
聞く	意味がとれるように間を長くおきながら、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる。
読む	非常に短い簡単なテキストを、身近な名前、単語や基本的な表現と一つずつ取りあげて必要であれば読み直したりしながら、一文一節ずつ理解することができる。
書く	簡単な表現や文を単独に書くことができる。
日本事情・日本理解	学校周辺の地理、食文化、習慣、流行などについて理解することができる。

●就職コース

話す（やりとり）	簡単な方法でやり取りができるが、ゆっくりとした繰り返し、言い換え、修正に全般的に頼ってコミュニケーションすることになる。簡単な質疑応答はできる。すぐに回答が必要な事柄やごく身近な話題についてなら、話も始められ、応答もできる。
話す（発表）	非常に短い、準備して練習した言葉を読み上げることができる。
聞く	意味がとれるように間を長くおきながら、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる。
読む	非常に短い簡単なテキストを、身近な名前、単語や基本的な表現と一つずつ取りあげて必要であれば読み直したりしながら、一文一節ずつ理解することができる。
書く	簡単な表現や文を単独に書くことができる。
日本事情・日本理解	学校周辺の地理、食文化、習慣、流行などについて理解することができる。

●生活コース

話す（やりとり）	簡単な方法でやり取りができるが、ゆっくりとした繰り返し、言い換え、修正に全般的に頼ってコミュニケーションすることになる。簡単な質疑応答はできる。すぐに回答が必要な事柄やごく身近な話題についてなら、話も始められ、応答もできる。
話す（発表）	非常に短い、準備して練習した言葉を読み上げることができる。
聞く	意味がとれるように間を長くおきながら、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる。
読む	非常に短い簡単なテキストを、身近な名前、単語や基本的な表現と一つずつ取りあげて必要であれば読み直したりしながら、一文一節ずつ理解することができる。
書く	簡単な表現や文を単独に書くことができる。
日本事情・日本理解	学校周辺の地理、食文化、習慣、流行などについて理解することができる。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）ハイブリット型
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）ハイブリット型
聞く	オンライン（双方向のみ）ハイブリット型
読む	オンライン（双方向のみ）ハイブリット型
書く	オンライン（双方向のみ）ハイブリット型
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）ハイブリット型

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	授業では主に活動を取り入れた。 会話練習はブレイクアウトルームを用いて、ペアまたはグループで相談するようなかつ同を取り入れた。
話す（発表）	今までに貰った素敵なプレゼント 今までに貰ったプレゼントについて作文を書き、その後、発表した。 発表の際は、それぞれの写真を事前に送ってもらい、教師はスライドを作成した。 主に教師が評価したが、学生もGoogle formを用いて0～3点で相互評価を実施した。
聞く	教科書の課末の聴解を実施した。
読む	教科書の課末の読解を実施した。
書く	学習した文型による例文作成を実施した。
日本事情・日本理解	実際に教職員が撮影した動画やビデオを見せ、紹介した。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	みんなの日本語Ⅰ
		レベル	A1
		内容	1課から25課を学習した。
話す（発表）	使用した教材①	名称	みんなの日本語Ⅰ
		レベル	A1
		内容	1課から25課を学習した。
聞く	使用した教材①	名称	みんなの日本語Ⅰ
		レベル	A1
		内容	教科書の課末問題を使用した。
読む	使用した教材①	名称	みんなの日本語Ⅰ
		レベル	A1
		内容	1課から25課を学習した。
書く	使用した教材①	名称	みんなの日本語Ⅰ
		レベル	A1
		内容	1課から25課を学習した。
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	写真や動画
		レベル	A1
		内容	教職員が撮影した写真や動画

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	教師による評価
話す（発表）	教師による評価
聞く	教師による評価
読む	learningBOX
書く	learningBOX
日本事情・日本理解	教師による評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	簡単な方法でやり取りができるが、ゆっくりとした繰り返し、言い換え、修正に全般的に頼ってコミュニケーションすることになる。簡単な質疑応答はできる。すぐに回答が必要な事柄やごく身近な話題についてなら、話も始められ、応答もできる。
話す（発表）	人物や場所について、単純な字句を並べて、述べるができる。
聞く	意味がとれるように間を長くおきながら、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる。
読む	非常に短い簡単なテキストを、身近な名前、単語や基本的な表現と一つずつ取りあげて、必要であれば読み直したりしながら、一文一節ずつ理解することができる。
書く	簡単な表現や文を単独に書くことができる。
日本事情・日本理解	学校周辺の地理、食文化、習慣、流行などについて理解することができる。

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	Can-do
話す（発表）	Can-do
聞く	Can-do
読む	Can-do
書く	Can-do
日本事情・日本理解	教師による評価

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	グループワークや活動を取り入れたため、発話機会が増えた。1文が短めの発話でも、応答することができる学生が増えた。
話す（発表）	グループワークで話したことを代表者が発表するようにしてもらったら、よくできたようになった。
聞く	課末問題の読解のみの実施だったため、練習量があまり多くなかった。
読む	課末問題の読解のみの実施だったため、練習量があまり多くなかった。
書く	Zoomのチャット機能を使って、練習Bや課末問題を答えてもらった。キーボードで入力する機会が多かったため、そのあとの活動やslack導入後も様々な活動やグループワークに取り組めた。
日本事情・日本理解	様々な写真や動画を使用したことにより、興味を持っていた。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	講師のオンライン教育ノウハウの不足
話す（発表）	適切なカリキュラムの設定
聞く	その他
読む	その他
書く	講師のオンライン教育ノウハウの不足
日本事情・日本理解	適切なカリキュラムの設定

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	オンラインでの授業であれば、ブレイクアウトルームを活用できるが、ハイブリッド授業は対面とオンラインを一緒に会話させるのは物理的に不可能であった。そのため、オンラインはオンラインの学生と、対面は対面の学生とペアを組んで練習した。一人一端末が使える状況であれば実施は可能だが、学生用のWi-Fiが解放されておらず実施できなかった。 対面でできる活動がオンラインではできなかったが、その代替案としてグループでテーマを設定し、相談する活動を取り入れたら積極的に取り組んでくれた。
話す（発表）	環境音やインターネット環境の影響で途切れ途切れとなってしまう、聴衆は聞き取りづらさを感じていた。そのため、発音やイントネーションの評価はできなかった。
聞く	使用できる教材が著作権の関係上使用できないため、練習量を増やすことができなかった。
読む	著作権上、使用できる教材がみんなの日本語のみであったため、練習量を増やすことができなかった。
書く	紙に書くことはできるだけ避けてチャットやslackで送ってもらった。ただ、漢字の書きや問題は紙に書いてもらい、チャットやslackで送ってもらった。
日本事情・日本理解	みんなの日本語では、日本事情を扱う箇所があまり多くなかったため、教師が個人で準備する必要があった。ただ、学内のイベントで餅つきがあったので、オンラインでイベントの様子を見てもらい、餅つきについて知識を深めた。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	活動ができないので、語彙・文型の導入しかできないという意見があったので、中間報告会でもあったペアやグループでの活動を取り入れるように指導した。
話す（発表）	相互評価を行うため、Google formに発表者の名前と0点から3点の評価を事前に入力しておき、発表前に学生にリンクを共有した。発表時は聞きながら点数入力してもらった。
聞く	パソコン上で、Windows media playerとパワーポイントを同時に操作するのは慣れている人以外は実施できなかったもので、スライド上に音源を張り付ける方法を指導した。また、ラジカセを設置し、マイクに向けて音声流す方法も指導した。
読む	みんなの日本語初級1第2版 初級で読めるトピック25 が使用できなかったため、レベルに合わせたホームページや動画サイトなどを利用した。News web easyなども活用した。
書く	Zoomのチャットでは記録に残らないのと、全体に共有できない点、授業後にも見られない点などを考慮し、slackを導入した。slackで指示やオリジナルプリントの配布などを行った。各担任をslackに招待し、クラス運営をしてもらった。
日本事情・日本理解	Google ストリートビューを活用して、学校近辺や観光地を見せるなど工夫してもらった。 また、YouTubeに観光地やイベント、日本文化を紹介する動画がたくさんあったので、活用した。

各日本語教育機関の実施結果

A2

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	もし必要がある場合に相手が助けてくれれば、予め決まっているような状況、短い会話でなら、比較的容易に対話ができる。余り苦勞しなくても日常での簡単なやり取りができる。予測可能な日常の状況ならば、身近な話題についての考えや情報を交換し、質問に答えることができる。
話す（発表）	身近な話題について、リハーサルをして、短い基本的なプレゼンテーションができる。
聞く	もし、はっきりとゆっくりとした発音ならば、具体的な必要性を満たすことが可能な程度に理解できる。
読む	非常によく用いられる、日常的、もしくは仕事関連の言葉で書かれた、具体的で身近な事柄なら、短い簡単なテキストが理解できる。
書く	出来事、過去の活動、個人的な経験の記述を短い文で書くことができる。
日本事情・日本理解	学校周辺の地理、食文化、習慣、流行などについて理解することができる。

●就職コース

話す（やりとり）	もし必要がある場合に相手が助けてくれれば、予め決まっているような状況、短い会話でなら、比較的容易に対話ができる。余り苦勞しなくても日常での簡単なやり取りができる。予測可能な日常の状況ならば、身近な話題についての考えや情報を交換し、質問に答えることができる。
話す（発表）	身近な話題について、リハーサルをして、短い基本的なプレゼンテーションができる。
聞く	もし、はっきりとゆっくりとした発音ならば、具体的な必要性を満たすことが可能な程度に理解できる。
読む	非常によく用いられる、日常的、もしくは仕事関連の言葉で書かれた、具体的で身近な事柄なら、短い簡単なテキストが理解できる。
書く	出来事、過去の活動、個人的な経験の記述を短い文で書くことができる。
日本事情・日本理解	学校周辺の地理、食文化、習慣、流行などについて理解することができる。

●生活コース

話す（やりとり）	もし必要がある場合に相手が助けてくれれば、予め決まっているような状況、短い会話でなら、比較的容易に対話ができる。余り苦勞しなくても日常での簡単なやり取りができる。予測可能な日常の状況ならば、身近な話題についての考えや情報を交換し、質問に答えることができる。
話す（発表）	身近な話題について、リハーサルをして、短い基本的なプレゼンテーションができる。
聞く	もし、はっきりとゆっくりとした発音ならば、具体的な必要性を満たすことが可能な程度に理解できる。
読む	非常によく用いられる、日常的、もしくは仕事関連の言葉で書かれた、具体的で身近な事柄なら、短い簡単なテキストが理解できる。
書く	出来事、過去の活動、個人的な経験の記述を短い文で書くことができる。
日本事情・日本理解	学校周辺の地理、食文化、習慣、流行などについて理解することができる。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）ハイブリット型
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）ハイブリット型
聞く	オンライン（双方向のみ）ハイブリット型
読む	オンライン（双方向のみ）ハイブリット型
書く	オンライン（双方向のみ）ハイブリット型
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）ハイブリット型

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	授業では主に活動を取り入れた。 会話練習はブレイクアウトルームを用いて、ペアまたはグループで相談するようなかつ同を取り入れた。
話す（発表）	今までに貰った素敵なプレゼント 今までに貰ったプレゼントについて作文を書き、その後、発表した。 発表の際は、それぞれの写真を事前に送ってもらい、教師はスライドを作成した。 主に教師が評価したが、学生もGoogle formを用いて0～3点で相互評価を実施した。
聞く	教科書の課末の聴解を実施した。
読む	教科書の課末の読解を実施した。
書く	「今までにもらったすてきなプレゼント」または「今まで旅行に行った所でどこがよかったか」から一つテーマを選んで書いた。
日本事情・日本理解	実際に教職員が撮影した動画やビデオを見せ、紹介した。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	みんなの日本語Ⅱ
		レベル	A2
		内容	26から33課まで学習した。
話す（発表）	使用した教材①	名称	みんなの日本語Ⅱ
		レベル	A2
		内容	26から33課まで学習した。
聞く	使用した教材①	名称	みんなの日本語Ⅱ
		レベル	A2
		内容	課末の聴解
読む	使用した教材①	名称	みんなの日本語Ⅱ
		レベル	A2
		内容	26から33課まで学習した。
書く	使用した教材①	名称	みんなの日本語Ⅱ
		レベル	A2
		内容	26から33課まで学習した。
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	写真や動画
		レベル	A2
		内容	講師が撮影した写真や動画を使用した。

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	教師による評価
話す（発表）	教師による評価＋学生による相互評価
聞く	教師による評価
読む	learningBOX
書く	learningBOX
日本事情・日本理解	教師による評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	もし必要がある場合に相手が助けてくれれば、予め決まっているような状況、短い会話でなら、比較的容易に対話ができる。余り苦労しなくても日常での簡単なやり取りができる。予測可能な日常の状況ならば、身近な話題についての考えや情報を交換し、質問に答えることができる。
話す（発表）	自分の毎日の生活に直接関連のある話題については、リハーサルして、短いプレゼンテーションができる。意見、計画、行動に対して、理由を挙げて、短く述べることができる。
聞く	もし、はっきりとゆっくりとした発音ならば、具体的な必要性を満たすことが可能な程度に理解できる
読む	非常によく用いられる、日常的、もしくは仕事関連の言葉で書かれた、具体的で身近な事柄なら、短い簡単なテキストが理解できる。
書く	出来事、過去の活動、個人的な経験の記述を短い文で書くことができる。
日本事情・日本理解	学校周辺の地理、食文化、習慣、流行などについて理解することができる。

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	Can-do
話す（発表）	Can-do
聞く	Can-do
読む	Can-do
書く	Can-do
日本事情・日本理解	教師による評価

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	グループワークや活動を多く取り入れたため、達成できた。時間が余った際はテーマと関係ないことでも、日本語で楽しく会話をする事ができていた。
話す（発表）	学習した語彙や文法を使うことができていた。前日学習した語彙や文法を、次の日の授業冒頭に復習し、定着を図った。
聞く	著作権の影響で、課末問題の聴解しか実施できなかった。
読む	著作権の影響で、課末問題の読解しか実施できなかった。
書く	スマホやパソコンなどでの書きを積極的に行った。通常対面の学生であれば、書くことに抵抗が生まれ、嫌いになってしまうくらいがあったが、予想変換や辞書を積極的に使用させたので、楽しみながら書きの作業を行うことができた。
日本事情・日本理解	様々な写真や動画を使用したことにより、興味を持っていた。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	適切なカリキュラムの設定
話す（発表）	適切なカリキュラムの設定
聞く	適切なカリキュラムの設定
読む	講師のオンライン教育ノウハウの不足
書く	講師のオンライン教育ノウハウの不足
日本事情・日本理解	適切なカリキュラムの設定

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	ハイブリッドクラスでは、対面とオンラインの学生を一緒に組んで活動やグループワークを行いたかったが、機器やインターネットの問題で、実施ができなかった。オンラインと対面が分かれて行うしかなかった。その代わりにチェンドリルを積極的に取り入れて、対面の学生→オンラインの学生→対面の学生のような活動を行った。
話す（発表）	オンラインの学生のインターネット環境や学習環境があまりよくなかったため、聞き取りずらさや安定した発表ができなかった。今後はインターネット環境がきちんとした学生の参加と、環境が整った場所で受講するように指導する必要がある。
聞く	著作権の関係で「みんなの日本語初級聴解タスク」が使用できなかった。
読む	著作権の関係で「みんなの日本語初級で読めるトピック25」は使用できなかった。
書く	紙に書く作業は漢字の書き練習でしか実施できなかった。また、作文の作業で翻訳を使用してしまう学生もいた。
日本事情・日本理解	みんなの日本語では、日本事情を扱う箇所があまり多くなかったため、教師が個人で準備する必要があった。ただ、学内のイベントで餅つきがあったので、オンラインでイベントの様子を見てもらい、餅つきについて知識を深めた。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	コーラスのみとならないように、グループワークや活動を取り入れるように指導した。効果的であったグループワークや活動は引継ぎやslackなどで共有した。
話す（発表）	話すのを聞くだけでは飽きてしまうので、学生が学生を評価する相互評価を導入した。
聞く	パソコン上で、Windows media playerとパワーポイントを同時に操作するのは慣れている人以外は実施できなかったの、スライド上に音源を張り付ける方法を指導した。また、ラジカセを設置し、マイクに向けて音声流す方法も指導した。
読む	できるだけ、ホームページや動画サイトなどを活用して、生の日本語に触れるように指導した。
書く	チャットやslack、padletを活用して、書く作業を増やすように指導した。
日本事情・日本理解	Google ストリートビューを活用して、学校近辺や観光地を見せるなど工夫してもらった。また、YouTubeに観光地やイベント、日本文化を紹介する動画がたくさんあったので、活用した。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

018-1：習志野外語学院

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レ ベ ル		モ デ ル					モ デ ル 外					事前テスト		事後テスト		事前テスト 事後テスト 成長幅 (単 テスト満点 正答率 (生 正答率 (生 位: ポイン 徒合計) 徒合計) 徒合計) ト)						
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	事後の点数 (生徒合 計)	回答者数	事後の点数 (生徒合 計)	回答者数	事後ー事前			
018-1	習志野外語学院_モデル2 (A1)_7/20～9/20	○						○									24	2	47	2	40	30.0%	58.8%	29

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル2（3か月）
区分	オンラインのみ+オンデマンド型
1.授業のレベル	A1
2.授業のコース	進学 就職 一般
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/7/20
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/10/7
4.授業の学習時間	60
5.学生の授業への参加率	26
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	日本語教師
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	日本語教師
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	女性
6-3.担当された先生③使用言語	日本語
6-3.担当された先生③スキル	日本語教師
7.実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom、LINE
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	個別イヤホン
10.使用した映像（カメラ）機	PC附属カメラ PC(DELL、富士通)
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	パワーポイント、ワード、PDF
12.撮影をした場所	普段の教室 その他（講師自宅等）

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	基本的なあいさつができる。簡単な質疑応答ができる。身近な話題についての質疑応答ができる。
話す（発表）	名前や国、趣味など基本的な項目について、人前で自己紹介ができる。
聞く	ゆっくりと話された指示が理解できる。簡単な説明なら聞くことができる。
読む	単語や単純な文を読み理解できる。（内容が身近なものに限る）
書く	名前、国籍など自分のデータを書き込むことができる。
日本事情・日本理解	一般的な日本人の日常生活の様子を知る。

●就職コース

話す（やりとり）	基本的なあいさつができる。簡単な質疑応答ができる。身近な話題についての質疑応答ができる。
話す（発表）	名前や国、趣味など基本的な項目について、人前で自己紹介ができる。
聞く	ゆっくりと話された指示が理解できる。簡単な説明なら聞くことができる。
読む	単語や単純な文を読み理解できる。（内容が身近なものに限る）
書く	名前、国籍など自分のデータを書き込むことができる。
日本事情・日本理解	一般的な日本人の日常生活の様子を知る。

●生活コース

話す（やりとり）	基本的なあいさつができる。簡単な質疑応答ができる。身近な話題についての質疑応答ができる。
話す（発表）	名前や国、趣味など基本的な項目について、人前で自己紹介ができる。
聞く	ゆっくりと話された指示が理解できる。簡単な説明なら聞くことができる。
読む	単語や単純な文を読み理解できる。（内容が身近なものに限る）
書く	名前、国籍など自分のデータを書き込むことができる。
日本事情・日本理解	一般的な日本人の日常生活の様子を知る。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
読む	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
書く	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	動画視聴と教師・学生間でロールプレイの実施、教員1：学生10でZoomを使ったオンライン授業、日本語で日本語を教える直説法と補助的に英語を使用、学生は現地におり、ネイティブの日本語を聞く機会がほぼないため、オンラインで日本語ネイティブ教員と会話することで、「伝わる喜び」を楽しんでもらいたいと考えた。
話す（発表）	動画視聴と教師・学生間でロールプレイの実施、教員1：学生10でZoomを使ったオンライン授業、日本語で日本語を教える直説法と補助的に英語を使用。まとまった会話を発表してもらい、他の学生と教師が反応を返すことで、達成感を感じてもらいたいと考えた。
聞く	動画視聴と日本語ネイティブ教員の会話例や教員・学生間で行われる会話を聞く、教員1：学生10でZoomを使ったオンライン授業、日本語で日本語を教える直説法と補助的に英語を使用 学生は現地におり、ネイティブの日本語を聞く機会がほぼないため、オンラインで日本語ネイティブ教員と会話することで、「伝わる喜び」を楽しんでもらいたいと考えた。
読む	Zoomの画面共有とフラッシュカードで、ひらがな・カタカナ・漢字を読む。会話例の音読。教員1：学生10でZoomを使ったオンライン授業、日本語で日本語を教える直説法と補助的に英語を使用
書く	Zoomでビデオをオンにしてもらい、各学生にノートやメモに教員が言ったひらがな・カタカナ・ことばを書きとってもらおうディクテーションを実施。教員1：学生10でZoomを使ったオンライン授業、日本語で日本語を教える直説法と補助的に英語を使用。日本語の基本であるひらがな・カタカナの音と文字を楽しみながら覚えることを狙いとした。
日本事情・日本理解	オンデマンド教材を視聴してもらい、日本の町の様子や生活の様子、昔から親しまれている昔話などを紹介することで、日本に親しみを持ってもらえるように努めた。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	eTry!N5
		レベル	A1
		内容	基本の語彙と文型導入、文型導入の動画・ドリル練習
	使用した教材②	名称	うごく絵本ライブラリ
		レベル	A1
		内容	物語の動画、語彙の導入や文型練習に使用
話す（発表）	使用した教材③	名称	いそどり生活の日本語
		レベル	A1
		内容	語彙・文型の導入と会話練習
	使用した教材①	名称	eTry!N5
		レベル	A1
		内容	基本の語彙と文型導入、文型導入の動画・ドリル練習
聞く	使用した教材②	名称	うごく絵本ライブラリ
		レベル	A1
		内容	物語の動画、語彙の導入や文型練習に使用
	使用した教材③	名称	いそどり生活の日本語
		レベル	A1
		内容	語彙・文型の導入と会話練習
読む	使用した教材①	名称	eTry!N5
		レベル	A1
		内容	基本の語彙と文型導入、文型導入の動画・ドリル練習
	使用した教材②	名称	うごく絵本ライブラリ
		レベル	A1
		内容	物語の動画、語彙の導入や文型練習・聞き取り練習に使用
書く	使用した教材③	名称	いそどり生活の日本語
		レベル	A1
		内容	語彙・文型の導入と会話練習
	使用した教材①	名称	eTry!START
		レベル	A1
		内容	ひらがな・カタカナ50音の読み書きの練習
日本事情・日本理解	使用した教材②	名称	eTry!N5
		レベル	A1
		内容	簡単な漢字の読み書きの練習
	使用した教材③	名称	eTry!START
		レベル	A1
		内容	ひらがな・カタカナ50音の読み書きの練習
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	eTry!N5
		レベル	A1
		内容	簡単な漢字の読み書きの練習
日本事情・日本理解	使用した教材②	名称	うごく絵本ライブラリ
		レベル	A1
		内容	物語の動画、語彙の導入や文型練習・聞き取り練習に使用

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	教材内のロールプレイを使用
話す（発表）	教材内のロールプレイを使用、学生の口頭発表
聞く	教員が学生に口頭で理解度を確認
読む	教材内のきくクイズ・かくクイズを使用
書く	教材内のきくクイズ・かくクイズを使用
日本事情・日本理解	教員が学生に口頭で理解度を確認

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標

話す（やりとり）	その日に導入した語彙や文型を使って、相手と短いやりとりができる
話す（発表）	それまでに導入した語彙や文型を使って、まとまりのある会話ができる
聞く	その日に導入した語彙や文型を使った質問を聞いて、何を言っているか理解できる。
読む	文字の音と形が一致し、フラッシュカードでテンポよく読み書きができる。
書く	文字の音と形が一致し、フラッシュカードでテンポよく読み書きができる。文字をバランスよく書くことができる。
日本事情・日本理解	視覚的情報から自国との違いを感じられる

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	できる・おおむねできる・あまりできない・できない
話す（発表）	できる・おおむねできる・あまりできない・できない
聞く	理解できる・おおむね理解できる・あまり理解できていない・理解できない
読む	読める・おおむね読める・あまり読めない・読めない
書く	書ける・おおむね書ける・あまり書けない・書けない
日本事情・日本理解	紹介にとどめ、理解度は評価しない

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	ネット環境の悪さもあり、継続して学習を続けられる学生が少なかったこともあり、検証テストの質問はちょうど勉強していたところの文型であればわかるが、そうでない場合はわからないという点が大きく、そのレッスンでの定着度がどうであったかを見るテストとしては不適切であると感じた。
話す（発表）	ネット環境の悪さもあり、継続して学習を続けられる学生が少なかったこともあり、学習した内容を積み上げて、まとまりのある会話にすることは難しかった。
聞く	ネット環境の悪さもあり、継続して学習を続けられる学生が少なかったこともあり、検証テストの質問はちょうど勉強していたところの文型であればわかるが、そうでない場合はわからないという点が大きく、そのレッスンでの定着度がどうであったかを見るテストとしては不適切であると感じた。
読む	少数の設定問のテスト結果だけで、学習成果を見るのは難しいと感じた。ひらがな・カタカナ50音と基本の漢字の定着を見るのであれば、勉強した50音＋漢字全てをランダムに表示し、正答を選ぶテスト…など、もっとボリュームのあるテストを実施してもよかったのではないと思う。
書く	検証テストでは「自己紹介文」を書くという内容だったが、今回のカリキュラムではひらがな・カタカナ・初歩の簡単な漢字の学習しかしておらず、そもそも「自己紹介文」を書くという目標設定はされていない。また、Zoomのチャット機能を使って実施と説明にはあったが、日本語入力を勉強・練習していないので、Zoomのチャット機能を使って、たとえひらがなであっても入力を行うことは困難である。
日本事情・日本理解	効果検証テストは実施していない

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	適切なカリキュラムの設定
書く	適切なカリキュラムの設定
日本事情・日本理解	適切なカリキュラムの設定

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	ネットワーク環境が整備されていないと、授業が成立しない。成立したとしても、お互いの音声は聞こえない、ビデオがオンにできない、など、コミュニケーションな授業を行うことは不可能である。 オンライン授業を実施する前にネットワーク環境の確認、使用する電子機器の種類（ほとんどの学生が携帯電話で参加していたが、画面共有でテキストを見るには、携帯電話では文字が小さく、見えないなどの問題があった）をパソコンに指定するなど、授業の前段階で相手側と詳細な打ち合わせが必要であると思った。
話す（発表）	毎回の授業に参加できない学生もいるので、少しずつ文型を積み上げ、積み上げた成果として発表を行うのは難しい。「発表」のレッスンとして、ひとつ別にカリキュラムを組むことが必要だと感じた。
聞く	ネットワーク環境が整備されていないと、授業が成立しない。成立したとしても、お互いの音声は聞こえない、ビデオがオンにできない、など、コミュニケーションな授業を行うことは不可能である。 オンライン授業を実施する前にネットワーク環境の確認、使用する電子機器の種類（ほとんどの学生が携帯電話で参加していたが、画面共有でテキストを見るには、携帯電話では文字が小さく、見えないなどの問題があった）をパソコンに指定するなど、授業の前段階で相手側と詳細な打ち合わせが必要であると思った。
読む	今回はひらがな・カタカナ・基本の漢字のみであったので、特に困ったことはなかった。
書く	携帯電話で参加している学生が多く、Zoomのホワイトボード機能を使って学生側に書いてもらうというところまでは実施できなかった。教員・学生ともにやりやすく満足度の高い授業を行うためには、ペンタブレット付きのパソコンや携帯電話ではなくタブレットなど、画面が大きく、キー入力ではなくペンで書き込めるタイプの電子機器が必要であると感じた。
日本事情・日本理解	今回はアニメ動画を使用したがる、日本理解を目標とするならば、実際の日本の様子や写真が盛り込まれた動画を使用したほうが効果的であると思う。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	講師に対して、Zoomの基本的な使い方（画面共有・ホワイトボード機能・PDFへの書き込み方法・ブレイクアウトルームの始め方・ブレイクアウトルームでの画面共有など）の研修を行った。
話す（発表）	講師に対して、Zoomの基本的な使い方（画面共有・ホワイトボード機能・PDFへの書き込み方法・ブレイクアウトルームの始め方・ブレイクアウトルームでの画面共有など）の研修を行った。
聞く	講師に対して、Zoomの基本的な使い方（画面共有・ホワイトボード機能・PDFへの書き込み方法・ブレイクアウトルームの始め方・ブレイクアウトルームでの画面共有など）、オンデマンド教材の使い方（動画視聴、視聴スピードの変更、各教材の研究）の研修を行った。
読む	ひらがな・カタカナがまだスムーズに読めない学生がいたので、「いろどり」のテキストは各国語版を使用した。
書く	ASK-ONLINEやlearningBOXの使用方法を知ってもらうため、pptや画面共有で使い方を紹介した。
日本事情・日本理解	ASK-ONLINEやlearningBOXの使用方法を知ってもらうため、pptや画面共有で使い方を紹介した。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

018-2：習志野外語学院

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レ ベ ル			モ デ ル				モ デ ル 外				事前テスト		事後テスト		事前テスト 事後テスト 成長幅 (単 正答率 (生 正答率 (生 位: ポイン テスト満点 徒合計) 徒合計) ト)							
		A1	A2	B1 B2 C	1	2	3	4	5	1	2	計	事後の点数 (生徒合 計)	回答者数	事後の点数 (生徒合 計)	回答者数	10	40	64.3%	77.3%	13			
018-2	習志野外語学院_モデル2 (A1)_10/3～12/12	○								○							283	11	309	10	40	64.3%	77.3%	13

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル2 (3か月)
区分	オンラインのみ+オンデマンド型
1.授業のレベル	A1
2.授業のコース	進学 就職 一般
3-1.授業の実施期間(開始)	2022/9/29
3-2.授業の実施期間(終了)	2022/12/9
4.授業の学習時間	60
5.学生の授業への参加率	95
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	日本語教師
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	日本語教師
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	女性
6-3.担当された先生③使用言語	日本語
6-3.担当された先生③スキル	日本語教師
7.実施した言語活動	話す(やりとり) 話す(発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom、LINE
9.使用した音声機材(スピーカー、マイク)	個別イヤホン
10.使用した映像(カメラ)機	P C 付属のカメラ
11.使用したファイル形式(パワーポイント、PDF等)	パワーポイント、ワード、P D F
12.撮影をした場所	普段の教室 その他(講師自宅等)

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	基本的なあいさつができる。簡単な質疑応答ができる。身近な話題についての質疑応答ができる。
話す（発表）	名前や国、趣味など基本的な項目について、人前で自己紹介ができる。
聞く	ゆっくりと話された指示が理解できる。簡単な説明なら聞くことができる。
読む	単語や単純な文を読み理解できる。（内容が身近なものに限る）
書く	名前、国籍など自分のデータを書き込むことができる。
日本事情・日本理解	一般的な日本人の日常生活の様子を知る。

●就職コース

話す（やりとり）	基本的なあいさつができる。簡単な質疑応答ができる。身近な話題についての質疑応答ができる。
話す（発表）	名前や国、趣味など基本的な項目について、人前で自己紹介ができる。
聞く	ゆっくりと話された指示が理解できる。簡単な説明なら聞くことができる。
読む	単語や単純な文を読み理解できる。（内容が身近なものに限る）
書く	名前、国籍など自分のデータを書き込むことができる。
日本事情・日本理解	一般的な日本人の日常生活の様子を知る。

●生活コース

話す（やりとり）	基本的なあいさつができる。簡単な質疑応答ができる。身近な話題についての質疑応答ができる。
話す（発表）	名前や国、趣味など基本的な項目について、人前で自己紹介ができる。
聞く	ゆっくりと話された指示が理解できる。簡単な説明なら聞くことができる。
読む	単語や単純な文を読み理解できる。（内容が身近なものに限る）
書く	名前、国籍など自分のデータを書き込むことができる。
日本事情・日本理解	一般的な日本人の日常生活の様子を知る。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
読む	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
書く	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
日本事情・日本理解	オンデマンド型

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	動画視聴と教師・学生間でロールプレイの実施、教員1：学生10でZoomを使ったオンライン授業、日本語で日本語を教える直説法と補助的に英語を使用、学生は現地におり、ネイティブの日本語を聞く機会がほぼないため、オンラインで日本語ネイティブ教員と会話することで、「伝わる喜び」を楽しんでもらいたいと考えた。
話す（発表）	動画視聴と教師・学生間でロールプレイの実施、教員1：学生10でZoomを使ったオンライン授業、日本語で日本語を教える直説法と補助的に英語を使用。まとまった会話を発表してもらい、他の学生と教師が反応を返すことで、達成感を感じてもらいたいと考えた。
聞く	動画視聴と教師・学生間でロールプレイの実施、教員1：学生10でZoomを使ったオンライン授業、日本語で日本語を教える直説法と補助的に英語を使用、学生は現地におり、ネイティブの日本語を聞く機会がほぼないため、オンラインで日本語ネイティブ教員と会話することで、「伝わる喜び」を楽しんでもらいたいと考えた。
読む	Zoomの画面共有とフラッシュカードで、ひらがな・カタカナ・漢字を読む。会話例の音読。教員1：学生10でZoomを使ったオンライン授業、日本語で日本語を教える直説法と補助的に英語を使用。
書く	Zoomでビデオをオンにしてもらい、各学生にノートやメモに教員が言ったひらがな・カタカナ・ことばを書きとってもらいディクテーションを実施。教員1：学生10でZoomを使ったオンライン授業、日本語で日本語を教える直説法と補助的に英語を使用。日本語の基本であるひらがな・カタカナの音と文字を楽しみながら覚えることを狙いとしました。
日本事情・日本理解	オンデマンド教材を視聴してもらい、日本の町の様子や生活の様子、昔から親しまれている昔話などを紹介することで、日本に親しみを持ってもらえるように努めた。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	eTry!N5
		レベル	A1
		内容	基本の語彙と文型導入、文型導入の動画・ドリル練習
	使用した教材②	名称	うごく絵本ライブラリ
		レベル	A1
		内容	物語の動画、語彙の導入や文型練習に使用
話す（発表）	使用した教材③	名称	いもどり生活の日本語
		レベル	A1
		内容	語彙・文型の導入と会話練習
	使用した教材①	名称	eTry!N5
		レベル	A1
		内容	基本の語彙と文型導入、文型導入の動画・ドリル練習
聞く	使用した教材②	名称	うごく絵本ライブラリ
		レベル	A1
		内容	物語の動画、語彙の導入や文型練習に使用
	使用した教材③	名称	いもどり生活の日本語
		レベル	A1
		内容	語彙・文型の導入と会話練習
読む	使用した教材①	名称	eTry!N5
		レベル	A1
		内容	基本の語彙と文型導入、文型導入の動画・ドリル練習
	使用した教材②	名称	うごく絵本ライブラリ
		レベル	A1
		内容	物語の動画、語彙の導入や文型練習・聞き取り練習に使用
書く	使用した教材③	名称	いもどり生活の日本語
		レベル	A1
		内容	語彙・文型の導入と会話練習
	使用した教材①	名称	eTry!START
		レベル	A1
		内容	ひらがな・カタカナ50音の読み書きの練習
日本事情・日本理解	使用した教材②	名称	eTry!N5
		レベル	A1
		内容	簡単な漢字の読み書きの練習
	使用した教材③	名称	eTry!START
		レベル	A1
		内容	ひらがな・カタカナ50音の読み書きの練習
読む	使用した教材①	名称	eTry!N5
		レベル	A1
		内容	簡単な漢字の読み書きの練習
書く	使用した教材②	名称	eTry!N5
		レベル	A1
		内容	簡単な漢字の読み書きの練習
日本事情・日本理解	使用した教材③	名称	うごく絵本ライブラリ
		レベル	A1
		内容	物語の動画、語彙の導入や文型練習・聞き取り練習に使用

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	教材内のロールプレイを使用
話す（発表）	教材内のロールプレイを使用、学生の口頭発表
聞く	教員が学生に口頭で理解度を確認
読む	教材内のきくクイズ・かくクイズを使用
書く	教材内のきくクイズ・かくクイズを使用
日本事情・日本理解	教員が学生に口頭で理解度を確認

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標

話す（やりとり）	その日に導入した語彙や文型を使って、相手と短いやりとりができる
話す（発表）	それまでに導入した語彙や文型を使って、まとまりのある会話ができる
聞く	その日に導入した語彙や文型を使った質問を聞いて、何を言っているか理解できる
読む	文字の音と形が一致し、フラッシュカードでテンポよく読み書きができる。
書く	文字の音と形が一致し、フラッシュカードでテンポよく読み書きができる。文字をバランスよく書くことができる。
日本事情・日本理解	視覚的情報から自国との違いを感じられる

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	できる・おおむねできる・あまりできない・できない
話す（発表）	できる・おおむねできる・あまりできない・できない
聞く	理解できる・おおむね理解できる・あまり理解できていない・理解できない
読む	読める・おおむね読める・あまり読めない・読めない
書く	書ける・おおむね書ける・あまり書けない・書けない
日本事情・日本理解	理解できる・おおむね理解できる・あまり理解できていない・理解できない

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	ひらがな・カタカナがまだ書けないレベルの学生には今回のカリキュラムは少し難しく、各課新出語が多かったため、情報過多になり、文型が定着していないと感じた。
話す（発表）	学習者のレベルがさまざまなので、最低限の口頭発表がやっとの学生もいれば、もともと語彙力や文法力から、文をつなげてまとまりのある発表ができる学生もあり、同レベルの結果を出すのは難しかった。
聞く	各課新出語が多く、オンデマンドでの家庭学習が十分ではなかったため、語彙を覚えきれず、教師の発話が理解できていない学生もいた。オンデマンドでの家庭学習を前提に授業をするのであれば、事前に十分時間を取り、オンデマンドでの家庭学習の取り組み方、勉強の仕方を説明しておく必要があると感じた。
読む	少数の設定問のテスト結果だけで、学習成果を見るのは難しいと感じた。ひらがな・カタカナ50音と基本の漢字の定着を見るのであれば、勉強した50音＋漢字を全てランダムに表示し、正答を選ぶテストなど、ボリュームのあるテストを実施してもよかったのではないと思う。
書く	検証テストでは「自己紹介文」を書くという内容だったが、今回のカリキュラムではひらがな・カタカナ・初歩の簡単な漢字の学習しかしておらず、そもそも「自己紹介文」を書くという目標設定はされていない。また、Zoomのチャット機能を使って実施と説明にはあったが、日本語入力を勉強・練習していないので、Zoomのチャット機能を使って、たとえひらがなであっても、入力を行うことは困難である。
日本事情・日本理解	効果検証テストは実施していない。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	適切なカリキュラムの設定
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	適切なカリキュラムの設定
書く	適切なカリキュラムの設定
日本事情・日本理解	適切なカリキュラムの設定

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	ネットワーク環境が整備されていないと、授業が成立しない。成立したとしても、お互いの音声聞こえない、ビデオがオンにできない、など、コミュニケーションな授業を行うことは不可能であると感じた。
話す（発表）	オンライン授業を実施する前にネットワーク環境の確認、使用する電子機器の種類（ほとんどの学生が携帯電話で参加していたが、画面共有でテキストを見るには、携帯電話では文字が小さく、見えないなどの問題があった）をパソコンに指定するなど、授業前の段階で相手側と詳細な打ち合わせが必要であると思った。
聞く	させ1人1人発表させるとなると、それなりの時間がかかるので、グループ会話をさせ、発表させたいと思っても、ブレイクアウトルームで会話練習をさせると、どうしても全体が見渡せなくなるため、会話のフィードバックが不十分になる。
読む	ネットワーク環境が整備されていないと、授業が成立しない。成立したとしても、お互いの音声聞こえない、ビデオがオンにできない、など、コミュニケーションな授業を行うことは不可能であると感じた。
書く	オンライン授業を実施する前にネットワーク環境の確認、使用する電子機器の種類（ほとんどの学生が携帯電話で参加していたが、画面共有でテキストを見るには、携帯電話では文字が小さく、見えないなどの問題があった）をパソコンに指定するなど、授業前の段階で相手側と詳細な打ち合わせが必要であると思った。
日本事情・日本理解	今回はひらがな・カタカナ・基本の漢字のみであったので、特に困ったことはなかった。
	携帯電話で参加している学生が多く、Zoomのホワイトボード機能を使って学生側に書いてもらうというところまでは実施できなかった。教員・学生ともにやりやすく満足度の高い授業を行うためには、ペンで書き込みができるパソコンやタブレットなど、画面が大きく、キー入力が必要ないタイプの電子機器が必要であると感じた。
	今回はアニメ動画を使用したのが、日本理解を目標とするならば、実際の日本の様子や写真が盛り込まれた動画を使用したほうが効果的であると思う。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	講師に対して、Zoomの基本的な使い方（画面共有・ホワイトボード機能・PDFへの書き込み方法・ブレイクアウトルームの始め方・ブレイクアウトルームでの画面共有についてなど）の研修を行った
話す（発表）	講師に対して、Zoomの基本的な使い方（画面共有・ホワイトボード機能・PDFへの書き込み方法・ブレイクアウトルームの始め方・ブレイクアウトルームでの画面共有についてなど）の研修を行った
聞く	講師に対して、Zoomの基本的な使い方（画面共有・ホワイトボード機能・PDFへの書き込み方法・ブレイクアウトルームの始め方・ブレイクアウトルームでの画面共有についてなど）、オンデマンド教材の使い方（動画視聴、視聴スピードの変更、各教材の研究）の研修を行った
読む	ひらがな・カタカナがまだスムーズに読めない学生がいたので、「いろいろ」のテキストは各国語版を使用した。
書く	ASK-ONLINEやlearningBOXの使用方法を知ってもらうため、pptや画面共有で使い方を紹介した。
日本事情・日本理解	ASK-ONLINEやlearningBOXの使用方法を知ってもらうため、pptや画面共有で使い方を紹介した。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

019-1：ミツミネキャリアアカデミー日本語コース

授業ID	日本語教育機関・モデル名											事前テスト		事後テスト		テスト満点		事前テスト	事後テスト	成長幅 (単	
		レベ					モデ					事前の点数		事後の点数				正答率 (生	正答率 (生	位: ポイン	
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	(生徒合	(生徒合			徒合計)	徒合計)	ト)	
													計)	回答者数	計)	回答者数				事後・事前	
019-1	ミツミネキャリアアカデミー モデル2 (A1) _7/19～9/20	○						○						150	7	207	7	40	53.6%	73.9%	20

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル2 (3か月)
区分	オンラインのみ + オンデマンド型
1. 授業のレベル	A1
2. 授業のコース	進学 就職 一般
3-1. 授業の実施期間 (開始)	2022/7/19
3-2. 授業の実施期間 (終了)	2022/9/26
4. 授業の学習時間	60
5. 学生の授業への参加率	80
6-1. 担当された先生①居住国	日本
6-1. 担当された先生①性別	女性
6-1. 担当された先生①使用言語	日本語
6-1. 担当された先生①スキル	特になし
6-2. 担当された先生②居住国	日本
6-2. 担当された先生②性別	男性
6-2. 担当された先生②使用言語	日本語
6-2. 担当された先生②スキル	特になし
7. 実施した言語活動	話す (やりとり) 話す (発表) 聞く読む日本事情・日本理解
8. 使用したオンライン会議ツール	Zoom
9. 使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	Dynabook内臓のスピーカーとマイク
10. 使用した映像 (カメラ) 機	Dynabook内臓のカメラ
11. 使用したファイル形式 (パワーポイント、PDF等)	PPT
12. 撮影をした場所	その他 (講師自宅等)

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	挨拶等を含む、簡単なやり取りができる。
話す（発表）	自分の考えや誰かと話した内容を簡潔にまとめ、第三者に伝えることができる
聞く	短い文や単語が聞き取れる。
読む	漢字を含めた日本語表記を抵抗なく読める。
日本事情・日本理解	日本の行事についての理解。 他者への配慮についての理解。

●就職コース

話す（やりとり）	挨拶等を含む、簡単なやり取りができる。
話す（発表）	自分の考えや誰かと話した内容を簡潔にまとめ、第三者に伝えることができる
聞く	短い文や単語が聞き取れる。
読む	漢字を含めた日本語表記を抵抗なく読める。
日本事情・日本理解	日本の行事についての理解。 他者への配慮についての理解。

●生活コース

話す（やりとり）	挨拶等を含む、簡単なやり取りができる。
話す（発表）	自分の考えや誰かと話した内容を簡潔にまとめ、第三者に伝えることができる
聞く	短い文や単語が聞き取れる。
読む	漢字を含めた日本語表記を抵抗なく読める。
日本事情・日本理解	日本の行事についての理解。 他者への配慮についての理解。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
読む	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	各項目の文法を使い、学習者自身の話をしてもらう。
話す（発表）	自己紹介や既習語彙や文型を使い、簡単な
聞く	細かい聞き取りと、概要をつかむ聞き取りに挑戦してもらう。
読む	声を出して読んでもらう。
日本事情・日本理解	オンデマンド教材を使い日本事情の理解を深めた。

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	いどころ入門
		レベル	A1
	使用した教材②	内容	挨拶等の基礎的な日本語
		名称	eTRY!
話す（発表）	使用した教材①	レベル	A1
		内容	-
	使用した教材②	名称	いどころ入門
		レベル	A1
聞く	使用した教材①	内容	挨拶等の基礎的な日本語
		名称	いどころ入門
	使用した教材②	レベル	A1
		内容	挨拶等の基礎的な日本語
読む	使用した教材①	名称	動く絵本
		レベル	A1
	使用した教材②	内容	読む
		名称	いどころ入門
日本事情・日本理解	使用した教材①	レベル	A1
		内容	挨拶等の基礎的な日本語
	使用した教材②	名称	動く絵本
		レベル	A1
		内容	日本事情

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	特になし
話す（発表）	特になし
聞く	特になし
読む	特になし
日本事情・日本理解	特になし

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	場面に合った挨拶と自身のことについて既習文型を用いて話せているか
話す（発表）	発表を聞いた側がどのくらい理解できているか
聞く	学習した単語をや文型を聞きとり、身近な会話文の内容が理解できるか
読む	学習した漢字や語彙の意味を理解し、身近な文章の概要を掴むことができているか
日本事情・日本理解	自国との違いを意識できたか

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	教科書の文型項目を指標に
話す（発表）	既習の言葉や表現を指標に
聞く	教科書の文型項目を指標に
読む	教科書の文型項目を指標に
日本事情・日本理解	特になし

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	特になし
話す（発表）	特になし
聞く	特になし
読む	★学習者自身が受講前後で点数を確認できたことで、成長を感じられたようだった。
日本事情・日本理解	特になし

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	★あいづち等を含めた自然な会話や、二人以上での会話をしてもらうのが難しかった。
話す（発表）	特になし
聞く	★学習者が正確に聞き取れなかった場合、その理由の特定が難しい。
読む	★実際に正確に読めているのかを、クラス全体に対して簡単に確認することが難しい。
日本事情・日本理解	特になし

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	★学習者が意図したことが話せているかをしっかり確認できる時間を設けた。
話す（発表）	特になし
聞く	特になし
読む	特になし
日本事情・日本理解	特になし

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

019-2：ミツミネキャリアアカデミー日本語コース

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レベ ル										事前テスト		事後テスト		テスト満点	事前テスト 正答率（生徒 合計）	事後テスト 正答率（生徒 合計）	成長幅（単 位：ポイント）				
		モ デ ル					モ デ ル 外					事前の点数 （生徒合 計）	事後の点数 （生徒合 計）	回答者数	回答者数								
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2										
019-2	ミツミネキャリアアカデミー 日本語コース_モデル以外①(日 本文化)_7/25～9/30					○	○							○		76	5	306	6	100	15.2%	51.0%	36

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	モデル外①（2か月）
区分	オンラインのみ
1.授業のレベル	B2 C
2.授業のコース	進学 就職 一般
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/7/19
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/9/26
4.授業の学習時間	32
5.学生の授業への参加率	75
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	特になし
7.実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	dynabookPC付属のスピーカーとマイク
10.使用した映像（カメラ）機	dynabookPC付属のカメラ
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	パワーポイント、PDF,写真
12.撮影をした場所	その他（講師自宅等）

各日本語教育機関の実施結果

B2

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	教師の質問や問いかけに対して自身の意見をそえて答えることができる。
話す（発表）	日本事情や自国の文化について調べた内容を的確な日本語で相手に伝えることができる
聞く	教師の説明から日本事情の用語や学生の発表内容が理解できる。
読む	教材や発表者のPPT等の資料の日本語が理解できる
日本事情・日本理解	本独特の文化や日本事情を理解し、入国後の生活に役立つ知識として持つ

●就職コース

話す（やりとり）	教師の質問や問いかけに対して自身の意見をそえて答えることができる。
話す（発表）	日本事情や自国の文化について調べた内容を的確な日本語で相手に伝えることができる
聞く	教師の説明から日本事情の用語や学生の発表内容が理解できる。
読む	教材や発表者のPPT等の資料の日本語が理解できる
日本事情・日本理解	本独特の文化や日本事情を理解し、入国後の生活に役立つ知識として持つ

●生活コース

話す（やりとり）	教師の質問や問いかけに対して自身の意見をそえて答えることができる。
話す（発表）	日本事情や自国の文化について調べた内容を的確な日本語で相手に伝えることができる
聞く	教師の説明から日本事情の用語や学生の発表内容が理解できる。
読む	教材や発表者のPPT等の資料の日本語が理解できる
日本事情・日本理解	本独特の文化や日本事情を理解し、入国後の生活に役立つ知識として持つ

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）
読む	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	一方的な説明はできるだけなくし、学生とのキャッチボール形式で進めるように心がけました。
話す（発表）	基本的には毎回、日本文化や日本文化と比較して自国の文化などの発表時間を作っていたため、こちらの満足度は高いと思われます。発表準備は基本的に宿題にしていました。
聞く	教師が用意したPPTで日本文化や日本事情をかみ砕いて説明していました。その内容が分からないという学生はほとんどいませんでした。しかし、学生の発表の日本語の聞き取りが難しかったようです。辞書などで説明したものをそのまま発表したりしていたためです。その際は簡単な日本語に直すように指導していました。
読む	教師の用意したPPTの短い読み物や発表者のPPTのみ。今回のオンライン授業では読むに力を入れていませんでした。授業内で長めの読解を行うとどうしてもダレてしまうのと、今回の学生は読むより、会話がしたいという要望が多かったためです。
日本事情・日本理解	上記講師は当校で行っている選択授業で日本事情・日本文化を担当しているこうしたため、日本事情や日本文化に精通しており、内容は選択授業で行っている授業の内容をPPT化したものです。

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	教師の自作教材
		レベル	B2 C
		内容	日本の行事や習慣など
話す（発表）	使用した教材①	名称	教師の自作教材
		レベル	B2 C
		内容	日本の行事や習慣など
聞く	使用した教材①	名称	教師の自作教材
		レベル	B2 C
		内容	日本の行事や習慣など
読む	使用した教材①	名称	教師の自作教材
		レベル	B2 C
		内容	日本の行事や習慣など
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	教師の自作教材
		レベル	B2 C
		内容	日本の行事や習慣など

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	特になし
話す（発表）	特になし
聞く	特になし
読む	特になし
日本事情・日本理解	特になし

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	日本文化や事情について、また自国の文化などについて教師や他学生の質問に的確に答え自身の意見が述べられているか
話す（発表）	定められた時間で、担当の内容を紹介できているか。またその際に専門用語や難しい言葉は分かりやすい言葉で言い換え説明を付け加えられているか。
聞く	教師の説明や発表の内容を正しく、理解できているか。
読む	特になし
日本事情・日本理解	日本文化や事情について正しい認識を持つことができているか

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	既存の語彙や知識を指標に
話す（発表）	既存の語彙や知識を指標に
聞く	特になし
読む	特になし
日本事情・日本理解	既存の語彙や知識を指標に

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	検証テストは選択式だったため、会話の検証をするのであれば会話テストのようなものが必要だと思いましたが、そこまで手が回りませんでした。
話す（発表）	検証テストだけではなく、発表の内容を点数化、もしくはCAN-DOで評価してあげればよかったと思います。
聞く	特になし
読む	特になし
日本事情・日本理解	検証テストの結果では知識としては身につけていると思うので、それを実際の生活でどう活かすかというところにもっとフォーカスして授業を組み立てたほうがいいと思いました。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	今回は人数も少なかったので学生の発話量を増やしやりとりしっかり行えましたが、これ以上人数が増えると型にはまったやり方しかできないように思います。学生のニーズに応じて臨機応変に授業を進めるのは難しいと思われます。
話す（発表）	どうしても問題になるのが発表の準備をいつするかということだと思います。今回のオンライン授業参加者は入国待ちの学生だったため、時間に余裕があり、宿題というかたちでも問題はありませんでした。入国している学生は授業内でその時間をとらなければ、学校以外の時間で発表の準備をするのが難しい学生も多くいます。それなら、授業内でできる短い発表というものもよくやりますが、上級レベルの学生にとっては物足りないようです。
聞く	聞いている内容が本当に理解できているかの把握をできるだけ行うことが必要だと思います。教えているときは理解しているから大丈夫と意思表示をしても「皆の前でまで恥ずかしいから」「授業を止めたくないから」という理由で分からない部分をそのままにしてしまっている人もいたと思います。
読む	今回はあまり行っていません。
日本事情・日本理解	対面だと実際の物を用いて授業をおこなうことができるため、学生たちが興味を持ち、実際に手に触れることで実感できる部分もありますが、オンラインだと映像のみになため、何か良い方法がないか模索していました。それは今後の課題です。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	担当講師には機器やZoomの使い方等の研修はしました。それは基本的なZoom授業のやり方等についてです。
話す（発表）	担当講師機器やZoomの使い方等の研修はしました。それは基本的なZoom授業のやり方等についてです。 欠席した学生に連絡し、宿題である発表準備の連絡は行いました。
聞く	担当講師機器やZoomの使い方等の研修はしました。それは基本的なZoom授業のやり方等についてです。
読む	担当講師機器やZoomの使い方等の研修はしました。それは基本的なZoom授業のやり方等についてです。
日本事情・日本理解	担当講師から提出されたカリキュラムの見直し。学生が興味を持ち、実践的なものをできるだけ取り入れるように指導。

各日本語教育機関の実施結果

C

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	教師の質問や問いかけに対して自身の意見をそえて答えることができる。
話す（発表）	日本事情や自国の文化について調べた内容を的確な日本語で相手に伝えることができる
聞く	教師の説明から日本事情の用語や学生の発表内容が理解できる。
読む	教材や発表者のPPT等の資料の日本語が理解できる
日本事情・日本理解	日本独特の文化や日本事情を理解し、入国後の生活に役立つ知識として持つ

●就職コース

話す（やりとり）	教師の質問や問いかけに対して自身の意見をそえて答えることができる。
話す（発表）	日本事情や自国の文化について調べた内容を的確な日本語で相手に伝えることができる
聞く	教師の説明から日本事情の用語や学生の発表内容が理解できる。
読む	教材や発表者のPPT等の資料の日本語が理解できる
日本事情・日本理解	日本独特の文化や日本事情を理解し、入国後の生活に役立つ知識として持つ

●生活コース

話す（やりとり）	教師の質問や問いかけに対して自身の意見をそえて答えることができる。
話す（発表）	日本事情や自国の文化について調べた内容を的確な日本語で相手に伝えることができる
聞く	教師の説明から日本事情の用語や学生の発表内容が理解できる。
読む	教材や発表者のPPT等の資料の日本語が理解できる
日本事情・日本理解	日本独特の文化や日本事情を理解し、入国後の生活に役立つ知識として持つ

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）
読む	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	一方的な説明はできるだけなくし、学生とのキャッチボール形式で進めるように心がけました。
話す（発表）	基本的には毎回、日本文化や日本文化と比較して自国の文化などの発表時間を作っていたため、こちらの満足度は高いと思われます。発表準備は基本的に宿題にしていました。
聞く	教師が用意したPPTで日本文化や日本事情をかみ砕いて説明していました。その内容が分からないという学生はほとんどいませんでした。しかし、学生の発表の日本語の聞き取りが難しかったようです。辞書などで説明したものをそのまま発表したりしていたためです。その際は簡単な日本語に直すように指導していました。
読む	教師の用意したPPTの短い読み物や発表者のPPTのみ。今回のオンライン授業では読むに力を入れていませんでした。授業内で長めの読解を行うとどうしてもダレてしまうのと、今回の学生は読むより、会話がしたいという要望が多かったためです。
日本事情・日本理解	上記講師は当校で行っている選択授業で日本事情・日本文化を担当しているこうしたため、日本事情や日本文化に精通しており、内容は選択授業で行っている授業の内容をPPT化したものです。

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	教師の自作教材
		レベル	B2 C
		内容	日本の行事や習慣など
話す（発表）	使用した教材①	名称	教師の自作教材
		レベル	B2 C
		内容	日本の行事や習慣など
聞く	使用した教材①	名称	教師の自作教材
		レベル	B2 C
		内容	日本の行事や習慣など
読む	使用した教材①	名称	教師の自作教材
		レベル	C
		内容	日本の行事や習慣など
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	教師の自作教材
		レベル	C
		内容	日本の行事や習慣など

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	特になし
話す（発表）	特になし
聞く	特になし
読む	特になし
日本事情・日本理解	特になし

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	日本文化や事情について、また自国の文化などについて教師や他学生の質問に的確に答え自身の意見が述べられているか
話す（発表）	定められた時間で、担当の内容を紹介できているか。またその際に専門用語や難しい言葉は分かりやすい言葉で言い換え説明を付け加えられているか。
聞く	教師の説明や発表の内容を正しく、理解できているか。
読む	特になし
日本事情・日本理解	日本文化や事情について正しい認識を持つことができているか

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	既存の語彙や知識を指標に
話す（発表）	既存の語彙や知識を指標に
聞く	特になし
読む	特になし
日本事情・日本理解	特になし

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	検証テストは選択式だったため、会話の検証をするのであれば会話テストのようなものが必要だと思いましたが、そこまで手が回りませんでした。
話す（発表）	検証テストだけではなく、発表の内容を点数化、もしくはCAN-DOで評価してあげればよかったと思います。
聞く	特になし
読む	特になし
日本事情・日本理解	検証テストの結果では知識としては身につけていると思うので、それを実際の生活でどう活かすかというところにもっとフォーカスして授業を組み立てたほうがいいと思いました。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	今回は人数も少なかったので学生の発話量を増やしやりとりしっかり行いましたが、これ以上人数が増えると型にはまったやり方しかできないように思います。学生のニーズに応じて臨機応変に授業を進めるのは難しいと思われます。
話す（発表）	どうしても問題になるのが発表の準備をいつするかということだと思います。今回のオンライン授業参加者は入国待ちの学生だったため、時間に余裕があり、宿題というかたちでも問題はありませんでした。入国している学生は授業内でその時間をとらなければ、学校以外の時間で発表の準備をするのが難しい学生も多くいます。それなら、授業内でできる短い発表というものもよくやりますが、上級レベルの学生にとっては物足りないようです。
聞く	聞いている内容が本当に理解できているかの把握をできるだけ行うことが必要だと思います。教えているときは理解しているから大丈夫と意思表示をしても「皆の前でまで恥ずかしいから」「授業を止めたくないから」という理由で分からない部分をそのままにしてしまっている人もいたと思います。
読む	今回はあまり行っていません。
日本事情・日本理解	対面だと実際の物を用いて授業をおこなうことができるため、学生たちが興味を持ち、実際に手に触れることで実感できる部分もありますが、オンラインだと映像のみになため、何か良い方法がないか模索していました。それは今後の課題です。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	担当講師には機器やZoomの使い方等の研修はしました。それは基本的なZoom授業のやり方等についてです。
話す（発表）	担当講師機器やZoomの使い方等の研修はしました。それは基本的なZoom授業のやり方等についてです。 欠席した学生に連絡し、宿題である発表準備の連絡は行いました。
聞く	担当講師機器やZoomの使い方等の研修はしました。それは基本的なZoom授業のやり方等についてです。
読む	担当講師機器やZoomの使い方等の研修はしました。それは基本的なZoom授業のやり方等についてです。
日本事情・日本理解	担当講師から提出されたカリキュラムの見直し。学生が興味を持ち、実践的なものをできるだけ取り入れるように指導。

各日本語教育機関の実施結果

<各機関（授業ID別）の実施結果>

019-3：ミツミネキャリアアカデミー日本語コース

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レ ベ ル		モ デ ル						モ デ ル 外		事前テスト		事後テスト		事前テスト 事後テスト 成長幅 (単 正答率 (生 正答率 (生 位: ポイン テスト満点 徒合計) 徒合計) ト)							
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	事前テスト 事前の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	回答者数	回答者数	事後-事前					
019-3	ミツミネキャリアアカデミー 日本語 コース_モデル以外①(広 告の日本語)_7/25～9/29					○	○						○			30	2	100	2	100	15.0%	50.0%	35

■基本情報

項目	内容
実証取組モデル	モデル外①（2か月）
区分	オンラインのみ
1.授業のレベル	B2 C
2.授業のコース	進学 就職 一般
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/7/25
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/9/29
4.授業の学習時間	32
5.学生の授業への参加率	65
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	男性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	特になし
7.実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク	Dynabook内臓のスピーカーとマイク
10.使用した映像（カメラ）機	Dynabook内臓のカメラ
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	PDF,写真、PPT
12.撮影をした場所	その他（講師自宅等）

各日本語教育機関の実施結果

B2

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	教師の問いかけに対して自身の意見を添えて的確に答えることができる。
話す（発表）	自身が制作したキャッチフレーズやスローガンの制作意図をプレゼンテーションできる。
聞く	教師のオリエンテーションを確実に聞き取り、制作に反映できる。
読む	広告関連のポスターや資料を読み解くことができる。
日本事情・日本理解	広告を通して、日本のこと、日本人の考え方について理解を深める。

●就職コース

話す（やりとり）	教師の問いかけに対して自身の意見を添えて的確に答えることができる。
話す（発表）	自身が制作したキャッチフレーズやスローガンの制作意図をプレゼンテーションできる。
聞く	教師のオリエンテーションを確実に聞き取り、制作に反映できる。
読む	広告関連のポスターや資料を読み解くことができる。
日本事情・日本理解	広告を通して、日本のこと、日本人の考え方について理解を深める。

●生活コース

話す（やりとり）	教師の問いかけに対して自身の意見を添えて的確に答えることができる。
話す（発表）	自身が制作したキャッチフレーズやスローガンの制作意図をプレゼンテーションできる。
聞く	教師のオリエンテーションを確実に聞き取り、制作に反映できる。
読む	広告関連のポスターや資料を読み解くことができる。
日本事情・日本理解	広告を通して、日本のこと、日本人の考え方について理解を深める。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）
読む	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	広告に関することだけでなく、日本のこと、日本人の考え方についても扱いました。一方的な説明ではなく、常にこちらから質問し、日本語で考えて話せるよう心がけました。
話す（発表）	広告の制作意図、ターゲットや広告の狙い、企業や商品の置かれている立場や状況を把握して、聞き手を説得できるプレゼンテーションになるようアドバイスしました。
聞く	広告制作をするうえでとても重要なオリエンテーションを確実に聞き取る練習をしました。聞いたうえで質問することの重要性を身につけられるよう指導しました。
読む	広告などの細かな部分を読み解くのではなく、感覚的に読み解く力を養えるように指導しました。
日本事情・日本理解	日本人の感覚や、日本の習慣など日本に対する知識もしっかりと教えました。

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	講師の自作教材
		レベル	B2 C
		内容	広告のポスターや看板など
話す（発表）	使用した教材①	名称	講師の自作教材
		レベル	B2 C
		内容	広告のポスターや看板など
聞く	使用した教材①	名称	講師の自作教材
		レベル	B2 C
		内容	広告のポスターや看板など
読む	使用した教材①	名称	講師の自作教材
		レベル	B2 C
		内容	広告のポスターや看板など
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	講師の自作教材
		レベル	C
		内容	広告のポスターや看板など

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	特になし
話す（発表）	特になし
聞く	特になし
読む	特になし
日本事情・日本理解	特になし

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	広告に関する感想や見解を日本語でしっかりと述べられているか。その際に自身の意見を含めて話せているか
話す（発表）	企業や商品の置かれている立場や状況を把握し、広告の制作意図、ターゲットや広告の狙い、聞き手を説得できるプレゼンテーションができているか
聞く	教師のオリエンテーションを確実に聞き取り、制作に反映できているか
読む	制作者が意図して伝えようとしているところを読み取れているか
日本事情・日本理解	日本人の感覚や考えを理解した上で発表やポスター作成ができているか

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	既存の語彙や表現や知識を指標に
話す（発表）	既存の語彙や表現や知識を指標に
聞く	既存の語彙や表現や知識を指標に
読む	既存の語彙や表現や知識を指標に
日本事情・日本理解	特になし

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	会話の検証をするのであれば会話テストのようなものが必要だと思いましたが、そこまで手が回りませんでした。
話す（発表）	会話の検証をするのであれば会話テストのようなものが必要だと思いましたが、そこまで手が回りませんでした。
聞く	特になし
読む	特になし
日本事情・日本理解	特になし

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	生徒の人数が少なければ（たとえば5名以下）一人一人の考え方を講師が聞き取り、制作上でのアドバイスが可能だと考えます。生徒数が多いとなかなか難しいです。
話す（発表）	これも生徒数が少なければ発表を聞いてその良しあしをクラス全員で共有でき、かなり効果的だと思います。やはり人数が多いと単に発表するだけで終わってしまう可能性が高いです。
聞く	これについては人数はあまり関係ないですが、専門用語の多いクラスなので、わからない言葉をそのままにしまうと、勘違いが発生します。ノートをとって繰り返し覚えることが重要です。
読む	特になし
日本事情・日本理解	特になし

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	ベテランの講師だったため、特になし（機器やZoomの使い方等の研修はしました。ただ技能別でと言われると特に何も行っていません）
話す（発表）	ベテランの講師だったため、特になし（機器やZoomの使い方等の研修はしました。ただ技能別でと言われると特に何も行っていません）
聞く	ベテランの講師だったため、特になし（機器やZoomの使い方等の研修はしました。ただ技能別でと言われると特に何も行っていません）
読む	特になし
日本事情・日本理解	特になし

各日本語教育機関の実施結果

C

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	教師の問いかけに対して自身の意見を添えて的確に答えることができる。
話す（発表）	自身が制作したキャッチフレーズやスローガンの制作意図をプレゼンテーションできる。
聞く	教師のオリエンテーションを確実に聞き取り、制作に反映できる。
読む	広告関連のポスターや資料を読み解くことができる。
日本事情・日本理解	広告を通して、日本のこと、日本人の考え方について理解を深める。

●就職コース

話す（やりとり）	教師の問いかけに対して自身の意見を添えて的確に答えることができる。
話す（発表）	自身が制作したキャッチフレーズやスローガンの制作意図をプレゼンテーションできる。
聞く	教師のオリエンテーションを確実に聞き取り、制作に反映できる。
読む	広告関連のポスターや資料を読み解くことができる。
日本事情・日本理解	広告を通して、日本のこと、日本人の考え方について理解を深める。

●生活コース

話す（やりとり）	教師の問いかけに対して自身の意見を添えて的確に答えることができる。
話す（発表）	自身が制作したキャッチフレーズやスローガンの制作意図をプレゼンテーションできる。
聞く	教師のオリエンテーションを確実に聞き取り、制作に反映できる。
読む	広告関連のポスターや資料を読み解くことができる。
日本事情・日本理解	広告を通して、日本のこと、日本人の考え方について理解を深める。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）
読む	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	広告に関することだけでなく、日本のこと、日本人の考え方についても扱いました。一方的な説明ではなく、常にこちらから質問し、日本語で考えて話せるよう心がけました。
話す（発表）	広告の制作意図、ターゲットや広告の狙い、企業や商品の置かれている立場や状況を把握して、聞き手を説得できるプレゼンテーションになるようアドバイスしました。
聞く	広告制作をするうえでとても重要なオリエンテーションを確実に聞き取る練習をしました。聞いたうえで質問することの重要性を身につけられるよう指導しました。
読む	広告などの細かな部分を読み解くのではなく、感覚的に読み解く力を養えるように指導しました。
日本事情・日本理解	日本人の感覚や、日本の習慣など日本に対する知識もしっかりと教えました。

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	講師の自作教材
		レベル	B2 C
		内容	広告のポスターや看板など
話す（発表）	使用した教材①	名称	講師の自作教材
		レベル	B2 C
		内容	広告のポスターや看板など
聞く	使用した教材①	名称	講師の自作教材
		レベル	B2 C
		内容	広告のポスターや看板など
読む	使用した教材①	名称	講師の自作教材
		レベル	B2 C
		内容	広告のポスターや看板など
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	講師の自作教材
		レベル	B2 C
		内容	広告のポスターや看板など

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	特になし
話す（発表）	特になし
聞く	特になし
読む	特になし
日本事情・日本理解	特になし

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	広告に関する感想や見解を日本語でしっかりと述べられているか。その際に自身の意見を含めて話せているか
話す（発表）	企業や商品の置かれている立場や状況を把握し、広告の制作意図、ターゲットや広告の狙い、聞き手を説得できるプレゼンテーションができていないか
聞く	教師のオリエンテーションを確実に聞き取り、制作に反映できているか
読む	制作者が意図して伝えようとしているところを読み取れているか
日本事情・日本理解	日本人の感覚や考えを理解した上で発表やポスター作成ができていないか

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	既存の語彙や表現や知識を指標に
話す（発表）	既存の語彙や表現や知識を指標に
聞く	既存の語彙や表現を指標に
読む	既存の語彙や表現や知識を指標に
日本事情・日本理解	特になし

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	会話の検証をするのであれば会話テストのようなものが必要だと思いましたが、そこまで手が回りませんでした。
話す（発表）	会話の検証をするのであれば会話テストのようなものが必要だと思いましたが、そこまで手が回りませんでした。
聞く	特になし
読む	特になし
日本事情・日本理解	特になし

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	生徒の人数が少なければ（たとえば5名以下）一人一人の考え方を講師が聞き取り、制作上でのアドバイスが可能だと考えます。生徒数が多いとなかなか難しいです。
話す（発表）	これも生徒数が多ければ発表を聞いてその良しあしをクラス全員で共有でき、かなり効果的だと思います。やはり人数が多いと単に発表するだけで終わってしまう可能性が高いです。
聞く	これについては人数はあまり関係ないですが、専門用語の多いクラスなので、わからない言葉をそのままにしていると、勘違いが発生します。ノートをとって繰り返し覚えることが重要です。
読む	特になし
日本事情・日本理解	特になし

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	ベテランの講師だったため、特になし（機器やZoomの使い方等の研修はしました。ただ技能別でと言われると特に何も行っていません）
話す（発表）	ベテランの講師だったため、特になし（機器やZoomの使い方等の研修はしました。ただ技能別でと言われると特に何も行っていません）
聞く	ベテランの講師だったため、特になし（機器やZoomの使い方等の研修はしました。ただ技能別でと言われると特に何も行っていません）
読む	特になし
日本事情・日本理解	特になし

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

020-1：東京国際日本語学院

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レベル										事前テスト		事後テスト		事前テスト		事後テスト		成長幅（単	
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	事前の点数 (生徒合 計)	回答者数	事後の点数 (生徒合 計)	回答者数	テスト満点	正答率（生 徒合計）	正答率（生 徒合計）	位：ポイン ト）
020-1（前半三ヵ月）	東京国際日本語学院_モデル外 (A1・A2)_7/25-12/23	○	○										○	48	3	80	3	100	16.0%	26.7%	11
020-1（後半三ヵ月）	東京国際日本語学院_モデル外 (A1・A2)_7/25-12/23	○	○										○	35	3	132	3	100	11.7%	44.0%	32

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	モデル外②（5か月）
区分	ハイフレックス型
1.授業のレベル	A1 A2
2.授業のコース	進学 一般
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/7/25
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/12/23
4.授業の学習時間	390
5.学生の授業への参加率	80
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本
6-1.担当された先生①スキル	大学主専攻
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本
6-2.担当された先生②スキル	日本語教育能力検定試験合格
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	女性
6-3.担当された先生③使用言語	日本
7.実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	ipad
10.使用した映像（カメラ）機	ipad
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	PDF、パワーポイントの教材、写真共有による教材
12.撮影をした場所	普段の教室

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	日常生活でよく使われる基礎的な場面（買い物・注文・乗り物等）の会話を習得する。学んだことについて自分の言葉で話すことが出来るようになる。日常の簡単なことについて（天候や健康状態）質問でき答えることができる。
話す（発表）	上記で練習した場面を覚え、ペアで発表。また、日常について書いた簡単な作文を発表できるようにする。
聞く	日常について聞かれたことが理解できる、またみんなの日本語の問題、学院作成のみんなの日本語聴解テストの理解ができるようになる。
読む	簡単に書かれた日常についての物が読めるようになる。みんなの日本語の問題の部分の理解ができるようになる。
書く	学んだことについて、きちんと理解し、自分のことを表現できるようにする、また課題に合わせて、200字～400字程度作文が書けるようになる。
日本事情・日本理解	日本の挨拶の仕方、マナーなどの習得、年中行事を知り、理解できるようにする。

●生活コース

話す（やりとり）	日常生活でよく使われる基礎的な場面（買い物・注文・乗り物等）の会話を習得する。学んだことについて自分の言葉で話すことが出来るようになる。日常の簡単なことについて（天候や健康状態）質問でき答えることができる。
話す（発表）	上記で練習した場面を覚え、ペアで発表。また、日常について書いた簡単な作文を発表できるようにする。
聞く	日常について聞かれたことが理解できる、またみんなの日本語の問題、学院作成のみんなの日本語聴解テストの理解ができるようになる。
読む	簡単に書かれた日常についての物が読めるようになる。みんなの日本語の問題の部分の理解ができるようになる。
書く	学んだことについて、きちんと理解し、自分のことを表現できるようにする、また課題に合わせて、200字～400字程度作文が書けるようになる。
日本事情・日本理解	日本の挨拶の仕方、マナーなどの習得、年中行事を知り、理解できるようにする。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	ハイフレックス型
話す（発表）	ハイフレックス型
聞く	ハイフレックス型
読む	ハイフレックス型
書く	ハイフレックス型
日本事情・日本理解	ハイフレックス型

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	学院作成の会話教材を使用し、買い物、乗り物、注文などの各場面を紹介、習得。みんなの日本語のC練習、会話、各文法項目において必要と思われるやりとり。 教員：鈴木、穴戸、大久保 直接法
話す（発表）	上記で学んだ学習場面についてペアで練習、発表。作文発表。 教員：鈴木、穴戸、大久保 直接法
聞く	みんなの日本語C練習、会話、問題の理解。各文法項目における質問に答える。 教員：鈴木、穴戸、大久保 直接法
読む	みんなの日本語に書かれている内容の理解。 教員：鈴木、穴戸、大久保 直接法
書く	みんなの日本語のB練習を正しく書けるようにする、また日常についての出来事などを書けるようにする。 教員：鈴木、穴戸、大久保 直接法
日本事情・日本理解	挨拶など基本的な日本のマナーや習慣の理解、年中行事などの理解。 教員：鈴木、穴戸、大久保 直接法

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	入門期 会話とことば（学院作成）
		レベル	A1
	使用した教材②	内容	日常生活内で必要な会話を場面ごとに紹介練習
		名称	みんなの日本語初級Ⅰ
話す（発表）	使用した教材①	レベル	A1
		内容	みんなの日本語ⅠC練習、会話を使用してのペア練習及び、オリジナル作成によるペア練習、作文発表
	使用した教材②	名称	みんなの日本語初級Ⅰ
		レベル	A1
聞く	使用した教材①	内容	-
		名称	みんなの日本語初級Ⅰ
	使用した教材②	レベル	A1
		内容	みんなの日本語初級ⅠC練習、会話練習のCD、及び、みんなの日本語Ⅰに準拠したオリジナル聴解テスト
読む	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ
		レベル	A1
	使用した教材②	内容	みんなの日本語初級ⅠC練習、問題部分の読み
		名称	みんなの日本語初級Ⅰ標準問題集
書く	使用した教材①	レベル	A1
		内容	-
	使用した教材②	名称	みんなの日本語初級Ⅰ
		レベル	A1
日本事情・日本理解	使用した教材①	内容	みんなの日本語ⅠB練習、問題、作文
		名称	みんなの日本語初級Ⅰ標準問題集
	使用した教材②	レベル	A1
		内容	-
話す（やりとり）	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ
		レベル	A1
	使用した教材②	内容	みんなの日本語Ⅰに準拠した内容の日本事情の紹介、オリジナル教材により年中行事の紹介

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	文化庁による日本語能力自己評価ツール
話す（発表）	文化庁による日本語能力自己評価ツール
聞く	文化庁による日本語能力自己評価ツール
読む	文化庁による日本語能力自己評価ツール
書く	文化庁による日本語能力自己評価ツール
日本事情・日本理解	日本学生支援機構 サイト内 クイズ日本事情（大阪日本語教育センター）によるもの

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	教師による質問を理解し、スムーズにコミュニケーションが図れるかを5段階で評価
話す（発表）	練習した事柄などについてスムーズに、相手にわかるように話せているかを5段階で評価
聞く	内容を正しく理解できたかどうか、何回聞いてきちんと理解できたかについて5段階で評価
読む	書かれている内容について、5W1hがきちんと理解できているか、正しく内容を把握しているかを5段階で評価
書く	課題に沿って、内容を理解し、正しい表現ができているかどうか、適切な語彙が使用されているかどうか、誤字脱字などがないかどうかを5段階で評価
日本事情・日本理解	正しく日本の習慣、マナーなどを理解し、実践できているかどうかを5段階で評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	学院作成の会話テスト（みんなの日本語Ⅰ終了後）による評価
話す（発表）	みんなの日本語各課の「会話」の発表による評価
聞く	学院作成のみんなの日本語聴解テスト、1課～13課、14課～22課、23課～25課 による評価
読む	学院作成の文法テスト1課～13課、14課～22課、23課～25課 による評価
書く	学院作成の文法テスト1課～13課、14課～22課、23課～25課 による評価 作文による評価
日本事情・日本理解	学院作成の文法テスト1課～13課、14課～22課、23課～25課 による評価

各日本語教育機関の実施結果

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	概ね成果に達成できているが、オンラインを介してのやりとりには多少のタイムラグが出るので、スムーズ差という面では正当な評価ができたかという点と難しい点もある。
話す（発表）	概ね成果に達成できた。
聞く	オンラインを介しての評価になるので、教室内の学生との差が生じてしまったように思う。
読む	概ね成果に達成できた。
書く	概ね成果に達成できた。
日本事情・日本理解	概ね成果に達成できた。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	機器等のコスト
聞く	機器等のコスト
読む	ネットワーク環境の整備
書く	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	スムーズなやりとりができる時とできない時があるので、インターネット環境の充実が必要だが、こちらで整備できても学生側の問題もあるので、難しいと感じた。グループに分け、ペア練習をさせたかったが、Zoomの機能では今回はできなかったのも、対教師のやりとりが多くなってしまった。
話す（発表）	発表の際、プロジェクターなどを準備し、教室内の学生にもきちんと見せられるようにできればよかったが、今回はその手配がうまくできなかったのも、今後整備を整えたい
聞く	インターネットの介しての聴解はクラス内で聞いている学生とは難易度が異なると思うが、どの程度ととらえるのがいいかが難しい。また、安定した音声届けられるような環境設定が必要。
読む	テストなどはその場で回答を送るように指示はしても時間差が出来ること、辞書などを用いて確認していても、こちらではわかりにくいことがある。今回の学生は真面目な学生であったので、そのようなことはなかったと思われるが、今度は課題となると感じた。
書く	すぐその場で訂正が難しいので、簡単な間違いが修正しにくく、学習者に注意を促すことが難しい。
日本事情・日本理解	教材の共有などで紹介するが、動画などがスムーズにいかない場合もあった。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	授業後に、オンラインを介してやりとりの仕方、スムーズな指示の出し方などの実践
話す（発表）	授業後に、オンラインを介してやりとりの仕方、スムーズな指示の出し方などの実践
聞く	授業後に、オンラインを介した音声の状況の確認、適切な音量などの検討
読む	教師による適切な質問の仕方、わかりやすい授業展開などの検討
書く	指導のポイントの確認、添削方法の基準の検討
日本事情・日本理解	視覚教材などの効果的な使用方法などの検討

各日本語教育機関の実施結果

A2

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	身近な事柄、家族や自分自身についてや、天候、物事の様子など話することが出来、また相手にに対して質問することが出来るようになる。また、相手によって言葉の使い分けなども考慮して話することが出来るようになる。
話す（発表）	ある程度まとまった文を相手に伝えるように話することが出来るようになる。
聞く	聞かれたことが理解できる、またみんなの日本語の問題、学院作成のみんなの日本語聴解テストの理解ができるようになる。
読む	単に書かれた文章が読めるようになる。みんなの日本語の問題の部分の理解ができるようになる。
書く	自らのことを表現でき、また丁寧形、普通形など文体を使い分けて表記できるようになる。また課題に合わせて、400字～600字程度作文が書けるようになる。
日本事情・日本理解	年中行事、伝統文化などを理解できるようになる。

●生活コース

話す（やりとり）	身近な事柄、家族や自分自身についてや、天候、物事の様子など話することが出来、また相手にに対して質問することが出来るようになる。また、相手によって言葉の使い分けなども考慮して話することが出来るようになる。
話す（発表）	ある程度まとまった文を相手に伝えるように話することが出来るようになる。
聞く	聞かれたことが理解できる、またみんなの日本語の問題、学院作成のみんなの日本語聴解テストの理解ができるようになる。
読む	簡単に書かれた文章が読めるようになる。みんなの日本語の問題の部分の理解ができるようになる。
書く	自らのことを表現でき、また丁寧形、普通形など文体を使い分けて表記できるようになる。また課題に合わせて、400字～600字程度作文が書けるようになる。
日本事情・日本理解	年中行事、伝統文化などを理解できるようになる。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	ハイフレックス型
話す（発表）	ハイフレックス型
聞く	ハイフレックス型
読む	ハイフレックス型
書く	ハイフレックス型
日本事情・日本理解	ハイフレックス型

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	みんなの日本語のC練習、会話、各文法項目において必要と思われるやりとり。 教員：鈴木、穴戸、大久保 直接法
話す（発表）	上記で学んだ学習場面についてペアで練習、発表。作文発表。 教員：鈴木、穴戸、大久保 直接法
聞く	みんなの日本語C練習、会話、問題の理解。各文法項目における質問に答える。 教員：鈴木、穴戸、大久保 直接法
読む	みんなの日本語に書かれている内容の理解。 教員：鈴木、穴戸、大久保 直接法
書く	みんなの日本語のB練習を正しく書けるようにする、また日常についての出来事、自分自身のことなどを書けるようにする。 教員：鈴木、穴戸、大久保 直接法
日本事情・日本理解	日本文化、年中行事などの理解。 教員：鈴木、穴戸、大久保 直接法

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅱ
		レベル	A2
		内容	みんなの日本語ⅡC練習、会話を使用してのペア練習及び、オリジナル作成によるペア練習、作文発表
話す（発表）	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅱ
		レベル	A2
		内容	みんなの日本語ⅡC練習、会話を使用してのペア練習の発表及び、オリジナル作成によるペア練習、作文発表
聞く	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅱ
		レベル	A2
		内容	みんなの日本語初級ⅡC練習、会話練習のCD、及び、みんなの日本語Ⅰに準拠したオリジナル聴解テスト
読む	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅱ
		レベル	A2
		内容	みんなの日本語初級ⅡC練習、問題部分の読み
	使用した教材②	名称	みんなの日本語初級Ⅱ標準問題集
		レベル	A2
		内容	-
書く	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅱ
		レベル	A2
		内容	みんなの日本語ⅡB練習、問題、作文
	使用した教材②	名称	みんなの日本語初級Ⅱ標準問題集
		レベル	A2
		内容	-
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅱ
		レベル	A2
		内容	みんなの日本語Ⅱに準拠した内容の日本事情の紹介、オリジナル教材により年中行事の紹介

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	文化庁による日本語能力自己評価ツール
話す（発表）	文化庁による日本語能力自己評価ツール
聞く	文化庁による日本語能力自己評価ツール
読む	文化庁による日本語能力自己評価ツール
書く	文化庁による日本語能力自己評価ツール
日本事情・日本理解	日本学生支援機構 サイト内 クイズ日本事情（大阪日本語教育センター）によるもの

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	教師による質問を理解し、スムーズにコミュニケーションが図れるかを5段階で評価
話す（発表）	練習した事柄などについてスムーズにかつ、相手にわかるように話しているかを5段階で評価
聞く	内容を正しく理解できたかどうか、何回聞いてきちんと理解できたかについて5段階で評価
読む	書かれている内容について、5W1hがきちんと理解できているか、正しく内容を把握しているかを5段階で評価
書く	課題に沿って、内容を理解し、正しい表現ができているかどうか、適切な語彙が使用されているかどうか、誤字脱字などがないかどうかを5段階で評価
日本事情・日本理解	正しく日本の習慣、マナー、文化などを理解し、実践できているかどうかを5段階で評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	学院作成の会話テスト（みんなの日本語Ⅱ終了後）による評価
話す（発表）	みんなの日本語各課の「会話」の発表による評価、作文の発表による評価
聞く	学院作成のみんなの日本語聴解テスト、26課～30課、31課～35課、36課～40課、41課～45課、46課～50課による評価
読む	学院作成のみんなの日本語文法テスト、26課～30課、31課～35課、36課～40課、41課～45課、46課～50課による評価
書く	学院作成のみんなの日本語文法テスト、26課～30課、31課～35課、36課～40課、41課～45課、46課～50課による評価、作文による評価
日本事情・日本理解	学院作成のみんなの日本語文法テスト、26課～30課、31課～35課、36課～40課、41課～45課、46課～50課による評価

各日本語教育機関の実施結果

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	概ね成果に達成できているが、オンラインを介してのやりとりには多少のタイムラグが出るので、スムーズ差という面では正当な評価ができたかという点と難しい点もある。
話す（発表）	概ね成果に達成できた。
聞く	オンラインを介しての評価になるので、教室内の学生との差が生じてしまったように思う。
読む	概ね成果に達成できた。
書く	概ね成果に達成できた。
日本事情・日本理解	概ね成果に達成できた。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	機器等のコスト
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	ネットワーク環境の整備
書く	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	スムーズなやりとりができる時とできない時があるので、インターネット環境の充実が必要だが、こちらで整備できても学生側の問題もあるので、難しいと感じた。グループに分け、ペア練習をさせたかったが、Zoomの機能では今回はできなかったのも、対教師のやりとりが多くなってしまった。
話す（発表）	発表の際、プロジェクターなどを準備し、教室内の学生にもきちんと見せられるようにできればよかったが、今回はその手配がうまくできなかったのも、今後整備を整えたい
聞く	インターネットの介しての聴解はクラス内で聞いている学生とは難易度が異なると思うが、どの程度ととらえるのがいいかが難しい。また、安定した音声届けられるような環境設定が必要。
読む	テストなどはその場で回答を送るように指示はしても時間差が出来るしまうこと、辞書などを用いて確認していても、こちらではわかりにくいことがある。今回の学生は真面目な学生であったので、そのようなことはなかったと思われるが、今度は課題となと感じた。
書く	すぐその場で訂正が難しいので、簡単な間違いが修正しにくく、学習者に注意を促すことが難しいので、いつも間違えてしまう。その場でもすぐ見られるような工夫が必要。
日本事情・日本理解	教材の共有などで紹介するが、動画などがスムーズにいかない場合もあった。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	授業後に、オンラインを介してやりとりの仕方、スムーズな指示の出し方などの実践
話す（発表）	授業後に、オンラインを介してやりとりの仕方、スムーズな指示の出し方などの実践
聞く	授業後に、オンラインを介した音声の状況の確認、適切な音量などの検討
読む	教師による適切な質問の仕方、わかりやすい授業展開などの検討
書く	指導のポイントの確認、添削方法の基準の検討
日本事情・日本理解	視覚教材などの効果的な使用方法などの検討

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

022-1：新宿平和日本語学校

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レ ベ ル		モ デ ル					モ デ ル 外		事前テスト		事後テスト		事前テスト		事後テスト		成長幅 (単		
		テスト満点					正答率 (生		事後テスト		事後テスト		正答率 (生		事後テスト		正答率 (生		位: ポイン		
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	計	回答者数	計	回答者数	生徒合	生徒合	生徒合	生徒合
022-1	新宿平和日本語学校_モデル外 (A1)_9/5-12/10	○											6,494	18	15,389		16	1,200	30.1%	80.2%	50

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	モデル外②
区分	オンラインのみ + オンデマンド型
1. 授業のレベル	A1
2. 授業のコース	進学 就職 一般
3-1. 授業の実施期間 (開始)	2022/9/5
3-2. 授業の実施期間 (終了)	2022/12/10
4. 授業の学習時間	150
5. 学生の授業への参加率	79
6-1. 担当された先生①居住国	日本
6-1. 担当された先生①性別	女性
6-1. 担当された先生①使用言語	日本語、英語
6-1. 担当された先生①スキル	日本語養成講座420時間修了
6-2. 担当された先生②居住国	日本
6-2. 担当された先生②性別	女性
6-2. 担当された先生②使用言語	日本語、英語
6-2. 担当された先生②スキル	中学校/高等学校第一種免許状外国語/日本語養成講座420時間修了
6-3. 担当された先生③居住国	日本
6-3. 担当された先生③性別	女性
6-3. 担当された先生③使用言語	日本語
6-3. 担当された先生③スキル	日本語教育副専攻修了
7. 実施した言語活動	話す (やりとり) 話す (発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解その他
8. 使用したオンライン会議ツール	Zoom
9. 使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	PC付属のスピーカー、マイク
10. 使用した映像 (カメラ) 機	PC付属のカメラ
11. 使用したファイル形式 (パワーポイント、PDF等)	Powerpoint、PDF、mp4
12. 撮影をした場所	その他 (講師自宅等)

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け船を出してくれるなら、簡単なやり取りをすることができる。直接必要なことやごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。
話す（発表）	どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。
聞く	はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
読む	例えば、掲示やポスター、カタログの中のよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
書く	新年の挨拶など短い簡単な葉書を書くことができる。例えばホテルの宿帳に名前、国籍や住所といった個人のデータを書き込むことができる。
日本事情・日本理解	動画や教材を通し、日本の生活や文化について触れる。
その他	日本語教育の参照枠記載の基礎漢字や教科書で扱われる初級語彙のうち100字程度の漢字を読むことができる。

●就職コース

話す（やりとり）	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け船を出してくれるなら、簡単なやり取りをすることができる。直接必要なことやごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。
話す（発表）	どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。
聞く	はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
読む	例えば、掲示やポスター、カタログの中のよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
書く	新年の挨拶など短い簡単な葉書を書くことができる。例えばホテルの宿帳に名前、国籍や住所といった個人のデータを書き込むことができる。
日本事情・日本理解	動画や教材を通し、日本の生活や文化について触れる。
その他	日本語教育の参照枠記載の基礎漢字や教科書で扱われる初級語彙のうち100字程度の漢字を読むことができる。

●生活コース

話す（やりとり）	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け船を出してくれるなら、簡単なやり取りをすることができる。直接必要なことやごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。
話す（発表）	どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。
聞く	はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
読む	例えば、掲示やポスター、カタログの中のよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
書く	新年の挨拶など短い簡単な葉書を書くことができる。例えばホテルの宿帳に名前、国籍や住所といった個人のデータを書き込むことができる。
日本事情・日本理解	動画や教材を通し、日本の生活や文化について触れる。
その他	日本語教育の参照枠記載の基礎漢字や教科書で扱われる初級語彙のうち100字程度の漢字を読むことができる。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）ハイレックス型
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）
読む	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
書く	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
その他	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	オンライン双方向）できる日本語初級使用 ・配置教員3名、うち2名英語使用可能。→A1レベル授業でゼロレベル学習者が多かったため、最初は初級英語を使ったほうがスムーズに進むと考えられたため。 ・課題遂行型、コミュニケーション・アプローチ
話す（発表）	オンライン双方向）できる日本語初級使用 ・配置教員3名、うち2名英語使用可能。→A1レベル授業でゼロレベル学習者が多かったため、最初は初級英語を使ったほうがスムーズに進むと考えられたため。 ・課題遂行型、コミュニケーション・アプローチ
聞く	オンライン双方向）できる日本語初級使用／自校作成動画教材（日本事情・理解） ・配置教員3名、うち2名英語使用可能。→A1レベル授業でゼロレベル学習者が多かったため、最初は初級英語を使ったほうがスムーズに進むと考えられたため。 ・課題遂行型、コミュニケーション・アプローチ
読む	オンライン双方向）できる日本語初級 オンデマンド学習）自校作成ひらがなカタカナ教材、自校作成語彙教材（ラーニングボックス）
書く	オンデマンド学習）自校作成文法教材（ラーニングボックス）
日本事情・日本理解	自校作成動画教材（日本事情・理解）
その他	オンデマンド学習）自校作成漢字教材（ラーニングボックス）

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	できる日本語初級
		レベル	A1
		内容	教材内の会話練習の部分で、全体で会話。またはペアで練習。ブレイクアウトルームも使用。
話す（発表）	使用した教材①	名称	できる日本語初級
		レベル	A1
		内容	教材内の会話の部分で、一人ひとり発表の機会を設けた。
聞く	使用した教材①	名称	できる日本語初級
		レベル	A1
		内容	教材の聴解部分を使用。 講師の発話を聞く。他者の発表を聞く。
	使用した教材②	名称	文法動画教材
		レベル	A1
		内容	新しい文法項目をlearningBOXの動画で確認。
読む	使用した教材③	名称	独自動画教材
		レベル	A1
		内容	できる日本語初級の各課の最後に使用。駄菓子屋やすしなど、学んだ表現を聞きながら日本理解を深めた。
	使用した教材①	名称	できる日本語初級
		レベル	A1
		内容	教材を読む。講師作成のスライドを読む。
書く	使用した教材②	名称	語彙クイズ
		レベル	A1
		内容	新しい語彙をlearningBOXのクイズで確認。
	使用した教材①	名称	文法復習帳
		レベル	A1
		内容	オンデマンド教材、learningBOXのレポート機能を利用し、提出及び返却。
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	できる日本語初級
		レベル	A1
		内容	各課で紹介される名所や食べ物等について、授業中に触れる。
	使用した教材②	名称	独自作成動画
		レベル	A1
		内容	できる日本語初級の各課の最後に使用。駄菓子屋やすしなど、学んだ表現を聞きながら日本理解を深めた。
その他	使用した教材①	名称	漢字クイズ
		レベル	A1
		内容	learningBOXのクイズ機能で漢字の読み、書きを練習。

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	Zoom
話す（発表）	Zoom
聞く	learningBOXのテスト機能
読む	learningBOXのテスト機能
書く	learningBOXのテスト機能
日本事情・日本理解	なし
その他	learningBOXのテスト機能

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標

話す（やりとり）	コース終了後の会話テストでの成績
話す（発表）	コース終了後の会話テストでの成績
聞く	コース終了後のオンデマンドテストでの成績
読む	コース終了後のオンデマンドテストでの成績
書く	コース終了後のオンデマンドテストでの成績
日本事情・日本理解	なし
その他	コース終了後のオンデマンドテストでの成績

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	当校作成ループリックによる評価。やりとりの完成度（発表）、やりとりの完成度（質疑応答）、文法/語彙の正確さ、発音、話ことばの流暢さをそれぞれ100点満点とし、合計500点中の取得点により判定。
話す（発表）	当校作成ループリックによる評価。やりとりの完成度（発表）、やりとりの完成度（質疑応答）、文法/語彙の正確さ、発音、話ことばの流暢さをそれぞれ100点満点とし、合計500点中の取得点により判定。
聞く	オンデマンドによるテスト。100点中の取得点により判定。
読む	オンデマンドによるテスト。100点中の取得点により判定。
書く	オンデマンドによるテスト。100点中の取得点により判定。
日本事情・日本理解	なし
その他	オンデマンドによるテスト。100点中の取得点により判定。

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	人数の多いオンライン授業においても、学習者の意欲が伴えばやりとりの技能も伸ばすことができる。ブレイクアウトルームを使用する場合は、やりとりをする意欲の高い学習者でなければ成り立たないが、意欲が高ければペアワークや会話練習には非常に有用である。
話す（発表）	発表に関してはネットワーク環境さえ整っていれば、対面同様に行うことができる。
聞く	聴解のテスト結果は、他の結果に比べ伸び率が低かった。授業中、特に聴解に特化したものは行っておらず、授業以外では一切日本語を聞くことのない学習者のため、このような結果につながったのではないと思う。また、オンデマンドでも聴解はなかったため、もう少し聞く練習を増やせばよかったと感じている。
読む	はじめはひらがなさえ読めない学習者がほとんどだったが、最後にはひらがなやカタカナ、漢字まで読めるようになっていた。授業中もスライドで日本語表記を中心としており、オンデマンドも行っていたため、週3回でも読む力がついたのではないと思う。また、復習は書く練習だったが、書くことで同時に読む力の向上にもつながったのではないと思う。
書く	毎回復習として、練習帳を提出してもらっていたため、自分のことについてだいき書けるようになった学習者が多かった。A1レベルだったため、練習帳の内容も自分について書くことを意識して作成をしていたが、その効果が会話力にもつながり、会話テストの結果としても出ていた。
日本事情・日本理解	今回はテストとしては評価を行っていないが、教材のところどころに日本理解につながるものが入っていたため、日本へ興味を持ってくれた学習者も多かったように思う。これからも学習を続けると言ってくれる学習者が多かったのは、日本語だけでなく日本の魅力を伝えられたからだと思いたい。
その他	漢字についてははじめのテスト時はおそらく勘で行っていた学習者が多かったはずだが、終了時のテストでは平均点が満点に近かった。漢字はオンデマンドでしか行っていないが、繰り返しの練習を意識したものになっていた。実際に書く力は測れていないが、読みや認識だけでも漢字の力がついたのははじめにオンデマンド学習を行ってくれた成果かと思う。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	機器等のコスト
話す（発表）	機器等のコスト
聞く	機器等のコスト
読む	機器等のコスト
書く	機器等のコスト
日本事情・日本理解	機器等のコスト
その他	機器等のコスト

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	やりとりについては少人数でないが目が行き届かず難しい。ブレイクアウトルームを使用したとしても、講師が行き来はできるが、人数が多い場合は見られない部分が多いため発話をあまりしない学習者を促すことが難しい。オンラインでのやりとりの練習を効果的、効率的に進めるには全員が同じ時間にやりとりをするのではなく、時間差で行うのが望ましいと思う。しかし、そのためには人員配置やカリキュラム等、問題も多い。
話す（発表）	今回は行うことができなかったが、発表の練習はオンデマンドを利用し、ビデオや音声により提出も可能なため、オンライン教育のほうがより効率的にできると思う。対面では大人数の場合、1人1人に発表の機会を与えるには時間がかかり必要だが、オンデマンドであれば授業外で可能であり、オンライン双方向授業中にさらに発展した活動も可能かと思う。しかし、講師の負担は増えるため、そこが一番懸念する点ではある。
聞く	日本で生活していない以上、聞く力については特に注意して行わなければ聴解力がつかないと感じた。頻度をあげるためにはできればオンデマンド学習にも聞く練習を取り込めるといったと思った。
読む	読む練習については、今回はA1レベルだったため、あまり長い文は取り扱わなかった。もしさらに上のレベルとするならば、オンデマンド学習でそのレベルにあった読み物を読み、問題等解いた後にオンライン授業でその内容についての話ができるといい。
書く	今回はラーニングボックスを使用したけど、レポート機能が少し使いづらかった。一度ダウンロードして、提出時にまたアップロードというのは手間になり、学習者の意欲もそいでしまう原因になるのではないかと思う。オンライン上ですぐに添削ができるといいと思った。
日本事情・日本理解	今回は日本理解もかね、動画作成をしたが、できれば短い様々なやさしい日本語での日本理解動画（素材）が共有できるプラットフォームがあるといいと感じた。さらに、その動画に各学校で自由に翻訳を入れたり編集ができるとレベルや状況に合わせて使用できていい。
その他	漢字については読み方などを覚えるのはオンデマンドで十分だが、時間に余裕があれば、成り立ちや漢字の知識を広げていくために授業中に扱えると本当はよかった。書く練習については、今回はできなかったが、小学生の漢字練習によくあるアプリのようなものも効果的だと思う。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	講師：事前勉強会を実施（画面共有、ブレイクアウトルーム、ホワイトボード機能、アプリ等）
話す（発表）	講師：事前勉強会を実施（画面共有、ブレイクアウトルーム、ホワイトボード機能、アプリ等）
聞く	事前オンデマンド教材の動画教材に音声吹き込み、日本人母語話者の音声をオンデマンドでも聞けるようにした。
読む	学習者：LINEやメール、Leraning Boxのメッセージにより母国語等で質問対応
書く	学習者：LINEやメール、Leraning Boxのメッセージにより母国語等で質問対応
日本事情・日本理解	動画やスライドに日本理解につながるものを入れた。
その他	オンデマンドでできるよう毎回クイズを出した。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

022-2：新宿平和日本語学校

授業ID	日本語教育機関・モデル名											事前テスト 事前の点数 (生徒合 計)	事後テスト		テスト満点		事前テスト	事後テスト	成長幅 (単		
		レ ベ ル					モ デ ル						事後の点数 (生徒合 計)		事後の点数 (生徒合 計)		正答率 (生 徒合計)	正答率 (生 徒合計)	位 : ポイン ト)		
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5		1	2	回答者数	回答者数					
022-2	新宿平和日本語学校_モデル外 ハイフレックス (A1) _9/5- 12/10	○											○	5,670	13	7,924	9	1,200	36.3%	73.4%	37

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	モデル外②
区分	ハイフレックス型
1.授業のレベル	A1
2.授業のコース	進学 就職 一般
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/9/5
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/12/10
4.授業の学習時間	150
5.学生の授業への参加率	75
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語、英語
6-1.担当された先生①スキル	日本語養成講座420時間修了
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語、英語
6-2.担当された先生②スキル	中学校/高等学校第一種免許状外国語/日本語養成講座420時間修了
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	女性
6-3.担当された先生③使用言語	日本語
6-3.担当された先生③スキル	日本語教育副専攻修了
7.実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解その他
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	PC（Windows Surface）付属のスピーカー、RODE Wireless GO（ワイヤレスマイク）
10.使用した映像（カメラ）機	PC付属のカメラ（講師撮影）、Logicool Webカメラ（教室受講者撮影）
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	Powerpoint, PDF, MP4
12.撮影をした場所	普段の教室

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け船を出してくれるなら、簡単なやり取りをすることができる。直接必要なことやごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。
話す（発表）	どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。
聞く	はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
読む	例えば、掲示やポスター、カタログの中のよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
書く	新年の挨拶など短い簡単な葉書を書くことができる。例えばホテルの宿帳に名前、国籍や住所といった個人のデータを書き込むことができる。
日本事情・日本理解	動画や教材を通し、日本の生活や文化について触れる。
その他	日本語教育の参照枠記載の基礎漢字や教科書で扱われる初級語彙のうち100字程度の漢字を読むことができる。

●就職コース

話す（やりとり）	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け船を出してくれるなら、簡単なやり取りをすることができる。直接必要なことやごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。
話す（発表）	どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。
聞く	はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
読む	例えば、掲示やポスター、カタログの中のよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
書く	新年の挨拶など短い簡単な葉書を書くことができる。例えばホテルの宿帳に名前、国籍や住所といった個人のデータを書き込むことができる。
日本事情・日本理解	動画や教材を通し、日本の生活や文化について触れる。
その他	日本語教育の参照枠記載の基礎漢字や教科書で扱われる初級語彙のうち100字程度の漢字を読むことができる。

●生活コース

話す（やりとり）	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け船を出してくれるなら、簡単なやり取りをすることができる。直接必要なことやごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。
話す（発表）	どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。
聞く	はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
読む	例えば、掲示やポスター、カタログの中のよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
書く	新年の挨拶など短い簡単な葉書を書くことができる。例えばホテルの宿帳に名前、国籍や住所といった個人のデータを書き込むことができる。
日本事情・日本理解	動画や教材を通し、日本の生活や文化について触れる。
その他	日本語教育の参照枠記載の基礎漢字や教科書で扱われる初級語彙のうち100字程度の漢字を読むことができる。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	ハイレックス型
話す（発表）	ハイレックス型
聞く	ハイレックス型
読む	ハイレックス型
書く	ハイレックス型
日本事情・日本理解	ハイレックス型
その他	ハイレックス型

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	ハイブリッド授業）できる日本語初級使用 ・配置教員3名、うち2名英語使用可能。→A1レベル授業でゼロレベル学習者が多かったので、最初は初級英語を使ったほうがスムーズに進むと考えられたため。 ・課題遂行型、コミュニケーション・アプローチ
話す（発表）	ハイブリッド授業）できる日本語初級使用 ・配置教員3名、うち2名英語使用可能。→A1レベル授業でゼロレベル学習者が多かったので、最初は初級英語を使ったほうがスムーズに進むと考えられたため。 ・課題遂行型、コミュニケーション・アプローチ
聞く	ハイブリッド授業）できる日本語初級使用／自校作成動画教材（日本事情・理解） ・配置教員3名、うち2名英語使用可能。→A1レベル授業でゼロレベル学習者が多かったので、最初は初級英語を使ったほうがスムーズに進むと考えられたため。 ・課題遂行型、コミュニケーション・アプローチ
読む	ハイブリッド授業）できる日本語初級 オンデマンド学習）自校作成ひらがなカタカナ教材、自校作成語彙教材（ラーニングボックス）
書く	オンデマンド学習）自校作成文法教材（ラーニングボックス）
日本事情・日本理解	自校作成動画教材（日本事情・理解）
その他	オンデマンド学習）自校作成漢字教材（ラーニングボックス）

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	できる日本語初級
		レベル	A1
		内容	教材内の会話練習の部分で、全体で会話。またはペアで練習。オンライン学習者にはブレイクアウトルームも使用。
話す（発表）	使用した教材①	名称	できる日本語初級
		レベル	A1
		内容	教材内の会話の部分で、一人ひとり発表の機会を設けた。
聞く	使用した教材①	名称	できる日本語初級
		レベル	A1
		内容	教材の聴解部分を使用。
	使用した教材②	名称	文法動画教材
		レベル	A1
		内容	新しい文法項目をlearningBOXの動画で確認。
	使用した教材③	名称	独自動画教材
		レベル	A1
		内容	できる日本語初級の各課の最後に使用。駄菓子屋やすしなど、学んだ表現を聞きながら日本理解を深めた。
読む	使用した教材①	名称	できる日本語初級
		レベル	A1
		内容	教材を読む。講師作成のスライドを読む。
	使用した教材②	名称	語彙クイズ
		レベル	A1
		内容	新しい語彙をlearningBOXのクイズで確認。
書く	使用した教材①	名称	文法復習帳
		レベル	A1
		内容	オンデマンド教材、learningBOXのレポート機能を利用し、提出及び返却。
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	できる日本語初級
		レベル	A1
		内容	各課で紹介される名所や食べ物等について、授業中に触れる。
その他	使用した教材②	名称	独自作成動画
		レベル	A1
		内容	できる日本語初級の各課の最後に使用。駄菓子屋やすしなど、学んだ表現を聞きながら日本理解を深めた。
	使用した教材①	名称	漢字クイズ
		レベル	A1
		内容	learningBOXのクイズ機能で漢字の読み、書きを練習。

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	Zoom
話す（発表）	Zoom
聞く	learningBOXのテスト機能
読む	learningBOXのテスト機能
書く	learningBOXのテスト機能
日本事情・日本理解	なし
その他	learningBOXのテスト機能

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	コース終了後の会話テストでの成績
話す（発表）	コース終了後の会話テストでの成績
聞く	コース終了後のオンデマンドテストでの成績
読む	コース終了後のオンデマンドテストでの成績
書く	コース終了後のオンデマンドテストでの成績
日本事情・日本理解	なし
その他	コース終了後のオンデマンドテストでの成績

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	当校作成ループリックによる評価。やりとりの完成度（発表）、やりとりの完成度（質疑応答）、文法/語彙の正確さ、発音、話ことばの流暢さをそれぞれ100点満点とし、合計500点中の取得点により判定。
話す（発表）	当校作成ループリックによる評価。やりとりの完成度（発表）、やりとりの完成度（質疑応答）、文法/語彙の正確さ、発音、話ことばの流暢さをそれぞれ100点満点とし、合計500点中の取得点により判定。
聞く	オンデマンドによるテスト。100点中の取得点により判定。
読む	オンデマンドによるテスト。100点中の取得点により判定。
書く	オンデマンドによるテスト。100点中の取得点により判定。
日本事情・日本理解	なし
その他	オンデマンドによるテスト。100点中の取得点により判定。

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	KNT022-1のコースに比べ、こちらのコースの学生は比較的スタート時の会話もできていたが、定型文のようなやりとりのみだった。コース後のテストではさらに広い範囲でのやりとりが可能になっており、継続的に学ぶことでオンラインでも会話力の向上が見られた。
話す（発表）	スタート時は定型文を暗記をしたような表現だったが、コース後には自分のことなどをより伝える力がついていた。
聞く	聴解のテスト結果は、他の結果に比べ伸び率が低かった。授業中、特に聴解に特化したものは行っておらず、授業以外では一切日本語を聞くことのない学習者のため、このような結果につながったのではないかと思う。また、オンデマンドでも聴解はなかったため、もう少し聞く練習を増やせばよかったと感じている。
読む	このコースの学習者ははじめからひらがなカタカナが読める学習者が多かったが、継続してレッスンを受けることで日本語を読む機会が増え、結果的に読むテストの力も向上していた。
書く	毎回復習として、練習帳を提出してもらっていたため、提出している学習者については自分のことについてだいたい書けるようになった学習者が多かった。A1レベルだったため、練習帳の内容も自分について書くことを意識して作成をしていたが、その効果が会話力にもつながり、会話テストの結果としても出ていた。
日本事情・日本理解	今回はテストとしては評価を行っていないが、教材のところどころに日本理解につながるものが入っていたため、日本へ興味を持ってくれた学習者も多かったように思う。これからも学習を続けると言ってくれる学習者が多かったのは、日本語だけでなく日本の魅力を伝えられたからだと思いたい。
その他	KNT022-1のコースに比べ、オンデマンドの達成率が低かったが、オンデマンドをしっかりしていた学習者について、漢字の力がついていたのはコツコツとクイズを繰り返してくれたからかと思う。オンデマンドのみでも漢字の読みについてはある程度習得できていた。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	機器等のコスト
話す（発表）	機器等のコスト
聞く	機器等のコスト
読む	機器等のコスト
書く	機器等のコスト
日本事情・日本理解	機器等のコスト
その他	機器等のコスト

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	ハイブリッド授業で大人数の場合、オンラインと対面者のやりとりを促すことが非常に難しかったように思う。また、どうしても講師は人数が多いほう（今回はオンライン）に引っ張られがちとなり、学習者が待つ時間が生じてしまいがちだった。ハイブリッドの場合は、オンラインよりもさらに授業計画が煩雑となる。画面を見る時間（オンライン側は画面共有を見る時間）、会話をする時間など内容の計画のみではなく、その内容時に対面者とオンライン受講者に対してそれぞれどのように対応するか、またそれぞれの学習者が何を見てそれがそれぞれどのように見えているか、など確認事項も多く講師の負担が大きい。講師の技術も必要となり、まずは勉強会や研修などでしっかり講師側が学ぶことも必要と感じた。
話す（発表）	やりとり時も同じことが言えるが、発表については対面者の音声の問題が大きかった。今回は講師のみワイヤレスマイクをピンマイクとして使用した。学習者は1つのワイヤレスマイクを共有することとなり、音声をうまく拾えないこともあった。 オンライン側の学習者にしっかり音声を届けるには一人ひとりにピンマイクのようなものがあるといいが、費用的にかなり難しそうだった。
聞く	ハイブリッド授業の場合、講師もマスクをしているため、オンライン学習者にとっては講師の発話が聞きづらかったのではないと思う。オンライン授業ではマスクがなく、口の動きも見えるが、ハイブリッドの場合はオンライン学習者の聞く力がより伸びづらいように思う。
読む	読む活動については、ハイブリッドでも難なく行える。オンライン学習者は画面共有、対面学習者はZoomの画面共有をモニターに映し出すことでどちらの学習者も一緒に活動が可能。ただ、読む活動から発展した際に、上記の問題が起こりうる。
書く	今回はラーニングボックスを使用したけど、レポート機能が少し使いづらかった。一度ダウンロードして、提出時にまたアップロードというのは手間になり、学習者の意欲もそいでしまう原因になるのではないと思う。オンライン上ですぐに添削ができるといいと思った。
日本事情・日本理解	今回は日本理解もかね、動画作成をしたが、できれば短い様々なやさしい日本語での日本理解動画（素材）が共有できるプラットフォームがあるといいと感じた。さらに、その動画に各学校で自由に翻訳を入れたり編集ができるとレベルや状況に合わせて使用ができていい。
その他	漢字については読み方などを覚えるのはオンデマンドで十分だが、時間に余裕があれば、成り立ちや漢字の知識を広げていくために授業中に扱えると本当はよかった。書く練習については、今回はできなかったが、小学生の漢字練習によくあるアプリのようなものも効果的だと思う。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	講師：事前勉強会を実施（画面共有、ブレイクアウトルーム、ホワイトボード機能、アプリ等＋対面者への対応について）
話す（発表）	講師：事前勉強会を実施（画面共有、ブレイクアウトルーム、ホワイトボード機能、アプリ等＋対面者への対応について）
聞く	事前オンデマンド教材の動画教材に音声を吹き込み、日本人母語話者の音声をオンデマンドでも聞けるようにした。
読む	学習者：LINEやメール、Leraning Boxのメッセージにより母国語等で質問対応
書く	学習者：LINEやメール、Leraning Boxのメッセージにより母国語等で質問対応
日本事情・日本理解	動画やスライドに日本理解につながるものを入れた。
その他	オンデマンドでできるよう毎回クイズを出した。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

023-1：東京三立学院

授業ID	日本語教育機関・モデル名											事前テスト 事後テスト 成長幅 (単位: ポイント)										
		レベ ル			モデ ル					モデ ル 外		事前テスト 事前の点数 (生徒合計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合計)		テスト満点	正答率 (生徒合計)	事後テスト 正答率 (生徒合計)	成長幅 (単位: ポイント)				
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	計	回答者数	計	回答者数	計	回答者数	事後	事前	
023-1	東京三立学院_モデル外 (B1) _10/5-10/31			○									○		92	5	149	4	50	36.8%	74.5%	38

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	モデル外①
区分	オンラインのみ + オンデマンド型
1.授業のレベル	B1
2.授業のコース	進学 就職 一般
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/10/5
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/10/31
4.授業の学習時間	64
5.学生の授業への参加率	40
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	教務主任,日本語教育能力検定試験合格,420時間養成講座修了,教師経験13年7か月
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	日本語教育副専攻修了,教師経験7年7か月
7.実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	Anker
10.使用した映像（カメラ）機	Anker
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	パワーポイントの教材を使用（画面共有およびモニター投影）
12.撮影をした場所	普段の教室

各日本語教育機関の実施結果

B1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	平易な日常会話に加え敬語を交えた丁寧な表現をスキットで練習することで、進学準備の上でも必要な問い合わせ、依頼などの基本的な言い回しがスムーズにできるようにする。
話す（発表）	日本語のイントネーションやアクセントに留意しながら、まとまった文章を聞きやすい発話で伝えることができる。
聞く	N 3 レベルの聴解練習を複数回行うことで、問題形式に慣れ、設問のポイントをつかんだ聞き方ができるようにする。
読む	400字程度の比較的読みやすい文章の大意を把握することができる。部分的な精読で設問に適した解答を文中もしくは選択肢から選ぶことができる。また、速読授業では平易な文章の内容把握を短時間で行うことができるようにする。
書く	ディクテーション授業で、比較的平易な教師の発話を聞き取り、漢字交じりの文に書き出すことができる。 「文の完成」授業で、N 3 レベルの機能語を用いた前件の提示を受け、適切な後件文を書くことができる。

●就職コース

話す（やりとり）	日本人相手に丁寧に聞き取りやすい表現を適切に使えるよう練習する。
話す（発表）	自己紹介、自分のことをわかりやすく伝えるなど面接対応の基礎能力を養う。
聞く	やや硬い表現や、目上の者からの指示を聞き取って反応できるようにする。
読む	身近な日本社会の問題点や、日本人の考え方を文章を通して理解できる。
書く	耳で聞いた音声を正確に漢字も交えながら文章化できるようにする。

●生活コース

話す（やりとり）	「場面発話」の授業で、場面に応じたいくつかのバターの発話練習をし、日本語表現の使い分けを知るとともにスムーズなやりとりができるようにする。
話す（発表）	毎日の授業の中で教師に自分のことを話すタイミングを設け、自分の言葉で他者に伝えることができるようにする。
聞く	まとまった話を聞き、どんな話題でどんな状況を言っているかを聞き取れるように練習する。JLPTのような選択問題ではない内容理解の練習をすることで、話の全体がつかめるようにする。
読む	文章についての設問に答えるばかりでなく、筆者はどんな思いなのか、自分に、あるいは自分の国の場合に置き換えて考えてみることで、幅を広げた文の読み方ができるようにする。
書く	ディクテーション授業で、比較的平易な日常的な内容の教師の発話を聞き取り、漢字交じりの文に書き出すことができる。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
聞く	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
読む	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
書く	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	「会話練習」の授業を設定。オンデマンドの予習動画で会話スキットのスクリプトを提示し、見本を示した後、学習者が参加できるように促す。オンライン授業ではスキットを確認しながら双方向で実際に発話していく形式をとった。
話す（発表）	聞きやすい日本語で話せることを目標に、平易な文章を1回の授業で3編用意。オンデマンド予習動画で読み上げる見本を示し、練習を促す。オンライン授業で学習者に練習成果を発表させ、教師がチェックしていくという展開とした。
聞く	「聴解練習」の授業で、JLPTのN3レベルのスクリプトと音源をオリジナルで作成。オンデマンド予習動画で問題を提示し、オンライン授業でその解答解説を行うという展開とした。
読む	「読解」「速読」の授業を設定。「読解」はオンデマンド予習動画で文中の語彙や表現を説明し、基本的な内容を理解させたあとオンライン授業で設問を提示、解答解説を授業形式で行った。「速読」はテキストに文章を載せず、オンデマンド予習動画で初見の形式をとった。400字程度の文を2分提示し、その後設問の選択肢（4択）を30秒提示とした。学習者はその短時間で解答を選ぶ必要がある。解答解説はオンライン授業で双方向的に行った。
書く	オンライン授業での作文は効果的な実施が困難と思われたため、今回はディクテーションにて正確に表記する練習とした。オンデマンド予習動画で文章を読み上げ、学習者に書き取る時間を与えた。その上でオンライン授業で書いたものをカメラを通して確認し、学習者に読み上げさせるという展開の後、正解確認という流れをとった。また、「文の完成」授業を設定。前件をもとに後件作文をさせるというもので、オンデマンド予習動画で前件を提示、オンライン授業で後件の解答確認と解説をする展開とした。

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	オリジナルテキスト教材・パワーポイント
		レベル	B1
		内容	会話スキット（1回の授業で3パターン）・場面別発話例
話す（発表）	使用した教材①	名称	オリジナルテキスト教材・パワーポイント
		レベル	B1
		内容	音読・発表の文章（1回の授業で3パターン）
聞く	使用した教材①	名称	オリジナル音声教材・スクリプト冊子・パワーポイント
		レベル	B1
		内容	N3レベル聴解問題（内容と音声）
読む	使用した教材①	名称	オリジナルテキスト教材・パワーポイント
		レベル	B1
		内容	読解文12、速読文16を作成
書く	使用した教材①	名称	オリジナルテキスト教材・パワーポイント
		レベル	B1
		内容	ディクテーション文章・文の完成問題（空欄補充問題）

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	教師による授業内評価
話す（発表）	教師による授業内評価
聞く	教師による授業内評価
読む	教師による授業内評価・効果測定の事後テスト
書く	教師による授業内評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	与えられた会話スキットの練習がなされているか。オンライン授業時の発話で、概ね違和感なく会話として成立しているかで達成を確認。
話す（発表）	与えられた音読・発表文章の読み上げ練習がなされているか。オンライン授業時の発表で、概ね違和感なく聞きやすい日本語か、内容は伝わるかを確認し達成とした。
聞く	聴解問題の解答チェックをし、設問の半数以上の正解ができるレベルであれば達成とする。
読む	読解問題の解答チェックをし、設問の半数以上の正解ができるレベルであれば達成とする。
書く	与えられたディクテーション課題に取り組めているか。解答確認で、軽微なミス以外に概ね提示文通りの記述ができていて達成とする。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	B1レベルを初中級～中級前期ととらえ、当コースがJLPTでN3レベルを目指す段階と設定したため、教材内容をそのレベルの学習者用に作成し、それらが概ね理解・実践できることを基準とした。
話す（発表）	B1レベルを初中級～中級前期ととらえ、当コースがJLPTでN3レベルを目指す段階と設定したため、教材内容をそのレベルの学習者用に作成し、それらが概ね理解・実践できることを基準とした。
聞く	B1レベルを初中級～中級前期ととらえ、当コースがJLPTでN3レベルを目指す段階と設定したため、教材内容をN3レベルで作成し、ある程度理解できる（60％程度）ことを基準とした。
読む	B1レベルを初中級～中級前期ととらえ、当コースがJLPTでN3レベルを目指す段階と設定したため、教材内容をそのレベルで作成し、ある程度理解できる（60％程度）ことを基準とした。
書く	B1レベルを初中級～中級前期ととらえ、当コースがJLPTでN3レベルを目指す段階と設定したため、教材内容をそのレベルの学習者用に作成し、それらが概ね実践できることを基準とした。

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	検証テストで話す能力の測定は非常に困難である。別途オンライン授業時に学習者一人ずつ会話力チェックをするしか方法がないのではないかな。
話す（発表）	検証テストで話す能力の測定は非常に困難である。別途オンライン授業時に学習者一人ずつ発表の場を作ってチェックをするしか方法がないのではないかな。
聞く	今回は音声問題を検証テストに盛り込まなかった。聴解力を確かめるためにはある程度数の問題数が必要と思われるので、聴解力だけで単独のテストを実施する必要があるように思う。
読む	読解文の文章から一部を取り出して改変し、テスト用に用いたが、オンライン授業時に扱ったものとなるため、本当の意味での読解力がついたかを確認するには微妙なところである。むしろ全く別の文章をテストとしたほうがいいのかもかもしれないが、授業の成果として正確に判断できるかどうかは課題だと思われる。
書く	検証テストで書く能力の測定は非常に困難である。別途オンライン授業時に記述課題を出し、学習者一人ずつチェックをするしか方法がないのではないかな。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	ネットワーク環境の整備
書く	ネットワーク環境の整備

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	上記の設問はなぜ複数回答でないのか？一つに絞る必要があるのか疑問。 すべてにあてはまるのが「ネットワーク環境の整備」「機器等のコスト」「適切なカリキュラムの設定」である。前2つに関しては各学校に公的な補助があればほぼ改善できるはずである。但し学習者のネット環境は日本側の努力では困難。「カリキュラム」に関しては、全体として今回は学習者の時間的負担が大きかったようなので、今後オンライン教育を行う際にはかなり余裕を持った進度にすべきだと思われる。
話す（発表）	すべてにあてはまるのが「ネットワーク環境の整備」「機器等のコスト」「適切なカリキュラムの設定」である。前2つに関しては各学校に公的な補助があればほぼ改善できるはずである。但し学習者のネット環境は日本側の努力では困難。「カリキュラム」に関しては、全体として今回は学習者の時間的負担が大きかったようなので、今後オンライン教育を行う際にはかなり余裕を持った進度にすべきだと思われる。
聞く	すべてにあてはまるのが「ネットワーク環境の整備」「機器等のコスト」「適切なカリキュラムの設定」である。前2つに関しては各学校に公的な補助があればほぼ改善できるはずである。但し学習者のネット環境は日本側の努力では困難。「カリキュラム」に関しては、全体として今回は学習者の時間的負担が大きかったようなので、今後オンライン教育を行う際にはかなり余裕を持った進度にすべきだと思われる。
読む	すべてにあてはまるのが「ネットワーク環境の整備」「機器等のコスト」「適切なカリキュラムの設定」である。前2つに関しては各学校に公的な補助があればほぼ改善できるはずである。但し学習者のネット環境は日本側の努力では困難。「カリキュラム」に関しては、全体として今回は学習者の時間的負担が大きかったようなので、今後オンライン教育を行う際にはかなり余裕を持った進度にすべきだと思われる。
書く	すべてにあてはまるのが「ネットワーク環境の整備」「機器等のコスト」「適切なカリキュラムの設定」である。前2つに関しては各学校に公的な補助があればほぼ改善できるはずである。但し学習者のネット環境は日本側の努力では困難。「カリキュラム」に関しては、全体として今回は学習者の時間的負担が大きかったようなので、今後オンライン教育を行う際にはかなり余裕を持った進度にすべきだと思われる。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	会話授業をする際の留意点を事前に教師の研修として行った。話者がどんな立場であるかをまず明確にすること。カメラに向けて口元を見せること。内容と解説を明確に分け、文を示すときは必ず指示棒でスキット文を示し、学習者に話しかけるときは、指示棒を下ろしてカメラ目線とすること。反復練習を促す手振りを明確にし、通常授業より大きく頷く等リアクションの取り方を指導。
話す（発表）	発表授業をする際の留意点を事前に教師の研修として行った。前項同様、教師のデモはカメラに向けて口元を見せること。内容と解説を明確に分け、文を示すときは必ず指示棒で音読文を示し、学習者に話しかけるときは、指示棒を下ろしてカメラ目線とすること。反復練習を促す手振りを明確にし、通常授業より大きく頷く等リアクションの取り方を指導。また、自由発話の場合は、他の学習者の理解を助けるよう、言葉を加えたり確認したりして補うこと。学習者が発話に前向きになるよう必ず褒めること。
聞く	聴解授業をする際の留意点を事前に教師の研修として行った。オンライン授業であることから、学習者に届いている音声の状況を確認しながら進めること。解説時は教師の声に置き換えるのではなく必ず同じ音声を使用すること。重要部分は流してから確認するのではなく、先に一時停止をしておき、注意を促してから聞かせること、等。
読む	読解授業をする際の留意点を事前に教師の研修として行った。常にどこを読んでいるのかわかるようにモニター表示の文章を指示棒で指しながら読み進めること。比較的小さなまとまりで内容確認を進めていくこと～オンライン授業だと教材を手元に広げたり大きなパソコン画面で見られない場合も多いことが想定られ、通常授業よりも細かく区切りながら理解させていくべき。また学習者がノートを取ったりメモをしたりできない状況も想定し、その場で聞いて理解させるつもりで明確な指導をする必要性についても学びあった。
書く	記述確認の授業をする際の留意点を事前に教師の研修として行った。カメラの前で学習者が書いたものを提示してもらうため、場合によってはそれができない状況もあること、カメラにうまく収まらない場合もあることを想定し、臨機応変な対応をすること。訂正箇所を直接示せないで、ホワイトボード等を活用して示すやり方。一人の学習者の添削が他の学習者の学びにもなるように、教師の発言は常に全学習者に向けたものにする。課題がすべて消化できない学習者に対しても、必ず取り組みの努力を褒めること、等。今回はディクテーションおよび短文作成の場合に限定し、文章として書く作文の指導法は割愛。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

023-2：東京三立学院

授業ID	日本語教育機関・モデル名											事前テスト 事後テスト 成長幅 (単 正答率 (生 正答率 (生 位 : ポイン 徒合計) 徒合計) ト)									
		レ ベ ル					モ デ ル					モデル 外		事前テスト 事前の点数 (生徒合 計)		事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)		テスト満点		事後—事前	
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	回答者数	回答者数	回答者数	回答者数	回答者数	回答者数	回答者数	回答者数
023-2	東京三立学院_モデル外 (B1) _11/4-11/28	○												113	4	125	4	50	56.5%	62.5%	6

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	モデル外①
区分	オンラインのみ+オンデマンド型
1.授業のレベル	B1
2.授業のコース	進学 就職 一般
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/11/4
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/11/30
4.授業の学習時間	64
5.学生の授業への参加率	40
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	教務主任,日本語教育能力検定試験合格,420時間養成講座修了,教師経験13年7か月
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	日本語教育副専攻修了,教師経験7年7か月
7.実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	Anker
10.使用した映像（カメラ）機	Anker
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	パワーポイントの教材を使用（画面共有およびモニター投影）
12.撮影をした場所	普段の教室

各日本語教育機関の実施結果

B1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	日本人がよく使う日常会話表現に加え敬語を交えた表現をスキットで練習することで、進学準備の上でも必要な問い合わせ、依頼などの言い回しがスムーズにできるようにする。
話す（発表）	音読練習と発表を通して、日本語のイントネーションやアクセントに留意しながら、まとまった文章を聞きやすい発話で伝えることができる。
聞く	N 3～N 2 レベルの聴解練習を複数回行うことで、問題形式に慣れ、設問のポイントをつかんだ聞き方ができるようにする。また、日本留学試験の聴読解の形式で、情報を整理しながら内容を聞き取ることができるようにする。
読む	500～700字程度の文章の大意を把握することができる。精読の中で設問に適した解答を選んだり自ら解答をまとめたりすることができる。また、速読授業では設問に即した文章の読み取りを短時間で行うことができるようにする。また、「一文読解」の授業では、シンプルな短文の中から直接書かれていない言外の意味をとらえられるようにする。
書く	ディクテーション授業で、教師の発話を正しく聞き取り、漢字交じりの文に書き出すことができる。 「文の完成」授業で、N 2 レベルの機能語を用いた前件の提示を受け、適切な後件文を書くことができる。
日本事情・日本理解	日本人の金銭感覚、流行、社会問題、日本人へのアンケート結果等のテーマで、現代日本人の感覚や人生観を知り、理解する。

●就職コース

話す（やりとり）	いくつかのパターンの発話練習をし、目上の者に対しての日本語表現の使い分けを知るとともにスムーズなやりとりができるようにする。
話す（発表）	自己紹介、自分のことをわかりやすく伝えるなど面接対応の基礎能力を養う。
聞く	やや硬い表現や、目上の者からの指示を聞き取って反応できるようにする。
読む	身近な日本社会の問題点や、日本人の考え方を文章を通して理解できる。
書く	耳で聞いた音声を正確に漢字も交えながら文章化できるようにする。
日本事情・日本理解	日本人の考え方や社会問題に触れることで、知識を深め、将来の日本での就職に役立つものとする。

●生活コース

話す（やりとり）	会話授業で場面や立場に応じたいくつかのパターンの表現練習を通して、日本語表現の使い分けを理解し、スムーズなやりとりができるようにする。
話す（発表）	オンライン授業の中で教師に自分のことを話すタイミングを設け、自分の言葉で他者にわかりやすく伝えることができるようにする。
聞く	日常生活レベルの会話文をナチュラルスピードで聞き、どんな話題で話者がどんな考えを言っているかを聞き取れるようにする。
読む	文章についての設問に答えるばかりでなく、筆者はどんな思いなのか、自分に、あるいは自分の国の場合に置き換えて考えてみることで、幅を広げた深い読解ができるようにする。
書く	ディクテーション授業で、日常的な内容の教師の発話を聞き取り、漢字交じりの文に正しく書き出すことができる。
日本事情・日本理解	日本人の金銭感覚、流行、社会問題、日本人へのアンケート結果等のテーマで、現代日本人の感覚や人生観を知り、理解していく。また、将来の来日に向けて日本の生活についての認識も深める。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
聞く	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
読む	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
書く	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	「会話練習」の授業を設定。オンデマンドの予習動画で会話スキットのスクリプトを提示し、見本を示した後学習者が参加できるように促す。オンライン授業ではスキットを確認しながら双方向で実際に発話していく形式をとった。
話す（発表）	聞きやすい日本語で話せることを目標に、文章を1回の授業で3編用意。オンデマンド予習動画で読み上げる見本を示し、練習を促す。オンライン授業で学習者に練習成果を発表させ、教師がチェックしていくという展開とした。
聞く	「聴解練習」の授業で、JLPTのN3～N2レベルのスクリプトと音源をオリジナルで作成。オンデマンド予習動画で問題を提示し、オンライン授業でその解答解説を行うという展開とした。聴読解授業は図表をテキストと予習モニターで示し、視覚的な情報の整理がしやすいようにして聞き取りを進めた。
読む	「読解」「速読」「一文読解」の授業を設定。「読解」はオンデマンド予習動画で文中の語彙や表現を説明し、基本的な内容を理解させたあとオンライン授業で設問を提示、解答解説を授業形式で行った。「速読」はテキストに文章を載せず、オンデマンド予習動画で初見の形式をとった。400字程度の文を2分提示し、その後設問の選択肢（4択）を30秒提示とした。学習者はその短時間で解答を選ぶ必要がある。解答解説はオンライン授業で双方向的に行った。「一文読解」はヒントを効果的に交えながら考えさせ、描写に言外の意味が含まれていることを理解させていった。 他に「語彙」「N2レベル文法」の導入授業も毎日行い、例文によって理解を深めるようにした。
書く	オンライン授業での作文は効果的な実施が困難と思われたため、今回はディクテーションにて正確に表記する練習とした。オンデマンド予習動画で文章を読み上げ、学習者に書き取る時間を与えた。その上でオンライン授業時に、書いたものをカメラを通して確認し、学習者に読み上げさせるという展開の後、正解確認という流れをとった。また、「文の完成」授業を設定。前件をもとに後件作文をさせるというもので、オンデマンド予習動画で前件または後件を提示、オンライン授業で解答確認と解説をする展開とした。
日本事情・日本理解	実際の調査やアンケートによるデータを提示することで、客観的な解釈ができるようにした。グラフ等は見易いようにテキストとモニター表示とを行い、オンデマンド予習動画で概要を説明、オンライン授業では学習者の感想も確認しながら理解を深められるように進めた。

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	オリジナルテキスト教材・パワーポイント
		レベル	B1
		内容	会話スキット（1回の授業で3パターン）
話す（発表）	使用した教材①	名称	オリジナルテキスト教材・パワーポイント
		レベル	B1
		内容	音読・発表の文章（1回の授業で3パターン）
聞く	使用した教材①	名称	オリジナル音声教材・スクリプト冊子・パワーポイント・オリジナルテキスト教材
		レベル	B1
		内容	N3～N2レベル聴解問題、聴読解問題（内容と音声）
読む	使用した教材①	名称	オリジナルテキスト教材・パワーポイント
		レベル	B1
		内容	読解文10、速読文12を作成
書く	使用した教材①	名称	オリジナルテキスト教材・パワーポイント
		レベル	B1
		内容	ディクテーション文章・文の完成問題（空欄補充）
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	オリジナルテキスト教材・パワーポイント
		レベル	B1
		内容	調査、アンケートデータをもとにした数値や図表

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	教師による授業内評価
話す（発表）	教師による授業内評価
聞く	教師による授業内評価
読む	教師による授業内評価・効果測定の事後テスト
書く	教師による授業内評価
日本事情・日本理解	教師による授業内評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標

話す（やりとり）	与えられた会話スキットの練習がなされているか。オンライン授業時の発話で、概ね違和感なく会話としてスムーズな流れで言えているかで達成を確認。
話す（発表）	与えられた音読・発表文章の読み上げ練習がなされているか。オンライン授業時の発表で、概ね違和感なく聞きやすい日本語で内容が伝えられているかを確認し達成とした。
聞く	聴解および聴解問題の解答チェックをし、設問の半数以上の正解ができるレベルであれば達成とする。
読む	読解問題の解答チェックをし、設問の半数以上の正解ができるレベルであれば達成とする。また、一文読解の内容と解釈の仕方を理解している状況により達成とする。
書く	与えられたディクテーション問題に取り組んでいるか。解答確認で、軽微なミス以外に概ね提示文通りの記述ができていて達成とする。
日本事情・日本理解	提示したテーマについての認識・理解ができ、日本に対してある程度の興味を持った反応が確認できれば達成と判断する。

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	B1レベルを初中級～中級前期ととらえ、当コースがJLPTでN3相当の学習者がN2レベルを目指す段階と設定したため、教材内容をそのレベルの学習者用に作成し、それらの多くが理解・実践できることを基準とした。
話す（発表）	B1レベルを初中級～中級前期ととらえ、当コースがJLPTでN3相当の学習者がN2レベルを目指す段階と設定したため、教材内容をそのレベルの学習者用に作成し、それらの多くが理解・実践できることを基準とした。
聞く	B1レベルを初中級～中級前期ととらえ、当コースがJLPTでN3相当の学習者がN2レベルを目指す段階と設定したため、教材内容をN3～N2レベルで作成し、半分程度かそれ以上理解できる（50～60%程度）ことを基準とした。
読む	B1レベルを初中級～中級前期ととらえ、当コースがJLPTでN3相当の学習者がN2レベルを目指す段階と設定したため、教材内容をそのレベルで作成し、ある程度理解できる（60%程度）ことを基準とした。
書く	B1レベルを初中級～中級前期ととらえ、当コースがJLPTでN3相当の学習者がN2レベルを目指す段階と設定したため、教材内容をそのレベルの学習者用に作成し、それらの多くが実践できることを基準とした。
日本事情・日本理解	B1レベルを初中級～中級前期ととらえ、当コースがJLPTでN3相当の学習者がN2レベルを目指す段階と設定したため、教材内容をそのレベルの学習者用に作成し、それらの多くが理解できることとテーマについて感想が言えることを基準とした。

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	検証テストで話す能力の測定は非常に困難である。別途オンライン授業時に学習者一人ずつ会話力チェックをするしか方法がないのではないかな。
話す（発表）	検証テストで話す能力の測定は非常に困難である。別途オンライン授業時に学習者一人ずつ発表の場を作ってチェックをするしか方法がないのではないかな。
聞く	今回は音声問題を検証テストに盛り込まなかった。聴解力を確かめるためにはある程度数の問題数が必要と思われるので、聴解力だけで単独のテストを実施する必要があるように思う。
読む	読解文の文章から一部を取り出して改変し、テスト用に用いたが、オンライン授業時に扱ったものとなるため、本当の意味での読解力がついたかを確認するには微妙なところである。むしろ全く別の文章をテストとしたほうがいいのかもかもしれないが、授業の成果として正確に判断できるかどうかは課題だと思われる。
書く	検証テストで書く能力の測定は非常に困難である。別途オンライン授業時に記述課題を出し、学習者一人ずつチェックをするしか方法がないのではないかな。
日本事情・日本理解	検証テストで日本事情の学習効果の測定は困難である。但し日本についての概要、一般的な日本人の価値観について等の基礎知識を確認するテスト作成は可能かもしれない。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	ネットワーク環境の整備
書く	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	上記の設問はなぜ複数回答でないのか？一つに絞る必要があるのか疑問。 すべてにあてはまるのが「ネットワーク環境の整備」「機器等のコスト」「適切なカリキュラムの設定」である。前2つに関しては各学校に公的な補助があればほぼ改善できるはずである。但し学習者のネット環境は日本側の努力では困難。「カリキュラム」に関しては、全体として今回は学習者の時間的負担が大きかったようなので、今後オンライン教育を行う際にはかなり余裕を持った進度にすべきだと思われる。
話す（発表）	上記の設問はなぜ複数回答でないのか？一つに絞る必要があるのか疑問。 すべてにあてはまるのが「ネットワーク環境の整備」「機器等のコスト」「適切なカリキュラムの設定」である。前2つに関しては各学校に公的な補助があればほぼ改善できるはずである。但し学習者のネット環境は日本側の努力では困難。「カリキュラム」に関しては、全体として今回は学習者の時間的負担が大きかったようなので、今後オンライン教育を行う際にはかなり余裕を持った進度にすべきだと思われる。
聞く	上記の設問はなぜ複数回答でないのか？一つに絞る必要があるのか疑問。 すべてにあてはまるのが「ネットワーク環境の整備」「機器等のコスト」「適切なカリキュラムの設定」である。前2つに関しては各学校に公的な補助があればほぼ改善できるはずである。但し学習者のネット環境は日本側の努力では困難。「カリキュラム」に関しては、全体として今回は学習者の時間的負担が大きかったようなので、今後オンライン教育を行う際にはかなり余裕を持った進度にすべきだと思われる。
読む	上記の設問はなぜ複数回答でないのか？一つに絞る必要があるのか疑問。 すべてにあてはまるのが「ネットワーク環境の整備」「機器等のコスト」「適切なカリキュラムの設定」である。前2つに関しては各学校に公的な補助があればほぼ改善できるはずである。但し学習者のネット環境は日本側の努力では困難。「カリキュラム」に関しては、全体として今回は学習者の時間的負担が大きかったようなので、今後オンライン教育を行う際にはかなり余裕を持った進度にすべきだと思われる。
書く	上記の設問はなぜ複数回答でないのか？一つに絞る必要があるのか疑問。 すべてにあてはまるのが「ネットワーク環境の整備」「機器等のコスト」「適切なカリキュラムの設定」である。前2つに関しては各学校に公的な補助があればほぼ改善できるはずである。但し学習者のネット環境は日本側の努力では困難。「カリキュラム」に関しては、全体として今回は学習者の時間的負担が大きかったようなので、今後オンライン教育を行う際にはかなり余裕を持った進度にすべきだと思われる。
日本事情・日本理解	上記の設問はなぜ複数回答でないのか？一つに絞る必要があるのか疑問。 すべてにあてはまるのが「ネットワーク環境の整備」「機器等のコスト」「適切なカリキュラムの設定」である。前2つに関しては各学校に公的な補助があればほぼ改善できるはずである。但し学習者のネット環境は日本側の努力では困難。「カリキュラム」に関しては、全体として今回は学習者の時間的負担が大きかったようなので、今後オンライン教育を行う際にはかなり余裕を持った進度にすべきだと思われる。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	会話授業をする際の留意点を事前に教師の研修として行った。話者がどんな立場であるかをまず明確にすること。カメラに向けて口元を見せること。内容と解説を明確に分け、文を示すときは必ず指示棒でスキット文を示し、学習者に話しかけるときは、指示棒を下ろしてカメラ目線とすること。反復練習を促す手振りを明確にし、通常授業より大きく頷く等リアクションの取り方を指導。
話す（発表）	発表授業をする際の留意点を事前に教師の研修として行った。前項同様、教師のデモはカメラに向けて口元を見せること。内容と解説を明確に分け、文を示すときは必ず指示棒で音読文を示し、学習者に話しかけるときは、指示棒を下ろしてカメラ目線とすること。反復練習を促す手振りを明確にし、通常授業より大きく頷く等リアクションの取り方を指導。また、自由発話の場合は、他の学習者の理解を助けるよう、言葉を加えたり確認したりして補うこと。学習者が発話に前向きになるよう必ず褒めること。
聞く	聴解授業をする際の留意点を事前に教師の研修として行った。オンライン授業であることから、学習者に届いている音声の状況を確認しながら進めること。解説時は教師の声に置き換えるのではなく必ず同じ音声を使用すること。重要部分は流してから確認するのではなく、先に一時停止をしておき、注意を促してから聞かせること、等。また、聴読解はまず図表等の情報処理を短時間で行うことを学習者に伝えていくこと。その上で選択肢を順に消していく作業の手順を理解させること。
読む	読解授業をする際の留意点を事前に教師の研修として行った。常にどこを読んでいるのかわかるようにモニター表示の文章を指示棒で指しながら読み進めること。比較的小さなまとまりで内容確認を進めていくこと～オンライン授業だと教材を手元に広げたり大きなパソコン画面で見られない場合も多いことが想定られ、通常授業よりも細かく区切りながら理解させていくべき。また学習者がノートを取ったりメモをしたりできない状況も想定し、その場で聞いて理解させるつもりで明確な指導をする必要性についても学びあった。
書く	記述確認の授業をする際の留意点を事前に教師の研修として行った。カメラの前で学習者が書いたものを提示してもらうため、場合によってはそれができない状況もあること、カメラにうまく収まらない場合もあることを想定し、臨機応変な対応をすること。訂正箇所を直接示せないで、ホワイトボード等を活用して示すやり方。一人の学習者の添削が他の学習者の学びにもなるように、教師の発言は常に全学習者に向けたものにする。課題がすべて消化できない学習者に対しても、必ず取り組みの努力を褒めること、等。今回はディクテーションおよび短文作成の場合に限定し、文章として書く作文の指導法は割愛。
日本事情・日本理解	日本事情の授業をする際の留意点を事前に教師の研修として行った。数値やグラフは実際のものであるが、当然ながら日本人も個々によって状況がさまざまであること。あくまでも傾向でありそれをどう読み解いて判断していくかを誤解の無いよう伝えることを確認しあった。また、将来の来日に希望が持てるように前向きな情報提供に努めることも確認しあった。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

024-1：東京ノアランゲージスクール

学校・モデル名		レ ベ ル				モ デ ル				モ デ ル 外				事前テスト 事前の点数 (生徒合計)		事後テスト 事後の点数 (生徒合計)		テスト満 点 (計)	事前テスト 正答率 (生徒合計)	事後テスト 正答率 (生徒合計)	成長幅 (単位： ポイント)
		A	A	B	B	C	1	2	3	4	5	1	2	回数	回数	回数	回数				
		1	2	1	2																事後ー事前
024-1（前半三ヵ月）	東京ノアランゲージスクール－ モデル5（A1,A2）_9/1-1/31	○	○									○		290	10	759	11	100	29.0%	69.0%	40
024-1（後半三ヵ月）	東京ノアランゲージスクール－ モデル5（A1,A2）_9/1-1/31	○	○									○		433	8	904	11	100	54.1%	82.2%	28

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル5（6か月）
区分	オンライン+オンデマンド型
1.授業のレベル	A1 A2
2.授業のコース	進学 就職
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/9/9
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/1/30
4.授業の学習時間	189
5.学生の授業への参加率	20
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	男性
6-1.担当された先生①使用言語	日本
6-1.担当された先生①スキル	大卒 420時間講座終了
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	男性
6-2.担当された先生②使用言語	日本
6-2.担当された先生②スキル	大卒 420時間講座終了
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	女性
6-3.担当された先生③使用言語	日本
6-3.担当された先生③スキル	大学院日本語教育コース
6-4.担当された先生④居住国	日本
6-4.担当された先生④性別	女性
6-4.担当された先生④使用言語	日本
6-4.担当された先生④スキル	大学日本語日本文学科 日本語教育能力検定合格
6-5.担当された先生⑤居住国	日本
6-5.担当された先生⑤性別	女性
6-5.担当された先生⑤使用言語	日本
6-5.担当された先生⑤スキル	大学日本語教育主専攻
7.実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	Windows搭載スピーカー、マイク
10.使用した映像（カメラ）機	PC（Windows）付属カメラ
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	パワーポイントの教材を使用
12.撮影をした場所	普段の教室

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	文型を用いた発話ができる
話す（発表）	文型を用いて、意見を言うことができる
聞く	文型が含まれた文章を正しく聞き取ることができる
読む	教科書の文章が音読でき、意味を理解できる
書く	PCを用いて短文、複文が入力できるようになる
日本事情・日本理解	日本の文化に触れ、理解することができる

●就職コース

話す（やりとり）	文型を用いた基本的な会話ができる
話す（発表）	文型を用いて、自分の自己紹介などを言うことができる
聞く	文型が含まれた文章を正しく聞き取ることができる
読む	教科書の文章が音読でき、意味を理解できる
書く	簡単な自己紹介文などの作文ができるようになる
日本事情・日本理解	日本の文化に触れ理解することができる

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）
読む	オンライン（双方向のみ）
書く	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	各自、各課の文型を用いて会話教材を設定し、受講者に穴埋めをさせながら会話文を完成させていく。
話す（発表）	発話力だけでなく、自信で語彙を選び、文章を構築する力をつけることを目的とした。受講者の趣味や街などの紹介、国の文化の紹介などを、文型を用いて作成させる。口頭で発表させたり、写真を準備させてpadletを用いて発表させた。
聞く	みんなの日本語の各課課末の問題を用いて聴解を行った。
読む	学習文型を用いた聴解問題をパワーポイントで作成し、担当講師が口頭で読み上げた。
書く	みんなの日本語を画面共有で提示し、受講者に読み上げさせた。
日本事情・日本理解	PCの入力能力に焦点を絞り、padletを用いて文作や簡単な作文などをさせた。各講師自作のpptを用いて、文化に関するクイズや、歴史的な建物を紹介した。

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	みんなの日本語Ⅰ 教師用実証事業版
		レベル	A1
		内容	本冊の会話の部分
話す（発表）	使用した教材①	名称	padlet
		レベル	A1
		内容	各教師の提示された話題について話す
聞く	使用した教材①	名称	みんなの日本語Ⅰ 教師用実証事業版
		レベル	A1
		内容	課末の問題
読む	使用した教材①	名称	みんなの日本語Ⅰ 教師用実証事業版
		レベル	A1
		内容	会話、練習問題など
書く	使用した教材①	名称	padlet
		レベル	A1 A2
		内容	ダッシュボード
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	パワーポイント
		レベル	A1
		内容	文化、歴史的建造物紹介など

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	Zoom
話す（発表）	padlet
聞く	Zoom
読む	learningBOX内「クイズ・テスト」
書く	padlet
日本事情・日本理解	特になし

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標

話す（やりとり）	各担当講師が学習文型を加味して評価
話す（発表）	各担当講師が学習文型を加味して評価
聞く	各担当講師が学習文型を加味し、正しく内容を理解しているかを評価
読む	各担当講師が作成した「クイズ・テスト」において、60%以上の取得
書く	padletを用いて、正しく日本語入力ができるかを評価
日本事情・日本理解	紹介した文化について、意見を述べてもらう

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	各課文型項目を指標として設定
話す（発表）	各課文型項目を指標として設定
聞く	各課文型項目を指標として設定
読む	各課文型項目を指標として設定
書く	指定された内容について正しく入力されるか
日本事情・日本理解	特になし

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	オンラインという特性もあり、スムーズなやり取りが困難な場面もあった。
話す（発表）	口頭での発表は問題なく行えるものの、何か提示する材料を準備させる場合、学生のソフトウェアを活用する能力が必要になるため、実施にばらつきがあるように感じた。
聞く	オンラインで使用できる教材が少ないうえ、問題文なども著作権上提示できず、learningBOXで試験を作成するにせよ授業で用いるにせよ、制限があり困難だった。しかし、オンラインという特性上、通常よりしっかり聞きとることが双方に必要なため聞き取る能力は鍛えられたこととを感じる。
読む	音読については教材の作成、判定共に困難だった。 learningBOXでの判定は、非常に役に立った。
書く	Zoomにも参加者が書き込める機能はあるものの、マウスでは困難であり、参加者がペンタブレットなどのツールがなければ筆記ができなかった。そのため、オンライン会議ツール、ブラウザによるテキストの画面共有と同時に外部ツールを操作する必要があり講師側に技術が必要だった。
日本事情・日本理解	興味を持ってもらうことができたと感じる。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	その他
聞く	適切なカリキュラムの設定
読む	適切なカリキュラムの設定
書く	その他
日本事情・日本理解	その他

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	課題を設定する側にどんな問題ができるか、どう進行すればスムーズであるかが予想できなかった。
話す（発表）	全ての講師のITリテラシーの向上と、用いるソフトウェアへの慣れが必須になる。
聞く	発表に用いるにふさわしいツールは割合知識があったため、不都合は少なかった。しかし、中国籍の学生にはgoogleのツールが全て使用できないため、不便ではあった。
読む	オンライン授業のための教材が少ない。
書く	紙媒体が基本ではなく、オンライン授業のために作成された教材の充実が今後必須になると感じる。
日本事情・日本理解	同上
	受講者がペンタブレットなどの筆記ツールを持たない限り、紙に書いたものを写真にして共有するという、アナログな方法が必要だった。入力に関しては、事前に受講者の使用機器の把握が必須であると、改めて実感した。
	一方的になりやすく、学生参加型にするには講師の授業設定に工夫が必要であり、通常の授業準備よりも手間がかかりやすく感じた。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	学習者の使用言語を母語とするスタッフがオンライン授業に参加し、フォローを行った
話す（発表）	同上
聞く	同上
読む	同上
書く	同上
日本事情・日本理解	同上

各日本語教育機関の実施結果

A2

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	文型を用いた発話ができる
話す（発表）	文型を用いて、意見を言うことができる
聞く	文型が含まれた文章を正しく聞き取ることができる
読む	教科書の文章が音読でき、意味を理解できる
書く	PCを用いて短文、複文が入力できるようになる
日本事情・日本理解	日本の文化に触れ、理解することができる

●就職コース

話す（やりとり）	文型を用いてコミュニケーションができる
話す（発表）	文型を用いて複文などさらに難しい意見が言えるようになる
聞く	単文だけでなく複文の文型が含まれた文章を正しく聞き取ることができる
読む	みんなの日本語Ⅱの教科書の文章が音読でき、意味を理解できる
書く	自己紹介文だけでなくさらに履歴書などの内容の難しい文が書けるようになる。
日本事情・日本理解	日本文化の理解だけでなくそれに対して意見などが言える

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ） オンデマンド型
読む	オンライン（双方向のみ）
書く	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	各自、各課の文型を用いて会話教材を設定し、受講者に穴埋めをさせながら会話文を完成させていく。
話す（発表）	発話力だけでなく、自信で語彙を選び、文章を構築する力をつけることを目的とした。受講者の趣味や街などの紹介、国の文化の紹介などを、文型を用いて作成させる。口頭で発表させたり、写真を準備させてpadletを用いて発表させた。
聞く	みんなの日本語の各課課末の問題を用いて聴解を行った。
読む	学習文型を用いた聴解問題をパワーポイントで作成し、担当講師が口頭で読み上げた。
書く	みんなの日本語を画面共有で提示し、受講者に読み上げさせた。
日本事情・日本理解	PCの入力能力に焦点を絞り、padletを用いて文作や簡単な作文などをさせた。
	各講師自作のpptを用いて、文化に関するクイズや、歴史的な建物を紹介した。

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	みんなの日本語Ⅰ 教師用実証事業版
		レベル	A2
		内容	本冊会話のページ
話す（発表）	使用した教材①	名称	padlet
		レベル	A2
		内容	提示された話題について話す。
聞く	使用した教材①	名称	みんなの日本語Ⅰ 教師用実証事業版
		レベル	A2
		内容	課末の問題
読む	使用した教材①	名称	みんなの日本語Ⅰ 教師用実証事業版
		レベル	A2
		内容	本冊の文法、練習のところを読む
			会話、練習問題など
			A2
			-
書く	使用した教材①	名称	padlet
		レベル	A2
		内容	ダッシュボード
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	パワーポイント
		レベル	A2
		内容	日本の習慣など

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	Zoom
話す（発表）	padlet
聞く	Zoom
読む	learningBOX内「クイズ・テスト」
書く	padlet
日本事情・日本理解	特になし

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標

話す（やりとり）	各担当講師が学習文型を加味して評価
話す（発表）	各担当講師が学習文型を加味して評価
聞く	各担当講師が学習文型を加味し、正しく内容を理解しているかを評価
読む	各担当講師が作成した「クイズ・テスト」において、60%以上の取得
書く	padletを用いて、正しく日本語入力ができるかを評価
日本事情・日本理解	紹介した文化について、意見を述べてもらう

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	各課文型項目を指標として設定
話す（発表）	各課文型項目を指標として設定
聞く	各課文型項目を指標として設定
読む	各課文型項目を指標として設定
書く	指定された内容について正しく入力されるか
日本事情・日本理解	特になし

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	オンラインという特性もあり、スムーズなやり取りが困難な場面もあった。
話す（発表）	口頭での発表は問題なく行えるものの、何か提示する材料を準備させる場合、学生のソフトウェアを活用する能力が必要になるため、実施にばらつきがあるように感じた。
聞く	オンラインで使用できる教材が少ないうえ、問題文なども著作権上提示できず、learningBOXで試験を作成するにせよ授業で用いるにせよ、制限があり困難だった。しかし、オンラインという特性上、通常よりしっかり聞きとることが双方に必要なため聞き取る能力は鍛えられたこととを感じる。
読む	音読については教材の作成、判定共に困難だった。 learningBOXでの判定は、非常に役に立った。
書く	Zoomにも参加者が書き込める機能はあるものの、マウスでは困難であり、参加者がペンタブレットなどのツールがなければ筆記ができなかった。そのため、オンライン会議ツール、ブラウザによるテキストの画面共有と同時に外部ツールを操作する必要があり講師側に技術が必要だった。
日本事情・日本理解	興味を持ってもらうことができたと感じる。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	その他
聞く	適切なカリキュラムの設定
読む	適切なカリキュラムの設定
書く	その他
日本事情・日本理解	その他

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	課題を設定する側にどんな問題ができるか、どう進行すればスムーズであるかが予想できなかった。
話す（発表）	全ての講師のITリテラシーの向上と、用いるソフトウェアへの慣れが必須になる。
聞く	発表に用いるにふさわしいツールは割合知識があったため、不都合は少なかった。しかし、中国籍の学生にはgoogleのツールが全て使用できないため、不便ではあった。
読む	オンライン授業のための教材が少ない。
書く	紙媒体が基本ではなく、オンライン授業のために作成された教材の充実が今後必須になると感じる。
日本事情・日本理解	同上
	受講者がペンタブレットなどの筆記ツールを持たない限り、紙に書いたものを写真にして共有するという、アナログな方法が必要だった。入力に関しては、事前に受講者の使用機器の把握が必須であると、改めて実感した。
	一方的になりやすく、学生参加型にするには講師の授業設定に工夫が必要であり、通常の授業準備よりも手間がかかりやすく感じた。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	学習者の使用言語を母語とするスタッフがオンライン授業に参加し、フォローを行った
話す（発表）	同上
聞く	同上
読む	同上
書く	同上
日本事情・日本理解	同上

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

024-2：東京ノアランゲージスクール

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レベ ル												事前テスト 事前の点数 (生徒合 計)		事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)		テスト満点		事前テスト 正答率(生 徒合計)		事後テスト 正答率(生 徒合計)		成長幅(単 位:ポイント)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
		A1			A2			B1			B2			C			1			2			3			4			5			1			2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	モデル外②
区分	オンデマンド型
1.授業のレベル	B1
2.授業のコース	進学
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/9/22
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/11/30
4.授業の学習時間	2
5.学生の授業への参加率	50
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	大学日本語教育主専攻
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	男性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	日本語教育能力検定合格
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	女性
6-3.担当された先生③使用言語	日本語
6-3.担当された先生③スキル	大学院日本語教育コース
6-4.担当された先生④居住国	日本
6-4.担当された先生④性別	女性
6-4.担当された先生④使用言語	日本語
6-4.担当された先生④スキル	大学日本語日本文学科 日本語教育能力検定合格
7.実施した言語活動	聞く読む
8.使用したオンライン会議ツール	learningBOX
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	RODE WIRELESS GO II（マイク） PC（Macbook windows10）
10.使用した映像（カメラ）機	iphoneのカメラ
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	パワーポイント
12.撮影をした場所	普段の教室

各日本語教育機関の実施結果

B1

■目標設定

●進学コース

聞く	JLPT N2合格 日本人の発音、スピードに慣れ理解する。
読む	JLPTN2合格

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

聞く	オンデマンド型
読む	オンデマンド型

●各授業科目において実施した教育実証の内容

聞く	N2文法を学習し、かつ日本人の発音に慣れる
読む	N2文法の配信 直接法 似たような文型の使い方の違い

●各授業科目において使用した教材・教具

聞く	使用した教材①	名称	日本語能力試験対策N2文法総まとめ（三修社）
		レベル	B1 B2
		内容	N2文法の配信、似たような文法の違いをネイティブスピードで聞き取る。
読む	使用した教材①	名称	日本語能力試験対策N2文法総まとめ（三修社）
		レベル	B1 B2
		内容	N2文法の作り方、例文を挙げての定着、似たような文法のニュアンスの違い、使用できるかどうか。

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

聞く	事前、事後テスト
読む	事前、事後テスト。

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

聞く	各テストの合格基準点を定める
読む	各テストの合格基準点を定める。

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

聞く	テストの合格基準を越えたかどうか。
読む	テストの合格基準を越えたかどうか。

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

聞く	学生との会話で定着を確認する。
読む	テストの頻度、種類を増やすこと。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

聞く	その他
読む	適切なカリキュラムの設定

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

聞く	オンデマンドは学習者の反応が分からない
読む	上記と同じ

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

聞く	アンケート
読む	アンケート テスト

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

025-1：東京四木教育学院

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レ ベ ル		モ デ ル					モ デ ル 外					事前テスト		事後テスト		テスト満点	事前テスト 正答率 (生 徒合計)	事後テスト 正答率 (生 徒合計)	成長幅 (単 位: ポイン ト)
														事前の点数 (生徒合 計)	回答者数	事後の点数 (生徒合 計)	回答者数				
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	計	回答者数	計	回答者数	事後ー事前			
025-1	東京四木教育学院_モデル1 (B1)_8/23-10/27			○			○						1,439	15	1,578	14	200	48.0%	56.4%	8	

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル1 (3か月)
区分	オンラインのみ
1.授業のレベル	B1
2.授業のコース	進学
3-1.授業の実施期間 (開始)	2022/8/23
3-2.授業の実施期間 (終了)	2022/10/27
4.授業の学習時間	50
5.学生の授業への参加率	97
6-1.担当された先生①居住国	日本国
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	大学で日本語教育副専攻
6-2.担当された先生②居住国	日本国
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	日本語教育能力検定合格
6-3.担当された先生③居住国	日本国
6-3.担当された先生③性別	男性
6-3.担当された先生③使用言語	日本語
6-3.担当された先生③スキル	日本語教育能力検定合格
6-4.担当された先生④居住国	日本国
6-4.担当された先生④性別	女性
6-4.担当された先生④使用言語	日本語
6-4.担当された先生④スキル	日本語教育能力検定合格
7.実施した言語活動	話す (やりとり) 話す (発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	エレコム ヘッドセット USB HS-HP29UBK
10.使用した映像 (カメラ) 機	1080P webcam HISILICON HI3518EV300+F23
11.使用したファイル形式 (パワーポイント、PDF等)	パワーポイントの教材、MP4 (動画)、wordファイル (宿題)
12.撮影をした場所	普段の教室 その他 (講師自宅等)

各日本語教育機関の実施結果

B1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	日本での旅行中に最も起こりやすいたいの状況に対処することができる。家族や趣味、最近の出来事など日常生活に直接関係のあることや個人的な関心事について、準備なしで会話に入ることができる。
話す（発表）	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、野心を語ることができる。意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。
聞く	学校や娯楽で普段出会うような身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。
読む	非常によく使われる日常言語や自分の学校関連の言葉で書かれたテキストなら理解できる。起こったこと、感情、希望が表現されている私信を理解できる。
書く	身近で個人的に関心のある話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。私信で経験や印象を書くことができる。
日本事情・日本理解	日本と自国の文化の間の慣習、言葉遣い、態度、価値観、信条について、最も重要な違いに対する認識があり、それを配慮することができる。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）
読む	オンライン（双方向のみ）
書く	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	日本の生活の1シーンを切り取った動画を通して、よく使われる身近な会話表現を学び練習する。 買い物やゴミ捨てなどの実際の生活場面で必要な知識を紹介し、応用も含めた会話の練習をする。 講師はできるだけ学生の名前を読んで語りかけながら物理的距離を縮め、双方向のコミュニケーションを積み上げていくよう意識的に授業する。
話す（発表）	授業で書いた作文や課題に出した作文を回収後に添削し、learningBOXなどを通じて返却、発表の練習時間を与え、正しく音読し効果的に発表を行う。その際、添削された作文を画面で共有し、他の受講者の書いた作文や修正された部分を視覚的にも確認できるようにし、自分以外の発表からもたくさん学べるようにする。発表後の質疑応答を通して運用の機会を増やし、お互いをさらに深く知り合えるようにする。
聞く	動画を見る前に、注目して見るべきポイントやあとで質問する内容を提示、あるいは音声で与えてメモをとらせたり、内容を聞き取る、あるいは聞いてメモするなどの練習をする。 学んだ語彙や文法・表現を用いた文章をディクテーションする練習を通して、聞き取る力を強化する。
読む	日本での日常生活で経験する場面や話題について、語彙や文法・表現を学習したうえで会話のスキットや読み物をペアワークやグループワーク、コーラスを通して読む練習をする。 自分で作成した文章、書いた作文を正しく音読する。
書く	日本文化を通して学んだ語彙、文法・表現を用いて、文完成や短作文、自国の文化や自分に関する話題をテーマに作文を書いて表現する。その際、自国文化の紹介に必要な画像なども用意してもらい、表現活動を楽しんでもらう。
日本事情・日本理解	動画を用いて日本の町や日本文化に触れ、日本を理解する。その際、実物や図鑑、関連動画や画像などをふんだんに用いて、日本の多彩な文化、風習、伝統などに詳しい解説を行い、理解を深めてもらう。 日本の伝統的な文化や最新ポップカルチャーを紹介し、日本の文化や生活に親しみを感ずってもらう。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	モデル1のオリジナル動画
		レベル	B1
		内容	日本の町や社会文化を8つのテーマで紹介した動画
	使用した教材②	名称	モデル1のPPT教材
		レベル	B1
		内容	動画から取り出したN3レベルの文法や会話学習
	使用した教材③	名称	文法解説、練習の補足 PPT教材
		レベル	B1
		内容	提供された教材の不足を補い、学生の発話を促す活動を追加
話す（発表）	使用した教材①	名称	モデル1のオリジナル動画
		レベル	B1
		内容	日本の町や社会文化を8つのテーマで紹介した動画
	使用した教材②	名称	モデル1のPPT教材
		レベル	B1
		内容	動画から取り出したN3レベルの文法を用いた作文発表
	使用した教材③	名称	文法解説、練習の補足 PPT教材
		レベル	B1
		内容	提供された教材の不足を補い、作文例などを追加
聞く	使用した教材①	名称	モデル1のオリジナル動画
		レベル	B1
		内容	日本の町や社会文化を8つのテーマで紹介した動画
	使用した教材②	名称	モデル1のPPT教材
		レベル	B1
		内容	動画から取り出したN3レベルの文法や会話学習
	使用した教材③	名称	文法解説、練習の補足 PPT教材
		レベル	B1
		内容	提供された教材の不足を補い、ディクテーション活動など追加
読む	使用した教材①	名称	モデル1のオリジナル動画
		レベル	B1
		内容	日本の町や社会文化を8つのテーマで紹介した動画
	使用した教材②	名称	モデル1のPPT教材
		レベル	B1
		内容	動画から取り出したN3レベルの文法や会話学習
	使用した教材③	名称	文法解説、練習の補足 PPT教材
		レベル	B1
		内容	提供された教材の不足を補い、関連話題の読み物など追加。
書く	使用した教材①	名称	モデル1のオリジナル動画
		レベル	B1
		内容	日本の町や社会文化を8つのテーマで紹介した動画
	使用した教材②	名称	モデル1のPPT教材
		レベル	B1
		内容	動画から取り出したN3レベルの文法や会話学習
	使用した教材③	名称	文法解説、練習の補足 PPT教材
		レベル	B1
		内容	提供された教材の不足を補い、学習項目の定着を図る練習問題や課題を追加
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	モデル1のオリジナル動画
		レベル	B1
		内容	日本の町や社会文化を8つのテーマで紹介した動画
	使用した教材②	名称	モデル1のPPT教材
		レベル	B1
		内容	動画から取り出したN3レベルの文法や会話学習
	使用した教材③	名称	日本文化紹介・理解の補足 PPT、実物、図鑑、関連動画・画像など
		レベル	B1
		内容	提供された教材の不足を補い、より詳しくわかりやすい視覚教材（実物、図鑑、関連動画・画像）などの追加

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	授業における積極的な発話、回答の内容、コミュニケーション能力など
話す（発表）	作文や課題の発表における練習の度合い、発表力など
聞く	B1_レベルチェックテスト（終了後）
読む	B1_レベルチェックテスト（終了後）
書く	B1_レベルチェックテスト（終了後）
日本事情・日本理解	B1_レベルチェックテスト（終了後）

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標

話す（やりとり）	授業における積極的な発話、回答の内容、コミュニケーション能力など
話す（発表）	作文や課題の発表における練習の度合い、発表力など
聞く	B1_レベルチェックテスト（終了後）の得点 授業における指示の理解、コミュニケーション力、ディクテーション力など
読む	B1_レベルチェックテスト（終了後）の得点 授業における語彙や例文の読み、音読や文章の読解力、自分で書いたものが正しく音読できるかなど
書く	B1_レベルチェックテスト（終了後）の得点 授業における書き取りの能力・表記、短作文、作文や課題の内容・表記など
日本事情・日本理解	B1_レベルチェックテスト（終了後）の得点 授業における動画等の教材の理解、知識、テーマに関する興味や関心の度合いなど

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	特になし
話す（発表）	特になし
聞く	特になし
読む	特になし
書く	特になし
日本事情・日本理解	特になし

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	対話や活動の中で、自身の性格や趣味、関心のあること、日常の出来事などから、自国の文化について、ある程度伝えることができるようになった。
話す（発表）	準備した作文については語彙の読み方などを調べて、正しく読めるように努力していた。
聞く	発表後の質疑応答では、準備なしでも語彙を繋いで表現し、自分の経験や夢や希望について語ることができるようになった。自身の意見や計画についてその理由や説明も簡潔に述べることができていた。
読む	オンラインによる完全に日本語だけで行われる授業において、講師の指示を理解し、授業の内容や関連するテーマ、身近な話題について、個人差はあれおおむね要点を理解することができていた。
書く	検証テストにおいても、おおむね実施前より聞き取れていた。
日本事情・日本理解	授業の教材や検証テストにおける文章をおおむね理解できていた。作文や課題の添削で書かれた講師のコメントなども理解できていた。
	学んだ話題や身近で個人的に関心のある話題について、日本語で文章を書くことができるようになった。課題のテーマについて経験や印象、自国の文化について簡単な紹介文などを書くことができるようになった。検証テストにおいても、おおむね実施前より書けていた。
	日本の生活や文化を知ることで、自国の文化との間の慣習、言葉遣い、態度、価値観などについて認識し、さらに興味や関心を引くきっかけとなった。検証テストにおいてもおおむね実施前より日本事情について理解できていた。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	講師のオンライン教育ノウハウの不足
書く	講師のオンライン教育ノウハウの不足
日本事情・日本理解	適切なカリキュラムの設定

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	こちらの機器や通信環境はいうまでもなく、受講者の環境が整っていることも重要で、それ次第だと思う。双方向のコミュニケーションや学習活動の最中に、通信環境の問題でたびたび中断することがあると、学習効果や意欲の低下に繋がってしまう。
話す（発表）	こちらの機器等の環境整備はいうまでもなく、受講者の環境が整っていることも重要でそれ次第だと思う。双方向のコミュニケーションや学習活動の最中に、通信環境の問題でたびたび中断することがあると、学習効果や意欲の低下に繋がってしまう。
聞く	通信環境等の問題から、講師と受講者双方の発音等が明確に聞き取れない、テンポのずれなどで音声为重になってしまう、などがあり指導内容が伝わっているか不安な場合がある。
読む	対面と比べて、教材の共有に課題がある。画面共有している教材以外の教材の受け渡しに非常に不便である。オンライン教育の多様なツールについて、その比較検討やノウハウを習得する機会が必要。
書く	データでのやり取りが中心となり、そのツールやファイル形式、またそれについて受講者に実際に使えるように指導するのが難しい。「表記」の指導におけるフィードバックが困難である。オンライン教育の多様なツールについて、その比較検討やノウハウを習得する機会が必要。
日本事情・日本理解	視覚的な教材で幅広く紹介、学習できる点は便利であるが、「体験する」ということは困難である。受講者にとって受け身で一方的な授業にしないための工夫が必須。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	授業初日にオリエンテーションを実施、今回の受講形式に合わせた授業における約束ごとやルールを決めて、毎回授業前に画面に提示し確認を行った。
話す（発表）	発表においてはかならず添削をして返却し、練習時間を与えてから後日発表できるように設定し、受講者によりよい発表ができるようサポートした。
聞く	講師が自分の発話をリアルタイムでPPTに文字化し、聞き取りの弱い学生に対するサポートを行った。 また、受講者の発話もリアルタイムで文字化することで、全体の理解度を上げるサポートを行った。
読む	用意された教材では読む活動が少なかったため、授業で読む活動を取り入れたり補助教材を用意し読み物を読ませるなどの活動を行った。
書く	作文や課題の受け渡しの方法について講師ミーティングを行い、learningBOXの使用マニュアルを作成した。課題を添削したPDFを募集機関の担当者を通じて受講者に配布してもらうなどのサポートを行った。
日本事情・日本理解	動画で扱うテーマについて、受講者の興味や関心に合わせたトピックを定め、実物や図鑑、関連動画や画像を用いてより具体的、あるいは詳細に、あるいは最新の情報を紹介できるように、授業準備のサポートを行った。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

026-1：東京アジア学友会

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レベ ル										モ デ ル		モ デ ル 外		事前テスト 事前の点数 (生徒合 計)										事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)		テスト満点		事前テスト 正答率 (生 徒合計)		事後テスト 正答率 (生 徒合計)		成長幅 (単 位: ポイン ト)	
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	計	回答者数	計	回答者数	計	回答者数	計	回答者数	計	回答者数	計	回答者数	計	回答者数	計	回答者数	計	回答者数	計	回答者数	計	回答者数
026-1	東京アジア学友会_モデル4 (A1,A2)_8/22-1/25	○	○												540	27	1,584	24	100	20.0%	66.0%	46													
026-1	東京アジア学友会_モデル4 (A1,A2)_8/22-1/25	○	○												462	24	1,040	20	100	19.3%	52.0%	33													

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル4（6か月）
区分	ハイフレックス
1.授業のレベル	A1 A2
2.授業のコース	進学 就職 一般
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/8/22
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/1/31
4.授業の学習時間	300
5.学生の授業への参加率	93
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	特になし
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	男性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	特になし
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	女性
6-3.担当された先生③使用言語	日本語
6-3.担当された先生③スキル	特になし
6-4.担当された先生④居住国	日本
6-4.担当された先生④性別	女性
6-4.担当された先生④使用言語	日本語
6-4.担当された先生④スキル	特になし
6-5.担当された先生⑤居住国	日本
6-5.担当された先生⑤性別	女性
6-5.担当された先生⑤使用言語	日本語
6-5.担当された先生⑤スキル	特になし
7.実施した言語活動	話す（やりとり） 話す（発表） 聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	FIFINE
10.使用した映像（カメラ）機	ロジクール
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	パワーポイントの教材を使用
12.撮影をした場所	普通の教室

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	・身近な話題について簡単な文型や言葉で質問したり、答えたりすることができる。 ・自分の欲求を簡単に伝えることができる。
話す（発表）	・Q & Aドリルで練習した文型を使って、自分のことを短文レベルで話すことができる。
聞く	・ゆっくりはっきりとした日本語を聞いて、身近な話題について必要な情報をつかむことができる。
読む	・家族や店の紹介など、簡単に短い文を読んで、大まかな内容を理解することができる。
書く	・名前や出身地、好きなものなど、簡単な自己紹介が書ける。 ・短文での質問や答えを書くことができる。
日本事情・日本理解	・挨拶や買い物など日常生活の場面を見て、日本人のふるまいなどを感じ、自国との違いに気づくことができる。

●就職コース

話す（やりとり）	・身近な話題について簡単な文型や言葉で質問したり、答えたりすることができる。 ・自分の欲求を簡単に伝えることができる。
話す（発表）	・Q & Aドリルで練習した文型を使って、自分のことを短文レベルで話すことができる。
聞く	・ゆっくりはっきりとした日本語を聞いて、身近な話題について必要な情報をつかむことができる。
読む	・家族や店の紹介など、簡単に短い文を読んで、大まかな内容を理解することができる。
書く	・名前や出身地、好きなものなど、簡単な自己紹介が書ける。 ・短文での質問や答えを書くことができる。
日本事情・日本理解	・挨拶や買い物など日常生活の場面を見て、日本人のふるまいなどを感じ、自国との違いに気づくことができる。

●生活コース

話す（やりとり）	・身近な話題について簡単な文型や言葉で質問したり、答えたりすることができる。 ・自分の欲求を簡単に伝えることができる。
話す（発表）	・Q & Aドリルで練習した文型を使って、自分のことを短文レベルで話すことができる。
聞く	・ゆっくりはっきりとした日本語を聞いて、身近な話題について必要な情報をつかむことができる。
読む	・家族や店の紹介など、簡単に短い文を読んで、大まかな内容を理解することができる。
書く	・名前や出身地、好きなものなど、簡単な自己紹介が書ける。 ・短文での質問や答えを書くことができる。
日本事情・日本理解	・挨拶や買い物など日常生活の場面を見て、日本人のふるまいなどを感じ、自国との違いに気づくことができる。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	ハイフレックス型
話す（発表）	ハイフレックス型
聞く	ハイフレックス型
読む	ハイフレックス型
書く	ハイフレックス型
日本事情・日本理解	ハイフレックス型

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	導入文型をPPTで示し、教師とのまた学生同士でのやりとりの中で、理解・定着を図った。標準問題集やlearningBOXによるオンデマンド教材の視聴、クイズを宿題とし、やりとりのための文型の定着を補った。
話す（発表）	文型導入後の練習、タスクを発表させたり、「練習C」のページを役割を決め発表させたりした。
聞く	直接教授法で教え、多くの口頭練習を行い、生の日本語を聞かせた。教科書の「会話」「問題」のページでCD、DVDを使用し、教師以外の日本語を聞きとる機会とした。
読む	各課の「文型・例文」や「問題」のページで短い文を読ませ、内容についての理解度を確認した。
書く	ひらがな、カタカナはオリジナル教材で導入、チェックテストを行った。漢字は『漢字練習帳』を用い、1課を2、3日で導入、翌日に前日導入した漢字をディクテーションで書き取らせた。『漢字練習帳』の読み練習、書き練習のページは自宅学習とし、復習、定着を図った。標準問題集で、解答を記入させた。
日本事情・日本理解	教科書の「会話」のページでDVDを使用し、日本の生活に触れ、理解を促した。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ第2版 本冊
		レベル	A1
		内容	やさしい文型から難しい文型へ、単純で具体的な場面から複雑で抽象的な場面へ会話を中心に、初級前期レベルの「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を身につけることを目指しています。
話す（発表）	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ第2版 本冊
		レベル	A1
		内容	やさしい文型から難しい文型へ、単純で具体的な場面から複雑で抽象的な場面へ会話を中心に、初級前期レベルの「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を身につけることを目指しています。
聞く	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ第2版 本冊
		レベル	A1
		内容	やさしい文型から難しい文型へ、単純で具体的な場面から複雑で抽象的な場面へ会話を中心に、初級前期レベルの「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を身につけることを目指しています。
	使用した教材②	名称	みんなの日本語初級Ⅰ第2版 会話DVD Web ver.
		レベル	A1
読む	使用した教材①	内容	-
		名称	みんなの日本語初級Ⅰ第2版 本冊
		レベル	A1
書く	使用した教材①	内容	やさしい文型から難しい文型へ、単純で具体的な場面から複雑で抽象的な場面へ会話を中心に、初級前期レベルの「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を身につけることを目指しています。
		名称	みんなの日本語初級Ⅰ第2版 本冊
		レベル	A1
	使用した教材②	内容	やさしい文型から難しい文型へ、単純で具体的な場面から複雑で抽象的な場面へ会話を中心に、初級前期レベルの「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を身につけることを目指しています。
		名称	みんなの日本語初級Ⅰ第2版 標準問題集
		レベル	A1
	使用した教材③	内容	-
		名称	みんなの日本語初級Ⅰ第2版 漢字練習帳
日本事情・日本理解	使用した教材①	レベル	A1
		名称	みんなの日本語初級Ⅰ第2版 本冊
		内容	やさしい文型から難しい文型へ、単純で具体的な場面から複雑で抽象的な場面へ会話を中心に、初級前期レベルの「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を身につけることを目指しています。
	使用した教材②	名称	みんなの日本語初級Ⅰ第2版 会話DVD Web ver.
		レベル	A1
		内容	-

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	教師とのやりとり、学生同士のやりとり
話す（発表）	文型を使ったタスクの発表
聞く	『みんなの日本語初級Ⅰ 本冊』問題1, 2
読む	『みんなの日本語初級Ⅰ 会話DVD Web ver.』
書く	『みんなの日本語初級Ⅰ 本冊』
日本事情・日本理解	ひらがな、カタカナオリジナルテスト、オリジナル2課テスト
	『みんなの日本語初級Ⅰ 標準問題集』、『みんなの日本語初級Ⅰ 漢字練習帳』
	『みんなの日本語初級Ⅰ 会話DVD Web ver.』
	教師とのやりとり

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	授業時間内のやりとりの発音、文法の正確さ。
話す（発表）	授業時間内の発表のまとめ方、発音、文法の正確さ。
聞く	本冊問題1、2の正答率。
読む	教科書等の活字の読字能力、音声能力。
書く	正しく文字が書けるか。語彙的、文法的な正確さ。
日本事情・日本理解	日本事情・日本理解に関する質問に対して、答えられるか。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	授業時間の制約により効果検証テストは実施せず、授業時間内のやりとりにて判断。
話す（発表）	授業時間の制約により効果検証テストは実施せず、授業時間内の発表にて判断。
聞く	授業時間の制約により効果検証テストは実施せず、授業時間内のやりとり、本冊問題 1 2 にて判断。
読む	授業時間の制約により効果検証テストは実施せず、活字の読み方にて判断。
書く	ひらがな、カタカナオリジナルテスト 『みんなの日本語初級Ⅰ 標準問題集』、『みんなの日本語初級Ⅰ 漢字練習帳』のテストページの正答率にて判断。
日本事情・日本理解	授業時間内の『みんなの日本語初級Ⅰ 会話 DVD Web ver.』の理解度を教師とのやりとりにて判断。

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	授業内で学生同士で作らせた会話についてのフィードバックを十分に行えなかった。
話す（発表）	授業時間に余裕があれば、一人ずつの簡単なスピーチなどの活動を行いたかった。
聞く	『みんなの日本語初級Ⅱ第2版 聴解タスク 2 5』を授業中や家庭学習用に購入させて、聴く力を伸ばす練習をするべきだった。
読む	『みんなの日本語初級Ⅱ第2版 初級で読めるトピック 2 5』を授業中や家庭学習用に購入させて、読む力を伸ばす練習をするべきだった。
書く	『みんなの日本語初級Ⅱ第2版 書いて覚える文型練習帳』を授業中や家庭学習用に購入させて、書く力を伸ばす練習をするべきだった。
日本事情・日本理解	授業時間数が足りず、なかなか日本事情を深めて扱うことが難しかった。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	ネットワーク環境の整備
書く	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	学内の w i f i 環境が整備されるまでは、授業が予定通りに進められなかったり、学生たち（特にオンラインでの参加者）の集中力が途切れる要因になった。授業準備を行った教員にも徒労感を感じさせることとなった。
話す（発表）	学内の w i f i 環境が整備されるまでは、授業が予定通りに進められなかったり、学生たち（特にオンラインでの参加者）の集中力が途切れる要因になった。授業準備を行った教員にも徒労感を感じさせることとなった。
聞く	学内の w i f i 環境が整備されるまでは、授業が予定通りに進められなかったり、学生たち（特にオンラインでの参加者）の集中力が途切れる要因になった。授業準備を行った教員にも徒労感を感じさせることとなった。『みんなの日本語初級Ⅰ第2版 聴解タスク 2 5』を授業中の使用や家庭学習用に購入させて、聞く力を伸ばす練習をするべきだった。
読む	学内の w i f i 環境が整備されるまでは、授業が予定通りに進められなかったり、学生たち（特にオンラインでの参加者）の集中力が途切れる要因になった。授業準備を行った教員にも徒労感を感じさせることとなった。『みんなの日本語初級Ⅰ第2版 初級で読めるトピック 2 5』を授業中の使用や家庭学習用に購入させて、読む力を伸ばす練習をするべきだった。
書く	学内の w i f i 環境が整備されるまでは、授業が予定通りに進められなかったり、学生たち（特にオンラインでの参加者）の集中力が途切れる要因になった。授業準備を行った教員にも徒労感を感じさせることとなった。『みんなの日本語初級Ⅰ第2版 書いて覚える文型練習帳』を授業中の使用や家庭学習用に購入させて、書く力を伸ばす練習をするべきだった。
日本事情・日本理解	学内の w i f i 環境が整備されるまでは、授業が予定通りに進められなかったり、学生たち（特にオンラインでの参加者）の集中力が途切れる要因になった。授業準備を行った教員にも徒労感を感じさせることとなった。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	出席を取る前に一人ずつQ & Aをしたり、休み時間にフリートークの時間をとった。
話す（発表）	グループでQ & Aドリルをした内容について、クラスで発表したり、説明したりする活動を取り入れた。
聞く	オンデマンド教材やテキストの聴解の問題をうちでも聞けるようにした。
読む	学習者に音読させ、教師からの評価を都度伝える努力をした。
書く	ひらがな・カタカナ・漢字の導入時に使用するPPTを学校として作成し、教員間で共有し、指導レベルが統一できるようにした。
日本事情・日本理解	可能な範囲で日本と自国の違いを導入やドリル練習の中に取り入れた。

A2

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	・相手に経験や計画についてたずねたり、自分のことを話したりできる。 ・理由などを簡単に説明できる。
話す（発表）	・グループで話したことを他の人に伝えたり、学生同士で短い会話を作って発表することができる。
聞く	・基本的な表現を使った簡単な指示や会話を聞いて、手順や内容を理解することができる。
読む	・200字程度の簡単な文章を読んで内容を理解し、質問に答えることができる。
書く	・習った文型を使って短い文が書ける。 ・自分の意見や理由などを、簡単に書くことができる。
日本事情・日本理解	・日本人の行動や表現の仕方を理解し、習慣の違いなどを感じることができる。

●就職コース

話す（やりとり）	・相手に経験や計画についてたずねたり、自分のことを話したりできる。 ・理由などを簡単に説明できる。
話す（発表）	・グループで話したことを他の人に伝えたり、学生同士で短い会話を作って発表することができる。
聞く	・基本的な表現を使った簡単な指示や会話を聞いて、手順や内容を理解することができる。
読む	・200字程度の簡単な文章を読んで内容を理解し、質問に答えることができる。
書く	・習った文型を使って短い文が書ける。 ・自分の意見や理由などを、簡単に書くことができる。
日本事情・日本理解	・日本人の行動や表現の仕方を理解し、習慣の違いなどを感じることができる。

●生活コース

話す（やりとり）	・相手に経験や計画についてたずねたり、自分のことを話したりできる。 ・理由などを簡単に説明できる。
話す（発表）	・グループで話したことを他の人に伝えたり、学生同士で短い会話を作って発表することができる。
聞く	・基本的な表現を使った簡単な指示や会話を聞いて、手順や内容を理解することができる。
読む	・200字程度の簡単な文章を読んで内容を理解し、質問に答えることができる。
書く	・習った文型を使って短い文が書ける。 ・自分の意見や理由などを、簡単に書くことができる。
日本事情・日本理解	・日本人の行動や表現の仕方を理解し、習慣の違いなどを感じることができる。

各日本語教育機関の実施結果

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	ハイフレックス型
話す（発表）	ハイフレックス型
聞く	ハイフレックス型
読む	ハイフレックス型
書く	ハイフレックス型
日本事情・日本理解	ハイフレックス型

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	導入文型をPPTで示し、教師とのまた学生同士でのやりとりの中で、理解・定着を図った。標準問題集やlearningBOXによるオンデマンド教材の視聴、クイズを宿題とし、やりとりのための文型の定着を補った。
話す（発表）	文型導入後の練習、タスクを発表させたり、「練習C」のページを役割を決め発表させたりした。
聞く	直接教授法で教え、多くの口頭練習を行い、生の日本語を聞かせた。教科書の「会話」「問題」のページでCD、DVDを使用し、教師以外の日本語を聞きとる機会とした。
読む	各課の「文型・例文」や「問題」のページで短い文を読ませ、内容についての理解度を確認した。
書く	漢字は『漢字練習帳』を用い、1課を2日で導入、翌日に前日導入した漢字をディクテーションで書き取らせた。『漢字練習帳』の読み練習、書き練習のページは自宅学習とし、復習、定着を図った。標準問題集で、解答を記入させた。
日本事情・日本理解	教科書の「会話」のページでDVDを使用し、日本の生活に触れ、理解を促した。

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅱ第2版 本冊
		レベル	A2
		内容	やさしい文型から難しい文型へ、単純で具体的な場面から複雑で抽象的な場面へ会話を中心に、初級後期レベルの「話す」「聞く」「読む」「書く」の総合的な力を身につけ、日常生活の基本的場面で、状況に応じたやり取りができることを目的にしています。
話す（発表）	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅱ第2版 本冊
		レベル	A2
		内容	やさしい文型から難しい文型へ、単純で具体的な場面から複雑で抽象的な場面へ会話を中心に、初級後期レベルの「話す」「聞く」「読む」「書く」の総合的な力を身につけ、日常生活の基本的場面で、状況に応じたやり取りができることを目的にしています。
聞く	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅱ第2版 本冊
		レベル	A2
		内容	やさしい文型から難しい文型へ、単純で具体的な場面から複雑で抽象的な場面へ会話を中心に、初級後期レベルの「話す」「聞く」「読む」「書く」の総合的な力を身につけ、日常生活の基本的場面で、状況に応じたやり取りができることを目的にしています。
	使用した教材②	名称	みんなの日本語初級Ⅱ第2版 会話DVD Web ver.
		レベル	A2
		内容	-
読む	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅱ第2版 本冊
		レベル	A2
		内容	やさしい文型から難しい文型へ、単純で具体的な場面から複雑で抽象的な場面へ会話を中心に、初級後期レベルの「話す」「聞く」「読む」「書く」の総合的な力を身につけ、日常生活の基本的場面で、状況に応じたやり取りができることを目的にしています。

各日本語教育機関の実施結果

書く	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅱ第2版 本冊
		レベル	A2
		内容	やさしい文型から難しい文型へ、単純で具体的な場面から複雑で抽象的な場面へ会話を中心に、初級後期レベルの「話す」「聞く」「読む」「書く」の総合的な力を身につけ、日常生活の基本的場面で、状況に応じたやり取りができることを目的としています。
	使用した教材②	名称	みんなの日本語初級Ⅱ第2版 標準問題集
		レベル	A2
		内容	-
	使用した教材③	名称	みんなの日本語初級Ⅱ第2版 漢字練習帳
		レベル	A2
		内容	-
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅱ第2版 本冊
		レベル	A2
		内容	やさしい文型から難しい文型へ、単純で具体的な場面から複雑で抽象的な場面へ会話を中心に、初級後期レベルの「話す」「聞く」「読む」「書く」の総合的な力を身につけ、日常生活の基本的場面で、状況に応じたやり取りができることを目的としています。
	使用した教材②	名称	みんなの日本語初級Ⅱ第2版 会話DVD Web ver.
		レベル	A2
		内容	-

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	教師とのやりとり、学生同士でのやりとり
話す（発表）	文型を使ったタスクの発表
聞く	『みんなの日本語初級Ⅱ 本冊』問題ページの1, 2 『みんなの日本語初級Ⅱ 会話DVD Web ver. 』
読む	『みんなの日本語初級Ⅱ 本冊』
書く	オリジナル2課テスト 『みんなの日本語初級Ⅱ 標準問題集』、『みんなの日本語初級Ⅱ 漢字練習帳』
日本事情・日本理解	『みんなの日本語初級Ⅱ 会話DVD Web ver. 』 教師とのやりとり

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	授業時間内のやりとりの発音、文法の正確さ。
話す（発表）	授業時間内の発表のまとめ方、発音、文法の正確さ。
聞く	本冊問題1、2の正答率。
読む	教科書等の活字の読字能力、音声能力。
書く	正しく文字が書けるか。語彙的、文法的な正確さ。
日本事情・日本理解	日本事情・日本理解に関する質問に対して、答えられるか。

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	授業時間の制約により効果検証テストは実施せず、授業時間内のやりとりにて判断。
話す（発表）	授業時間の制約により効果検証テストは実施せず、授業時間内の発表にて判断。
聞く	授業時間の制約により効果検証テストは実施せず、授業時間内のやりとり、本冊問題12にて判断。
読む	授業時間の制約により効果検証テストは実施せず、活字の読みにて判断。
書く	『みんなの日本語初級Ⅰ 標準問題集』、『みんなの日本語初級Ⅰ 漢字練習帳』のテストページの正答率にて判断。
日本事情・日本理解	授業時間内の『みんなの日本語初級Ⅰ 会話DVD Web ver. 』の理解度を教師とのやりとりにて判断。

各日本語教育機関の実施結果

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	授業内で学生同士で作らせた会話についてのフィードバックを十分に行えなかった。
話す（発表）	授業時間に余裕があれば、一人ずつの簡単なスピーチなどの活動を行いたかった。
聞く	『みんなの日本語初級Ⅱ第2版 聴解タスク25』を授業中や家庭学習用に購入させて、聴く力を伸ばす練習をするべきだった。
読む	『みんなの日本語初級Ⅱ第2版 初級で読めるトピック25』を授業中や家庭学習用に購入させて、読む力を伸ばす練習をするべきだった。
書く	『みんなの日本語初級Ⅱ第2版 書いて覚える文型練習帳』を授業中や家庭学習用に購入させて、書く力を伸ばす練習をするべきだった。
日本事情・日本理解	授業時間数が足りず、なかなか日本事情を深めて扱うことが難しかった。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	ネットワーク環境の整備
書く	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	学内のw i f i環境が整備されるまでは、授業が予定通りに進められなかったり、学生たち（特にオンラインでの参加者）の集中力が途切れる要因になった。授業準備を行った教員にも徒労感を感じさせることとなった。
話す（発表）	学内のw i f i環境が整備されるまでは、授業が予定通りに進められなかったり、学生たち（特にオンラインでの参加者）の集中力が途切れる要因になった。授業準備を行った教員にも徒労感を感じさせることとなった。
聞く	学内のw i f i環境が整備されるまでは、授業が予定通りに進められなかったり、学生たち（特にオンラインでの参加者）の集中力が途切れる要因になった。授業準備を行った教員にも徒労感を感じさせることとなった。
読む	学内のw i f i環境が整備されるまでは、授業が予定通りに進められなかったり、学生たち（特にオンラインでの参加者）の集中力が途切れる要因になった。授業準備を行った教員にも徒労感を感じさせることとなった。
書く	学内のw i f i環境が整備されるまでは、授業が予定通りに進められなかったり、学生たち（特にオンラインでの参加者）の集中力が途切れる要因になった。授業準備を行った教員にも徒労感を感じさせることとなった。
日本事情・日本理解	学内のw i f i環境が整備されるまでは、授業が予定通りに進められなかったり、学生たち（特にオンラインでの参加者）の集中力が途切れる要因になった。授業準備を行った教員にも徒労感を感じさせることとなった。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	出席を取る前に一人ずつQ & Aをしたり、休み時間にフリートークの時間をとった。
話す（発表）	グループでQ & Aドリルをした内容について、クラスで発表したり、説明したりする活動を取り入れた。
聞く	オンデマンド教材やテキストの聴解の問題をうちでも聞けるようにした。
読む	学習者に音読させ、教師からの評価を都度伝える努力をした。
書く	漢字の導入時に使用するPPTを学校として作成し、教員間で共有し、指導レベルが統一できるようにした。
日本事情・日本理解	可能な範囲で日本と自国の違いを導入やドリル練習の中に取り入れた。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

027-1：学校法人静岡日本語教育センター

授業ID	日本語教育機関・モデル名											事前テスト				事後テスト				事前テスト 事後テスト 成長幅 (単 正答率 (生 正答率 (生 位: ポイン 徒合計) 徒合計) ト)			
		レ ベ ル					モ デ ル					事前テスト 事前の点数 (生徒合 計)		事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)		テスト満点		事後テスト		成長幅 (単 位: ポイン ト)			
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	回答者数	回答者数	回答者数	回答者数	回答者数	回答者数	回答者数	回答者数		
027-1	静岡日本語教育センター_モデル1 (B1)_9/20-10/25			○			○						292	6	655	5	200	24.3%	65.5%	41			

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル1 (3か月)
区分	オンラインのみ
1.授業のレベル	B1
2.授業のコース	進学
3-1.授業の実施期間 (開始)	2022/9/20
3-2.授業の実施期間 (終了)	2022/12/15
4.授業の学習時間	60
5.学生の授業への参加率	48
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	日本語教育能力検定試験合格、420時間修了
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	420時間修了
7.実施した言語活動	話す (やりとり) 話す (発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	付属のスピーカー、マイク
10.使用した映像 (カメラ) 機	付属のカメラ、書画カメラ
11.使用したファイル形式 (パワーポイント、PDF等)	パワーポイントの教材を使用、ワード、エクセル
12.撮影をした場所	普段の教室 その他 (講師自宅等)

各日本語教育機関の実施結果

B1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	日本の日常生活で必要となる基本的なコミュニケーションをスムーズに行い、会話を続けることができる。 相手や場面に応じて話し方を変えることができる。
話す（発表）	身近な話題や自分の体験について順序だてて論理的に話すことができるようになる。 身近な話題、一般的な社会の話題について自分の意見や感想を話せるようになる。
聞く	日常的で具体的な話題について概要だけでなく少し詳しい内容まで聞き取ることができる。
読む	日常的で具体的な話題について詳細に読み取ることができる。
書く	身近な話題や自分の体験について、またそれに対する意見、感想を具体的に書いて説明することができる。
日本事情・日本理解	日本文化、風習などについて興味や関心を持ち、そのテーマについてさらに自分で調べて知識を深めることができる。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）
読む	オンライン（双方向のみ）
書く	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	①オンライン教育の経験が多くある教員とそうでない教員を組み合わせ、オンライン授業実施のための技術向上を目指しました。 ②事務局提供の動画教材を使用し、それをもとに話すきっかけになるような話題提供を増やし、学習モチベーションの向上をはかりました。
話す（発表）	①オンライン教育の経験が多くある教員とそうでない教員を組み合わせ、オンライン授業実施のための技術向上を目指しました。 ②事務局提供の動画教材を使用し、それをもとに話すきっかけになるような話題提供を増やし、学習モチベーションの向上をはかりました。
聞く	①オンライン教育の経験が多くある教員とそうでない教員を組み合わせ、オンライン授業実施のための技術向上を目指しました。 ②事務局提供の動画教材を使用し、それをもとに話すきっかけになるような話題提供を増やし、学習モチベーションの向上をはかりました。
読む	①オンライン教育の経験が多くある教員とそうでない教員を組み合わせ、オンライン授業実施のための技術向上を目指しました。 ②事務局提供の動画教材を使用し、それに関連した読み物、パワーポイントなどの説明も加え、読む活動を増やしました。
書く	①オンライン教育の経験が多くある教員とそうでない教員を組み合わせ配置しました ②授業後、メールで作文提出をしてもらい、理解度を確認しました。 ③提出課題を添削することで言語習得のサポート、また学習モチベーションの向上をはかりました。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	事務局提供教材
		レベル	B1
		内容	日本文化、風習、日本人の考え方、社会に関する動画教材
話す（発表）	使用した教材①	名称	事務局提供教材
		レベル	B1
		内容	日本文化、風習、日本人の考え方、社会に関する動画教材
聞く	使用した教材①	名称	事務局提供教材
		レベル	B1
		内容	日本文化、風習、日本人の考え方、社会に関する動画教材
読む	使用した教材①	名称	事務局提供教材 等
		レベル	B1
		内容	日本文化、風習、日本人の考え方、社会に関する動画教材
書く	使用した教材①	名称	事務局提供教材 等
		レベル	B1
		内容	日本文化、風習、日本人の考え方、社会に関する動画教材
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	事務局提供教材
		レベル	B1
		内容	日本文化、風習、日本人の考え方、社会に関する動画教材

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	授業時間内でのやりとり
話す（発表）	授業期間内の発表
聞く	事務局提供 テスト
読む	事務局提供 テスト
書く	提出課題（作文）
日本事情・日本理解	提出課題（作文）

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	質問されたことに的確に答えられているかどうか。 日本語らしい発音、話し方になっているかどうか。
話す（発表）	指示されたテーマにそって話すことができているか。 説明、事実をもとに自分の意見、感想、調べたことが順序立てて話せているか。
聞く	状況、背景まで詳しく聞き取りができているか。
読む	状況、背景まで詳しく読み取りができているか。
書く	授業で学習した新しい語彙、表現を用い、指示されたテーマにそって書くことができているか。 説明、事実をもとに自分の意見、感想、調べたことが順序立てて書けているかどうか。
日本事情・日本理解	日本文化、風習などについて興味、関心を持つことができているか。 自国の文化、風習などを比較し、考えたり、調べたりできているか。

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	よく理解できている・おおむね理解できている・あまり理解できていない・全く理解できていない
話す（発表）	よく理解できている・おおむね理解できている・あまり理解できていない・全く理解できていない
聞く	よく理解できている・おおむね理解できている・あまり理解できていない・全く理解できていない
読む	よく理解できている・おおむね理解できている・あまり理解できていない・全く理解できていない
書く	よく理解できている・おおむね理解できている・あまり理解できていない・全く理解できていない
日本事情・日本理解	よく理解できている・おおむね理解できている・あまり理解できていない・全く理解できていない

各日本語教育機関の実施結果

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	受講開始当初は講師からの質問を待ち、それにこたえるということが多くありましたが授業の回数が進むにつれ、授業進行にも慣れ、受講生が積極的に話す機会が多くなりました。
話す（発表）	話す量、時間が増えました。自分の感想や意見を順序立てて論理的に話せるようになりました。
聞く	事前と比較し、事後テストの成績があがりました。助詞など細かい点まで意識して聞き取りができるようになったり、少し長めの日本語も聞き取れるようになりました。
読む	事前と比較し、事後テストの成績があがりました。少し長い文でも、比較的短い時間で詳しく読み取りができるようになりました。
書く	書く量が増え、詳細な部分まで具体的に書けるようになりました。授業時間中に学習した語彙、表現を使って文章が書けるようになりました。
日本事情・日本理解	動画で日本の文化、風習を知ることができ、さらに日本語学習意欲が高まり、日本留学へのモチベーションも向上したようです。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	機器等のコスト
書く	適切なカリキュラムの設定
日本事情・日本理解	その他

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	インターネット環境が不安定になった時、スムーズにやりとりが進みませんでした。
話す（発表）	インターネット環境が不安定で、発表内容が聞き取りづらい場合があります。
聞く	インターネット環境が不安定で、聞き取りが困難な場合があります。
読む	受講生側がスマホで勉強していることが多く、画面共有等が難しい場合もありました。
書く	手書き、パソコン入力等、段階的に書くことを指導していく必要があると思いました。
日本事情・日本理解	今回は事務局から動画視聴教材の提供があり実施できましたが、日本事情・理解に関する教材を個々の学校、教員で作成するのは時間・コストがかかるという問題があるように思いました。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	講師、受講生間でできるだけ多くのやりとりができるように、一方向の授業にならないように授業時間中の指名の回数を増やしました。
話す（発表）	毎回の授業の感想、意見が発表できる機会を増やしました。 また発表が一方向にならないように、発表する・コメントするというやりとりを増やしました。
聞く	授業で使用する動画を視聴する回をできるだけ増やし、聞く時間を増やしました。
読む	聞くだけでは十分に理解できない受講生もいることから、説明をパワーポイントで作り文字やイラストを読んだり見たりすることで理解が深まるようにしました。
書く	特にありません。 毎回の授業の感想、意見を作文にして提出してもらい、添削やコメントを行いました。
日本事情・日本理解	授業で使用する動画に関し、講師自身の経験、体験もあわせて伝え、受講生がより興味関心が持てるように工夫しました。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

027-2：学校法人静岡日本語教育センター

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レ ベ ル		モ デ ル					モ デ ル 外		事前テスト 事前の点数 (生徒合 計)		事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)		事前テスト 事後テスト テスト満点 正答率(生 徒合計)		事後テスト 成長幅(単 位:ポイン ト)			
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	計	回答者数	計	回答者数			
027-2	静岡日本語教育センター_モデル2 (A1)_9/26-12/7	○						○					182	8	195	7	40	56.9%	69.6%	13

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル2 (3か月)
区分	オンラインのみ+オンデマンド型
1.授業のレベル	A1
2.授業のコース	進学
3-1.授業の実施期間 (開始)	2022/9/26
3-2.授業の実施期間 (終了)	2022/12/7
4.授業の学習時間	50
5.学生の授業への参加率	62
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本
6-1.担当された先生①スキル	日本語教育能力検定試験合格
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本
6-2.担当された先生②スキル	420時間修了
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	女性
6-3.担当された先生③使用言語	日本
6-3.担当された先生③スキル	大学主専攻、日本語教育能力検定試験合格
7.実施した言語活動	話す(やりとり) 話す(発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材(スピーカー、マイク)	PC付属のスピーカー、マイク
10.使用した映像(カメラ)機	PC付属のカメラ、書画カメラ
11.使用したファイル形式(パワーポイント、PDF等)	パワーポイント、ワード、エクセル
12.撮影をした場所	普段の教室 その他(講師自宅等)

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	生活の中での基本的な事柄（自己／他己紹介、誘う、簡単に説明する、尋ねるなど）についてやりとりすることができる。
話す（発表）	自分のこと、家族や友達のこと、自分の国について基本的なことを話したり、説明したりすることができる。
聞く	短い日本語の文、質問を聞いて、理解することができる。
読む	ひらがな、カタカナ、基本的な漢字を読むことができる。 短い日本語の文、表示、看板などを見て、大まかに理解することができる。
書く	ひらがな、カタカナ、基本的な漢字を書くことができる。 自分のこと、家族や友達のこと、自分の国について基本的なことを説明する文章を書くことができる。
日本事情・日本理解	日本人、日本人、文化や習慣に親しみを覚えることができる。 日本人の生活の様子、挨拶、マナーについて理解できる。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
聞く	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
読む	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
書く	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	①オンライン教育の経験が多くある教員とそうでない教員を組み合わせ、オンライン授業実施のための技術向上を目指しました。 ②オンライン授業ではできるだけ多くの講師・受講生のやりとりを行い、話す機会を増やし、話す能力の向上をはかりました。
話す（発表）	①オンライン教育の経験が多くある教員とそうでない教員を組み合わせ、オンライン授業実施のための技術向上を目指しました。 ②オンデマンド教材で学習した内容（ストーリー）について簡単にまとめ発表してもらうことで話す能力の向上をはかりました。
聞く	①オンライン教育の経験が多くある教員とそうでない教員を組み合わせ、オンライン授業実施のための技術向上を目指しました。 ②オンライン授業ではできるだけ多くの講師・受講生のやりとりを行い、聞く機会を増やし、聞く能力の向上をはかりました。 ③オンデマンド教材を自分のペースで利用し繰り返し聞く練習を行い、聞く能力の向上をはかりました。
読む	①オンライン教育の経験が多くある教員とそうでない教員を組み合わせ、オンライン授業実施のための技術向上を目指しました。 ②ひらがな、カタカナ、漢字の読み練習を繰り返し行ったり、オンデマンド教材の動画のスクリーンショットを読む練習をしたりすることで、読む能力の向上をはかりました。
書く	①オンライン教育の経験が多くある教員とそうでない教員を組み合わせ配置しました。 ②授業後、メールで作文提出をしてもらい、理解度を確認しました。 ③提出課題を添削することで言語習得のサポート、また学習モチベーションの向上をはかりました。
日本事情・日本理解	①オンライン教育の経験が多くある教員とそうでない教員を組み合わせ配置しました。 ②教材の内容を中心に、日本の文化、習慣の紹介をし、学習・留学モチベーションの向上をはかりました。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	e-TRY START, e-TRY N5
		レベル	A1
		内容	入門、初級日本語 ことば、文型、会話
	使用した教材②	名称	動く絵本ライブラリー
		レベル	A1
		内容	日本や世界の昔話、日本人の生活様式、習慣、文化等
	使用した教材③	名称	いどころ生活の日本語
		レベル	A1
		内容	入門、初級日本語 ことば、文型、会話
話す（発表）	使用した教材①	名称	e-TRY START, e-TRY N5
		レベル	A1
		内容	入門、初級日本語 ことば、文型、会話
	使用した教材②	名称	動く絵本ライブラリー
		レベル	A1
		内容	日本や世界の昔話、日本人の生活様式、習慣、文化等
	使用した教材③	名称	いどころ生活の日本語
		レベル	A1
		内容	入門、初級日本語 ことば、文型、会話
聞く	使用した教材①	名称	e-TRY START, e-TRY N5
		レベル	A1
		内容	入門、初級日本語 ことば、文型、会話
	使用した教材②	名称	動く絵本ライブラリー
		レベル	A1
		内容	日本や世界の昔話、日本人の生活様式、習慣、文化等
	使用した教材③	名称	いどころ生活の日本語
		レベル	A1
		内容	入門、初級日本語 ことば、文型、会話
読む	使用した教材①	名称	e-TRY START, e-TRY N5
		レベル	A1
		内容	入門、初級日本語 ことば、文型、会話
	使用した教材②	名称	動く絵本ライブラリー
		レベル	A1
		内容	日本や世界の昔話、日本人の生活様式、習慣、文化等
	使用した教材③	名称	いどころ生活の日本語
		レベル	A1
		内容	入門、初級日本語 ことば、文型、会話
書く	使用した教材①	名称	e-TRY START, e-TRY N5
		レベル	A1
		内容	入門、初級日本語 ことば、文型、会話
	使用した教材②	名称	動く絵本ライブラリー
		レベル	A1
		内容	日本や世界の昔話、日本人の生活様式、習慣、文化等
	使用した教材③	名称	いどころ生活の日本語
		レベル	A1
		内容	入門、初級日本語 ことば、文型、会話
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	e-TRY START, e-TRY N5
		レベル	A1
		内容	入門、初級日本語 ことば、文型、会話
	使用した教材②	名称	動く絵本ライブラリー
		レベル	A1
		内容	日本や世界の昔話、日本人の生活様式、習慣、文化等
	使用した教材③	名称	いどころ生活の日本語
		レベル	A1
		内容	入門、初級日本語 ことば、文型、会話

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	授業時間内でのやりとり
話す（発表）	授業期間内の発表
聞く	事務局提供 テスト
読む	事務局提供 テスト
書く	提出課題（作文）
日本事情・日本理解	授業時間内でのやりとり、提出課題（作文）、クイズ

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において目標の達成度合等进行评估する際の指標

話す（やりとり）	質問されたことに的確に答えられているかどうか。 日本語らしい発音、話し方になっているかどうか。
話す（発表）	学習した語彙、表現を正しく使いながら話しているかどうか。 日本語らしい発音、話し方になっているかどうか。
聞く	教師の質問に的確に反応できているかどうか。
読む	ひらがな、カタカナ、漢字が正しく読めているかどうか。
書く	ひらがな、カタカナ、漢字が正しく書けているかどうか。 聞いたことば、短い文を正しく書きとれているかどうか。 学習した語彙、表現を正しく使いながら話しているかどうか。
日本事情・日本理解	日本語での基本的な挨拶ができているかどうか。 学習した範囲で、日本の社会、習慣、マナーなどが理解できているかどうか。

●各授業科目において目標の達成度合等进行评估する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	よく理解できている・おおむね理解できている・あまり理解できていない・全く理解できていない
話す（発表）	よく理解できている・おおむね理解できている・あまり理解できていない・全く理解できていない
聞く	よく理解できている・おおむね理解できている・あまり理解できていない・全く理解できていない
読む	よく理解できている・おおむね理解できている・あまり理解できていない・全く理解できていない
書く	よく理解できている・おおむね理解できている・あまり理解できていない・全く理解できていない
日本事情・日本理解	よく理解できている・おおむね理解できている・あまり理解できていない・全く理解できていない

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	受講開始当初は講師の短い質問にも答えられませんでした。が、授業の回数を重ねるうちに質問を聞き返す回数も減り正しく応答できるようになりました。また授業時間中の発話の回数、時間も増えました。
話す（発表）	授業の内容に関して、また身近に行った出来事などを受講生が積極的に話すようになりました。文レベルで話を続けることはまだ難しいようですが、使えることばや表現を最大限に使い、考えや気持ちを伝えられようようになりました。
聞く	受講開始当初は講師が繰り返し話したり、媒介語を使いながら、説明したり質問したりすることが多かったのですが、次第に日本語だけで、一回で聞き取れるようになりました。事前と比較し、事後テストの成績が良かったです。
読む	ひらがな、カタカナ、基本的な漢字が講師の助けなく、すばやく読めるようになりました。テストの問題を読むことができるようになりました。事前と比較し、事後テストの成績が良かったです。
書く	ひらがな、カタカナが書けるようになりました。与えられたテーマにそって少しまとまった量の日本語の文章を書くことができるようになりました。
日本事情・日本理解	学習した内容からさらに自分で興味、関心を広げ、インターネット等で調べて知識を増やすことができました。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	機器等のコスト
書く	適切なカリキュラムの設定
日本事情・日本理解	適切なカリキュラムの設定

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	インターネット環境が不安定になった時、スムーズにやりとりが進みませんでした。
話す（発表）	インターネット環境が不安定で、発表内容が聞き取りづらい場合があります。
聞く	インターネット環境が不安定で、聞き取りが困難な場合があります。
読む	まだA1レベルでは長い文章を読む機会もないため、受講生がスマホで受講していても画面共有の際、あまり不都合はありませんでした。上のレベルになると画面が小さい場合、読みづらさがあるように思います。
書く	ひらがな、カタカナの文字の癖を直すのがオンラインでは難しく感じました。 対面授業と比較すると書く練習や添削の時間、回数が少なくなりました。
日本事情・日本理解	まだA1レベルではことばでの説明では伝わりにくい部分もあるため、実際の日本の様子を動画で見せることができれば、理解しやすくなると思います。オンラインでは実体験ができませんが、動画視聴をすることでより実際の状況をイメージしやすくなると思います。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	講師、受講生間でできるだけ多くのやりとりができるように、一方向の授業にならないように授業時間中の指名の回数を増やしたり、指名の順番を工夫しました。 毎回の授業の感想、意見が発表できる機会を増やしました。
話す（発表）	また発表が一方向にならないように、発表する・コメントするというやりとりを増やしました。
聞く	一度では聞き取りができない受講生が多いため、繰り返し講師が話したり、絵（イラスト）や実物を見せ、聞く練習をサポートしました。
読む	正しく、素早く読めるように、毎回の授業で文字の読み練習を繰り返し行いました。 文字の書き練習をチェックしました。
書く	作文を提出してもらい、文字が正しく書けているかどうか、また学習した内容が理解できているかどうかを確認しました。 授業の内容だけにとどまらず、自分の表現したいことが表現できるように、ことばや表現学習のフォローを行いました。
日本事情・日本理解	教材で扱うテーマをもとに、講師自身の経験、体験を伝え、受講生がより興味関心が持てるように工夫しました。 受講生の国の文化、習慣についても質問し、比較してもらうことで、日本により興味が持てるように工夫しました。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

028-1：振栄株式会社 日本教育学院

授業ID	日本語教育機関・モデル名											事前テスト		事後テスト		事前テスト		事後テスト		成長幅 (単位: ポイント)		
												事前の点数 (生徒合計)	回答者数	事後の点数 (生徒合計)	回答者数	テスト満点	正答率 (生徒合計)	テスト満点	正答率 (生徒合計)			
		レベル					モデル					モデル外										
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2									
028-1	日本教育学院_モデル3 (A1・A2)_10/11-1/20	○	○							○			○		144	10	288	10	100	14.4%	28.8%	14

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル3 (3か月)
区分	オンラインのみ+オンデマンド型
1.授業のレベル	A1
2.授業のコース	進学
3-1.授業の実施期間(開始)	2022/10/11
3-2.授業の実施期間(終了)	2023/1/17
4.授業の学習時間	159
5.学生の授業への参加率	80
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	特になし
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	特になし
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	女性
6-3.担当された先生③使用言語	日本語
6-3.担当された先生③スキル	特になし
7.実施した言語活動	話す(やりとり) 話す(発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材(スピーカー、マイク)	PC付属のスピーカー、マイク
10.使用した映像(カメラ)機	PC付属のカメラ
11.使用したファイル形式(パワーポイント、PDF等)	スリーエーネットワークみんなの日本語初級I 電子版(本冊 教師用実証事業版、標準問題集、翻訳・文法解説 英語版、書いて覚える文型練習帳、漢字練習帳)、パワーポイント教材、オンデマンド動画教材を使用。
12.撮影をした場所	その他(講師自宅等)

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け船を出してくれるなら、簡単なやりとりをすることができる。直接必要なことやごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。
話す（発表）	どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。
聞く	はっきりとゆっくりと話してもらえれば、自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞き慣れた語や、ごく基本的な表現を聞き取れる。
読む	たとえば、掲示やポスター、カタログの中のよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
書く	新年の挨拶など短い簡単な葉書を書くことができる。たとえばホテルの宿帳に名前、国籍や住所といった個人のデータを書き込むことができる。
日本事情・日本理解	日本の習慣や文化について理解できる。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ） オンデマンド型
読む	オンライン（双方向のみ） オンデマンド型
書く	オンライン（双方向のみ） オンデマンド型
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	みんなの日本語に沿った会話練習（T⇄S、S⇄S）、既習文型を使った、簡単な日常会話やQ A。
話す（発表）	既習文型を使って自分の国や地域、自分の家族について発表。
聞く	みんなの日本語に沿った会話部分や、読解部分の読み聞かせ、簡単な日常会話。
読む	みんなの日本語のドリル練習や会話、課末問題。
書く	みんなの日本語漢字練習帳、文型練習帳、標準問題集を使用してノートに書かせた。ラーニングボックスのひらがなカタカナオンデマンド動画 ホホワイトボード、GoodNote 5 (iPad)
日本事情・日本理解	みんなの日本語の会話部分を使った日本文化理解。日本語学校の活動の様子を見せて日本留学についても紹介した。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	みんなの日本語 本冊 電子版
		レベル	A1
		内容	練習B・C、会話、課末問題、
	使用した教材②	名称	みんなの日本語 文型練習帳、標準問題集
		レベル	A1
		内容	問題を使ったQA
	使用した教材③	名称	フリー素材のイラスト、レアリア
		レベル	A1
		内容	イラストや、写真、レアリア
話す（発表）	使用した教材①	名称	みんなの日本語 文型練習帳、標準問題集
		レベル	A1
		内容	問題を使って自分のことについて発表
聞く	使用した教材①	名称	みんなの日本語 電子版
		レベル	A1
		内容	練習A・B・C、会話、課末問題
	使用した教材②	名称	ラーニングボックスのオンデマンド動画
		レベル	A1
		内容	ひらがな、カタカナ、数字の聞き取り
読む	使用した教材①	名称	みんなの日本語 電子版
		レベル	A1
		内容	練習A・B・C、会話、課末問題
	使用した教材②	名称	ラーニングボックスのオンデマンド動画
		レベル	A1
		内容	ひらがな、カタカナ、数字の聞き取り
書く	使用した教材①	名称	みんなの日本語 電子版
		レベル	A1
		内容	練習A・B、課末問題
	使用した教材②	名称	みんなの日本語 文型練習帳、標準問題集
		レベル	A1
		内容	問題の答えをノートに書き取り
	使用した教材③	名称	みんなの日本語 漢字練習帳
		レベル	A1
		内容	漢字の書き取り
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	みんなの日本語
		レベル	A1
		内容	会話で出てきた日本文化の理解
	使用した教材②	名称	教師撮影の写真
		レベル	A1
		内容	日本語学校の活動の様子を写真で紹介

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	既習文型を使ったQA。
話す（発表）	既習文型を使った発表。
聞く	既習文型を使ったQA。ディクテーション。
読む	みんなの日本語を使った音読。
書く	ひらがな、カタカナテスト。ディクテーション。漢字の書き取り。
日本事情・日本理解	教科書で出てきた日本文化の説明、日本語学校の活動の紹介。

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標

話す（やりとり）	既習文型を使って簡単な日常会話ができる。
話す（発表）	既習文型を使って簡単な文で表現や発表ができる。
聞く	既習文型を使った簡単な日常会話が聞き取れる。
読む	簡単な文なら、必要な情報を読み取って理解できる。
書く	ひらがな、カタカナや、簡単な漢字が書ける。自分の事や身近な話題、問題の答えが書ける。
日本事情・日本理解	日本の習慣・文化について基本的なことが理解できる。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	特になし
話す（発表）	特になし
聞く	特になし
読む	特になし
書く	特になし
日本事情・日本理解	特になし

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	最初は自己紹介もできないレベルであったが、既習文型を使った簡単なQAはできるようになった。
話す（発表）	簡単な文であれば、自分の国や地域、家族について作文し、発表することができるようになった。
聞く	既習文型を使った簡単なQAを聞き取れるようになった。意味が分からないときは、聞き返しもうできるようになった。
読む	最初はひらがな、カタカナも読めないレベルから、簡単な文を読めるようになった。
書く	最初はひらがな、カタカナもかけないレベルから、簡単な文を書けるようになった。
日本事情・日本理解	日本の習慣、文化について基本的なことを理解できた。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	適切なカリキュラムの設定
書く	適切なカリキュラムの設定
日本事情・日本理解	適切なカリキュラムの設定

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	タイムラグが生じてしまい、テンポがよい会話練習ができなかったり、コーラスが揃わないことがある。 音声トラブルや周囲の雑音で声が途切れる、または聞こえないことが度々あり、一時的に授業から離脱する学生もいた。 カメラをオンにすると繋がりにくくなるため、オフにしている学生もあり、表情が見えない状況でのやり取りとなることもあった。 国の環境もあると思うが、Wi-Fiの貸与等も考慮できれば良いと思う。
話す（発表）	発表の前に作文をさせる必要があったが、作文に時間がかかってしまったので、発表内容の作成については、宿題にする工夫が必要であった。 ネットワークが不安定だと、発表の途中で聞き取れないことがあった。
聞く	全員のネットワークの調子が良いときでないと、公平な授業ができない。 みんなの日本語の電子版を使用したけど、問題の聴解部分をするには、別途、教師と学生が全員分書籍を購入する必要がある、CDを使用できなかった。本冊の電子版でそのまま音声流れるようになるとより効果的な学習ができると思う。
読む	読解は読む時間を与えなければならず、その時間がもったいない。宿題にしていれば効率よくできるかもしれない。
書く	海外で日本語を学んでいる学生は、現地で日本語を見たり聞いたりする機会が少なく、特に漢字は学習するモチベーションが上がりにくい。長期的に考えれば、メールなどでのやりとりテスト等に対応することが必要。 画面越しだと、学習者がノートに書いた文字を確認することが難しく、チェックに時間がかかってしまい、細かい文字指導ができない。 文字指導用のオンデマンド動画だけだと、書き方のスピードが速過ぎるので、一度見せた後、ホワイトボードを使って、ゆっくり何度も書いてみせる必要があった。
日本事情・日本理解	みんなの日本語だけでは、日本事情・日本理解については不十分であるため、他に教材を準備する必要があると思う。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	日本語教師研修による、Zoomの操作、設定方法。
話す（発表）	日本語教師研修による、Zoomの操作、設定方法。
聞く	日本語教師研修による、Zoomの操作、設定方法。
読む	特になし
書く	特になし
日本事情・日本理解	特になし

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

029-1：SCG日本語学校

授業ID	日本語教育機関・モデル名											事前テスト 事後テスト 成長幅 (単 正答率 (生 正答率 (生 : ポイン テスト満点 徒合計) 徒合計) ト)									
		レ ベ ル					モ デ ル					事前テスト 事前の点数 (生徒合 計)		事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)							
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	回答者数	回答者数	事後ー事前					
029-1	SCG日本語学校_モデル外 (A1,A2)_10/11-1/31	○	○										○	4,012	75	4,178	62	100	53.5%	67.4%	14

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	モデル外
区分	ハイフレックス型
1.授業のレベル	A1
2.授業のコース	進学
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/11/1
3-2.授業の実施期間（終了）	2023/1/31
4.授業の学習時間	50
5.学生の授業への参加率	85
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	男性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	日本語講師養成講座420時間
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	日本語教育能力検定試験
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	男性
6-3.担当された先生③使用言語	日本語
6-3.担当された先生③スキル	日本語教育能力検定試験
7.実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	エレコム ヘッドセット マイクアーム付き（HS-EP15UBK）
10.使用した映像（カメラ）機	WEBカメラ E M E T C 9 5 0
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	パワーポイントの教材。文化庁が配布しているWEB教材（つながるひろがるにほんごでのくらし）。
12.撮影をした場所	普通の教室

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	自分に向けられた、注意深く、ゆっくり表現された質問や説明が理解できる。短い簡潔な指示を理解できる。
話す（発表）	人物や場所について、単純な字句を並べて、述べることができる。
聞く	意味がとれるように間を長くおきながら、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる。
読む	非常に短い簡単なテキストを、身近な名前、単語や基本的な表現と一つずつ取りあげて、必要であれば読み直したりしながら、一文一節ずつ理解することができる。
書く	簡単な表現や文を単独に書くことができる。
日本事情・日本理解	新幹線や飛行機などの切符を見て、出発時刻や座席番号など、ごく基本的な情報を探し出すことができる。 店で商品の値札などを見て、値段を確認することができる。 非常に短い簡単なテキストを、身近な名前、単語や基本的な表現と一つずつ取りあげて、必要であれば読み直したりしながら、一文一節ずつ理解することができる。 ファーストフード店やレストランなどでメニューを見て、自分が知っている食べ物や飲み物の名前など、いくつかの情報を理解することができる。 郵便物やメールなどの宛名を見て、自分宛かどうかを確認することができる。 人物や場所について、単純な字句を並べて、述べることができる。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）
読む	オンライン（双方向のみ）
書く	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	eラーニングで自学したことを、授業で講師にアウトプットすることにより習得具合のチェックと同時に、習得していない項目を確認する。 自学自習時に語彙、文法を勉強し、授業中は会話をメインとした内容としており、会話能力の向上も目的としている。 定期的に実力の把握を行うため、スマホで受講可能なアスク出版のJLPTハーフ模試も提供。 弱点を数値化し、eラーニングで苦手分野の復習を行わせ日本語能力の向上を目指す。 生徒は現地の日本語学校の教室へ行き、教室のスクリーンに日本人講師とスライドの共有画面を写して、教室内のTAの先生のサポートのもと実施した。学生の中に英語が分かる生徒もいるため、必要に応じて英語を使用しての指導を行った。また、スライドの中にも英語での表記も入れながら、生徒がより理解できるよう工夫した。さらに、現地人TAの先生が母国語で通訳をして生徒の理解を深めた。
----------	---

各日本語教育機関の実施結果

話す（発表）	eラーニングで自学したことを、授業で講師にアウトプットすることにより習得具合のチェックと同時に、習得していない項目を確認する。 自学自習時に語彙、文法を勉強し、授業中は会話をメインとした内容としており、会話能力の向上も目的としている。 定期的に実力の把握を行うため、スマホで受講可能なアスク出版のJLPTハーフ模試も提供。 弱点を数値化し、eラーニングで苦手分野の復習を行わせ日本語能力の向上を目指す。 生徒は現地の日本語学校の教室へ行き、教室のスクリーンに日本人講師とスライドの共有画面を写して、教室内のTAの先生のサポートのもと実施した。学生の中に英語が分かる生徒もいるため、必要に応じて英語を使用しての指導を行った。また、スライドの中にも英語での表記も入れながら、生徒がより理解できるよう工夫した。さらに、現地人TAの先生が母国語で通訳をして生徒の理解を深めた。
聞く	eラーニングで自学したことを、授業で講師にアウトプットすることにより習得具合のチェックと同時に、習得していない項目を確認する。 自学自習時に語彙、文法を勉強し、授業中は会話をメインとした内容としており、会話能力の向上も目的としている。 定期的に実力の把握を行うため、スマホで受講可能なアスク出版のJLPTハーフ模試も提供。 弱点を数値化し、eラーニングで苦手分野の復習を行わせ日本語能力の向上を目指す。 生徒は現地の日本語学校の教室へ行き、教室のスクリーンに日本人講師とスライドの共有画面を写して、教室内のTAの先生のサポートのもと実施した。学生の中に英語が分かる生徒もいるため、必要に応じて英語を使用しての指導を行った。また、スライドの中にも英語での表記も入れながら、生徒がより理解できるよう工夫した。さらに、現地人TAの先生が母国語で通訳をして生徒の理解を深めた。
読む	eラーニングで自学したことを、授業で講師にアウトプットすることにより習得具合のチェックと同時に、習得していない項目を確認する。 自学自習時に語彙、文法を勉強し、授業中は会話をメインとした内容としており、会話能力の向上も目的としている。 定期的に実力の把握を行うため、スマホで受講可能なアスク出版のJLPTハーフ模試も提供。 弱点を数値化し、eラーニングで苦手分野の復習を行わせ日本語能力の向上を目指す。 生徒は現地の日本語学校の教室へ行き、教室のスクリーンに日本人講師とスライドの共有画面を写して、教室内のTAの先生のサポートのもと実施した。学生の中に英語が分かる生徒もいるため、必要に応じて英語を使用しての指導を行った。また、スライドの中にも英語での表記も入れながら、生徒がより理解できるよう工夫した。さらに、現地人TAの先生が母国語で通訳をして生徒の理解を深めた。
書く	eラーニングで自学したことを、授業で講師にアウトプットすることにより習得具合のチェックと同時に、習得していない項目を確認する。 自学自習時に語彙、文法を勉強し、授業中は会話をメインとした内容としており、会話能力の向上も目的としている。 定期的に実力の把握を行うため、スマホで受講可能なアスク出版のJLPTハーフ模試も提供。 弱点を数値化し、eラーニングで苦手分野の復習を行わせ日本語能力の向上を目指す。 生徒は現地の日本語学校の教室へ行き、教室のスクリーンに日本人講師とスライドの共有画面を写して、教室内のTAの先生のサポートのもと実施した。学生の中に英語が分かる生徒もいるため、必要に応じて英語を使用しての指導を行った。また、スライドの中にも英語での表記も入れながら、生徒がより理解できるよう工夫した。さらに、現地人TAの先生が母国語で通訳をして生徒の理解を深めた。
日本事情・日本理解	eラーニングで自学したことを、授業で講師にアウトプットすることにより習得具合のチェックと同時に、習得していない項目を確認する。 自学自習時に語彙、文法を勉強し、授業中は会話をメインとした内容としており、会話能力の向上も目的としている。 定期的に実力の把握を行うため、スマホで受講可能なアスク出版のJLPTハーフ模試も提供。 弱点を数値化し、eラーニングで苦手分野の復習を行わせ日本語能力の向上を目指す。 生徒は現地の日本語学校の教室へ行き、教室のスクリーンに日本人講師とスライドの共有画面を写して、教室内のTAの先生のサポートのもと実施した。学生の中に英語が分かる生徒もいるため、必要に応じて英語を使用しての指導を行った。また、スライドの中にも英語での表記も入れながら、生徒がより理解できるよう工夫した。さらに、現地人TAの先生が母国語で通訳をして生徒の理解を深めた。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	アスク出版TRYを参考に、講師がパワーポイントでオリジナル教材を作成
		レベル	A1
		内容	eTRY学習内容のスライドを使用し補足説明を行うと同時に、定着具合を学生からアウトプットさせ確認。
	使用した教材②	名称	アスク出版eTRY（eラーニング）
		レベル	A1
		内容	スマホ対応で、いつでもどこでも学習ができ、日本語能力試験に合わせた問題で『読む・聞く・書く・話す』総合力育成を行う。反復学習による定着が目的。
話す（発表）	使用した教材①	名称	アスク出版TRYを参考に、講師がパワーポイントでオリジナル教材を作成
		レベル	A1
		内容	eTRY学習内容のスライドを使用し補足説明を行うと同時に、定着具合を学生からアウトプットさせ確認。
	使用した教材②	名称	アスク出版eTRY（eラーニング）
		レベル	A1
		内容	スマホ対応で、いつでもどこでも学習ができ、日本語能力試験に合わせた問題で『読む・聞く・書く・話す』総合力育成を行う。反復学習による定着が目的。
聞く	使用した教材①	名称	アスク出版TRYを参考に、講師がパワーポイントでオリジナル教材を作成
		レベル	A1
		内容	eTRY学習内容のスライドを使用し補足説明を行うと同時に、定着具合を学生からアウトプットさせ確認。
	使用した教材②	名称	アスク出版eTRY（eラーニング）
		レベル	A1
		内容	スマホ対応で、いつでもどこでも学習ができ、日本語能力試験に合わせた問題で『読む・聞く・書く・話す』総合力育成を行う。反復学習による定着が目的。
読む	使用した教材①	名称	アスク出版TRYを参考に、講師がパワーポイントでオリジナル教材を作成
		レベル	A1
		内容	eTRY学習内容のスライドを使用し補足説明を行うと同時に、定着具合を学生からアウトプットさせ確認。
	使用した教材②	名称	アスク出版eTRY（eラーニング）
		レベル	A1
		内容	スマホ対応で、いつでもどこでも学習ができ、日本語能力試験に合わせた問題で『読む・聞く・書く・話す』総合力育成を行う。反復学習による定着が目的。
書く	使用した教材①	名称	アスク出版TRYを参考に、講師がパワーポイントでオリジナル教材を作成
		レベル	A1
		内容	eTRY学習内容のスライドを使用し補足説明を行うと同時に、定着具合を学生からアウトプットさせ確認。
	使用した教材②	名称	アスク出版eTRY（eラーニング）
		レベル	A1
		内容	スマホ対応で、いつでもどこでも学習ができ、日本語能力試験に合わせた問題で『読む・聞く・書く・話す』総合力育成を行う。反復学習による定着が目的。
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	つながるひろがるにほんごでのくらし
		レベル	A1
		内容	動画を使用しリアルな場面を見ながらの語彙、文法説明を行うことにより、効率よく実践的な生活日本語の教育を行った。

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	・実証事業用として近畿ツーリスト様より配布されたレベルチェックテスト ・アスク出版 オンラインハーフ模試
話す（発表）	・実証事業用として近畿ツーリスト様より配布されたレベルチェックテスト ・アスク出版 オンラインハーフ模試
聞く	・実証事業用として近畿ツーリスト様より配布されたレベルチェックテスト ・アスク出版 オンラインハーフ模試
読む	・実証事業用として近畿ツーリスト様より配布されたレベルチェックテスト ・アスク出版 オンラインハーフ模試
書く	・実証事業用として近畿ツーリスト様より配布されたレベルチェックテスト ・アスク出版 オンラインハーフ模試
日本事情・日本理解	・実証事業用として近畿ツーリスト様より配布されたレベルチェックテスト ・アスク出版 オンラインハーフ模試

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標

話す（やりとり）	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。
話す（発表）	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。
聞く	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。
読む	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。
書く	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。
日本事情・日本理解	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	みんなのCan-doサイトを使用し、レベル、カテゴリー、トピックを選択し、活動ごとに設定。 設定された目標に合う内容のCan-doを選択。
話す（発表）	みんなのCan-doサイトを使用し、レベル、カテゴリー、トピックを選択し、活動ごとに設定。 設定された目標に合う内容のCan-doを選択。
聞く	みんなのCan-doサイトを使用し、レベル、カテゴリー、トピックを選択し、活動ごとに設定。 設定された目標に合う内容のCan-doを選択。
読む	みんなのCan-doサイトを使用し、レベル、カテゴリー、トピックを選択し、活動ごとに設定。 設定された目標に合う内容のCan-doを選択。
書く	みんなのCan-doサイトを使用し、レベル、カテゴリー、トピックを選択し、活動ごとに設定。 設定された目標に合う内容のCan-doを選択。
日本事情・日本理解	みんなのCan-doサイトを使用し、レベル、カテゴリー、トピックを選択し、活動ごとに設定。 設定された目標に合う内容のCan-doを選択。

各日本語教育機関の実施結果

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	実証中のため結果が出ていません。
話す（発表）	実証中のため結果が出ていません。
聞く	実証中のため結果が出ていません。
読む	実証中のため結果が出ていません。
書く	実証中のため結果が出ていません。
日本事情・日本理解	実証中のため結果が出ていません。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	ネットワーク環境の整備
書く	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	・ネットワーク環境の整備 現地学校で受講することにより、自宅にネット環境が整っていない学生に対しても対応できました。 ・テストの実施やその他指示 現地人TAの協力のもと、現地学校で授業を行うことによりオンラインテスト実施やその他事象事業に関する細かい指示を迅速かつ的確に学生に周知することができた。
話す（発表）	・ネットワーク環境の整備 現地学校で受講することにより、自宅にネット環境が整っていない学生に対しても対応できました。 ・テストの実施やその他指示 現地人TAの協力のもと、現地学校で授業を行うことによりオンラインテスト実施やその他事象事業に関する細かい指示を迅速かつ的確に学生に周知することができた。
聞く	・ネットワーク環境の整備 現地学校で受講することにより、自宅にネット環境が整っていない学生に対しても対応できました。 ・テストの実施やその他指示 現地人TAの協力のもと、現地学校で授業を行うことによりオンラインテスト実施やその他事象事業に関する細かい指示を迅速かつ的確に学生に周知することができた。
読む	・ネットワーク環境の整備 現地学校で受講することにより、自宅にネット環境が整っていない学生に対しても対応できました。 ・テストの実施やその他指示 現地人TAの協力のもと、現地学校で授業を行うことによりオンラインテスト実施やその他事象事業に関する細かい指示を迅速かつ的確に学生に周知することができた。
書く	・ネットワーク環境の整備 現地学校で受講することにより、自宅にネット環境が整っていない学生に対しても対応できました。 ・テストの実施やその他指示 現地人TAの協力のもと、現地学校で授業を行うことによりオンラインテスト実施やその他事象事業に関する細かい指示を迅速かつ的確に学生に周知することができた。
日本事情・日本理解	・ネットワーク環境の整備 現地学校で受講することにより、自宅にネット環境が整っていない学生に対しても対応できました。 ・テストの実施やその他指示 現地人TAの協力のもと、現地学校で授業を行うことによりオンラインテスト実施やその他事象事業に関する細かい指示を迅速かつ的確に学生に周知することができた。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	生徒は現地の日本語学校の教室へ行き、教室のスクリーンに日本人講師とスライドの共有画面を写して、教室内のTAの先生のサポートのもと実施した。学生の中に英語が分かる生徒もいるため、必要に応じて英語を使用しての指導を行った。また、スライドの中にも英語での表記も入れながら、生徒がより理解できるよう工夫した。さらに、現地人TAの先生が母国語で通訳をして生徒の理解を深めた。
話す（発表）	生徒は現地の日本語学校の教室へ行き、教室のスクリーンに日本人講師とスライドの共有画面を写して、教室内のTAの先生のサポートのもと実施した。学生の中に英語が分かる生徒もいるため、必要に応じて英語を使用しての指導を行った。また、スライドの中にも英語での表記も入れながら、生徒がより理解できるよう工夫した。さらに、現地人TAの先生が母国語で通訳をして生徒の理解を深めた。
聞く	生徒は現地の日本語学校の教室へ行き、教室のスクリーンに日本人講師とスライドの共有画面を写して、教室内のTAの先生のサポートのもと実施した。学生の中に英語が分かる生徒もいるため、必要に応じて英語を使用しての指導を行った。また、スライドの中にも英語での表記も入れながら、生徒がより理解できるよう工夫した。さらに、現地人TAの先生が母国語で通訳をして生徒の理解を深めた。
読む	生徒は現地の日本語学校の教室へ行き、教室のスクリーンに日本人講師とスライドの共有画面を写して、教室内のTAの先生のサポートのもと実施した。学生の中に英語が分かる生徒もいるため、必要に応じて英語を使用しての指導を行った。また、スライドの中にも英語での表記も入れながら、生徒がより理解できるよう工夫した。さらに、現地人TAの先生が母国語で通訳をして生徒の理解を深めた。
書く	生徒は現地の日本語学校の教室へ行き、教室のスクリーンに日本人講師とスライドの共有画面を写して、教室内のTAの先生のサポートのもと実施した。学生の中に英語が分かる生徒もいるため、必要に応じて英語を使用しての指導を行った。また、スライドの中にも英語での表記も入れながら、生徒がより理解できるよう工夫した。さらに、現地人TAの先生が母国語で通訳をして生徒の理解を深めた。
日本事情・日本理解	生徒は現地の日本語学校の教室へ行き、教室のスクリーンに日本人講師とスライドの共有画面を写して、教室内のTAの先生のサポートのもと実施した。学生の中に英語が分かる生徒もいるため、必要に応じて英語を使用しての指導を行った。また、スライドの中にも英語での表記も入れながら、生徒がより理解できるよう工夫した。さらに、現地人TAの先生が母国語で通訳をして生徒の理解を深めた。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

031-1：Sun-A国際学院大江戸校

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レベ ル												モ デ ル		モ デ ル 外		事前テスト 事前の点数 (生徒合 計)		事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)		テスト満点		事前テスト 正答率(生 徒合計)	事後テスト 正答率(生 徒合計)	成長幅(単 位:ポイン ト)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
		A1			A2			B1			B2			C			1			2			3			4			5			1			2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル4 (3か月)
区分	ハイフレックス型
1.授業のレベル	A2
2.授業のコース	進学
3-1.授業の実施期間 (開始)	2022/10/5
3-2.授業の実施期間 (終了)	2022/12/23
4.授業の学習時間	156
5.学生の授業への参加率	96
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	男性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	日本語講師資格
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	日本語講師資格
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	女性
6-3.担当された先生③使用言語	日本語
6-3.担当された先生③スキル	日本語講師資格
7.実施した言語活動	話す (やりとり) 話す (発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	Logicool
10.使用した映像 (カメラ) 機	PC (LAVIE) 付属のカメラ、iPad付属のカメラ、Logicool
11.使用したファイル形式 (パワーポイント、PDF等)	パワーポイント、PDFの教材を使用
12.撮影をした場所	普段の教室

各日本語教育機関の実施結果

A2

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	日常生活において、一般的な会話（挨拶、紹介、説明など）で受け答えができる。
話す（発表）	自己の文化や経験、予定、目標などを伝えることができる。
聞く	日常生活において、基本的な話が理解できる。
読む	ふり仮名があれば、日常的な文章が読めて理解できる。
書く	ひらがなやカタカナ、漢字を用いて日常的な文章が書ける。
日本事情・日本理解	日本の文化や常識について理解を図る。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	ハイフレックス型
話す（発表）	ハイフレックス型
聞く	ハイフレックス型
読む	ハイフレックス型
書く	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	ハイフレックス型

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	質問等も常に、直接法（日本語のみでの授業）で指導した。
話す（発表）	会話練習の際、学習者同士の共通言語として日本語が活用され、円滑なコミュニケーションが図れた。
聞く	自国の文化を日本語でどのように表現するか考えさせ、発表の良し悪しで改善点も気付かせることができた。
読む	「みんなの日本語」の課末聴解問題、ディクテーションを行った。
書く	教科書の短文や会話文を音読させ、指導した。
日本事情・日本理解	漢字学習、授業中のプリント、宿題で書く練習を行った。
	授業での会話練習や作文の宿題等で、日本文化はもちろん自国の文化にも触れた。

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ第二版本冊
		レベル	A1
		内容	各課のページ（練習C）
	使用した教材②	名称	みんなの日本語初級Ⅱ第二版本冊
		レベル	A2
		内容	各課のページ（練習C）
話す（発表）	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ第二版本冊
		レベル	A1
		内容	各課のページ（会話）
	使用した教材②	名称	みんなの日本語初級Ⅱ第二版本冊
		レベル	A2
		内容	各課のページ（会話）
聞く	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ第二版本冊
		レベル	A1
		内容	各課のページ（課末問題）
	使用した教材②	名称	みんなの日本語初級Ⅱ第二版本冊
		レベル	A2
		内容	各課のページ（課末問題）
読む	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ第二版本冊
		レベル	A1
		内容	各課のページ（練習A・B・C）（会話）
	使用した教材②	名称	みんなの日本語初級Ⅱ第二版本冊
		レベル	A2
		内容	各課のページ（練習A・B・C）（会話）
	使用した教材③	名称	1日15分の漢字練習初級（上）
		レベル	A1 A2
		内容	各ページの短文

各日本語教育機関の実施結果

書く	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ 第二版標準問題集
		レベル	A1
		内容	各課のページ
	使用した教材②	名称	みんなの日本語初級Ⅱ 第二版標準問題集
		レベル	A2
		内容	各課のページ
日本事情・日本理解	使用した教材③	名称	1日15分の漢字練習初級（上）
		レベル	A1 A2
		内容	各ページの見出し
	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ 第二版本冊
		レベル	A1
		内容	各課のページ
	使用した教材②	名称	みんなの日本語初級Ⅱ 第二版本冊
		レベル	A2
		内容	各課のページ

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	当日の授業内容をもとに、授業の進捗状況報告会議にて取りまとめた。
話す（発表）	当日の授業内容をもとに、授業の進捗状況報告会議にて取りまとめた。
聞く	当日の授業内容をもとに、授業の進捗状況報告会議にて取りまとめた。
読む	当日の授業内容をもとに、授業の進捗状況報告会議にて取りまとめた。
書く	当日の授業内容をもとに、授業の進捗状況報告会議にて取りまとめた。
日本事情・日本理解	また、宿題の添削を行い、理解度の確認もした。 当日の授業内容をもとに、授業の進捗状況報告会議にて取りまとめた。

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	授業の進捗状況報告会議で、各担当教員からの意見をもとに目標の達成度合を確認した。
話す（発表）	ラーニングボックスのクイズ正答率、宿題を通して目標の達成度合を確認した。 授業の進捗状況報告会議で、各担当教員からの意見をもとに目標の達成度合を確認した。
聞く	授業の進捗状況報告会議で、各担当教員からの意見をもとに目標の達成度合を確認した。
読む	授業の進捗状況報告会議で、各担当教員からの意見をもとに目標の達成度合を確認した。
書く	ラーニングボックスのクイズ正答率、宿題を通して目標の達成度合を確認した。 授業の進捗状況報告会議で、各担当教員からの意見をもとに目標の達成度合を確認した。
日本事情・日本理解	授業の進捗状況報告会議で、各担当教員からの意見をもとに目標の達成度合を確認した。

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	クラスの学習者と同様に指標を設定した。
話す（発表）	また、会話で使った語彙のオリジナリティにも着目した。 クラスの学習者と同様に指標を設定した。
聞く	また、発表のオリジナリティにも着目した。
読む	クラスの学習者と同様に指標を設定した。
書く	クラスの学習者と同様に指標を設定した。
日本事情・日本理解	また、クイズや宿題での誤字脱字の頻度も指標の一つとした。 クラスの学習者と同様に指標を設定した。

各日本語教育機関の実施結果

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	様々な国籍のクラスメイトと日本語をコミュニケーションツールとして会話することで、教室授業のような臨場感が味わえた。
話す（発表）	自分だけが違う国籍という中で、聞く人間がより関心を示すテーマを考え話すことは、日本語のみならずコミュニケーション能力の高められた。
聞く	リスニングは母国ではなかなか伸ばせない分野である。よって、今回のオンライン授業は貴重な機会となった。
読む	音読の際、教師から発音の指導が受けられ、日本語能力の向上に繋がった。
書く	クイズや宿題の添削を通して、日本語を文字として捉え、正しく習得できた。
日本事情・日本理解	日本文化に対する好奇心や母国文化の紹介など、もっと自由に交流できる方法を今後も模索していきたい。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	ネットワーク環境の整備
書く	講師のオンライン教育ノウハウの不足
日本事情・日本理解	適切なカリキュラムの設定

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	音声重視する分野故に、ネット環境の整備が最優先だと感じた。
話す（発表）	音声重視する分野故に、ネット環境の整備が最優先だと感じた。
聞く	音声重視する分野故に、ネット環境の整備が最優先だと感じた。
読む	音声重視する分野故に、ネット環境の整備が最優先だと感じた。
書く	書く練習をより効率的且つ正確に行うため、我々日本語教師もオンライン教育に対して積極的になるべきだと感じた。
日本事情・日本理解	各課を機械的に進める授業の他に、「日本文化を感じられる」体験や見学、ディスカッションの機会がもっと必要だと感じた。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	Zoomを利用した会話練習を毎回の授業に必ず取り入れた。
話す（発表）	Zoomを通して、オンライン側と教室側で相互に発表させた。これにより、互いの異文化理解度が増した。
聞く	聴解教材を使用する際、トラブルを避けるため、事前に動作確認テストをした。
読む	音読の際、オンライン受講者を偏りなく当て、発音の指摘を行った。
書く	授業後の宿題やクイズの提出を義務付け、添削を通して誤字脱字を指摘した。
日本事情・日本理解	授業でできる限り多くの日本文化、風習、生活様式等を取り入れることで、日本の教室で授業を受けているような臨場感を出すよう心掛けた。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

031-2 : Sun-A国際学院大江戸校

授業ID	日本語教育機関・モデル名													事前テスト				事後テスト				テスト満点				事前テスト 事後テスト 成長幅(単 正答率(生 正答率(生 位:ポイント) 徒合計) 徒合計)	
		レ ベル						モ デル			モ デル 外	事前テスト 事前の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)		回答者数	事後の点数 (生徒合 計)	回答者数	5	100	24.4%	54.8%	30					
			A1	A2	B1	B2	C		1	2			3	4									5	1	2		
031-2	Sun-A国際学院大江戸校_モデル4 (A1)_10/5-12-23	○								○			122	5	274	5	100	24.4%	54.8%	30							

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル4 (3か月)
区分	ハイフレックス型
1.授業のレベル	A1
2.授業のコース	進学
3-1.授業の実施期間 (開始)	2022/10/5
3-2.授業の実施期間 (終了)	2022/12/23
4.授業の学習時間	156
5.学生の授業への参加率	94
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	男性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	特になし
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	特になし
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	女性
6-3.担当された先生③使用言語	日本語
6-3.担当された先生③スキル	特になし
7.実施した言語活動	話す (やりとり) 話す (発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	Logicool
10.使用した映像 (カメラ) 機	PC (LAVIE) 付属のカメラ、iPad付属のカメラ、Logicool
11.使用したファイル形式 (パワーポイント、PDF等)	パワーポイント、PDFの教材を使用
12.撮影をした場所	普段の教室

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	日常生活において、基本的な会話（挨拶、紹介など）で受け答えができる。
話す（発表）	自国の文化や経験などを伝えることができる。
聞く	日常生活において、基本的な会話ができる。
読む	ふり仮名があれば、基本的な文章が読めて理解できる。
書く	ひらがなやカタカナ、漢字を用いて基本的な文章が書ける。
日本事情・日本理解	日本の文化や常識について理解を図る。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	ハイフレックス型
話す（発表）	ハイフレックス型
聞く	ハイフレックス型
読む	ハイフレックス型
書く	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	ハイフレックス型

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	質問等も常に、直接法（日本語のみでの授業）で指導した。
話す（発表）	会話練習の際、学習者同士の共通言語として日本語が活用され、円滑なコミュニケーションが図れた。
聞く	自国の文化を日本語でどのように表現するか考えさせ、発表の良し悪しで改善点も気付かせることができた。
読む	「みんなの日本語」の課末聴解問題、ディクテーションを行った。
書く	教科書の短文や会話文を音読させ、指導した。
日本事情・日本理解	漢字学習、授業中のプリント、宿題で書く練習を行った。
	授業での会話練習や作文の宿題等で、日本文化はもちろん自国の文化にも触れた。

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ第二版本冊
		レベル	A1
		内容	各課のページ（練習C）
話す（発表）	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ第二版本冊
		レベル	A1
		内容	各課のページ（会話）
聞く	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ第二版本冊
		レベル	A1
		内容	各課のページ（課末問題）
読む	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ第二版本冊
		レベル	A1
		内容	各課のページ（練習A・B・C）（会話）
	使用した教材②	名称	1日15分の漢字練習初級（上）
		レベル	A1
		内容	各ページの短文
書く	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ第二版標準問題集
		レベル	A1
		内容	各課のページ
	使用した教材②	名称	1日15分の漢字練習初級（上）
		レベル	A1
		内容	各ページの見出し
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ第二版本冊
		レベル	A1
		内容	各課のページ

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	当日の授業内容をもとに、授業の進捗状況報告会議にて取りまとめた。
話す（発表）	当日の授業内容をもとに、授業の進捗状況報告会議にて取りまとめた。
聞く	当日の授業内容をもとに、授業の進捗状況報告会議にて取りまとめた。
読む	当日の授業内容をもとに、授業の進捗状況報告会議にて取りまとめた。
書く	当日の授業内容をもとに、授業の進捗状況報告会議にて取りまとめた。
日本事情・日本理解	また、宿題の添削を行い、理解度の確認もした。 当日の授業内容をもとに、授業の進捗状況報告会議にて取りまとめた。

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	授業の進捗状況報告会議で、各担当教員からの意見をもとに目標の達成度合を確認した。 ラーニングボックスのクイズ正答率、宿題を通して目標の達成度合いを確認した。
話す（発表）	授業の進捗状況報告会議で、各担当教員からの意見をもとに目標の達成度合を確認した。
聞く	授業の進捗状況報告会議で、各担当教員からの意見をもとに目標の達成度合を確認した。
読む	授業の進捗状況報告会議で、各担当教員からの意見をもとに目標の達成度合を確認した。 ラーニングボックスのクイズ正答率、宿題を通して目標の達成度合いを確認した。
書く	授業の進捗状況報告会議で、各担当教員からの意見をもとに目標の達成度合を確認した。 ラーニングボックスのクイズ正答率、宿題を通して目標の達成度合いを確認した。
日本事情・日本理解	授業の進捗状況報告会議で、各担当教員からの意見をもとに目標の達成度合を確認した。

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	クラスの学習者と同様に指標を設定した。 また、会話で使用した語彙のオリジナリティにも着目した。
話す（発表）	クラスの学習者と同様に指標を設定した。
聞く	また、発表のオリジナリティにも着目した。
読む	クラスの学習者と同様に指標を設定した。
書く	クラスの学習者と同様に指標を設定した。
日本事情・日本理解	また、クイズや宿題での誤字脱字の頻度も指標の一つとした。 クラスの学習者と同様に指標を設定した。

各日本語教育機関の実施結果

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	様々な国籍のクラスメイトと日本語をコミュニケーションツールとして会話することで、教室授業のような臨場感が味わえた。
話す（発表）	聞く人間がより関心を示すテーマを考え話すことは、日本語のみならずコミュニケーション能力も高められた。
聞く	リスニングは母国ではなかなか伸ばせない分野である。よって、今回のオンライン授業は貴重な機会となった。
読む	音読の際、教師から発音の指導が受けられ、日本語能力の向上に繋がった。
書く	クイズや宿題の添削を通して、日本語を文字として捉え、正しく習得できた。
日本事情・日本理解	日本文化に対する好奇心や母国文化の紹介など、もっと自由に交流できる方法を今後も模索していきたい。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	ネットワーク環境の整備
書く	講師のオンライン教育ノウハウの不足
日本事情・日本理解	適切なカリキュラムの設定

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	音声重視する分野故に、ネット環境の整備が最優先だと感じた。
話す（発表）	音声重視する分野故に、ネット環境の整備が最優先だと感じた。
聞く	音声重視する分野故に、ネット環境の整備が最優先だと感じた。
読む	音声重視する分野故に、ネット環境の整備が最優先だと感じた。
書く	書く練習をより効率的且つ正確に行うため、我々日本語教師もオンライン教育に対して積極的になるべきだと感じた。
日本事情・日本理解	各課を機械的に進める授業の他に、「日本文化を感じられる」体験や見学、ディスカッションの機会がもっと必要だと感じた。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	Zoomを利用した会話練習を毎回の授業に必ず取り入れた。
話す（発表）	Zoomを通して、オンライン側と教室側で相互に発表させた。これにより、互いの異文化理解度が増した。
聞く	聴解教材を使用する際、トラブルを避けるため、事前に動作確認テストをした。
読む	音読の際、オンライン受講者を偏りなく当て、発音の指摘を行った。
書く	授業後の宿題やクイズの提出を義務付け、添削を通して誤字脱字を指摘した。
日本事情・日本理解	授業でできる限り多くの日本文化、風習、生活様式等を取り入れることで、日本の教室で授業を受けているような臨場感を出すよう心掛けた。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

032-1：ヨシダ日本語学院

授業ID	日本語教育機関・モデル名													事前テスト								事後テスト								テスト満点				事前テスト 正答率（生徒合計）		事後テスト 正答率（生徒合計）		成長幅（単 正答率（生徒 合計）：ポイント）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
		レ ベ ル			モ デ ル					モ デ ル 外				事前の点数 （生徒合計）				事後の点数 （生徒合計）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル4（3か月）
区分	ハイフレックス型
1.授業のレベル	A1
2.授業のコース	進学
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/10/11
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/12/21
4.授業の学習時間	150
5.学生の授業への参加率	87
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	特になし
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	特になし
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	女性
6-3.担当された先生③使用言語	日本語
6-3.担当された先生③スキル	特になし
6-4.担当された先生④居住国	日本
6-4.担当された先生④性別	女性
6-4.担当された先生④使用言語	日本語
6-4.担当された先生④スキル	特になし
6-5.担当された先生⑤居住国	日本
6-5.担当された先生⑤性別	女性
6-5.担当された先生⑤使用言語	日本語
6-5.担当された先生⑤スキル	特になし
7.実施した言語活動	話す（やりとり）聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	Anker
10.使用した映像（カメラ）機	logicool
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	PowerPoint、PDF、MP3、MP4
12.撮影をした場所	普通の教室

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	・自己紹介をはじめとし、初対面の相手に挨拶ができ、自分の身分等について話すことができる。 ・日常生活の基本的な行為をはじめ、趣味や休日の過ごし方などについて述べるができる。
聞く	・話し手の基本的な情報（名前、国、所属、住んでいるところ等）を聞き取ることができる。 ・日常生活における基本的な行為をはじめとした質問を聞き取ることができ、理解できる。
読む	・短い文章（200字程度）の内容が理解できる。
書く	・ひらがな、カタカナを書くことができる。 ・50字程度の漢字を書くことができる。 ・漢字かな交じり文で短い文章を産出できる。
日本事情・日本理解	・日本での社会生活をスタートさせるにあたり、必要な知識（喫煙マナー、ごみ分別のルール、交通ルールなど）について知る。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンデマンド型ハイフレックス型
聞く	オンデマンド型ハイフレックス型
読む	ハイフレックス型
書く	オンデマンド型ハイフレックス型
日本事情・日本理解	ハイフレックス型

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	上記目標に沿った授業内容を実施。 教員はITリテラシーのありなしではなく、意欲と興味のある教員を配置した。
聞く	上記目標に沿った授業内容を実施。 教員はITリテラシーのありなしではなく、意欲と興味のある教員を配置した。
読む	上記目標に沿った授業内容を実施。 教員はITリテラシーのありなしではなく、意欲と興味のある教員を配置した。
書く	上記目標に沿った授業内容を実施。 教員はITリテラシーのありなしではなく、意欲と興味のある教員を配置した。
日本事情・日本理解	上記目標に沿った課外授業として、「初めての生活オリエンテーション」を実施。またオンラインで都庁見学も実施し、教室では話すことのない他クラスの学習者とも交流を持った。 教員はITリテラシーのありなしではなく、意欲と興味のある教員を配置した。

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ第2版本冊
		レベル	A1
		内容	「練習B」,「練習C」,「会話」に沿った会話練習
			【オンデマンド教材】例文やりとり動画
			A1
			やりとりのモデルを視聴し、発話練習をする。質問に答える。
聞く	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ第2版本冊
		レベル	A1
		内容	「問題」聴解部分を聞き取り、学習項目の理解度を確認する。
	使用した教材②	名称	みんなの日本語初級Ⅰ第2版本冊
		レベル	A1
		内容	「会話」モデル会話を視聴する。
	使用した教材③	名称	【オンデマンド教材】語彙動画
		レベル	A1
		内容	各課の新出語彙の発音を聞く。

各日本語教育機関の実施結果

読む	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ第2版本冊
		レベル	A1
		内容	「問題」読解部分の文章を読む。内容に基づいて質問に答える。
	使用した教材②	名称	
		レベル	
		内容	
書く	使用した教材①	名称	【オンデマンド教材】ひらがな単語動画
		レベル	A1
		内容	ひらがなを書く練習する。
	使用した教材②	名称	【オンデマンド教材】カタカナ単語動画
		レベル	A1
		内容	カナカナを書く練習をする。
	使用した教材③	名称	漢字たまご初級
		レベル	A1
		内容	各課で設定されているテーマに関する漢字を学習する。練習問題として、漢字かな交じり文（短作文）を書く。
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	課外授業「はじめての日本」
		レベル	A1
		内容	日本の生活における喫煙、ごみの分別、交通ルールなどについて知る。
	使用した教材②	名称	課外授業「都庁見学」
		レベル	A1
		内容	東京都庁 庁舎内の見学（ガイド付き）

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	『みんなの日本語初級Ⅰ』の「練習C」、「会話」を発展させたオリジナル会話発表 - 修了試験（本校オリジナル）「会話テスト」
聞く	- 修了試験（本校オリジナル）「会話テスト」 『みんなの日本語初級Ⅰ』の「問題」聴解部分 - 各課 復習テスト（本校オリジナル）
読む	- 修了試験（本校オリジナル）「文法テスト」 - みんなの日本語初級Ⅰの「問題」読解部分 『みんなの日本語初級Ⅰ標準問題集』（宿題）
書く	『漢字たまご初級』「練習1」「練習2」 - ひらがな50音テスト、ひらがな単語テスト - カタカナ50音テスト、カタカナ単語テスト - 漢字テスト 『みんなの日本語初級Ⅰ標準問題集』（宿題） 『漢字たまご初級』「練習1」「練習2」（短作文含む）

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	テキストを読むことなく、テキストの型に沿って自分なりに言いたいことを産出することができる。
聞く	相手からの質問を聞き取り、理解することができる。
読む	文または短い文章を読み取り、理解することができる。
書く	- ひらがな、カタカナ、漢字を正しく書くことができる。 - 学習した語彙や文法を使って、文または短い文章を書くことができる。
日本事情・日本理解	特になし

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	・『みんなの日本語初級Ⅰ』各課の学習目標に沿って設定している。 ・授業内におけるやりとり、質問に対する答えを観察する。 ・修了試験「会話テスト」においてタスクに沿った発話、やりとりを行う。
聞く	・『みんなの日本語初級Ⅰ』各課の学習目標に沿って設定している。 ・授業内におけるやりとり、質問に対する答えを観察する。 ・修了試験「会話テスト」においてタスクに沿った発話、やりとりを行う。
読む	・『みんなの日本語初級Ⅰ』各課の学習目標に沿って設定している。 ・『みんなの日本語初級Ⅰ』「問題」文章の理解度を確認するための、質問に対する答えを観察する。 ・各課 復習テスト70%正解である程度定着したと評価する。
書く	・ひらがな単語テスト、カタカナ単語テストそれぞれ80%正解である程度定着したと評価する。 ・各課 復習テスト70%正解である程度定着したと評価する。
日本事情・日本理解	特になし

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	・修了後の「効果検証テスト」（learningBOX上）に関して、事前のテスト結果より点数が大きく伸びた学生は、文字から状況を読み取る力がつき、会話における産出力もついた。 ・修了試験（本校オリジナル）「会話テスト」の結果より、学習した語彙・文法を運用する力がついたと言える学生が3人中2人いる。残る1人も開講当初に比べると相当話す（やりとりをする）ことができるようになった。
聞く	特になし
読む	・修了後の「効果検証テスト」（learningBOX上）に関して、事前のテスト結果より点数が大きく伸びた学生は、文字から状況を読み取る力がついた。 ・修了試験（本校オリジナル）「文法テスト」の結果より、文意を掴み、問われていることを理解できるようになったと言える。
書く	・修了後の「効果検証テスト」（learningBOX上）に関して、文字入力により日本語の表記がある程度身についたことが確認できた。
日本事情・日本理解	特になし

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	適切なカリキュラムの設定
聞く	その他
読む	その他
書く	その他
日本事情・日本理解	その他

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	個別の発話機会、対面の学生とオンラインの学生が交流する場をより多く設けることが課題である。
聞く	今回は修了試験において「聴解テスト」は実施しなかったが、聞く力を評価するツールが必要である。到達度を測る修了試験に関しては、今回の実証事業参加のオンライン学生用に本校対面学生用のオリジナルテスト問題とは別のテストを作成する必要がある（問題流出防止のため）が、作成時間が足りなかったために実施できなかった。
読む	今回は修了試験において「読解テスト」は実施しなかったが、読む力を評価するツールが必要である。 到達度を測る修了試験に関しては、今回の実証事業参加のオンライン学生用に本校対面学生用のオリジナルテスト問題とは別のテストを作成する必要がある（問題流出防止のため）が、作成時間が足りなかったために実施できなかった。
書く	短い作文の課題などをカリキュラムに取り入れることも可能である。書く力を評価するツールが必要である。
日本事情・日本理解	オンライン上でのオリエンテーションや見学体験であったが、教室で接する他の学習者や教師とともに体験することで、自分事として体験できた様子が見えた。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	【学習者に対して】 オンライン参加の学習者に孤独感を感じさせずに、教室にいるかのようなやり取りを実現するべく、教室の機材の配置、設定に気を配った。 【講師に対して】 ・教室内の学生とオンラインの学生とでペアを組ませてやりとりの練習をさせる際の、タブレット端末の操作について説明した。 ・オンデマンド教材作成に必要な機器操作について説明した。
聞く	【学習者に対して】 教室にいる学習者及び教師の声がきちんと届くように、教室の機材の配置、設定に気を配った。 【講師に対して】 ・聴解教材を扱う際、再生ソフトを立ち上げるとスピーカーが自動的に切り替わる問題が起きていたが、対処法を共有した。 ・オンデマンド教材作成に必要な機器操作について説明した。
読む	【学習者に対して】 ・授業中にテキストの確認を行う際には、教師用の『みんなの日本語初級Ⅰ』webテキストを適宜Zoom画面機能で示しながら、指示をした。 ・オンデマンド教材作成に必要な機器操作について説明した。
書く	【学習者に対して】 LMSを活用しながら、ほとんどの教材、テスト等手書きで記入し、提出させた。これにより、表記についてただ眺める日本語にならず、自分で書けることに達成感が得られたようだ。 【講師に対して】 ・学生がlearningBOXにアップロードした（提出した）手書きのテストや宿題の写真を添削、返却する具体的な方法を説明した。 ・オンデマンド教材作成に必要な機器操作について説明した。
日本事情・日本理解	【学習者に対して】 都庁見学の際には、教師がタブレットを利用し建物の外観や周辺についても説明し、まだ訪問がかなわない東京都庁を体験することができた。 【講師に対して】 都庁見学の際は、事前にレンタルしたモバイルWi-Fiと端末の機器操作を確認した。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

032-2：ヨシダ日本語学院

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レベ ル												事前テスト				事後テスト				テスト満点				事前テスト 正答率（生 徒合計）		事後テスト 正答率（生 徒合計）		成長幅（単 位：ポイン ト）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
		A1			A2			B1			B2			C			1			2			3			4			5			1			2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
														事前の点数 （生徒合 計）			回答者数			事後の点数 （生徒合 計）			回答者数																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
032-2	ヨシダ日本語学院_モデル4 (A2)_10/11-10/21																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						</

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル4（3か月）
区分	ハイフレックス型
1.授業のレベル	A2
2.授業のコース	進学
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/10/11
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/12/21
4.授業の学習時間	150
5.学生の授業への参加率	90
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	特になし
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	特になし
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	女性
6-3.担当された先生③使用言語	日本語
6-3.担当された先生③スキル	特になし
7.実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	Anker
10.使用した映像（カメラ）機	logicool
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	パワーポイント教材 MP4 jpeg MP3 DVD-Video MOV
12.撮影をした場所	普段の教室 その他（講師自宅等）

各日本語教育機関の実施結果

A2

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	・ 予定が言える。 ・ 伝言をお願いすることができる。 ・ アドバイスをもらうことができる。 ・ アドバイスをするすることができる。 ・ 忘れ物をさがすことができる。 ・ 物の状態、部屋の状態を言うことができる。 ・ 誘う ・ 相手の都合を聞きながら待ち合わせができる
話す（発表）	・ テーマについてまとまった内容を話すことができる。 ・ 作文の発表ができる。 ・ スピーチができる。
聞く	・ 忘れ物の特徴をきいて、どれかわかる。 ・ 物の状態、部屋の状態を聞いてわかる。 ・ 伝言の内容を聞いて、わかる。
読む	・ まんがの主人公の紹介を読んでわかる。 ・ 手紙を読んで、わかる。 ・ お知らせを読んで、わかる。 ・ 簡単なニュースを読んでわかる。 ・ エッセイを読んで、わかる。 ・ 料理の作り方を読んで、わかる。
書く	・ 自分の経験について書くことができる。 ・ はがきで近況を伝えることができる。 ・ 夢について書くことができる。 ・ 紹介したい人物（主人公）について書くことができる。
日本事情・日本理解	・ 茶道の手順について理解することができる。 ・ 日本の交通ルールがわかる。 ・ 日本の生活についてのルール、マナーがわかる。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンデマンド型ハイフレックス型
話す（発表）	ハイフレックス型
聞く	ハイフレックス型
読む	ハイフレックス型
書く	オンデマンド型ハイフレックス型
日本事情・日本理解	ハイフレックス型

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	上記目標に沿った授業内容を実施。 教員はITリテラシーのありなしではなく、意欲と興味のある教員を配置した。
話す（発表）	上記目標に沿った授業内容を実施。 教員はITリテラシーのありなしではなく、意欲と興味のある教員を配置した。
聞く	上記目標に沿った授業内容を実施。 教員はITリテラシーのありなしではなく、意欲と興味のある教員を配置した。
読む	上記目標に沿った授業内容を実施。 教員はITリテラシーのありなしではなく、意欲と興味のある教員を配置した。
書く	上記目標に沿った授業内容を実施。 教員はITリテラシーのありなしではなく、意欲と興味のある教員を配置した。
日本事情・日本理解	上記目標に沿った課外授業として、「交通安全」「日本の生活」のオリエンテーションを実施。また、オンラインで都庁見学も実施し、教室では話すことのない他クラスの学習者とも交流を持った。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅱ 電子版
		レベル	A2
		内容	26課～35課
	使用した教材②	名称	タスクシート
		レベル	A2
		内容	・忘れ物をさがす ・非常部袋の準備 ・旅行の計画 ・アドバイスしましょう ・
話す（発表）	使用した教材①	名称	スピーチ評価表
		レベル	A2
		内容	グループ活動で作成した学習者自身による評価表
聞く	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅱ
		レベル	A2
		内容	26課～35課問題
	使用した教材②	名称	聴解タスク 2 5
		レベル	A2
		内容	26課 27課 28課 30課 31課 32課 33課
読む	使用した教材①	名称	初級で読めるトピック25
		レベル	A2
		内容	26課 27課 28課 29課 30課 31課 32課 34課
	使用した教材②	名称	みんなの日本語初級Ⅱ
		レベル	A2
		内容	26課～35課 問題
書く	使用した教材①	名称	漢字たまご
		レベル	A2
		内容	9課～15課
	使用した教材②	名称	はがき
		レベル	A2
		内容	はがき例 はがき
	使用した教材③	名称	作文シート
		レベル	A2
		内容	自作
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	日本の生活
		レベル	A2
		内容	交通ルール 病気になったら
	使用した教材②	名称	みんなの日本語初級Ⅱ 会話DVD
		レベル	A2
		内容	34課
	使用した教材③	名称	映像
		レベル	A2
		内容	都庁見学

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	・『みんなの日本語初級Ⅱ』の「練習C」、「会話」を発展させたオリジナル会話作成 発表 ・タスクシート ・セルフチェックシート ・会話テスト
話す（発表）	・セルフチェックシート ・スピーチ評価表
聞く	・『みんなの日本語初級Ⅱ』「問題」の聴解部分 ・セルフチェックシート ・『聴解タスク 2 5』の設問 ・復習テスト（自校オリジナル）の聴解の設問 ・修了テスト（自校オリジナル）「聴解」
読む	・『みんなの日本語初級Ⅱ』「問題」の読解部分 ・『初級で読める読解トピックⅡ 2 5』 ・復習テスト（自校オリジナル）の読解部分 ・修了テスト（自校オリジナル）「読解」
書く	・セルフチェックシート ・作文 ・スピーチ原稿
日本事情・日本理解	感想を書く。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において目標の達成度合等进行评估する際の指標

話す（やりとり）	・授業内におけるやりとり、質問に対する答えを観察する。
話す（発表）	・修了テスト「会話テスト」において、タスクに沿った発話、やりとりを行う。 ・作文を発表する。
聞く	・スピーチをする。 ・授業内におけるやりとり、質問に対する答えを観察する。 ・テキスト「みんなの日本語」の問題部分の音声教材をききとり、質問に答えられるか確認する。 ・「聴解タスク２５Ⅱ」の音声教材をききとり、質問に答えられるか確認する。 ・修了試験「会話テスト」において、タスクに沿った発話、やりとりを行う。 ・修了テスト「聴解」が聞き取れ、設問に答えられているか確認する。
読む	・テキスト「みんなの日本語」の問題部分の読解問題を読み、設問に答えられるか確認する ・「初級で読めるトピック２５Ⅱ」の読解問題を読み、内容を理解したか確認する。 ・修了テスト「読解」の設問に答えられたか、確認する。
書く	・テーマに沿った内容で文章を書き、わかりやすく伝えることができたか、確認する。 ・既習の文法を使い、文章が書けたか確認する。 ・文字、表記が正しいか確認する。
日本事情・日本理解	日本の生活、事情について、何らかの感想が持てたか、確認する。

●各授業科目において目標の達成度合等进行评估する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	・使用テキストをもとに作成した自校におけるカリキュラムに基づいて、学習項目を運用してやりとりができるか、評価する。 ・授業内におけるやりとり、質問の受け答えを観察する。 ・セルフチェックシート 何ができるようになったか自己評価 ・タスクシート タスクが完了できたか。 修了試験「会話テスト」において、タスクに沿った発話、やりとりを行う。
話す（発表）	スピーチができたか。 作文の発表ができたか
聞く	・使用テキストをもとに作成した自校におけるカリキュラムに基づいて、学習項目を運用して聞くことができるか評価する。 ・授業内におけるやりとり、質問に対する答えを観察する。 ・テキスト「みんなの日本語」の問題部分の音声教材をききとり、質問に答えられるか確認する。 ・「聴解タスク２５Ⅱ」の音声教材をききとり、質問に答えられるか確認する。 ・修了試験「会話テスト」において、タスクに沿った発話、やりとりを行う。 ・修了テスト「聴解」が聞き取れ、設問に答えられているか確認する。
読む	・使用テキストをもとに作成した自校におけるカリキュラムに基づいて、学習項目を運用して文章を読み内容を理解することができるか評価する。 ・テキスト「みんなの日本語」の問題部分の読解問題を読み、設問に答えられるか確認する ・「初級で読めるトピック２５Ⅱ」の読解問題を読み、内容を理解したか確認する。 ・修了テスト「読解」の設問に答えられたか、確認する。
書く	・テーマに沿った内容で文章を書き、わかりやすく伝えることができたか、確認する。 ・学習した文法項目、語彙を使い文章が書けたか確認する。 ・文字、表記が正しいか確認する。
日本事情・日本理解	日本の生活、事情について、何らかの感想が持てたか、確認する。

各日本語教育機関の実施結果

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	・修了後の「効果検証テスト」（learningBOX上）に関して、事前のテスト結果より点数が大きく伸びた学生は、文字から状況を読み取る力がつき、会話における産出力もついていた。
聞く	・修了試験（本校オリジナル）「会話テスト」の結果より、学習した語彙・文法を運用する力がついたと言える学生が3人中2人いる。残る1人も開講当初に比べると相当話す（やりとりをする）ことができるようになった。
読む	特になし
書く	・修了後の「効果検証テスト」（learningBOX上）に関して、事前のテスト結果より点数が大きく伸びた学生は、文字から状況を読み取る力がついた。
日本事情・日本理解	・修了試験（本校オリジナル）「文法テスト」の結果より、文意を掴み、問われていることを理解できるようになったと言える。
	・修了後の「効果検証テスト」（learningBOX上）に関して、文字入力により日本語の表記がある程度身についたことが確認できた。
	特になし

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	適切なカリキュラムの設定
聞く	その他
読む	その他
書く	その他
日本事情・日本理解	その他

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	事前テストに比べて終了時のテストでは会話形式の問題の正答が多くなっていた。自校で行った修了テストの「会話テスト」では、対面学習者と同じテストを使用した。オンライン学生3名のうち2名が、対面、オンラインあわせた学習者の中で、トップと2位の成績をとり、授業内での観察による評価でも、伸びが感じられた。学習者への最終カウンセリングでも、学習者自身の自己評価として、話す力が伸びたと言っていた。
話す（発表）	効果検証テストでは発表の力はわからなかったが、授業での作文発表、スピーチを通して、発表の学習ができたと思う。
聞く	自校で行った修了テストの「聴解テスト」では、対面学習者と同じテストを使用した。ほぼ対面学習者と大差ない成績をとった。
読む	事前テストに比べて修了時のテストでは長文読解問題の正答が多くなっていた。自校で行った修了テストの「読解」では、対面学習者と同じテストが使用できなかったため、オンライン学生には別のテストを作成し実施した。これは進級にかかわる自校テストの外部流出を防ぐためである。まったく同じテストではなかったが、校内で対面学習者を想定して作成したテストであり、難易度も差がないように配慮した。オンライン学生3名のうち2名が、対面、オンラインあわせた学習者の中で、トップクラスの成績をとった。対面学習者とまったく同じテストが使用できないことがオンライン学習での評価の課題であると思う。
書く	対面学習者は修了テストでは、選択問題より、記述式（手書き文字による）が多い。効果検証テストでも、産出して文字入力する形式のテストがあるが、書く力が伸びたのかははかれないと思う。
日本事情・日本理解	効果検証テストでは日本事情、日本理解の力はわからなかったが、交通安全、日本の生活、校外授業（都庁見学）に参加し、感想を持ち、その感想を書いて提出したことで、日本への理解がもてたのではないと思う。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	授業開始前に、担当講師に向けて、機器の接続と操作方法、トラブルへの対処法等の研修を行った。授業開始語も、機器の設定についてサポートし、トラブルの際はすぐに対応できるようにした。 オンデマンド教材作成の方法、LMSへのアップロードなど、技術的なことについては常にサポートした。 学習者に対しては、定期的に責任者がカウンセリングをし、オンラインなどの学習環境、学習内容（易しいと感じるか、難しいと感じるか）、学習の時間が十分取れているか、等の状況を常に把握し、サポートした。必要な場合は通訳も交え、カウンセリングを行った。やりとりの学習では、ブレイクアウトルームを使用しているペアワークではなくオンライン学習者と対面学習者が個別にやりとりできるよう、映像、カメラ機器（タブレット、スマートホンなど）を増やした。
話す（発表）	授業開始前に、担当講師に向けて、機器の接続と操作方法、トラブルへの対処法等の研修を行った。授業開始語も、機器の設定についてサポートし、トラブルの際はすぐに対応できるようにした。 オンデマンド教材作成の方法、LMSへのアップロードなど、技術的なことについては常にサポートした。 学習者に対しては、発表の際、聞いている対面学習者の反応が見られるように、教室内部をうつす機器を増やした。
聞く	授業開始前に、担当講師に向けて、機器の接続と操作方法、トラブルへの対処法等の研修を行った。授業開始語も、機器の設定についてサポートし、トラブルの際はすぐに対応できるようにした。 オンデマンド教材作成の方法、LMSへのアップロードなど、技術的なことについては常にサポートした。 オンライン学習者がクラス内の雰囲気を感じ、今対面学習者たちが何を話しているか、わかるように集音マイクを移動させ、また教員がリピートして伝えるなどの配慮をした。
読む	授業開始前に、担当講師に向けて、機器の接続と操作方法、トラブルへの対処法等の研修を行った。授業開始語も、機器の設定についてサポートし、トラブルの際はすぐに対応できるようにした。 オンデマンド教材作成の方法、LMSへのアップロードなど、技術的なことについては常にサポートした。 読み教材は電子書籍ではなく、紙媒体の書籍を郵送し、対面の学習者と同じ環境で、読解問題ができるようにした。
書く	授業開始前に、担当講師に向けて、機器の接続と操作方法、トラブルへの対処法等の研修を行った。授業開始語も、機器の設定についてサポートし、トラブルの際はすぐに対応できるようにした。 オンデマンド教材作成の方法、LMSへのアップロードなど、技術的なことについては常にサポートした。 漢字教材は、電子書籍ではなく紙媒体の書籍を郵送し、対面の学習者と同じ環境で教材に手書きできるようにした。それを写真に撮って送ってもらい、添削してフィードバックするというを行った。 作文についても、用紙を作成し、データを送り、それをオンライン学習者がプリントアウトして、手書きで作文が書けるようにした。書いたものは写真を撮って送ってもらいそれを添削してフィードバックした。
日本事情・日本理解	授業開始前に、担当講師に向けて、機器の接続と操作方法、トラブルへの対処法等の研修を行った。授業開始語も、機器の設定についてサポートし、トラブルの際はすぐに対応できるようにした。 オンデマンド教材作成の方法、LMSへのアップロードなど、技術的なことについては常にサポートした。 学習者に対しては、日本での交通安全や生活について知ってもらうため、対面学習者と同じオリエンテーションを行った。 校外学習（都庁見学）に、オンライン学習者も参加できるように、タブレットで見学先から、教室授業と同じようにZoomで授業を行った。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

033-1：えびす日本語学校

授業ID	日本語教育機関・モデル名											事前テスト 事後テスト 成長幅 (単位: ポイント)														
		レベル					モデル					モデル外					事前テスト 事後テスト		テスト満点		正答率 (生徒合計)		事後テスト 正答率 (生徒合計)		成長幅 (単位: ポイント)	
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	事前テスト 事後テスト (生徒合計)	回答者数	事後テスト 事後の点数 (生徒合計)	回答者数	事前テスト 事後テスト (生徒合計)	回答者数	テスト満点	正答率 (生徒合計)	事後テスト 正答率 (生徒合計)	成長幅 (単位: ポイント)	事後-事前		
033-1	えびす日本語学校_モデル1 (A1)_10/7-12/9	○					○								843	5	914	5	230	73.3%	79.5%		6			

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル1
区分	オンラインのみ
1.授業のレベル	A1
2.授業のコース	進学 就職
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/10/14
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/12/12
4.授業の学習時間	50
5.学生の授業への参加率	90
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	日本語教育能力検定試験合格
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
7.実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	PCマイク
10.使用した映像（カメラ）機	PC付属のカメラ
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	ppt、pdf
12.撮影をした場所	普段の教室

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	初級レベルの日本語で、日常的な会話ができる。
話す（発表）	初級レベルの日本語で、まとまりのある文章を話せる。
聞く	N4～N3レベル日本語の聞き取りができる。
読む	初級レベルの日本語の文が読める。簡単な漢字、熟語が読める。
書く	かんたんな発表の原稿が書ける。
日本事情・日本理解	日本の有名なもの・場所について知る。日本と母国の文化の違いを知る。

●就職コース

話す（やりとり）	初級レベルの日本語で、日常的な会話ができる。
話す（発表）	初級レベルの日本語で、まとまりのある文章を話せる。
聞く	N4～N3レベル日本語の聞き取りができる。
読む	初級レベルの日本語の文が読める。簡単な漢字、熟語が読める。
書く	かんたんな発表の原稿が書ける。
日本事情・日本理解	日本の有名なもの・場所について知る。日本と母国の文化の違いを知る。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）
読む	オンライン（双方向のみ）
書く	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	日常会話、教師1名、直接法
話す（発表）	初級日本語での発表、教師1名、直接法
聞く	N3～4レベルの日本語、直接法
読む	初級レベルの会話文・JLPT読解(短文)、直接法
書く	発表原稿を書く、直接法
日本事情・日本理解	動画視聴(視聴後の説明、意見交換)

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	事前配布のシート
		レベル	A1
話す（発表）	使用した教材①	内容	初級日本語、日本文化
		名称	事前配布のシート(動画)
		レベル	A1
		内容	初級日本語、日本文化
聞く	使用した教材①	名称	事前配布のシート(動画)
		レベル	A1
		内容	日本文化
		名称	スピードマスター N3 聴解
		レベル	JLPT N3レベル
		内容	-
読む	使用した教材①	名称	初級から使える敬語トレーニング
		レベル	A1
		内容	初中級～中級の敬語
		名称	事前配布のシート
		レベル	A1
		内容	初級レベル文法・語彙
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	事前配布のシート(動画)
		レベル	A1
		内容	日本文化、日本事情

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	修了テスト
話す（発表）	修了テスト
聞く	修了テスト
読む	修了テスト
書く	修了テスト
日本事情・日本理解	修了テスト

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	修了テスト点数
話す（発表）	修了テスト点数
聞く	修了テスト点数
読む	修了テスト点数
書く	修了テスト点数
日本事情・日本理解	修了テスト点数

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	各授業の理解度・達成度
話す（発表）	各授業の理解度・達成度
聞く	各授業の理解度・達成度
読む	各授業の理解度・達成度
書く	各授業の理解度・達成度
日本事情・日本理解	各授業の理解度・達成度

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	オンラインでは測れない部分が多々あると感じました。
話す（発表）	オンラインでは測れない部分が多々あると感じました。
聞く	オンラインでは測れない部分が多々あると感じました。
読む	オンラインでは測れない部分が多々あると感じました。
書く	オンラインでは測れない部分が多々あると感じました。
日本事情・日本理解	視聴環境が整っていれば、動画はZoomで扱いやすい教材だと思いました。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	機器等のコスト
書く	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	現地スタッフの配置
話す（発表）	現地スタッフの配置
聞く	現地スタッフの配置
読む	現地スタッフの配置
書く	現地スタッフの配置
日本事情・日本理解	現地スタッフの配置

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	授業後のメールでのフォロー
話す（発表）	授業後のメールでのフォロー
聞く	授業後のメールでのフォロー
読む	授業後のメールでのフォロー
書く	授業後のメールでのフォロー
日本事情・日本理解	授業後のメールでのフォロー

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

034-1：KIJ語学院東京校

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レベ ル												事前テスト 事前の点数 (生徒合 計)		事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)		事前テスト テスト満点 正答率(生 徒合計)					事後テスト テスト満点 正答率(生 徒合計)		成長幅(単 位:ポイン ト)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
		A1			A2			B1			B2			C			1			2			3			4			5			1			2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	モデル外
区分	オンライン+オンデマンド型
1.授業のレベル	A2 B1
2.授業のコース	進学
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/10/20
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/12/1
4.授業の学習時間	42
5.学生の授業への参加率	80
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	特になし
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	男性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	特になし
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	女性
6-3.担当された先生③使用言語	日本語
6-3.担当された先生③スキル	特になし
7.実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	Windows内蔵のもの
10.使用した映像（カメラ）機	Windows内蔵のもの
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	パワーポイントの教材、生教材
12.撮影をした場所	その他（講師自宅等）

各日本語教育機関の実施結果

A2

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	語彙や文法等の基礎を学び進学を意識している学生の対話力と意識を高める
話す（発表）	自分のことについて知っている語彙、文法や表現を活用し、簡単な日本語で相手に伝えることができる。
聞く	日本に来たときに困らないように生活や学校での簡単な語彙や表現が聞き取れるようにする
読む	日本に来た時に生活の中や学校での場面で自分に関する事の内容が確認できるようにする
書く	日本に来た時に相手が言ったことを簡単にメモできるようにする
日本事情・日本理解	日本のマナーやルール、習慣を学び理解する

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
聞く	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
読む	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
書く	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	自己紹介や写真を使って簡単に相手に話をするできるように練習した
話す（発表）	日本語で話すことを不安がらず、自信を持てるように写真を使って話す練習を行った
聞く	教師の言ったことやほかの学生が言ったことを聞き取る練習を行った
読む	パワーポイントの教材等にかかれていたことが何かわかるようにする
書く	発表するテーマを事前に伝え、自分で伝えたいことを書く練習を行った
日本事情・日本理解	動画等を見せて、日本の生活や学校のルールやマナーについて説明した

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	パワーポイント
		レベル	A2
		内容	各教師が授業に合わせて作成したもの
話す（発表）	使用した教材①	名称	パワーポイント
		レベル	A2
		内容	各教師が授業に合わせて作成したもの
聞く	使用した教材①	名称	パワーポイント
		レベル	A2
		内容	各教師が授業に合わせて作成したもの
読む	使用した教材①	名称	パワーポイント
		レベル	A2
		内容	各教師が授業に合わせて作成したもの
書く	使用した教材①	名称	ノート
		レベル	A2
		内容	各教師が授業に合わせて作成したもの
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	パワーポイント
		レベル	A2
		内容	各教師が授業に合わせて作成したもの

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	Can-do
話す（発表）	Can-do
聞く	Can-do
読む	Can-do
書く	Can-do
日本事情・日本理解	Can-do

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	JF日本語教育スタンダード
話す（発表）	JF日本語教育スタンダード
聞く	JF日本語教育スタンダード
読む	JF日本語教育スタンダード
書く	JF日本語教育スタンダード
日本事情・日本理解	JF日本語教育スタンダード

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	独自の物を本事業用に教師で話し合い修正した
話す（発表）	独自の物を本事業用に教師で話し合い修正した
聞く	独自の物を本事業用に教師で話し合い修正した
読む	独自の物を本事業用に教師で話し合い修正した
書く	独自の物を本事業用に教師で話し合い修正した
日本事情・日本理解	独自の物を本事業用に教師で話し合い修正した

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	最初はアウトプットがあまりうまくできなかった学生が回数を重ねていくうちに発話量が増え、苦手意識がなくなっていった。また、学生たちのモチベーションが高かった。
話す（発表）	テストでの検証は行わなかった
聞く	聴解力が弱く言葉を知っていても、聞き取れなかったが、回数を重ねていくうちに聞き取るようになり、授業もスムーズに進められるようになった
読む	テストでの検証は行わなかった
書く	テストでの検証は行わなかった
日本事情・日本理解	テストでの検証は行わなかった

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	ネットワーク環境の整備
書く	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	learningBOXが使いづらかった。学生たちのネットワーク環境や使用機器を事前に確認しておけばよかった。携帯電話かPCで対応が異なった
話す（発表）	learningBOXが使いづらかった。学生たちのネットワーク環境や使用機器を事前に確認しておけばよかった。携帯電話かPCで対応が異なった
聞く	learningBOXが使いづらかった。学生たちのネットワーク環境や使用機器を事前に確認しておけばよかった。携帯電話かPCで対応が異なった
読む	learningBOXが使いづらかった。学生たちのネットワーク環境や使用機器を事前に確認しておけばよかった。携帯電話かPCで対応が異なった
書く	learningBOXが使いづらかった。学生たちのネットワーク環境や使用機器を事前に確認しておけばよかった。携帯電話かPCで対応が異なった
日本事情・日本理解	learningBOXが使いづらかった。学生たちのネットワーク環境や使用機器を事前に確認しておけばよかった。携帯電話かPCで対応が異なった

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	研修もサポートも特になかった
話す（発表）	研修もサポートも特になかった
聞く	研修もサポートも特になかった
読む	研修もサポートも特になかった
書く	研修もサポートも特になかった
日本事情・日本理解	研修もサポートも特になかった

各日本語教育機関の実施結果

B1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	語彙や文法等の基礎を学び進学を意識している学生の対話力と意識を高める
話す（発表）	自分のことについて知っている語彙、文法や表現を活用し、日本語で相手に伝えることができる。
聞く	学校や生活の中で必要な言葉を聞き取り、相手が何を言っているか理解できる
読む	生活や学校の中で自分に必要な情報を読み取ることができるようになる
書く	伝えたいことを簡単にまとめた文章で書けるようになる
日本事情・日本理解	日本のマナーやルールを理解し、順応できるようにする

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
聞く	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
読む	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
書く	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）オンデマンド型

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	スピーチや発表である程度まとまった内容を話、簡単に質疑応答ができるよう練習した
話す（発表）	話すときに相手を見ることを意識し、質問があったらこたえられるように練習した
聞く	教師やほかの学生からの質問を聞き取り、理解できるように練習した
読む	動画や生教材の中で必要な情報を読み取る練習をした
書く	ある程度まとまった文章を簡単な日本語で書けるように練習した
日本事情・日本理解	動画や授業の中で日本のマナーやルールを学び、理解できるよう説明した

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	パワーポイント
		レベル	B1
		内容	各教師が授業に合わせて作成したもの
話す（発表）	使用した教材①	名称	パワーポイント
		レベル	B1
		内容	各教師が授業に合わせて作成したもの
聞く	使用した教材①	名称	パワーポイント
		レベル	B1
		内容	各教師が授業に合わせて作成したもの
読む	使用した教材①	名称	パワーポイント
		レベル	B1
		内容	各教師が授業に合わせて作成したもの
書く	使用した教材①	名称	ノート
		レベル	B1
		内容	各教師が授業に合わせて作成したもの
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	パワーポイント
		レベル	B1
		内容	各教師が授業に合わせて作成したもの

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	Can-do
話す（発表）	Can-do
聞く	Can-do
読む	Can-do
書く	Can-do
日本事情・日本理解	Can-do

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	JF日本語教育スタンダード
話す（発表）	JF日本語教育スタンダード
聞く	JF日本語教育スタンダード
読む	JF日本語教育スタンダード
書く	JF日本語教育スタンダード
日本事情・日本理解	JF日本語教育スタンダード

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	独自の物を本事業用に教師で話し合い修正した
話す（発表）	独自の物を本事業用に教師で話し合い修正した
聞く	独自の物を本事業用に教師で話し合い修正した
読む	独自の物を本事業用に教師で話し合い修正した
書く	独自の物を本事業用に教師で話し合い修正した
日本事情・日本理解	独自の物を本事業用に教師で話し合い修正した

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	最初はアウトプットがあまりうまくできなかった学生が回数を重ねていくうちに発話量が増え、苦手意識がなくなっていった。また、学生たちのモチベーションが高かった。
話す（発表）	テストでの検証は行わなかった
聞く	聴解力が弱く言葉を知っていても、聞き取れなかったが、回数を重ねていくうちに聞き取るようになり、授業もスムーズに進められるようになった
読む	テストでの検証は行わなかった
書く	テストでの検証は行わなかった
日本事情・日本理解	テストでの検証は行わなかった

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	ネットワーク環境の整備
書く	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	learningBOXが使いづらかった。学生たちのネットワーク環境や使用機器を事前に確認しておけばよかった。携帯電話かPCで対応が異なった
話す（発表）	learningBOXが使いづらかった。学生たちのネットワーク環境や使用機器を事前に確認しておけばよかった。携帯電話かPCで対応が異なった
聞く	learningBOXが使いづらかった。学生たちのネットワーク環境や使用機器を事前に確認しておけばよかった。携帯電話かPCで対応が異なった
読む	learningBOXが使いづらかった。学生たちのネットワーク環境や使用機器を事前に確認しておけばよかった。携帯電話かPCで対応が異なった
書く	learningBOXが使いづらかった。学生たちのネットワーク環境や使用機器を事前に確認しておけばよかった。携帯電話かPCで対応が異なった
日本事情・日本理解	learningBOXが使いづらかった。学生たちのネットワーク環境や使用機器を事前に確認しておけばよかった。携帯電話かPCで対応が異なった

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	研修もサポートも特になかった
話す（発表）	研修もサポートも特になかった
聞く	研修もサポートも特になかった
読む	研修もサポートも特になかった
書く	研修もサポートも特になかった
日本事情・日本理解	研修もサポートも特になかった

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

035-1：友国際文化学院

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レベ ル												事前テスト				事後テスト				テスト満点				事前テスト 正答率（生 徒合計）		事後テスト 正答率（生 徒合計）		成長幅（単 位：ポイン ト）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
		A1			A2			B1			B2			C			1			2			3			4			5			1			2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
		事前の点数 （生徒合 計）			回答者数			事後の点数 （生徒合 計）			回答者数			テスト満点			正答率（生 徒合計）			正答率（生 徒合計）			事後の点数 （生徒合 計）			回答者数			事後の点数 （生徒合 計）			回答者数																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
035-1	友国際文化学院_モデル5 (A1)_10/26-12/23	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								</

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル5
区分	オンライン+オンデマンド型
1.授業のレベル	A1
2.授業のコース	進学 就職 一般
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/10/26
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/12/23
4.授業の学習時間	124
5.学生の授業への参加率	70
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	男性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	日本語教育能力試験
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	女性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	日本語教育能力試験
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	女性
6-3.担当された先生③使用言語	日本語
6-3.担当された先生③スキル	日本語教育能力試験
6-4.担当された先生④居住国	日本
6-4.担当された先生④性別	女性
6-4.担当された先生④使用言語	日本語
6-4.担当された先生④スキル	日本語教育能力試験
6-5.担当された先生⑤居住国	日本
6-5.担当された先生⑤性別	女性
6-5.担当された先生⑤使用言語	ベトナム語
7.実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	PC付属のもの
10.使用した映像（カメラ）機	PC付属のもの
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	Powerpoint, Googleスライド, Googleスプレッドシート
12.撮影をした場所	普通の教室 その他（講師自宅等）

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	『みんなの日本語初級』13課までの学習項目を身に着け、簡単な日本語のやり取りができる
話す（発表）	『みんなの日本語初級』13課までの学習項目における語彙を用いて、出された課題について発表することができる。
聞く	『みんなの日本語初級』13課までの学習項目を身に着け、簡単な日本語を聞き取ることができる
読む	『みんなの日本語初級』13課までの学習項目を身に着け、簡単に短い日本語の文を読むことができる
書く	『みんなの日本語初級』13課までの学習項目を身に着け、それを使い、自身のことについて表現ができる
日本事情・日本理解 その他	日本の有名な場所や植物・食べ物などを理解し、日本の文化・習慣に触れる 特になし

●就職コース

話す（やりとり）	『みんなの日本語初級』13課までの学習項目を身に着け、簡単な日本語のやり取りができる
話す（発表）	『みんなの日本語初級』13課までの学習項目における語彙を用いて、出された課題について発表することができる。
聞く	『みんなの日本語初級』13課までの学習項目を身に着け、簡単な日本語を聞き取ることができる
読む	『みんなの日本語初級』13課までの学習項目を身に着け、簡単に短い日本語の文を読むことができる
書く	『みんなの日本語初級』13課までの学習項目を身に着け、それを使い、自身のことについて表現ができる
日本事情・日本理解 その他	日本の有名な場所や植物・食べ物などを理解し、日本の文化・習慣に触れる 特になし

●生活コース

話す（やりとり）	『みんなの日本語初級』13課までの学習項目を身に着け、簡単な日本語のやり取りができる
話す（発表）	『みんなの日本語初級』13課までの学習項目における語彙を用いて、出された課題について発表することができる。
聞く	『みんなの日本語初級』13課までの学習項目を身に着け、簡単な日本語を聞き取ることができる
読む	『みんなの日本語初級』13課までの学習項目を身に着け、簡単に短い日本語の文を読むことができる
書く	『みんなの日本語初級』13課までの学習項目を身に着け、それを使い、自身のことについて表現ができる
日本事情・日本理解 その他	日本の有名な場所や植物・食べ物などを理解し、日本の文化・習慣に触れる 特になし

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）
読む	オンライン（双方向のみ）
書く	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	『みんなの日本語初級』、『みんなの日本語初級Ⅰ書いて覚える文型練習帳』を学習する上での教師とのやり取り
話す（発表）	自己紹介・教師や受講生同志の会話
聞く	『みんなの日本語初級』、『みんなの日本語初級Ⅰ書いて覚える文型練習帳』を学習する上での教師とのやり取り
読む	『みんなの日本語初級』
書く	『みんなの日本語初級』、『みんなの日本語初級Ⅰ書いて覚える文型練習帳』で学習した項目をGoogleスプレッドシート上に打ち込む

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ
		レベル	A1
		内容	学習した項目を用いての簡単な会話
	使用した教材②	名称	みんなの日本語初級Ⅰ書いて覚える文型練習帳
		レベル	A1
		内容	学習した項目を用いての簡単な会話
話す（発表）	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ
		レベル	A1
		内容	自己紹介などの簡単な発表
	使用した教材②	名称	みんなの日本語初級Ⅰ書いて覚える文型練習帳
		レベル	A1
		内容	-
聞く	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ
		レベル	A1
		内容	学習した項目を用いての聞き取り問題
	使用した教材②	名称	みんなの日本語初級Ⅰ
		レベル	A1
		内容	-
読む	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ
		レベル	A1
		内容	学習した項目を用いての簡単な読み物
	使用した教材②	名称	みんなの日本語初級Ⅰ書いて覚える文型練習帳
		レベル	A1
		内容	各問題の音読
書く	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ
		レベル	A1
		内容	スプレッドシートへの回答の記述
	使用した教材②	名称	みんなの日本語初級Ⅰ書いて覚える文型練習帳
		レベル	A1
		内容	スプレッドシートへの回答の記述
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	みんなの日本語初級Ⅰ
		レベル	A1
		内容	日本のポピュラーな食べ物や場所
	使用した教材②	名称	みんなの日本語初級Ⅰ書いて覚える文型練習帳
		レベル	A1
		内容	-

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	『みんなの日本語初級』2課ごとに行った口頭試験
話す（発表）	特になし
聞く	特になし
読む	『みんなの日本語初級』2課ごとに行った課テスト
書く	『みんなの日本語初級』2課ごとに行った課テスト
日本事情・日本理解	『みんなの日本語初級』2課ごとに行った口頭試験を通じて

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	10問中8問以上で合格
話す（発表）	無
聞く	無
読む	7割以上で合格
書く	7割以上で合格
日本事情・日本理解	無

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	特になし
話す（発表）	特になし
聞く	無
読む	特になし
書く	特になし
日本事情・日本理解	特になし

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	定型文のようなやり取りは問題はないが、少しひねりを入れた問題になると途端に言葉に詰まってしまう学生が多かった 自室に友人がいる学習者は反応が遅く、友人に答えを教えてもらっているような場面も見受けられた。そうした学習者の客観的な効果を測定するのは難しい
話す（発表）	自己紹介に近い内容は問題ないが、話題を膨らますことが困難であった。
聞く	無
読む	learningBOX上でのテストを行ったが学習者がPCに慣れておらず、母語での説明を介しても円滑に進めるまでにかなりの時間がかかった
書く	learningBOX上でのテストを行ったが学習者がPCに慣れておらず、母語での説明を介しても円滑に進めるまでにかなりの時間がかかった
日本事情・日本理解	会話の中において、正しい内容であるかの判断であったが、単純な内容にすぎなかった・

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	その他
話す（発表）	その他
聞く	その他
読む	その他
書く	その他
日本事情・日本理解	その他

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	学習者のネットワーク環境が安定しておらず途切れ途切れになることも多く、円滑な授業を進めるには困難なことも多かった 自室や寮で授業を受けていたこともあり、同室にいる友人に手伝ってもらっていた学習者もいた
話す（発表）	学習者のネットワーク環境が安定しておらず途切れ途切れになることも多く、円滑な授業を進めるには困難なことも多かった 自室や寮で授業を受けていたこともあり、同室にいる友人に手伝ってもらっていた学習者もいた
聞く	学習者のネットワーク環境が安定しておらず途切れ途切れになることも多く、円滑な授業を進めるには困難なことも多かった
読む	特になし
書く	PCを使っでの授業を行うという前提だったが、スマートフォンで受ける学習者も降り、授業で用いたスプレッドシートに少々書き込みづらいようではあった。
日本事情・日本理解	学習者のネットワーク環境が安定しておらず途切れ途切れになることも多く、円滑な授業を進めるには困難なことも多かった 自室や寮で授業を受けていたこともあり、同室にいる友人に手伝ってもらっていた学習者もいた

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	学習者の母語の通訳を介した学習相談を実施
話す（発表）	学習者の母語の通訳を介した学習相談を実施
聞く	学習者の母語の通訳を介した学習相談を実施
読む	学習者の母語の通訳を介した学習相談を実施
書く	学習者の母語の通訳を介した学習相談を実施
日本事情・日本理解	学習者の母語の通訳を介した学習相談を実施

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

036-1：友ランゲージアカデミー

授業ID	日本語教育機関・モデル名											事前テスト 事後テスト 成長幅 (単 正答率 (生 正答率 (生 位 : ポイント)) テスト満点 徒合計 徒合計									
		レ ベ ル			モ デ ル				モ デ ル 外			事前テスト 事前の点数 (生徒合 計)		事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)							
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	回答者数	回答者数	回答者数	回答者数	事後一	事前		
036-1	友ランゲージアカデミー_モデル5 (A2) _10/25-12/23	○									○			14	2	48	2	100	7.0%	24.0%	17

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	実証取組モデル5
区分	オンライン+オンデマンド型
1.授業のレベル	A2
2.授業のコース	進学 就職 一般
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/10/25
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/12/23
4.授業の学習時間	95
5.学生の授業への参加率	97
6-1.担当された先生①居住国	日本
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	日本語教員
6-2.担当された先生②居住国	日本
6-2.担当された先生②性別	男性
6-2.担当された先生②使用言語	日本語
6-2.担当された先生②スキル	日本語教員
6-3.担当された先生③居住国	日本
6-3.担当された先生③性別	男性
6-3.担当された先生③使用言語	日本語
6-3.担当された先生③スキル	日本語教員
6-4.担当された先生④居住国	日本
6-4.担当された先生④性別	女性
6-4.担当された先生④使用言語	日本語
6-4.担当された先生④スキル	日本語教員
6-5.担当された先生⑤居住国	日本
6-5.担当された先生⑤性別	女性
6-5.担当された先生⑤使用言語	英語
6-5.担当された先生⑤スキル	特になし
7.実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	PC（DELL）内臓スピーカー、マイク
10.使用した映像（カメラ）機	PC（DELL）附属カメラ
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	パワーポイントを使用
12.撮影をした場所	普段の教室

各日本語教育機関の実施結果

A2

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	・自分に向けてゆっくり話してもらえらるなら、やり取りをすることができる。 ・自分に関わりのある話題について、ごく短い文を並べて、やり取りができる。
話す（発表）	・自分に関わりのある話題について、準備・練習したものを発表できる。 ・教師の手助けがあれば、発表後の簡単な質問に対応できる。
聞く	・予測可能な状況で、ゆっくり、はっきりとした発音で話されている指示が理解できる。
読む	・よく使う言葉や国際共通語で書かれた短い簡単なテキストを理解できる。
書く	・自分に関わりのある話題について、短文を連ねて書ける。
日本事情・日本理解	・関心のあるトピックについての説明を聞いて理解できる。
その他	特になし

●就職コース

話す（やりとり）	・自分に向けてゆっくり話してもらえらるなら、やり取りをすることができる。 ・自分に関わりのある話題について、ごく短い文を並べて、やり取りができる。
話す（発表）	・自分に関わりのある話題について、準備・練習したものを発表できる。 ・教師の手助けがあれば、発表後の簡単な質問に対応できる。
聞く	・予測可能な状況で、ゆっくり、はっきりとした発音で話されている指示が理解できる。
読む	・よく使う言葉や国際共通語で書かれた短い簡単なテキストを理解できる。
書く	・自分に関わりのある話題について、短文を連ねて書ける。
日本事情・日本理解	・関心のあるトピックについての説明を聞いて理解できる。
その他	特になし

●生活コース

話す（やりとり）	・自分に向けてゆっくり話してもらえらるなら、やり取りをすることができる。 ・自分に関わりのある話題について、ごく短い文を並べて、やり取りができる。
話す（発表）	・自分に関わりのある話題について、準備・練習したものを発表できる。 ・教師の手助けがあれば、発表後の簡単な質問に対応できる。
聞く	・予測可能な状況で、ゆっくり、はっきりとした発音で話されている指示が理解できる。
読む	・よく使う言葉や国際共通語で書かれた短い簡単なテキストを理解できる。
書く	・自分に関わりのある話題について、短文を連ねて書ける。
日本事情・日本理解	・関心のあるトピックについての説明を聞いて理解できる。
その他	特になし

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）
読む	オンライン（双方向のみ）
書く	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	普段の練習
話す（発表）	成果発表
聞く	普段の練習
読む	普段の練習
書く	普段の練習
日本事情・日本理解	当該トピックの説明を受けた後のやりとり（どのような反応、質問をするか）

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	『みんなの日本語Ⅰ』
		レベル	A2
		内容	扱われているトピックを使つての会話
話す（発表）	使用した教材①	名称	『みんなの日本語Ⅰ』
		レベル	A2
		内容	上記やりとりをしている中で、特定の話題を抽出し、それに関する発表する。
聞く	使用した教材①	名称	『みんなの日本語Ⅰ』
		レベル	A2
		内容	扱われているトピックを使つての会話および練習問題
読む	使用した教材①	名称	『みんなの日本語Ⅰ』
		レベル	A2
		内容	教科書に出てくる読解問題
書く	使用した教材①	名称	『みんなの日本語Ⅰ』
		レベル	A2
		内容	扱われている文型を使つての文作り、およびトピックを使つての作文
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	教員のオリジナル教材
		レベル	A2
		内容	学習者の関心のあるトピックについての説明

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	実証事業用に作成したルーブリック評価表
話す（発表）	実証事業用に作成したルーブリック評価表
聞く	実証事業用に作成したルーブリック評価表
読む	実証事業用に作成したルーブリック評価表
書く	実証事業用に作成したルーブリック評価表
日本事情・日本理解	評価ツールは特になし

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	質問の意図が把握でき、そのうえで応答にほとんど誤りがない。
話す（発表）	与えられた課題に対して内容は妥当か、聞き手にとって理解しやすい語彙を使つて話しているか。
聞く	聞いた内容についての理解度確認の質問に対して、ほとんど誤りがない。
読む	読んだ内容についての理解度確認の質問に対して、ほとんど誤りがない。
書く	表出された文または文章にほとんど誤りがない。
日本事情・日本理解	説明を受けた後の反応や質問が妥当かどうか。

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	質問の意図を理解できているかどうか（4段階評価）×応答の正確さ（文法と語彙）、流暢さ、発音をそれぞれ4段階評価
話す（発表）	課題に対して妥当かどうか（3段階評価）×聞き手にとってのわかりやすさ（4段階評価）
聞く	理解度確認の質問の正解度（3段階評価）×普段の授業の様子（4段階評価）
読む	理解度確認の質問の正解度（3段階評価）×普段の授業の様子（4段階評価）
書く	表出された文、文章の正確さ（4段階評価）
日本事情・日本理解	説明を受けた後の反応や質問の妥当性（3段階評価）

各日本語教育機関の実施結果

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	筆記形式の効果検証テストでは、やり取りの部分が測れないものだったと感じている。
話す（発表）	同上
聞く	今回の筆記形式の効果検証テストでは、聴解力が測れないものだったと感じている。
読む	今回の筆記形式の効果検証テストでは、読解力が測れないものだったと感じている。
書く	今回の筆記形式の効果検証テストでは、作文力が十分に測れないものだったと感じている。
日本事情・日本理解	筆記形式の効果検証テストでは、日本事情および日本理解の理解度が測れないものだったと感じている。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	適切なカリキュラムの設定
話す（発表）	適切なカリキュラムの設定
聞く	適切なカリキュラムの設定
読む	適切なカリキュラムの設定
書く	適切なカリキュラムの設定
日本事情・日本理解	適切なカリキュラムの設定

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	通信環境が悪くなければ、やり取りを行うこと自体に問題は起こらない。しかし、話題の広がりという点では、物足りなさを感じる。
話す（発表）	発表については、ほぼ問題がない。むしろPPTなどの資料を作って臨めるぶん、内容が充実すると思う。
聞く	聴解に関して特に問題は感じない。むしろ個別に聞いているぶん、集中して聞くことができていないかと思う。
読む	読解に関して特に問題は感じない。
書く	本コースでは、手書きはせず、全ての文作りと作文をGoogle スプレッドシートへの入力で行ったが、間違いをすぐに指摘、修正できるので、問題はなかった。
日本事情・日本理解	紹介する事物を写真や動画で見せることができたり、その場で検索出来たりできるので、オンラインの形式との相性がいいものと考えている。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	講師も学習者もオンライン授業に慣れていたため、特段のサポートは必要なかった。
話す（発表）	同上
聞く	同上
読む	同上
書く	同上
日本事情・日本理解	本コースでは、週に1回母語での学習支援を行っていたが、より深く理解するのに役立っていた。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

037-1：ファースト・スタディ日本語学校大阪泉大津校

授業ID	日本語教育機関・モデル名											事前テスト 事後テスト 成長幅 (単 正答率 (生 正答率 (生 位 : ポイン テスト満点 徒合計) 徒合計) ト)										
		レ ベ ル						モ デ ル						モ デ ル 外	事前テスト 事前の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)		テスト満点	徒合計	徒合計	位 : ポイン ト)	
			A1	A2	B1	B2	C		1	2	3	4	5			1	2					回答者数
037-1	ファーストスタディ_モデル外 (A1) _11/1-12/29	○												○	81	7	107	6	30	38.6%	59.4%	21

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	モデル外
区分	オンラインのみ
1.授業のレベル	A1
2.授業のコース	一般
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/11/1
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/12/29
4.授業の学習時間	140
5.学生の授業への参加率	60
6-1.担当された先生①居住国	インドネシア
6-1.担当された先生①性別	男性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	日本語教師養成講座修了
7.実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	パソコン付属マイク&スピーカー
10.使用した映像（カメラ）機	PC（Windows）付属のカメラ
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	パワーポイント・PDF・MP3の教材を使用
12.撮影をした場所	その他（講師自宅等）

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●生活コース

話す（やりとり）	主体的に学生から先生に質問したり、学生同士で質問しあえるようになること。 教師からの質問に対して話そうとする姿勢があること。
話す（発表）	自分がいいたいことをまとめて発表できていること。 ノートにまとめたことをただ音読するのではなくみんなにきこえるような聞きやすいスピードで話すこと。 感想（おもしろかった）だけでなく、ほかの出来事や様子も話していること。
聞く	CDを流したとき、2回で大まかな内容や簡単な表現がききとれること。 3回目で会話の流れを聞き取れ理解すること。
日本事情・日本理解	日本文化や事情を教え、学習者が自分の文化との違いに気づくこと。 日本のルールやマナーを知ってもらうこと

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	学生の発表に対して学生同士で質問しあうように、学生が発表したら必ず一つ質問させるようにしました。また、教師の問いかけに対して話そうとする姿勢や意欲がでるように簡単な日本語や自分の知っている言葉でもいいから使うようにクラスに伝えていました。
話す（発表）	また、教材内にある二人で会話する内容は学生同士で文を考え発話できるよう名指しし会話を促しました。難しい内容は簡単な語彙や説明をいれ学生自身が発言しやすいようにしました。
聞く	3回に1回はスピーチの機会をつくれるようにこちらから会話のテーマを提示しスピーチのタイトルの意味確認とどんな内容を発表するか学生と確認しました。 みんなに聞こえやすいように大きい声ではきはきは話すように指示しました。
日本事情・日本理解	CDの1回目は、その文章にでてくる人物やどんな場面かイメージしてもらう。 2回目は、大まかにどんなことを話しているかを学生にきき場面と会話をイメージしてもらう。 最後3回流し、実際どんな言葉や文章をいったかを一文ずつ確認し、そこででた新しい言葉や、初めて聞く表現などを説明する。最終的に全体が理解出来たら、理解した上でもう一度CDをきかせました。
	日本の観光地や季節、文化などをパワーポイントで伝えました。 最後に学習者の母国と日本の文化の違いをみんなで話し合いました。 日本の各地域の方言や食べ物を紹介し日本に興味をもってもらえるように学生と話をしました。

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	できる日本語「初級」
		レベル	A1
		内容	会話
	使用した教材②	名称	パワーポイント
		レベル	A1
		内容	文法の意味、接続を確認。例文をチェックし文作。
話す（発表）	使用した教材①	名称	できる日本語「初級」
		レベル	A1
		内容	会話
聞く	使用した教材①	名称	できる日本語「初級」
		レベル	A1
		内容	CDを使用しリスニングを強化
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	できる日本語「初級」
		レベル	A1
		内容	会話
	使用した教材②	名称	パワーポイント
		レベル	A1
		内容	日本の各地の観光地や食べ物、方言などを伝える

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	自作のパワーポイントのテキストの問題を使用
話す（発表）	自作のパワーポイントのテキストの問題を使用
聞く	自作のパワーポイントのテキストの問題を使用
日本事情・日本理解	自作のパワーポイントのテキストの問題を使用

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標

話す（やりとり）	自作のパワーポイントを使用し、それについて教師に質問を行い理解すること。
話す（発表）	自作のパワーポイントを使用し、文作したものやこちらから提示したテーマについて準備しみんなに聞こえるはやさで話すことができる。
聞く	CDを流し2回目で人物やどんなテーマについて聞きとれること。 3回目で会話表現や具体的な会話の流れをききとれ問題をとくことができる。
日本事情・日本理解	日本の文化を3つ以上えて自分の母国と比較しそれを全員に伝えることができる

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	授業1回目の漢字とテストからどのレベルを達成できたら、N5としてクリアかを教師目線で判断し設定した。
話す（発表）	授業1回目の漢字とテストからどのレベルを達成できたら、N5としてクリアかを教師目線で判断し設定した
聞く	授業1回目の漢字とテストからどのレベルを達成できたら、N5としてクリアかを教師目線で判断し設定した
日本事情・日本理解	日本へ行くまえに最低限必要だなと思う項目を考えそれを知ってもらうことを基準に目標を設定しました。

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	基本毎日日本人教師と会話することで発音や会話のテンポ、そして意見交換が上達したと感じました。
話す（発表）	初めは自分の文作をただ読み、あまりじぶんでも理解できていない様子だったが練習を重ねるごとに 文をどこでくぎるか、わかりやすいスピードでは話せるようになりました。
聞く	教師の日本語もCDもなかなかききとれないことが続いたが、話すスピードをおとすことで会話もスムーズに行え、CDのリスニングも2回きくとある程度理解できるようになった。
日本事情・日本理解	少しずつ日本の文化（着物、作法）などをしり、様々な場面で日本ならどうかという話を学生から積極的に聞くようになった。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	オンライン上は対面授業と違い、学生の変化や間違いに気が付きにくいいため、全体に対して話すように促すのではなく 個人に支持を出し話す機会をもうけることが必要。また対面とは違い学生同士が話す機会も少なくなるので教師側が どの学生にどれくらい発話させたかを常に意識して定行を進めることが必要。
話す（発表）	いきなり学生にテーマを与え、発表させると緊張したり、間違えることを恐れて本来上手な学生もできなくなったり、もともと苦手な学生は話せなくなってしまいます。そのため学生には事前に内容を考える時間を設け発表するか形が一番いいと思います。ただテーマをあたえるだけでは、気持ちの言葉（おいしいなど）しかいわなかったり、文章がすぐおわる傾向があります。そのためテーマと具体的にどんな内容を書いたらいいのかしっかり学生に理解指示をする必要があります。
聞く	オンライン上では、まずwifi問題もあり学生がきれいに音が聞こえなかったり、細かい発音までできとれなかったりすることがある。オンラインでは環境問題はつきものだが、学生側のwifi環境を整えることも授業をスムーズに行うことでとても大切なこと。また、CDのスピードはひとつしかないため、初級にあわせたCDの速さと少しはやめのCDがあれば学習者、特に初級の学生にとっては勉強しやすいのではないかと
日本事情・日本理解	ビデオ教材を使って日本の文化を伝えることはよいが、初級になればなるほど登場人物の会話や説明がむずかしく 理解ができない。そのため初級でも簡単に説明できるわかりやすいテーマや文化のビデオがあればよりよいと感じた。 またクイズ形式で「この場合、日本ではどうでしょう」というようにすると学習者の意識や興味が高まると思います。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	Zoomの運用方法やオンラインをするうえでのノウハウ・ラーニングボックスの使い方
話す（発表）	Zoomの運用方法やオンラインをするうえでのノウハウ・ラーニングボックスの使い方
聞く	Zoomの運用方法やオンラインをするうえでのノウハウ・ラーニングボックスの使い方
日本事情・日本理解	Zoomの運用方法やオンラインをするうえでのノウハウ・ラーニングボックスの使い方

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

037-2：ファースト・スタディ日本語学校大阪泉大津校

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レベ ル										事前テスト		事後テスト		事前テスト		事後テスト		成長幅 (単 位: ポイン ト)	
		モデル					モデル 外					事前の点数 (生徒合 計)	事後の点数 (生徒合 計)	テスト満点	正答率 (生徒 合計)	正答率 (生徒 合計)					
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	回答者数	回答者数						
037-2	ファーストスタディ_モデル外 (A2) _10/31-12/29		○										○	56	4	85	4	40	35.0%	53.1%	18

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	モデル外
区分	オンラインのみ
1.授業のレベル	A2
2.授業のコース	一般
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/10/31
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/12/29
4.授業の学習時間	140
5.学生の授業への参加率	80
6-1.担当された先生①居住国	インドネシア
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	日本語教師養成講座修了
7.実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	PC付属のスピーカー、マイク
10.使用した映像（カメラ）機	PC付属のカメラ
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	パワーポイント、PDF、MP3、Word
12.撮影をした場所	その他（講師自宅等）

各日本語教育機関の実施結果

A2

■目標設定

●生活コース

話す（やりとり）	自分の知っている語彙を使って会話できる。
	相手の話に反応できる。
話す（発表）	ゆっくり、大きな声で発表できる。
	正しく発音できる。
聞く	2回目で会話のおおまかな意味を理解できる。
日本事情・日本理解	日本で生活するうえで必要なルールやマナーを知る。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	「できる日本語」で新しい文法を使った会話
話す（発表）	各課の終わりにあるテーマの作文発表
聞く	各テーマの会話CDを聞く
日本事情・日本理解	パワーポイントやYouTubeで日本のルール、買い物での会話を見る

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	「できる日本語」
		レベル	A2
		内容	会話
	使用した教材②	名称	自作のパワーポイント
		レベル	A2
		内容	文法導入→文法を使った会話、練習
話す（発表）	使用した教材①	名称	「できる日本語」
		レベル	A2
		内容	作文発表
聞く	使用した教材①	名称	「できる日本語」
		レベル	A2
		内容	会話のCD
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	自作のパワーポイント
		レベル	A2
		内容	日本のルールやマナー、大阪、北海道の観光、方言
	使用した教材②	名称	YouTube
		レベル	A2
		内容	買い物・ホテルでの会話

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	自作のパワーポイント
話す（発表）	自作のパワーポイント
聞く	自作のパワーポイント
日本事情・日本理解	自作のパワーポイント

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標

話す（やりとり）	日本で生活するうえで必要な基準
話す（発表）	自分の知識をアウトプットして定着を図る
聞く	日本で生活するうえで必要な基準
日本事情・日本理解	疑問を持つ力、それを自分の言葉で質問する力

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	授業1回目の漢字とテストからどのレベルを達成できたら、N5としてクリアかを教師目線で判断し設定した。
話す（発表）	授業1回目の漢字とテストからどのレベルを達成できたら、N5としてクリアかを教師目線で判断し設定した
聞く	授業1回目の漢字とテストからどのレベルを達成できたら、N5としてクリアかを教師目線で判断し設定した
日本事情・日本理解	日本へ行くまえに最低限必要だなと思う項目を考えそれを知ってもらうことを基準に目標を設定しました。

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	分からないところは学生同士で教えあったりしていた
話す（発表）	自分で語彙や文法を調べて作文に使う子もいた
聞く	全ては聞き取れなくてもざっくりはわかるようになった
日本事情・日本理解	疑問を持って積極的に質問した

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	学生・教師双方のWiFi環境
話す（発表）	学生・教師双方のWiFi環境
聞く	学生・教師双方のWiFi環境
日本事情・日本理解	学生・教師双方のWiFi環境

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	Zoomの運用方法 ラーニングボックスの使い方、オンライン授業するうえでのノウハウ
話す（発表）	Zoomの運用方法 ラーニングボックスの使い方、オンライン授業するうえでのノウハウ
聞く	Zoomの運用方法 ラーニングボックスの使い方、オンライン授業するうえでのノウハウ
日本事情・日本理解	Zoomの運用方法 ラーニングボックスの使い方、オンライン授業するうえでのノウハウ

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

037-3：ファースト・スタディ日本語学校大阪泉大津校

授業ID	日本語教育機関・モデル名											事前テスト				事後テスト				事前テスト				事後テスト				成長幅（単 位：ポイン ト）	
												事前の点数 （生徒合 計）		事後の点数 （生徒合 計）		テスト満点		正答率（生 徒合計）		テスト満点		正答率（生 徒合計）							
		レ ベル							モ デル			モ デル 外			回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数							
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2																
037-3	ファーストスタディ_モデル外 (B1)_10/31-12/29			○									○		298	10	423	10	55	54.2%	76.9%	23							

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	モデル外
区分	オンラインのみ
1.授業のレベル	B1
2.授業のコース	一般
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/10/31
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/12/29
4.授業の学習時間	140
5.学生の授業への参加率	90
6-1.担当された先生①居住国	インドネシア
6-1.担当された先生①性別	男性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	日本語教師養成講座修了
7.実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	PC付属のスピーカー&マイク
10.使用した映像（カメラ）機	PC付属のカメラ
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	パワーポイント・PDF・MP3
12.撮影をした場所	その他（講師自宅等）

各日本語教育機関の実施結果

B1

■目標設定

●生活コース

話す（やりとり）	学んだ文法を使って日本人との会話で自信を持てるようになること
話す（発表）	事実だけでなく、自分の意見や考え、感想を取り込むこと
聞く	日本人との会話に慣れること
日本事情・日本理解	日本の文化・マナー・ルールを理解し、日本での生活に役立てること

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	文法授業を中心にすべて日本語で授業を行った。また学んだ文法を使い、文を作り、会話を行った
話す（発表）	宿題としてテーマに沿った作文を書き、毎授業で発表を行った。 事実を述べるだけでなく、そのことに対しての意見や感想を取り込むよう指導した
聞く	日本人との会話や説明を中心に聞く力を伸ばした。また学んだ文法を使った聴解も行った 聴解では会話を聞き。問題に答える形式だった
日本事情・日本理解	テキストに書いてある日本文化・マナー・ルールを中心に日本事情・日本理解の指導を行った

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	できる日本語初中級
		レベル	B1
	使用した教材②	内容	文法
		名称	パワーポイント
話す（発表）	使用した教材①	レベル	B1
		内容	文法
	使用した教材②	名称	できる日本語初中級
		レベル	B1
聞く	使用した教材①	内容	文作・作文・作文発表
		名称	できる日本語初中級
	使用した教材②	レベル	B1
		内容	聴解
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	できる日本語初中級（聴解教材）
		レベル	B1
	使用した教材②	内容	聴解
		名称	できる日本語初中級
		レベル	B1
		内容	日本文化・マナー・ルール

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	自作問題、テキスト問題を使用した
話す（発表）	作文発表で
聞く	テキスト問題を使用した
日本事情・日本理解	テキスト問題を使用した

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	問題ができるように事前に授業でポイントを説明しているので、問題が解答できているかどうかで確認しました。ただ間違えたかどうかだけでなく、どのように間違えているかなども評価に入れた。また文法を正しく使い、文作や会話ができているかも評価した
話す（発表）	作文評価では、まずテーマに沿っているか。そして事実説明だけでなく、自分の意見や考え、感想を自分の言葉で説明できているかを主に評価した
聞く	聴解のテキスト問題に解答ができているかどうかで判断しました。またそれだけでなく、聴解の内容を要約させ発表させることで、理解しているかどうかを判断した
日本事情・日本理解	テキストで紹介されている日本文化などを理解しているか、口頭で確認し評価した。

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	使用したテキストに教えた文法対応する問題があり、テキスト問題を指標に設定した
話す（発表）	使用したテキストに作文の例があり、そのテーマを指標に設定した
聞く	使用したテキストに聴解問題があり、テキスト問題を指標に設定した
日本事情・日本理解	使用したテキストには文化等の紹介のみで、対応する問題がなかったため、口頭確認を指標に設定した

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	はじめは日本人との会話に緊張していたが、最後は自分から発言するなど、学んだ文法を使って自信を持って日本語が話せるようになった
話す（発表）	はじめは事実だけを述べるが多かったが、指導するにつれて自分の意見や感想を伝えられるようになった
聞く	はじめは聞いた内容を要約できなかったが、後半は聴解の内容をよく理解し、内容を要約してまとめることができた
日本事情・日本理解	日本文化に興味を持つようになった

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	文法の授業の課題はとくにないと感じます。対面よりもスムーズに授業が行えた
話す（発表）	ネットワーク環境の問題で、発表が途切れたりしてしまい、学生に聞き直すことが多々あった
聞く	特に問題なし
日本事情・日本理解	今回できる日本語以外にも日本文化等を指導するため、教材を探したがオンライン向けにはなかなかいいものがなかった

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	Zoomの運用方法、オンライン授業のノウハウを日本語学校の上司から学んだ
話す（発表）	また学生にはlearningBOXの使い方をサポートした
聞く	特になし
日本事情・日本理解	特になし

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

037-4：ファースト・スタディ日本語学校大阪泉大津校

授業ID	日本語教育機関・モデル名											事前テスト 事後テスト 成長幅 (単 正答率 (生 正答率 (生 位 : ポイン テスト満点 徒合計) 徒合計) ト)										
		レ ベ ル						モ デ ル						モ デ ル 外	事前テスト 事前の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)		テスト満点	徒合計	徒合計	位 : ポイン ト)	
			A1	A2	B1	B2	C		1	2	3	4	5			1	2					回答者数
037-4	ファーストスタディ_モデル外 (B2)_11/7-11/27				○								○		159	10	192	10	30	53.0%	64.0%	11

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	モデル外
区分	オンラインのみ
1.授業のレベル	B2
2.授業のコース	一般
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/11/7
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/12/27
4.授業の学習時間	120
5.学生の授業への参加率	80
6-1.担当された先生①居住国	インドネシア
6-1.担当された先生①性別	男性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	日本語教師養成講座修了
7.実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	PC付属のマイク・スピーカー
10.使用した映像（カメラ）機	PC内蔵のカメラ
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	Adobe Acrobat,PDF,MP3を使用
12.撮影をした場所	その他（講師自宅等）

各日本語教育機関の実施結果

B2

■目標設定

●生活コース

話す（やりとり）	N3・N2レベルの語彙・文法をときに用いて、必要とされる状況設定で相手に伝わるように話をすることができる。日本人のふつうのスピードに対応して話ができる。
話す（発表）	与えられたテーマに対して、自分の考えをまとめてわかりやすく述べることができる。
聞く	N3・N2レベルの語彙・文法を含んだレベルの聴解をおおよそ聞くことができる。
読む	N3・N2レベルの語彙・文法を含んだレベルの読解をおおよそ読むことができる。
日本事情・日本理解	日本の文化について、他の人に説明できるレベルで知る。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	オンライン（双方向のみ）
話す（発表）	オンライン（双方向のみ）
聞く	オンライン（双方向のみ）
読む	オンライン（双方向のみ）
日本事情・日本理解	オンライン（双方向のみ）

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	使用テキスト（できる日本語 中級）に出てきたテーマに対して学生たちで話し合いを促した。また、ロールプレイ練習も実施した。学生の発表に対して、他の学生に質問を促した。
話す（発表）	毎回発表のテーマを与え、各学生にテーマについて発表をさせ、それについてフィードバックや他の学生に質問をしてもらった。
聞く	使用テキスト（できる日本語 中級）にある聴解課題を実施した。何度か音声だけ聞いたのちに設問を行い、最後にスクリプトを見ながら内容を確認する流れで実施した。
読む	使用テキスト（できる日本語 中級）にある読解課題を実施した。設問を行ったのち、答えのポイントとなる箇所を画面上でマーキングしながら確認した。
日本事情・日本理解	YouTubeやGoogle を画面共有で見ながら、視覚的に日本の文化を学んでもらった。また、それについて学生に話を促した。

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	できる日本語 中級
		レベル	B2
話す（発表）	使用した教材①	内容	テーマをもとにした話し合い
		名称	なし
聞く	使用した教材①	レベル	B2
		内容	考案した発表テーマをもとに発表
読む	使用した教材①	名称	できる日本語 中級
		レベル	B2
日本事情・日本理解	使用した教材①	内容	読解課題
		名称	できる日本語 中級、YouTube、Google
		レベル	B2
		内容	学生とともに画面共有、視聴後の話し合い

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	口頭判断
話す（発表）	口頭判断
聞く	教材の設問
読む	教材の設問
日本事情・日本理解	口頭判断

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	普段の会話から、感覚的に「日本で通じる会話力かどうか」。
話す（発表）	普段の発表から、「聞きやすさ・内容構成・文法/語彙が正しく使えているか」という点を総合的に判断。
聞く	教材の設問に対して、根拠をもとに正しくこたえられているか。
読む	教材の設問に対して、根拠をもとに正しくこたえられているか。
日本事情・日本理解	会話や発表を通じて、まちがいをなく日本の文化を理解できているか。

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	経験をもとにして個人判断
話す（発表）	経験をもとにして個人判断
聞く	教材の使用の方針を参考
読む	教材の使用の方針を参考
日本事情・日本理解	経験をもとにして個人判断

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	授業内で会話の機会を多く設けていたこともあり、回を重ねるごとに会話への慣れが出てきてスムーズに話せるようになったと思います。
話す（発表）	発表も回数とともに学生の慣れが見えてきて、とても聞き取りやすい内容になりました。
聞く	教材が進むにつれ聴解内容が難しくなりましたが、ある程度聞き取れて理解できていたので、少しずつ高いレベルに慣れていったと思います。
読む	教材が進むにつれ読解内容も難しくなりましたが、大意を取れたり設問の応答を見ると少しずつ日本語を読むことに慣れていったと思います。
日本事情・日本理解	日本事情や日本文化について話す知識も増えて、いろんなテーマについて話すことができるようになっていきました。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
読む	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	時間ができたときに話すトピックに困ることがあったので、いつでも話せるトピックは用意しておくべきだとおもいました。
話す（発表）	特にありません。
聞く	ネット環境やコンディションに左右されることを改善できればと思います。
読む	画角の都合により、文全体を共有できなかったりするので、文の長さや映し方に工夫が必要だと感じました。
日本事情・日本理解	特にありません。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	常に学生に話しかけて、学生の発言をできるだけ多く増やすように意識していました。
話す（発表）	発表のテーマについて学生の理解の相違がないように確認は徹底しました。また、学生に発表のテーマを考えてもらうなどして学生に近くて興味のあるテーマ選びを心がけました。
聞く	オンライン教材が学生にちゃんときけているか、音量などは気を付けました。
読む	学生の読むスピードを考慮し、設定時間内に読めていない学生がいた場合は、延長するなど柔軟に対応しました。
日本事情・日本理解	できるだけ学生の興味のある内容を聞き取りして、それについての動画などを視聴するようにしました。

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

037-5：ファースト・スタディ日本語学校大阪泉大津校

授業ID	日本語教育機関・モデル名											事前テスト				事後テスト				事前テスト				事後テスト				成長幅 (単 位: ポイン ト)
												事前の点数 (生徒合 計)		事後の点数 (生徒合 計)		テスト満点		正答率 (生徒 合計)		正答率 (生徒 合計)		正答率 (生徒 合計)						
		レ ベル	A1	A2	B1	B2	C	モ デル	1	2	3	4	5	1	2	モ デル 外	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	
037-5	ファーストスタディ_モデル外 (A1)_10/31-12/28	○													○			211	11	218	11	30	63.9%	66.1%				2

■ 基本情報

項目	内容
実証取組モデル	モデル外
区分	ハイブリッド
1.授業のレベル	A1
2.授業のコース	一般
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/10/31
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/12/28
4.授業の学習時間	140
5.学生の授業への参加率	60
6-1.担当された先生①居住国	インドネシア
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	日本語教師養成講座終了
7.実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	PC付属スピーカー＆マイク、プロジェクター（Epson）
10.使用した映像（カメラ）機	PC付属のカメラ
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	パワーポイント、PDF、MP3
12.撮影をした場所	普段の教室

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●生活コース

話す（やりとり）	学生全員が積極的に会話ができる。人の話を聞いて、質問ができる。
話す（発表）	大きい声で自信を持って発表ができる。丁寧な言葉遣いが見える。
聞く	教師やクラスメートの話が聞ける。聴解練習で問題がよく聞ける。
日本事情・日本理解	日本事情や文化に興味を持て、教師に質問ができる。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	ハイブリット型
話す（発表）	ハイブリット型
聞く	ハイブリット型
日本事情・日本理解	ハイブリット型

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	毎時間、始めの10分は必ず会話練習の時間を設けた。オンラインの学生とオフライン学生がお互いに質問し合う。
話す（発表）	宿題で作文を出したので、翌日にその発表をさせた。
聞く	聴解練習（聞いて、ノートに書く、発音練習する。ディクテーション練習） 全て日本語で授業をしたので、分からない時は必ず質問させたり、分からないリアクションをするよう指示した。
日本事情・日本理解	インターネットで写真や動画を共有したり、Youtubeで動画を見せたりした。

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	「できる日本語初級」
		レベル	A1
		内容	会話練習
話す（発表）	使用した教材②	名称	自作のパワーポイント（PDF）
		レベル	A1
		内容	文法導入
聞く	使用した教材①	名称	「できる日本語初級」
		レベル	A1
		内容	作文発表
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	「できる日本語初級」
		レベル	A1
		内容	聴解練習
	使用した教材②	名称	自作のパワーポイント（PDF）
		レベル	A1
		内容	例文で日本とインドネシアの違いを見つけさせる
	使用した教材②	名称	Youtube
		レベル	A1
		内容	日本事情の動画を見せる

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	パワーポイントで作った自作の問題 テキストの問題
話す（発表）	テスト（授業内で考える時間を少し与え、発表させる） 限られた時間内で考え、発表できるかチェックする
聞く	テキスト問題
日本事情・日本理解	テキスト問題

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標

話す（やりとり）	積極的に話ができ、相手に質問もできる
話す（発表）	大きい声で相手を見ながら発表ができる
聞く	問題が聞け、問題に答えられる
日本事情・日本理解	日本事情や日本文化に興味を持ち、質問ができる

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	毎時間、始めに設けた会話練習の時間で積極的に話ができているか、相手に質問しているか、確認する 文法導入時にテキスト問題のやりとりができるかどうか、確認する クラス平均の学生を見つけ、その学生を基準にレベルがどうかを判断する
話す（発表）	作文発表時に、ノートばかり見ず、聞いてくれる相手を見ながら、大きい声で発表できるか、確認する クラス平均の学生を見つけ、その学生を基準にレベルがどうかを判断する
聞く	教師の話が聞けているか、理解できているか、確認する（文法の内容が理解できているか、指示が聞けているか） クラス平均の学生を見つけ、その学生を基準にレベルがどうかを判断する
日本事情・日本理解	教師の話が聞けているか、確認する

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	授業を始めた当初に比べ、会話量が増えた。 お互いが積極的に話ができるようになった。
話す（発表）	授業を始めた当初に比べ、大きい声で自信を持って発表できるようになった。 お互いの発表を聞き、文法の間違いがあれば、学生同士で指摘し合えるようになった。
聞く	授業を始めた当初に比べ、聞く力がついた。 N5文法の前半レベルを使った文なら、1、2回で聞けるようになった。
日本事情・日本理解	自らインドネシアの文化を共有し、日本ではどうか比較できるようになった。 授業を始めた当初に比べ、よく理解できるようになった。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	天候によってインターネット環境が悪くなるので、それを見越して機器を整えておく必要がある。
話す（発表）	天候によってインターネット環境が悪くなるので、それを見越して機器を整えておく必要がある。
聞く	天候によってインターネット環境が悪くなるので、それを見越して機器を整えておく必要がある。
日本事情・日本理解	天候によってインターネット環境が悪くなるので、それを見越して機器を整えておく必要がある。

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	Zoomの運用方法、learningBOXの使い方、ハイブリッド型授業をする上でのノウハウ
話す（発表）	Zoomの運用方法、learningBOXの使い方、ハイブリッド型授業をする上でのノウハウ
聞く	Zoomの運用方法、learningBOXの使い方、ハイブリッド型授業をする上でのノウハウ
日本事情・日本理解	Zoomの運用方法、learningBOXの使い方、ハイブリッド型授業をする上でのノウハウ

各日本語教育機関の実施結果

<各機関（授業ID別）の実施結果>

037-6：ファースト・スタディ日本語学校大阪泉大津校

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レベル	モデル										事前テスト 事前の点数 (生徒合計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合計)	テスト満点	事前テスト 正答率 (生徒合計)	事後テスト 正答率 (生徒合計)	成長幅 (単位: ポイント)		
			モデル					モデル外													
			A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5								1	2
037-6	ファーストスタディ_モデル外 (A2)_10/31-12/28		○											310	13	315	12	40	59.6%	65.6%	6

■基本情報

項目	内容
実証取組モデル	モデル外
区分	ハイブリッド
1.授業のレベル	A2
2.授業のコース	一般
3-1.授業の実施期間（開始）	2022/10/31
3-2.授業の実施期間（終了）	2022/12/28
4.授業の学習時間	140
5.学生の授業への参加率	80
6-1.担当された先生①居住国	インドネシア
6-1.担当された先生①性別	女性
6-1.担当された先生①使用言語	日本語
6-1.担当された先生①スキル	日本語教師養成講座終了
7.実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く日本事情・日本理解
8.使用したオンライン会議ツール	Zoom
9.使用した音声機材（スピーカー、マイク）	EPSONプロジェクター、PC付属マイク
10.使用した映像（カメラ）機	PC付属カメラ
11.使用したファイル形式（パワーポイント、PDF等）	パワーポイント、PDF、MP3の教材を使用
12.撮影をした場所	普段の教室

各日本語教育機関の実施結果

A2

■目標設定

●生活コース

話す（やりとり）	学生同士が日本語で会話し、コミュニケーションがとれる
話す（発表）	新しく習った文法・語彙を使って、文や意見、スピーチができる
聞く	日本語の文を聞いて理解し、それを復唱できる 日本人の話すスピードで聞いて理解できる
日本事情・日本理解	日本のマナーやルールを理解する 日本文化に興味を持つ、日本で生活する上で必要な知識を身につける

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	ハイブリット型
話す（発表）	ハイブリット型
聞く	ハイブリット型
日本事情・日本理解	ハイブリット型

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	授業の始まりに30分程度学生同士が会話する時間を設けた スピーチした学生に対して一人一つ以上質問させ、発表した学生はそれに答えた 新しく習った文法や語彙を使って会話させた 教師からの日本語での質問に答えさせた
話す（発表）	新しく習った文法を使って、文作させ、それを発表した 宿題で作文を書き、それをスピーチした 新しく習った文法の問題を解き、その答えと理由を発表させた
聞く	リスニングの問題をさせた 教師が日本語を話し、それに慣れさせた オンライン教材を使って日本人の会話を聞かせた
日本事情・日本理解	オンライン教材を使って日本についての理解を深めた パワーポイントで日本について教えた インターネットで画像や動画の共有をした

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	できる日本語初級・初中級
		レベル	A2
		内容	会話
	使用した教材②	名称	自作パワーポイント
		レベル	A2
		内容	文法導入、文法を使った会話、練習
話す（発表）	使用した教材①	名称	できる日本語初級・初中級
		レベル	A2
		内容	教科書のテーマに沿った作文→スピーチ発表
	使用した教材②	名称	自作パワーポイント
		レベル	A2
		内容	文法を使った文作
聞く	使用した教材①	名称	できる日本語初級・初中級
		レベル	A2
		内容	会話音声、リスニング問題
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	できる日本語初級・初中級
		レベル	A2
		内容	語彙から日本について知る
	使用した教材②	名称	自作パワーポイント
		レベル	A2
		内容	日本のマナー・ルールについて
	使用した教材③	名称	エリンが挑戦、YouTube
		レベル	A2
		内容	日本の生活、文化について知る

各日本語教育機関の実施結果

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	自作問題、テキスト問題を使用した
話す（発表）	文作発表、作文発表
聞く	テキスト問題を使用した
日本事情・日本理解	自作問題、テキスト問題、オンライン教材、オンラインサービスを使用した

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標

話す（やりとり）	自作の問題やテキストの問題で、文法や語彙を正しく使用できているか、またどんなまちがえ方をしているかを評価に入れた 他の学生と日本語で積極的にコミュニケーションがとれたかどうかを評価に入れた
話す（発表）	正しい文法・語彙を使って、発表できたかどうかを評価に入れた 文法や語彙を正しく使用して文作できたかを評価に入れた
聞く	聞こえた日本語が正しく復唱できたかどうかを評価に入れた 教師が日本語で言ったことを理解しているかどうかを評価に入れた
日本事情・日本理解	日本について興味を持ち、必要な知識を学ぶ姿勢だったかを評価に入れた 日本のマナーやルールを理解しようとしていたかを評価に入れた

●各授業科目において目標の達成度合等評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	指標をクリアすることで、N4相当の知識を身につけたと判断できると思ったから。
話す（発表）	指標をクリアすることで、N4相当の知識を身につけたと判断できると思ったから。
聞く	指標をクリアすることで、N4相当の知識を身につけたと判断できると思ったから。
日本事情・日本理解	指標をクリアすることで、N4相当の知識を身につけたと判断できると思ったから。

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	毎日日本語で話す機会を設けたことで、日本語を話すことに慣れ、スムーズにやり取りができるようになった 日本でコミュニケーションが取れるようになった
話す（発表）	自分の考えや意見を日本語で発表できるようになった
聞く	日本人が話すスピードでも聞き取りができるようになった
日本事情・日本理解	日本の文化・マナー・ルール・生活に興味を持ち、より理解を深めようと質問をたくさんしてくれるようになった

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	ネットワーク環境の整備
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	ネットワーク環境の整備
日本事情・日本理解	ネットワーク環境の整備

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	インターネット環境によって、声が聞こえにくい・聞こえないことが多々あり、コミュニケーションがとりづらかった また、ハイブリッドだと対面の学生の声がオンラインの学生に聞こえず、対面とオンラインで温度差が生じてしまうため、両方の学生への配慮が難しかった
話す（発表）	インターネット環境によって、声が聞こえにくい・聞こえないことが多々あり、発表しても聞こえずにもう一度発表してもらうことがあった
聞く	インターネット環境によって、音声が見えにくい・聞こえないことが多々あり、リスニング問題が難しいことがあった
日本事情・日本理解	オンライン教材が少ないため、YouTubeや画像の共有で教えることが多かった 今後、オンライン教材の開発が発展すると、オンライン授業がやりやすくなると思う

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	Zoomの運用方法、learningBOXの使い方、オンライン授業のノウハウ
話す（発表）	Zoomの運用方法、learningBOXの使い方、オンライン授業のノウハウ
聞く	Zoomの運用方法、learningBOXの使い方、オンライン授業のノウハウ
日本事情・日本理解	Zoomの運用方法、learningBOXの使い方、オンライン授業のノウハウ

各日本語教育機関の実施結果

< 各機関（授業ID別）の実施結果 >

038-1：東京東陽日本語学院

授業ID	日本語教育機関・モデル名											事前テスト				事後テスト				事前テスト				事後テスト				成長幅 (単 位: ポイン ト)
												事前の点数 (生徒合 計)		事後の点数 (生徒合 計)		テスト満点		正答率 (生 徒合計)		正答率 (生 徒合計)		正答率 (生 徒合計)						
		レ ベ ル	A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	模 デ ル 外	事前の点数 (生徒合 計)	回答者数	事後の点数 (生徒合 計)	回答者数	テスト満点	正答率 (生 徒合計)	正答率 (生 徒合計)	正答率 (生 徒合計)	正答率 (生 徒合計)	正答率 (生 徒合計)			
038-1	東京東陽日本語学院_モデル外 (A1)_11/1-12/23	○												○	142	16	88	11	45	19.7%	17.8%				-2			

■ 基本情報

項目	内容
授業ID	038-1
機関名	東京東陽日本語学院
ステータス	登録済
ご報告者名	ホンジョウ ナホ
実証取組モデル	モデル外
区分	オンラインのみ
1. 授業のレベル	A1
2. 授業のコース	進学 就職 一般
3-1. 授業の実施期間 (開始)	2022/11/1
3-2. 授業の実施期間 (終了)	2022/12/23
4. 授業の学習時間	116
5. 学生の授業への参加率	30
6-1. 担当された先生①氏名	岸直和
6-1. 担当された先生①居住国	日本
6-1. 担当された先生①性別	男性
6-1. 担当された先生①使用言語	日本語
6-1. 担当された先生①スキル	日本語教育能力試験合格、指導歴 1 年未満
6-2. 担当された先生②氏名	荒木利香
6-2. 担当された先生②居住国	日本
6-2. 担当された先生②性別	女性
6-2. 担当された先生②使用言語	日本語
6-2. 担当された先生②スキル	日本語教育能力試験合格、指導歴 1 年 3 か月
6-3. 担当された先生③氏名	鈴木つづみ
6-3. 担当された先生③居住国	日本
6-3. 担当された先生③性別	女性
6-3. 担当された先生③使用言語	日本語
6-3. 担当された先生③スキル	日本語教育能力試験合格、指導歴 7 年程度
6-4. 担当された先生④氏名	新井ゆう
6-4. 担当された先生④居住国	日本
6-4. 担当された先生④性別	女性
6-4. 担当された先生④使用言語	日本語
6-4. 担当された先生④スキル	日本語教師養成講座420時間受講、指導歴 2 年
7. 実施した言語活動	話す (やりとり) 話す (発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解
8. 使用したオンライン会議ツール	Zoom
9. 使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	iPad付属のスピーカー、マイク
10. 使用した映像 (カメラ) 機	iPad付属のカメラ
11. 使用したファイル形式 (パワーポイント、PDF等)	PDF
12. 撮影をした場所	普通の教室

各日本語教育機関の実施結果

A1

■目標設定

●進学コース

話す（やりとり）	学習した文型、語彙を用いて質疑応答を成立させられる。
話す（発表）	学習した文型、語彙を用いて基本のやりとり、更に応用させること。
聞く	学習した文型、語彙を用いた表現、会話を理解する。
読む	学習した文型、語彙を用いた表現の読解（選択肢が主）。
書く	学習した文型、語彙を用いた表現の文作。前件か後件のいずれかが提示されている文を完成させる。
日本事情・日本理解	場面に合った挨拶、敬称の種類とふさわしい使い方、ウチとソトでの使い分けの理解。

●就職コース

話す（やりとり）	単語だけを言うのではなく、きちんと文にする。また、語尾を敬体にする。
話す（発表）	単語だけを言うのではなく、きちんと文にする。また、語尾を敬体にする。
聞く	聴解できない際は、黙っているのではなく、「すみません、もう一度お願いします」と言えるようにする。
読む	学習した文型、語彙を用いた表現の読解（選択肢が主）。
書く	学習した文型、語彙を用いた表現の文作。前件か後件のいずれかが提示されている文を完成させる。
日本事情・日本理解	場面に合った挨拶、敬称の種類とふさわしい使い方、ウチとソトでの使い分けの理解。

●生活コース

話す（やりとり）	学習した文型、語彙を用いて質疑応答を成立させられる。
話す（発表）	学習した文型、語彙を用いて基本のやりとり、更に応用させること。
聞く	学習した文型、語彙を用いた表現、会話を理解する。
読む	学習した文型、語彙を用いた表現の読解（選択肢が主）。
書く	学習した文型、語彙を用いた表現の文作。前件か後件のいずれかが提示されている文を完成させる。
日本事情・日本理解	場面に合った挨拶、敬称の種類とふさわしい使い方、ウチとソトでの使い分けの理解。

■実証内容

●各授業科目において用いたオンライン手法

話す（やりとり）	ハイブリット型
話す（発表）	ハイブリット型
聞く	ハイブリット型
読む	ハイブリット型
書く	ハイブリット型
日本事情・日本理解	ハイブリット型

●各授業科目において実施した教育実証の内容

話す（やりとり）	休み時間も利用しながら個別に発話時間をもった。
話す（発表）	オンライン学生への発表を、体面指導中の学生に聞かせる機会は持てなかった。
聞く	聴解確認、講師の質疑に応えさせた。
読む	テストで確認。提出してもらい添削したのは少数にとどまった。
書く	テストで確認。提出してもらい添削したのは少数にとどまった。
日本事情・日本理解	授業中の指導で。

各日本語教育機関の実施結果

●各授業科目において使用した教材・教具

話す（やりとり）	使用した教材①	名称	みんなの日本語 初級Ⅰ
		レベル	A1
		内容	4 課から14課まで
話す（発表）	使用した教材①	名称	みんなの日本語 初級Ⅰ
		レベル	A1
		内容	4 課から14課まで
聞く	使用した教材①	名称	みんなの日本語 初級Ⅰ
		レベル	A1
		内容	4 課から14課まで
読む	使用した教材①	名称	みんなの日本語 初級Ⅰ
		レベル	A1
		内容	4 課から14課まで
書く	使用した教材①	名称	みんなの日本語 初級Ⅰ
		レベル	A1
		内容	4 課から14課まで
日本事情・日本理解	使用した教材①	名称	みんなの日本語 初級Ⅰ
		レベル	A1
		内容	4 課から14課まで

■評価

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際に使用した評価ツール

話す（やりとり）	オリジナルプリント
話す（発表）	会話教材
聞く	オリジナルの語彙確認プリント
読む	オリジナル定着度テスト
書く	オリジナル定着度テスト
日本事情・日本理解	特になし

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標

話す（やりとり）	学習した文型、語彙を用いて、基本の質疑応答を成立させられる。
話す（発表）	会話教材
聞く	聴解教材、講師の質疑への応答
読む	オリジナル定着度確認テスト
書く	オリジナル定着度確認テスト
日本事情・日本理解	特になし

●各授業科目において目標の達成度合等を評価する際の指標の設定方法

話す（やりとり）	学習した文型、語彙を用いて、基本の質疑応答を成立させられる。
話す（発表）	学習した文型、語彙を用いて、基本の質疑応答を成立させられる。
聞く	聴解教材、講師の質疑への応答
読む	オリジナル定着度確認テストの6割ができること。
書く	オリジナル定着度確認テストの6割ができること。
日本事情・日本理解	特になし

各日本語教育機関の実施結果

■意見・考察等

●各授業科目において効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

話す（やりとり）	出欠席による単位習得、修了証明等が厳密であれば、より効果的だと思う。
話す（発表）	出欠席による単位習得、修了証明等が厳密であれば、より効果的だと思う。
聞く	出欠席による単位習得、修了証明等が厳密であれば、より効果的だと思う。
読む	出欠席による単位習得、修了証明等が厳密であれば、より効果的だと思う。
書く	出欠席による単位習得、修了証明等が厳密であれば、より効果的だと思う。
日本事情・日本理解	出欠席による単位習得、修了証明等が厳密であれば、より効果的だと思う。

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点

話す（やりとり）	講師のオンライン教育ノウハウの不足
話す（発表）	ネットワーク環境の整備
聞く	講師のオンライン教育ノウハウの不足
読む	講師のオンライン教育ノウハウの不足
書く	講師のオンライン教育ノウハウの不足
日本事情・日本理解	適切なカリキュラムの設定

●各授業科目においてオンライン教育上の課題/改善点に関する意見・考察

話す（やりとり）	オンライン学生側のマイクをONにしたままだと、犬や鶏の動物の鳴き声、赤ん坊の泣き声、生活騒音が授業の妨げになりがちである。
話す（発表）	オンライン学生側のマイクをONにしたままだと、犬や鶏の動物の鳴き声、赤ん坊の泣き声、生活騒音が授業の妨げになりがちである。
聞く	オンライン学生側のマイクをONにしたままだと、犬や鶏の動物の鳴き声、赤ん坊の泣き声、生活騒音が授業の妨げになりがちである。
読む	オンライン学生側のマイクをONにしたままだと、犬や鶏の動物の鳴き声、赤ん坊の泣き声、生活騒音が授業の妨げになりがちである。
書く	オンライン学生側のマイクをONにしたままだと、犬や鶏の動物の鳴き声、赤ん坊の泣き声、生活騒音が授業の妨げになりがちである。
日本事情・日本理解	特になし

●各授業科目において効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポートの内容

話す（やりとり）	休み時間を大いに利用するよう、講師に指示。
話す（発表）	休み時間を大いに利用するよう、講師に指示。
聞く	休み時間を大いに利用するよう、講師に指示。
読む	事前にオリジナル教材を配信した。
書く	板書の際、オンライン学生のスクリーン内に収まる板書を心掛けるよう講師に指示。ホワイトボードが教室内の蛍光灯の反射で見えなくなるので、全ての蛍光灯に紙を貼り、反射を防いだ。
日本事情・日本理解	特になし

文化庁委託事業
ウィズコロナにおけるオンライン
日本語教育実証事業
(別添) 各日本語教育機関の実施結果